

2025年度

大学院シラバス

教養デザイン研究科

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌

児玉花外

作詩

山田耕筰

作曲

一

白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗翳し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三

霊峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目 次

2025 年度大学院学年暦・行事予定・授業時間割	2
人材養成に関する目的その他教育研究上の目的	4
「入学者受入」・「教育課程編成・実施」・「学位授与」方針	5
修士学位取得のためのガイドライン	7
博士学位取得のためのガイドライン	11
研究活動における不正行為への注意	20
履修登録について	21
履修登録スケジュール	22
科目ナンバリングについて	23
他大学大学院の聴講について	24
修了要件・履修方法について（博士前期課程）	27
授業科目及び担当者一覧表（博士前期課程）	28
シラバス（博士前期課程）	32
1 「思想」領域研究コース	32
2 「文化」領域研究コース	55
3 「平和・環境」領域研究コース	90
修了要件・履修方法について（博士後期課程）	113
授業科目及び担当者一覧表（博士後期課程）	114
2019 年度以前博士後期課程入学者への注意事項	118
シラバス（博士後期課程）	119
1 「思想」領域研究コース	119
2 「文化」領域研究コース	133
3 「平和・環境」領域研究コース	156
交通遅延発生時の授業等の措置について	175
大規模地震等災害発生時の対応について	175
大地震発生時の避難マニュアル（和泉キャンパス）	178

◎2025年度 大学院学年暦・行事予定（2025年4月～2026年3月）・授業時間割

[春学期] 4月1日(火)～9月19日(金)

研究論集予備登録（9月上旬発刊分）	3月10日(月)～3月14日(金)15:00
教養デザイン研究科ガイダンス	4月2日(水)
博士学位請求予定者予備登録	4月3日(木)～4月8日(火)15:00
入学式	4月7日(月)
春学期授業開始	4月10日(木)
研究論集提出締切日（9月発刊分）	4月10日(木)15:00
履修届・履修計画書提出(M・D)	4月16日(水)13:00～4月18日(金)9:00
WEB履修登録(Mのみ)	4月16日(水)13:00～4月18日(金)9:00
個人別時間割表公開	4月19日(土)～
履修修正期間	4月21日(月)～4月24日(木)
休日授業実施日	4月29日(火)[昭和の日]
臨時休業（休講日）	5月1日(木)・5月2日(金)
修士学位請求論文予備登録（9月修了）	5月7日(水)・5月8日(木)
修士学位請求論文提出日（9月修了）	6月9日(月)13:00～6月10日(火)15:00
博士学位請求論文（事前審査用）提出期間	6月16日(月)～6月20日(金)15:00
研究論集予備登録（2月発刊分）	6月23日(月)～6月27日(金)15:00
修士学位請求論文面接試問（9月修了）	6月25日(水)
休日授業実施日	7月21日(月)[海の日]
春学期授業終了	7月22日(火)
夏季休業	8月1日(金)～9月19日(金)
研究論集発刊	9月5日(金)
9月修了式	9月19日(金)

〔全キャンパス共通〕

学部・大学院

専門職大学院（法務研究科、会計専門職研究科）

【月～土曜日】

時 限	時 間 帯
1 時 限	9 : 00～10 : 40
2 時 限	10 : 50～12 : 30
3 時 限	13 : 30～15 : 10
4 時 限	15 : 20～17 : 00
5 時 限	17 : 10～18 : 50
6 時 限	19 : 00～20 : 40

※経営学研究科博士前期課程マネジメントコースは平日夜間および土曜日に授業を実施しています。

授業時間は下記の表のとおりとなります。（土曜日は上記の表の時間帯です。）

時 限	時 間 帯
マネジメント1時限 (M1時限)	18 : 00～19 : 40
マネジメント2時限 (M2時限)	19 : 50～21 : 30

〔秋学期〕 9月20日(土)～3月31日(火)

研究論集提出締切日(2月発刊分)	9月19日(金)15:00
秋学期授業開始	9月20日(土)
秋学期履修修正期間	9月20日(土)～9月26日(金)
個人別時間割表公開(秋学期履修修正者のみ)	9月27日(土)～
休日授業実施日	9月23日(火)[秋分の日]
修士学位請求論文予備登録	10月9日(木)10:00～10月10日(金)15:00
休日授業実施日	10月13日(月)[スポーツの日]
大学祭に伴う授業休講措置期間	10月29日(水)～11月4日(火)
創立記念祝日	11月1日(土)
大学祭(明大祭・生明祭)	11月1日(土)～11月3日(月)
休日授業実施日	11月24日(月)[振替休日]
臨時休業(休講日)	12月23日(火)・12月24日(水)
冬季休業	12月25日(木)～2026年1月7日(水)
修士学位請求論文提出日	1月8日(木)10:00～1月9日(金)15:00
創立記念日	1月17日(土)
臨時休業(休講日)	2025年度は1月中の臨時休業日無し
秋学期授業終了	1月23日(金)
修士学位請求論文面接試験	2月2日(月)
研究論集発刊	2月27日(金)
修了通知	3月初旬
研究論集予備登録(9月発刊分)	3月9日(月)～3月13日(金)15:00
修了式	3月26日(木)
博士学位授与式	3月27日(金)

※予定は変更されることがあります。変更については、掲示、Oh-o! Meijiシステム等でお知らせします。
 その他の提出物の提出締切日及び中間報告会・中間発表等の日程については、別途、掲示、Oh-o! Meijiシステム等でお知らせします。

〔駿河台キャンパス〕

専門職大学院(ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科)

【月～金曜日】

1 時 限	9 : 00～10 : 30
2 時 限	10 : 40～12 : 10
3 時 限	13 : 00～14 : 30
4 時 限	14 : 40～16 : 10
5 時 限	16 : 20～17 : 50
6 時 限	18 : 55～20 : 25
7 時 限	20 : 30～22 : 00

※ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科の平日授業は90分で授業を実施します。

人材育成に関する目的その他教育研究上の目的

〔教養デザイン研究科〕

教養デザイン研究科は、21 世紀において人類が直面している諸課題を総合的・学際的に考察し、公共的観点に立って主体的に行動することのできる人材の養成を目指す。教育研究のテーマは「人間性とその適正な環境の探求」と、新時代にふさわしい「知の創造（デザイン）」である。博士前期課程では、科学技術の飛躍的発展によって生じた倫理的諸問題、グローバル化が進む現代世界における異文化理解、脱領域化状況の中での平和構築、自然環境との共生、これらの諸問題を総合的に考察し、解決へと導くことのできる高度な教養人の育成を目的とする。博士後期課程では、思想、文化、平和・環境の三つの領域において、自立した研究者の育成を目的としている。課程博士論文の作成に力点を置き、研究業績の蓄積を促進することによって、大学教員など研究職において活躍できる人材の育成を目的とする。

〔教養デザイン専攻〕

教養デザイン専攻では、人類が直面する諸課題を包括的に探究するため、「思想」、「文化」及び「平和・環境」の3つの領域研究コースを設置している。文理を融合し、総合化された知の創造と現代社会における新たな倫理の探求を目指す。博士前期課程では、科学技術の著しい発展、グローバル化の到来など、激変する現代社会において、生涯学習をも視野に入れて、高度な教養をデザイン（創造）できる人材の養成を目指す。博士後期課程では、博士前期課程で身につけた知識を活かしながら、更に自立して研究活動を行える人材の養成を目指す。

明治大学大学院教養デザイン研究科

「入学者受入」・「教育課程編成・実施」・「学位授与」方針

【入学者受入方針】

【博士前期課程】

教養デザイン研究科博士前期課程は、科学技術の発展により惹き起こされた諸問題に対する倫理的判断、グローバル化が進む現代社会における異文化への理解、平和構築と自然環境との共生、これらの諸課題を総合的・学際的に考察し、公共的観点に立ち、問題解決にむかって主体的に行動することができる人材の養成を目的とします。このため、次のような資質と意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 出身学部にとらわれることなく、現代的な諸課題を総合的・学際的に考察し、問題解決にむけて主体的・積極的に行動しようとする意欲のある者。
- (2) 現代的な課題に関心を持ち、国際的な場で活躍を希望する者。
- (3) 自己の社会的経験に基づき、現代社会への学問的考察の意欲を持つ社会人。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、社会人特別入学試験を実施し、入学者選抜を行ないます。なお、社会人特別入試には50歳以上を対象とするシニア入学試験を含みます。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 哲学的考察力を身につけておくこと。
- (2) 異文化理解についての知識を修得しておくこと。
- (3) 平和と環境に関する基礎的な学力を修得しておくこと。

【博士後期課程】

教養デザイン研究科博士後期課程は、「思想」「文化」「平和・環境」の3研究領域において、優れた修士学位論文を作成したことを前提として、さらに専門性と複眼的視野とを深め、独創的な研究成果を発表することのできる研究者の養成を目的とします。このため、次のような資質と意欲を持つ学生を積極的に受け入れます。

- (1) 修士学位論文をさらに高度な研究に深化させるアカデミック・スキル（外国語能力を含む）と研究計画を持つ者。
- (2) 現代的な課題に学際的視点から対応できる自立した研究者、または高度な教育研究活動を職業とすることを目指す者。

以上の求める学生像に基づき、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行ないます。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を以下のとおり求めます。

- (1) 高度な哲学的考察力を身につけておくこと。
- (2) 異文化理解や平和と環境に関して、高度な研究活動を遂行できる能力を修得しておくこと。

【教育課程編成・実施方針】

【博士前期課程】

教養デザイン研究科博士前期課程は、教育研究の総合的なテーマとして「人間性とその適正な環境の探求」を掲げています。「人間性」「環境」「行動倫理」がキーワードとなります。この3つのキーワードを研究対象として統合化し、整理したものが「思想」「文化」「平和・環境」の3つの領域研究コースです。学際的知識の修得と主体的に倫理的行動をとりうる人材を養成することを目的として、次のような方針に基づきカリキュラムを編成し、実施します。

- (1) 人文科学・社会科学・自然科学の分野にまたがる総合的・学際的知識を修得するための科目を配置します。
- (2) 専門的知識を深めると同時に、専門的知識の殻に閉じこもらない総合的・学際的知識を深め、複眼的視野を育成することを配慮します。
- (3) 指導教員と副指導教員による複数指導体制をとり、研究科全体で段階的に研究指導を行ないます。

【博士後期課程】

教養デザイン研究科博士後期課程の教育研究の総合的なテーマである「人間性とその適正な環境の探求」を行ないうる、個別学問分野における深い専門性と高い倫理性を持った研究者を養成するため、次のような方針に基づきカリキュラムを編成し、実施します。

- (1) 指導教員と副指導教員による複数指導体制のもと、専門分野における知識の高度化と研究の獨創性を育成すると同時に、専門分野に関連する幅広い知識の修得とアカデミック・スキルの向上に配慮します。
- (2) 博士前期課程において培った総合的・学際的知識と複眼的視野の深化を目指します。
- (3) 学会誌等への投稿を促して、研究の対外的評価を求めています。

【学位授与方針】

【博士前期課程】

教養デザイン研究科博士前期課程は、現在人類が直面している諸課題を総合的・学際的に考察し、公共的観点に立って主体的に行動することができる人材の養成を目指しています。そのため、所定の単位を修得したうえで、優れた学業成績を上げ、かつ、次に示す資質や能力を備えたと認められ、優れた修士学位論文を作成した学生に対して、修士（学術）の学位を授与します。

- (1) 総合的・学際的な視点に立ち、各自が専攻した研究分野のみならず、他研究領域に関しても、学士課程よりも深い教養や専門的知識を得ていること。
- (2) 現代的な課題に対して、地球公共的な視点から行動しうる能力を有していること。

【博士後期課程】

教養デザイン研究科博士後期課程では、人材養成の目的を踏まえ、所定の単位を修得したうえで、学業成績と研究業績を上げ、かつ、次に示す資質や能力を備えたと認められ、優れた博士学位論文を作成した学生に対して、博士（学術）の学位を授与します。

- (1) 総合的・学際的な視点に立ち、各自が専攻した研究領域のみならず、他研究領域との関連性を十分に認識して、高度な研究能力と豊かな学識により、独創的な研究成果を発表できること。
- (2) 自立した研究者として高い倫理性を持ち、地球公共的な視点に立って、現代社会のかかえる問題の解決への企画力と行動力を有していること。

明治大学大学院教養デザイン研究科 修士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

教養デザイン専攻 修士（学術）： Master of Arts

【修士学位請求の要件】

在学期間

本研究科博士前期課程2年次に在学し、所定の研究指導を受けていること。

単位要件

- (1) 本研究科博士前期課程の履修にあたっては、以下の要件を満たし、32単位以上を修得しなければならない。
 - ア コース必修科目のうち、指導教員が担当する専修科目8単位（演習Ⅰ～Ⅳ）を必修とする。
また、共通必修科目2単位を必修とする。
 - イ コース選択科目については、所属コースから6単位以上を修得しなければならない。
 - ウ 他研究科（専門職学位課程を含む）及び単位互換協定による他大学院の授業科目については、指導教員及び当該授業科目担当教員の承認を受け、8単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
 - エ 研究科間共通科目は、指導教員が必要と認める場合には、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
- (2) 上記に定める単位を修得し、その成績が平均「B」以上の者。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

半期ごとに、指導教員から論文作成指導を受け、2年間の論文作成計画により提出できるよう努力することが必要である。

1 年次春学期

- ・春学期初めに、指導教員の指導のもとに各自の履修・研究計画を立て、4月中旬に当該年度の「履修計画書」を提出する。
- ・5月下旬に、入試の際に提出した「研究計画書」を基礎に「研究計画概要」を作成し提出する。

1 年次秋学期

- ・秋学期初めに、指導教員の指導のもとに副指導教員を決定する。副指導教員は、本研究科で授業科目を担当する教員から選定する。
- ・11月下旬に「論文作成計画書」を提出する。
- ・12月上旬までに「論文作成計画書」をもとに第1次中間報告を行い、修正後、指導教員及び副指導教員と面談のうえ、承認及び指導を受ける。

2 年次春学期

- ・春学期初めに、指導教員の指導のもとに各自の履修・研究計画を立て、当該年度の「履修計画書」を提出する。

- ・ 5月上旬に、「論文作成計画書」にもとづいて作成した「論文概要1」を提出する。
- ・ 6月上旬までに、「論文作成計画書」をもとに第2次中間報告を行い、作成指導を受ける。

2年次秋学期

- ・ 秋学期初めに、「論文概要2」を提出し、10月上旬までに第3次中間報告を行い、当該論文の題名・内容・構成等について確認及び指導を受ける。
- ・ 10月中旬の修士学位請求論文の予備登録後、12月中旬までに指導教員に事前提出を行い、論文提出の承認を得る。

【修士論文に求められる要件】

修士論文は、広い視野に立った深い教養と専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を示すと認められるものでなければならない。

以下を修士論文に求められる要件とする。

(1)研究目的

- ・ 問題提示の明確さ
- ・ 先行研究の整理
- ・ 研究意義

(2)論文内容

- ・ 論文の構成(章や節を中心とした全体構成)
- ・ データや資史料の分析力
- ・ 論証の説得性
- ・ 課題設定と結論の整合性

(3)形式的要件

- ・ 執筆要項の遵守(表記の的確さ)

(4)論文としての構成とまとめ

修士論文は 40,000 字以上とする。また、外国語で論文を執筆することを希望する場合、事前の申し出により、これを認めることがある。

【修士学位請求論文等の提出書類・提出期日】 ※詳細は「修士学位請求論文」作成・提出要領を参照

予備登録

- (1) 予備登録時期は論文提出年度の 10 月中旬とする。
- (2) 論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、論文題名（仮題でも可）を登録すること。
- (3) 予備登録後に論文を取り下げる場合は、面接までに取り下げ願い書を提出すること。

提出書類等

(1)「修士学位請求書」

必要事項を記入のうえ、指導教員の承認を得たうえで提出すること。

※この請求書に記載された論文題名を正とする。

なお、論文題名に副題がある場合は、ダッシュ（－）で最初と最後を括ること。

(2)「修士学位請求論文」（下記①～④により完成されたもの）

①用紙：A4 判（横書き又は縦書き）

図表・資料も A4 判で作成すること。

②字数：40,000 字以上（英文の場合は 10,000 ワード以上）

※必ずページ番号を付すこと。

③書式：研究科の定めによる。

※縦書きの場合は2段組にする等、読みやすいよう配慮すること。（論文要旨も同じ）

④「扉（表紙）」（教養デザイン研究科のホームページからダウンロード）

必要事項を記入のうえ、論文の表紙とすること。

(3)「修士学位請求論文要旨」

A4判、3,000字程度（英文の場合は750ワード程度）で作成し、論文題名、所属研究科名・専攻名・氏名等を明記すること。

論文提出

(1)論文提出時期は論文提出年度の1月上旬～中旬とする。

(2)Oh-o!Meijiグループへの提出を原則とする。

ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などにより Oh-o!Meiji での提出ができない場合は、別途、研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MBを超える可能性がある場合は、提出期間前に提出方法について研究科に問い合わせること。

なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

修士学位を請求しようとする者は、修士論文提出要件を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が修士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会での受理

研究科委員会は、学位請求論文に対して受理を決定し、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科・他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。

審査委員による面接試問

(1)審査委員は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。

(2)面接試問は、論文提出年度の2月上旬に実施する。

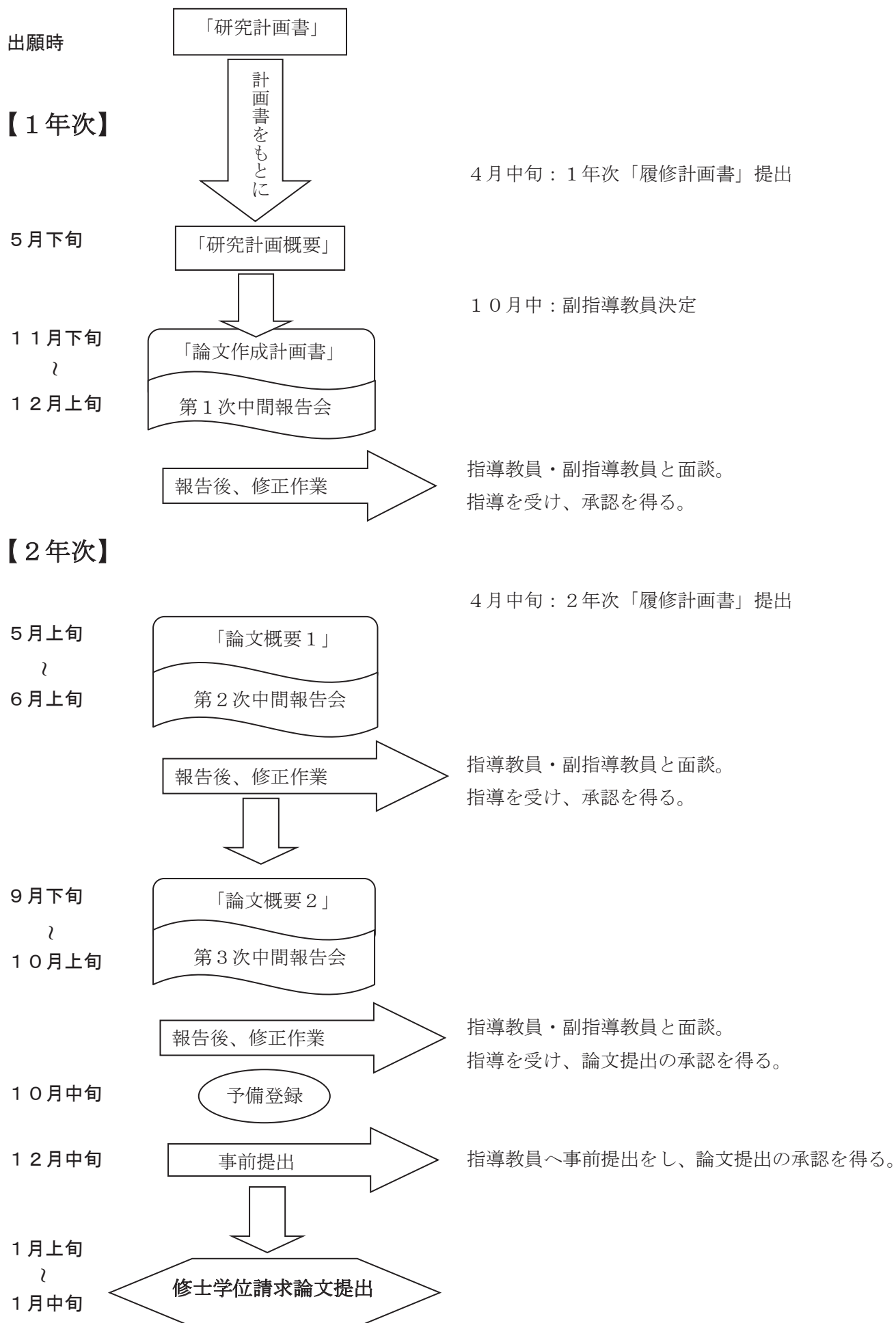
研究科委員会の合否判定

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者には、修士学位が授与される。

【合否判定後の論文の取扱いについて】

審査に合格した論文は、本学大学院で保管し、教育・研究のために活用する。

教養デザイン研究科（博士前期課程） 学位請求までのプロセス



明治大学大学院教養デザイン研究科 博士学位取得のためのガイドライン

課程博士

【本研究科で授与する学位】

教養デザイン専攻 博士（学術）： Doctor of Philosophy

【博士学位請求の要件】

在学期間

- (1) 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。
- (2) 本研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者については、博士後期課程入学日から起算して8年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

単位要件

本研究科博士後期課程の履修にあたっては、以下の要件を満たし、20単位以上を修得しなければならない。

- (1) コース必修科目のうち、指導教員が担当する専修科目12単位（研究論文指導Ⅰ～Ⅵ）を必修とする。
- (2) コース選択必修科目については、所属コースの講義科目（特別研究）の中から4単位を必修とする。また、所属コース以外の講義科目（特別研究）、共通選択科目（現代教養総合研究）もしくは博士前期課程の講義科目（特論）の中から、4単位を修得しなければならない。なお、博士前期課程科目の履修にあたっては、必ず履修登録前に指導教員の下承を受けること。

研究業績

学位請求論文の内容に関連した学術論文を筆頭著者として2本以上発表していること。そのうち1本以上は、本学学内誌以外に掲載された、あるいは掲載許可を受けた査読付論文でなければならない。

研究倫理教育の受講

本学が定める研究倫理教育を受講していること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ている者とする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導体制

指導教員が博士論文完成に至るまで主たる指導を行うが、1年次には副指導教員1名が指導に加わる。また、2年次からは、指導教員1名と副指導教員2名から構成される研究指導グループによる指導体制をとる。これに加えて学生の主体的な研究活動を支援し、研究内容を段階的に高度化及び深化させるために、公開の中間発表等を実施する。

1年次

- (1) 研究計画書の提出

4月中旬に、指導教員の指導のもとに、各自の履修計画を立て、当該年度の「履修計画書」を提出する。
また、5月下旬に、指導教員の助言にもとづき、博士後期課程における3年間の研究目標などをまとめた

「研究計画書」を指導教員に提出する。春学期中に第一副指導教員が決定され次第、この研究計画書にもとづき、第一副指導教員からも指導を受ける。

(2) 中間発表（第1回）の準備

指導教員の研究論文指導（演習）を通じて、中間発表に向けた準備を行う。なお、すでに優れた研究成果が得られている場合、論文投稿・学会発表等を積極的に行う。

(3) 中間発表（第1回）

研究の中間発表を行い、指導教員以外の教員からも助言を受ける。

(4) 研究計画書の到達状況の確認

2月上旬に、指導教員及び第一副指導教員と面談し、1年次における研究成果にもとづいて、年度当初に作成した「研究計画書」の到達状況を確認し、指導を受ける。また、1年間の成果を踏まえ、本研究科の『教養デザイン研究論集』、学生の投稿が認められている本学各研究所の紀要及びレフリー制のある学会等への論文投稿・発表の準備を行う。

研究科執行部は、指導教員間で研究の進捗状況に関する情報を共有し、今後の指導について意見交換が行えるよう、研究指導担当教員懇談会を年度内に開催する。

2年次

(1) 研究指導グループによる指導

4月中旬に指導教員1名、副指導教員2名で構成される研究指導グループが決定し、博士学位請求論文事前審査開始まで研究指導を受ける。

(2) 学位請求論文作成計画書の提出

4月中旬に、指導教員の指導のもとに、各自の履修計画を立て、当該年度の「履修計画書」を提出する。また、5月上旬に、研究指導グループの助言にもとづき、博士論文のテーマ、論文の構成に関する構想、論文執筆に向けた作業計画等を記載した「学位請求論文作成計画書」を提出する。提出後、研究指導グループと面談のうえ、承認及び指導を受ける。

(3) 中間発表（第2回）の準備

指導教員の研究論文指導（演習）を通じて、中間発表に向けた準備を行う。なお、すでに優れた研究成果が得られている場合、論文投稿・学会発表等を積極的に行う。

(4) 中間発表（第2回）

中間発表で、各自が進めている研究の中間発表を行い、発表内容について指導教員以外の教員からも助言を受ける。

(5) 学会等での発表

中間発表の成果を、本研究科の『教養デザイン研究論集』、学生の投稿が認められている本学各研究所の紀要及びレフリー制のある学会等への論文投稿・発表を行う。

(6) 学位請求論文作成計画書の到達状況の確認

2月上旬に、研究指導グループと面談し、2年次における成果にもとづいて、年度当初に作成した「学位請求論文作成計画書」の到達状況を確認し、学位請求論文予備登録に向けた準備を行う。

研究科執行部は、指導教員間で研究の進捗状況に関する情報を共有し、今後の指導について意見交換が行えるよう、研究指導担当教員懇談会を年度内に開催する。

3年次（学位請求年度）

(1) 博士学位請求予定者予備登録

4月中旬に、指導教員の指導のもとに、各自の履修計画をたて、当該年度の「履修計画書」を提出する。

また、学位請求予定者は、研究指導グループと相談のうえ、所定の日時までに予備登録票を提出し博士学位請求予定者予備登録を行う。なお、当該年度に学位請求論文を提出しない場合は、原則として2年次のプロセスに従って研究を進める。

(2) 学位請求論文の提出（事前審査）

研究指導グループにより論文提出資格を有すると判断された者は、所定の時期までに学位請求論文を提出する。研究指導グループは解散し、事前審査委員会が立ち上げられる。

事前審査委員会による学位請求論文の査読及び事前公開報告会での発表により、論文受理の可否について審査を受ける。

(3) 学位請求論文の提出（本審査）

事前審査により学位請求論文の受理を承認された学生は、所定の時期までに本審査用の学位請求論文を研究科に提出する。

【博士論文に求められる要件】

博士学位論文は、総合的・学際的な視点に立ち、各自が専攻した研究領域のみならず、他研究領域との関連性を十分に認識して、高度な研究能力と豊かな学識により、独創的な研究成果を発表する資質が認められるものでなければならない。また、自立した研究者として高い倫理性を持ち、地球公共的な視点に立って、現代社会のかかえる問題の解決への企画力と行動する能力を有していると認められる必要がある。さらに、本研究科の博士学位論文として相応の質・量、内容・水準を備え、以下の点に留意したものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 論文の体系性
- (4) 先行研究の調査
- (5) 理論的分析・実証的分析
- (6) 論旨・主張の統合性と一貫性
- (7) 形式的要件

分量としては、単行本1冊に相当する分量が望ましく、日本語で記述する場合は、16万字～20万字を基準とする。ただし、実験等のデータ分析を伴う論文については、この限りではない。また、外国語で論文を執筆することを希望する場合、事前の申し出により、これを認めることがある。

【博士学位請求時の提出書類・提出期間等】

提出書類

(1) 学位請求論文（事前審査用）

表紙は、本学所定様式（教養デザイン研究科のホームページからダウンロード）

(2) 論文要旨（4,000字程度）（本学所定様式：教養デザイン研究科ホームページからダウンロード）

(3) 学位請求書（本学所定様式：教養デザイン研究科ホームページからダウンロード）

指導教員の署名を得たうえでスキャンデータを提出すること。

論文題名は邦文には英文訳を、欧文には邦文訳を付すこと。（欧文が英文以外の場合、英文訳も付すこと。）

(4) 履歴書（本学所定様式：教養デザイン研究科ホームページからダウンロード）

暦年は西暦表記とすること。

(5)業績書（本学所定様式：教養デザイン研究科ホームページからダウンロード）

暦年は西暦表記とすること。

(6)博士学位請求者推薦書（研究科所定様式：教養デザイン研究科ホームページからダウンロード）

推薦者は本研究科委員会委員2名とし、研究指導グループの教員を含めることができる。

(7)博士学位授与の要件の充足を示す参考資料（査読付き論文・著書・作品等）

「提出参考資料リスト」は、研究科所定様式（教養デザイン研究科ホームページからダウンロード）

(8)その他研究科指定の提出書類

提出期日等

(1)提出期日：6月下旬（別途定める）

(2)提出先：Oh-o!Meiji グループへの提出を原則とする。

ただし、ファイルサイズ（30MB）の制限などにより Oh-o!Meiji での提出ができない場合は、別途研究科の定める方法により提出する。事前にファイルサイズを確認し、30MB を超える可能性がある場合は、提出方法について研究科に問い合わせること。

なお、受付は、指定提出期間内のみとし、提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けられないので、十分注意すること。

(3)審査手数料：不要

【学位審査の概要】

学位請求予定者予備登録

博士学位の請求者は、研究指導グループと相談のうえ、4月に博士学位請求予定者予備登録を行う。

学位請求者の推薦

学位請求予定者予備登録を行った者は、博士論文提出資格を満たし、研究指導グループから当該論文の内容・形式についての確認及び指導を受け、学位請求に十分な水準であると判断された場合に、本研究科委員会委員2名に推薦され、学位請求論文（事前審査用）を提出する。

事前審査と公開報告会

研究科執行部は提出された学位請求論文（事前審査用）について、申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合、すみやかに研究科委員会に諮り、当該論文の事前審査開始の可否の決定と、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科、他大学等の専門研究者を選定することがある）の事前審査委員を選出する。事前審査委員には当該学位請求者の推薦者を委員に選定することができる。

事前審査の期間は約3ヵ月とし、6ヵ月を超えないこととする。事前審査委員は、学位請求者の公開報告会を実施し、その際、事前審査委員は学位請求者に対して学位請求論文の加筆、修正を求めることができる。

事前審査報告と閲覧

事前審査委員は、公開報告会の実施後、論文及び報告に対する審査、学位授与要件の充足を確認し、受理の可否についての提案とその理由を記した事前審査報告書を研究科長に提出する。

事前審査を終了した後、学位請求論文（事前審査用）と学位授与要件の充足を示す参考資料を、事前審査の結果の報告後から受理の可否を決定するまでの約3週間の間、研究科委員の閲覧に供する。

研究科委員会による受理審査（事前審査）

閲覧期間の後、研究科長は学位請求論文（事前審査用）を研究科委員会に諮り、事前審査会からの報告をもとに、受理の可否を決定する。

審査委員会による本審査

論文の受理を決定した場合、研究科委員会は主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科、他大学等の専門研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。審査委員には、原則として事前審査にあたった委員を選定する。受理を認められた学位請求者は、事前報告会終了から4週間以内を目安に、本審査用に加筆・修正した学位請求論文を提出する。

審査委員会は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により最終試験（公開）を行う。

博士学位請求者は、合否判定を行う研究科委員会開催の2週間前までに「学位請求論文」及び「論文要旨」、並びに「明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書」を研究科に提出する。なお、上記提出物に加えて、公開用の英文論文要旨を200ワード程度で作成し、所定の期日までに別途提出すること。

審査終了後、審査委員会は研究科長に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。審査委員会による審査期間は概ね1ヵ月を標準とする。

学位請求論文の本審査及び試問は、事前審査の開始の日から7ヵ月以内に終了しなければならない。ただし特別の事情があるときは、研究科委員会の議を経て、1年以内に限り延長することができる。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員会からの報告をもとに、審議のうえ投票により合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は、大学院委員会の承認を経て、博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

研究指導グループ

研究指導グループは、2年次から事前審査開始までの研究指導を行うことを目的とし、入学時の指導教員1名、1年次に決定した副指導教員（第一副指導教員）1名に、2年次に決定する副指導教員（第二副指導教員）1名が加わり3名で構成される。指導教員と第一副指導教員は、本研究科教員とし、第二副指導教員は、本学専任教員とすることができる。

事前審査委員会の構成と責務

事前審査委員会は、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科、他大学等の専門研究者を選定することがある）で構成し、厳正なる事前審査に努めるものとする。なお、委員には当該学位請求者の推薦者を含めることができる。

本審査委員会の構成と責務

本審査委員会は、原則として事前審査にあたった委員によって、主査1名及び副査2名以上（副査には他研究科、他大学等の専門研究者を選定することがある）で構成し、厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は、研究科委員会における審査において、当該学位論文を公正かつ客観的に評価し、当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の内容の要旨及び審査結果の要旨をインターネットにより公表する。

学位論文の公表

博士学位論文は、本学学位規程第22条に準拠してこれを公表しなければならない。

明治大学学位規程 第22条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。

3 前2項の規定による公表は、本大学の定めるところに従って、インターネットの利用により行うものとする。

※ 「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると本大学が承認した場合をいう。

例 ① 博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合

② 博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から1年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合

③ 出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用による博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士学位を授与された日から1年を超えて生じる場合

なお、これらの場合においても、やむを得ない事由が解消された際には、速やかに博士論文全文をインターネットで公開しなければならない。

※ 博士学位論文提出にあたり、学位請求者は博士学位論文をインターネットにより公表することについての著作権関係上の諸問題を解消しておかなければならない。

例 ○ 刊行物の場合、出版社の了解を得ておくこと。

○ 引用の図版・写真がある場合、著作権者の同意を得ておくこと。

※ 博士学位論文が、特許などの申請に関連する場合、同申請手続きについては論文提出前に行っておかなければならない。なお、手続き方法等について不明な場合は、指導教員の指示を受けた後、各キャンパスの研究知財事務室に相談すること。

本学及び国立国会図書館における公表

- ・ 博士学位論文の要旨及び全文は「明治大学学術成果リポジトリ」により公表する。
- ・ 明治大学学術成果リポジトリにより公表された博士学位論文の要旨及び全文のデータは、国立国会図書館において利用に供される。

教養デザイン研究科（博士後期課程） 修了までのスケジュール

入学時

「研究計画書」

指導教員・所属領域研究コース決定

【1年次】

4月中旬

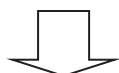
1年次「履修計画書」提出

5月下旬

「研究計画書」提出

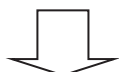
6月上旬

第一副指導教員決定



学術雑誌への投稿

※学内誌（『研究論集』等）への投稿を含む



10月
～12月

中間発表（第1回）

報告後、修正作業



2月上旬

「研究計画書」の到達状況確認
学術雑誌への投稿

指導教員、第一副指導教員と面談、指導を受ける。
指導教員より研究指導担当教員懇談会で報告される。

【2年次】

4月中旬

2年次「履修計画書」提出

第二副指導教員決定（研究指導グループ決定）

5月上旬

「学位請求論文作成計画書」提出

研究指導グループと面談、指導を受け、承認を得る。

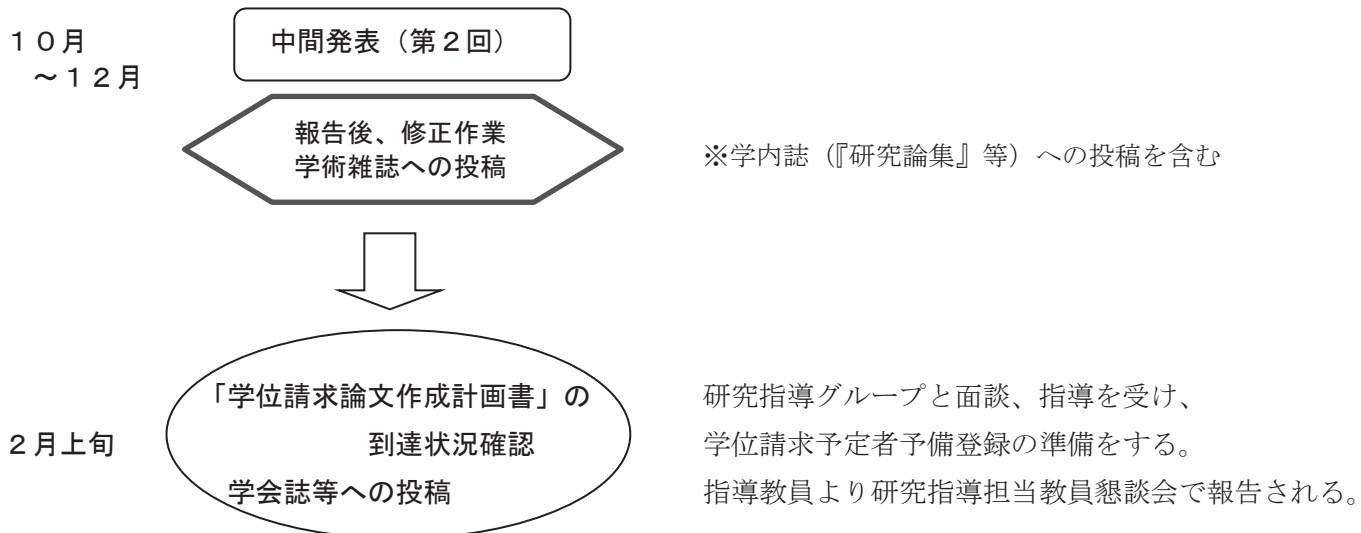
提出後、修正作業



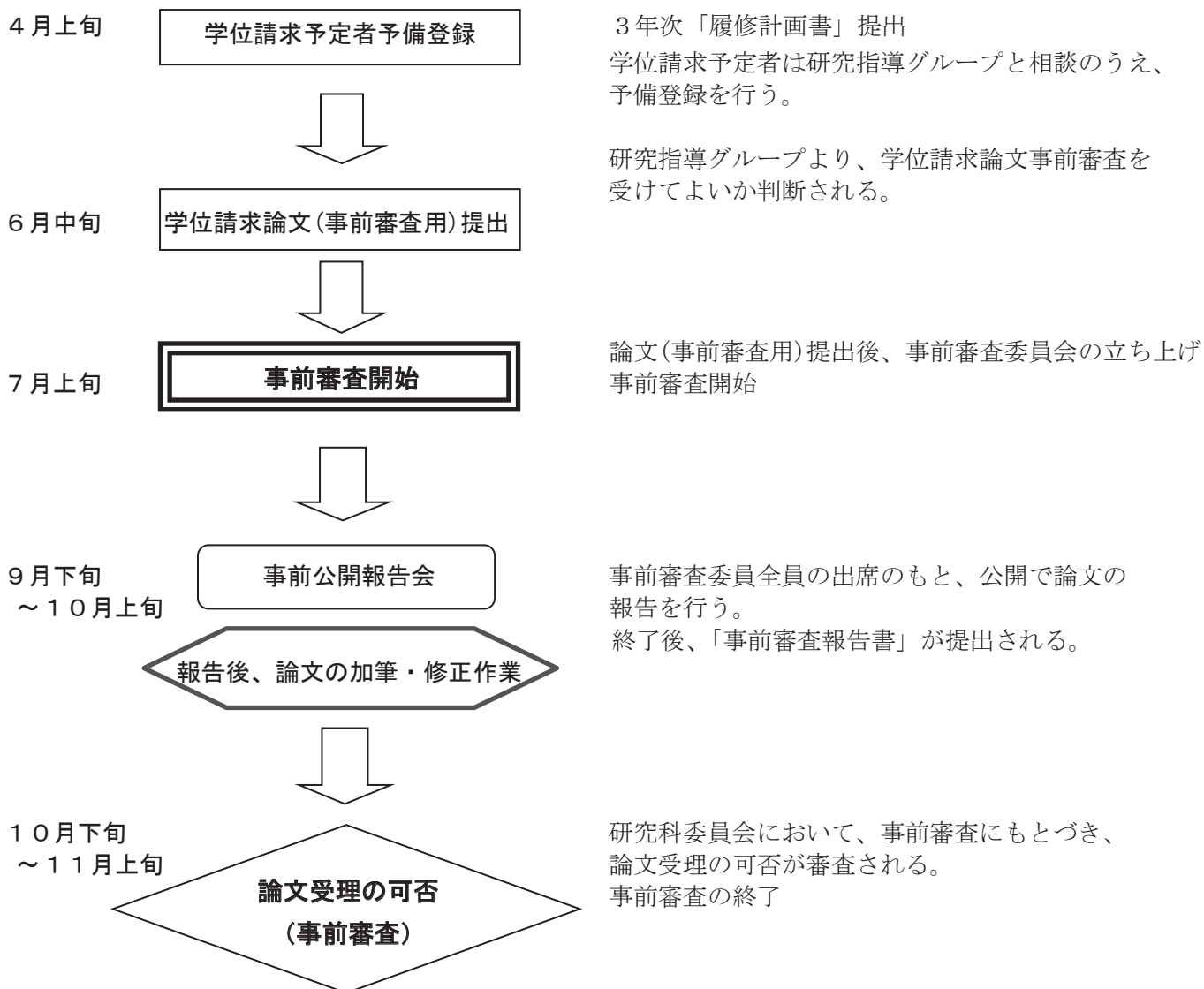
学術雑誌への投稿

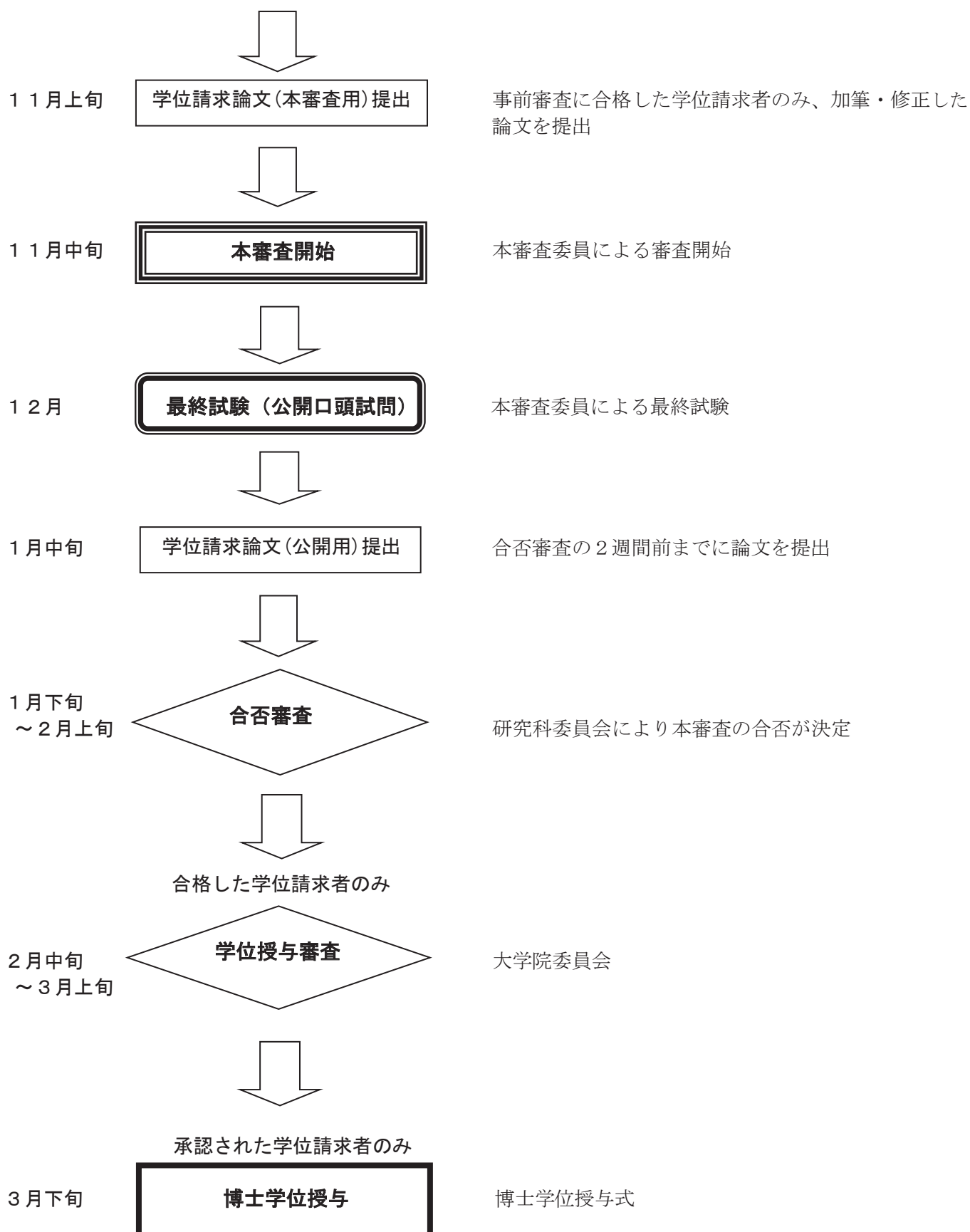
※学内誌（『研究論集』等）への投稿を含む





【3年次（学位請求年度）】





研究活動における不正行為への注意

明治大学大学院

昨今、大学を含む国内外の諸研究機関に対して、科学・学術研究を行う際の倫理基準の遵守を徹底し、こうした基準に反する不正行為（論文の「剽窃（盗用）」、資料・データの「改竄・捏造」等）への厳正なる対応、またそれらを未然に防ぐための方策の検討が求められています。大学院生諸君にも、こうした不正行為に対する忌避の意識を新たにする必要があります。

不正行為は、それを行った個人のみならず、研究機関としての本学の社会的信頼を著しく低下させるものであり、絶対に許されない行為です。本大学院は、不正行為を行った者に対して、大学院学則に則り、処分等の厳正なる措置をとります。大学院生諸君は、あらかじめ以下の点に十分に留意し、研究活動を適正に遂行するよう努めてください。

【論文の剽窃（盗用）は社会的に許されない犯罪行為】

剽窃（盗用）行為は、他人の研究業績を無断で借用することであり、研究活動の倫理に反するだけでなく、他人の著作権を侵害する犯罪行為ともなる社会的に許されない行為です。

〔剽窃（盗用）行為とみなされる事例〕

- 故意の有無を問わず、活字媒体（書籍・雑誌・新聞等）やWEBサイト等に掲載された他人の文章（無署名の文章も含む）や資料等を、出典を明記せずにそのまま使い、あるいは前後関係や語句を若干変更した程度で、論文（授業中のレポート等を含む）を作成すること。
- 当人が作成した論文の構成において、引用文献（出典を明示して引用した文献）を研究目的上適切と認められる範囲を逸脱して利用すること。

【データの改竄・捏造は研究活動そのものに対する背信行為】

データの改竄・捏造は、研究成果それ自体に対する信頼をなきものとするだけにとどまらず、研究者としての信用を失墜させ、自ら研究者としての道を断つ行為であり、科学・学術研究に対する信頼を低下させる重大な背信行為です。

〔データを改竄・捏造したとみなされる事例〕

- 調査収集・実験等により得られた資料・データ等を意図的に書き換えること。
 - 事実でないこと、また実際にはなかったことを事実であるかのように作り上げる
- こと。

【不正行為に対する大学の処分】

以上のような不正行為が発覚した場合には、事実確認のうえ、当該学期または学年の単位の無効化は言うまでもなく、大学院学則第62条の規定に則り、「けん責」、「停学」または「退学」の懲戒処分を行います。

以 上

履修登録について

- 1 履修登録について 毎年度初めの所定の時期に、履修科目の登録を行う必要があります。この登録を正しく行わなかった場合、受講した科目の単位が認定されないので、注意してください。修了要件・履修上の注意点は、該当ページで必ず確認してください。
- 2 「履修計画書」の提出 各自の研究計画に基づき、研究指導教員と相談の上、WEB による履修登録とは別途に履修計画書を提出してください。
※なお、履修計画書の扱いについては、修了要件記載事項に従ってください。
- 3 履修登録方法
 - (1) ガイダンス時に、履修計画書、時間割表を配付します。シラバスは Oh-o! Meiji システムより閲覧してください。
 - (2) 博士前期課程は WEB により、博士後期課程は専用の届出用紙により、所定の期間に春・秋学期科目の履修登録を行ってください。なお、WEB による履修登録の詳細は WEB 履修登録要領を参照してください。
 - (3) 履修登録期間後の春学期科目の追加、変更、取消は認められません。
履修登録後、個人別時間割表を配付するので、修正期間に確認してください。
この期間を過ぎると修正することはできません。修正は、次の場合に限り認めます。
○登録科目の誤り
○エラーメッセージ記載事項
○修了要件不足
 - (4) 秋学期に学習指導期間がある科目の履修修正（追加、取消）については、指導教員が承認した場合のみ、修正期間に修正を認めます。その場合、明確な修正理由と「履修計画書」への指導教員の許可が必要になります。
 - (5) 病気その他やむを得ぬ理由によって履修登録期間に手続きができない場合は、事前に研究科担当者まで連絡してください。
 - (6) 所定の単位を修得した者は、履修登録の必要はありません。
 - (7) 他研究科の科目を履修する場合は、大学院事務室で該当する研究科のシラバス・時間割等を確認してください。
 - (8) 他大学院の授業科目を履修する場合は、他大学院の履修の手続に従ってください。
- 4 個人別時間割表 WEB による履修登録後、4 月下旬に教務システムで配信します。秋学期は履修修正した者のみ、10 月上旬に配信します。必ず確認してください。
- 5 履修登録スケジュール
履修計画書・時間割表の配付 …………… 4 月初旬
WEB 履修登録・履修計画書の提出…………… 4 月中旬
個人別時間割表の確認 …………… 4 月下旬
履修登録不備の修正 …………… 4 月下旬
秋学期開講科目履修修正願の提出 …………… 9 月下旬

履修登録スケジュール

各研究科別新入生ガイダンス **4月上旬** ※研究科の日程を確認のうえ出席すること

- 履修計画書・授業時間割表・履修の手引き等の受領、各種事務説明

博士前期課程・修士課程

博士後期課程

指導教員と履修計画について相談のうえ、履修計画書を作成・提出する（締切：4月中旬）

※博士前期課程在籍者は、履修計画書の提出のみでは履修登録を行ったことにはなりません。以下のとおり、履修計画書に記載した科目をシステムに登録する作業が必要です。
※各手続きの日程は、ガイダンス等案内のある「WEB履修登録要領」を参照すること。

※博士後期課程在籍者は履修計画書の他に、「履修届」も提出する必要があります。（商学研究科、教養デザイン研究科を除く。）

※博士後期課程在籍者はWEB履修登録をする必要はありません。

WEB履修登録システムを用いて履修登録を行う

- 登録するのは当該年度に履修する科目のみ
- 明治大学のホームページ上からWEB履修登録ページにアクセス
(携帯電話・スマートフォンは不可)

WEB履修非対応科目を登録する(該当者のみ)

- 「WEB履修非対応科目履修届」を別途作成のうえ提出する

WEB履修非対応科目（例）

- ・WEBで該当曜日時限に表示されなかった科目
- ・研究科で履修が認められている学部設置科目

登録期限
4月中旬

個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- 教務システムの個人別時間割表から、履修科目が正しく登録できているか必ず確認する

履修エラー等がある場合

履修登録を修正する（4月下旬）

- 履修修正願を別途作成する
- 履修修正期間中に提出する

履修修正後の個人別時間割表を確認する（4月下旬）

- 教務システムの個人別時間割表から、登録にエラーがないかを確認する

履修エラー等がなかった場合

履修計画書の記載科目が正しく登録できているかを必ず確認！

履修登録完了

科目ナンバリングについて

2020年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

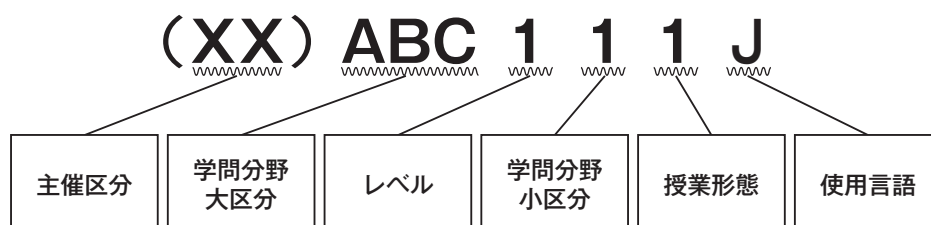
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバを付番します。

<科目ナンバの構造>



<各ナンバリングコードの定義>

- ① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット2文字で示しています。
- ② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット3文字で示しています。
- ③ レベルコード
当該科目のレベルを数字1文字で示しています。
- ④ 学問分野 小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字1文字で示しています。
- ⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字1文字で示しています。
- ⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字1文字で示しています。

<各コードの詳細>

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

<科目ナンバの例>

(HU) IND 5 1 1 J

教養デザイン研究科／学際・総合・複合領域／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／学際・総合・複合領域／講義／日本語

※ 教養デザイン研究科が設置する、学際・総合・複合領域-学際・総合・複合領域の科目で、日本語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以 上

他大学大学院の聴講について

他大学大学院との学術的提携・交流を促進し、教育・研究の充実をはかることを目的として、「大学院特別聴講生制度（単位互換制度）」を設けています。

大学院特別聴講生制度とは、大学院学生が研究上の必要から、他の大学院（特別聴講生に関する協定を締結した大学院）に設置されている授業科目を履修して、その履修した単位を所属する大学院に、修了に必要な単位として認定する制度のことです。

現在、教養デザイン研究科博士前期課程では「首都大学院コンソーシアム」に加盟しています。首都大学院コンソーシアム加盟大学大学院研究科・専攻は研究科ホームページで確認してください。

他大学大学院科目履修に関わる本学の受付期間 ～4月24日（木）

受入大学の受付期間については、各自で確認し、その指示に従ってください。希望者は研究科窓口・ホームページで手続き方法を確認してください。

教養デザイン研究科

博士前期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

修了要件・履修方法について（博士前期課程）

1. 修了要件について

- (1) 本研究科の博士前期課程においては、2年以上在籍し、32単位以上を基準点（平均「B」）以上で修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士学位請求論文の審査に合格した者には、修士の学位が授与されます。
- (2) 単位の履修にあたっては、次の要件を満たさなければなりません。
 - ア コース必修科目のうち、指導教員が担当する専修科目8単位（演習Ⅰ～Ⅳ）を必修とする。また、共通必修科目2単位を必修とする。
 - イ コース選択科目については、所属コースから6単位以上を修得しなければならない。
 - ウ 他研究科（専門職学位課程を含む）及び単位互換協定による他大学院の授業科目については、指導教員及び当該授業担当教員の承認を受け、8単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。
 - エ 研究科間共通科目は、指導教員が必要と認める場合には、4単位を限度として、修了に必要な単位数に含めることができる。

2. 履修にあたっての注意事項

指導教員の指導のもとに各自の履修・研究計画を立てなければなりません。

各自の研究計画にしたがって、4月の定められた日までに当該年度の「履修計画書」（指導教員の承認が必要）を提出し、履修登録を行ってください。

3. 修了見込証明書について

博士前期課程において、修了要件科目の単位を20単位以上修得している者にのみ、修了見込証明書を発行します。

授業科目及び担当者一覧表（博士前期課程）

〔教養デザイン専攻〕

授業科目			単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ
コ ー ス 必 修 科 目	「思想」領域研究コース								
	思想領域研究演習Ⅰ(哲学と共同体1)	演2	1	専任教授	岩 野 卓 司	1～2年次 継続履修	○	32	
	思想領域研究演習Ⅱ(哲学と共同体2)	演2	1					32	
	思想領域研究演習Ⅲ(西欧思想と日本思想1)	演2	2					33	
	思想領域研究演習Ⅳ(西欧思想と日本思想2)	演2	2					33	
	思想領域研究演習Ⅰ(スポーツ・メディア論)	演2	1	専任教授	釜 崎 太	1～2年次 継続履修	○	34	
	思想領域研究演習Ⅱ(スポーツの思想)	演2	1					34	
	思想領域研究演習Ⅲ(身体文化の思想)	演2	2					35	
	思想領域研究演習Ⅳ(身体教育の思想)	演2	2					35	
	思想領域研究演習Ⅰ(「スポーツ」の拡張)	演2	1	専任准教授	澤 井 和 彦	1～2年次 継続履修	○	36	
	思想領域研究演習Ⅱ(スポーツ産業論)	演2	1					36	
	思想領域研究演習Ⅲ(スポーツマネジメント論)	演2	2					37	
	思想領域研究演習Ⅳ(スポーツ制度論)	演2	2					37	
	思想領域研究演習Ⅰ(雲南の漢族移民史)	演2	1	専任准教授	西 川 和 孝	1～2年次 継続履修	○	38	
	思想領域研究演習Ⅱ(雲南の環境史)	演2	1					38	
	思想領域研究演習Ⅲ(雲南の経済史Ⅰ)	演2	2					39	
	思想領域研究演習Ⅳ(雲南の経済史Ⅱ)	演2	2					39	
	思想史領域研究演習Ⅰ(脱領域の思考1)	演2	1	専任教授	井 上 善 幸	1～2年次 継続履修	○	40	
	思想史領域研究演習Ⅱ(脱領域の思考2)	演2	1					40	
	思想史領域研究演習Ⅲ(文学と脱構築1)	演2	2					41	
	思想史領域研究演習Ⅳ(文学と脱構築2)	演2	2					41	
	思想史領域研究演習Ⅰ(東アジアの近現代と中国)	演2	1	専任教授	本 間 次 彦	1～2年次 継続履修	○	42	
	思想史領域研究演習Ⅱ(福沢諭吉と日本近代)	演2	1					42	
	思想史領域研究演習Ⅲ(伊藤仁斎と江戸儒学)	演2	2					43	
	思想史領域研究演習Ⅳ(荻生徂徠と江戸儒学)	演2	2					43	
	思想史領域研究演習Ⅰ(歴史の中の人物と社会思想)	演2	1	専任教授	田 中 ひかる	1～2年次 継続履修	○	44	
	思想史領域研究演習Ⅱ(歴史の中の人物と社会思想)	演2	1					44	
	思想史領域研究演習Ⅲ(歴史の中の人物と社会思想)	演2	2					45	
	思想史領域研究演習Ⅳ(歴史の中の人物と社会思想)	演2	2					45	
	思想史領域研究演習Ⅰ(日本の古代神話1)	演2	1	専任教授	伊 藤 剣	1～2年次 継続履修	○	46	
	思想史領域研究演習Ⅱ(日本の古代神話2)	演2	1					46	
	思想史領域研究演習Ⅲ(日本の古代神話3)	演2	2					47	
思想史領域研究演習Ⅳ(日本の古代神話4)	演2	2	47						
「文化」領域研究コース									
文化理論研究演習Ⅰ(文化とアイデンティティの構想)	演2	1	専任教授	広 沢 絵里子	1～2年次 継続履修	○	55		
文化理論研究演習Ⅱ(反アイデンティティ論の構想)	演2	1					55		
文化理論研究演習Ⅲ(記憶の文化)	演2	2					56		
文化理論研究演習Ⅳ(「自己」の表現と「記憶」)	演2	2					56		
文化理論研究演習Ⅰ(表象様式の比較研究-1:言語学から詩学へ)	演2	1	専任教授	鈴 木 哲 也	1～2年次 継続履修	○	57		
文化理論研究演習Ⅱ(表象様式の比較研究-2:言葉・声・音)	演2	1					57		
文化理論研究演習Ⅲ(表象様式の研究-3:言葉と身体)	演2	2					58		
文化理論研究演習Ⅳ(表象様式の研究-4:マルチメディアと言葉)	演2	2					58		

授業科目		単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ
コ ー ス 必 修 科 目	文化理論研究演習Ⅰ(現代の日本文化1)	演2	1	専任教授	嶋 田 直 哉	1～2年次 継続履修	○	59
	文化理論研究演習Ⅱ(現代の日本文化2)	演2	1					59
	文化理論研究演習Ⅲ(現代の日本文化3)	演2	2					60
	文化理論研究演習Ⅳ(現代の日本文化4)	演2	2					60
	文化理論研究演習Ⅰ(近代日本文学研究入門)	演2	1	専任教授	畑 中 基 紀	1～2年次 継続履修	○	61
	文化理論研究演習Ⅱ(近代日本文学研究入門)	演2	1					61
	文化理論研究演習Ⅲ(近代日本文学研究入門)	演2	2					62
	文化理論研究演習Ⅳ(近代日本文学研究入門)	演2	2					62
	文化理論研究演習Ⅰ(和漢古典小説精読1)	演2	1	専任教授	神 田 正 行	1～2年次 継続履修	○	63
	文化理論研究演習Ⅱ(和漢古典小説精読2)	演2	1					63
	文化理論研究演習Ⅲ(和漢古典小説精読3)	演2	2					64
	文化理論研究演習Ⅳ(和漢古典小説精読4)	演2	2					64
	地域文化研究演習Ⅰ(環境と文学1)	演2	1	専任教授	虎 岩 直 子	1～2年次 継続履修	○	65
	地域文化研究演習Ⅱ(環境と文学2)	演2	1					65
	地域文化研究演習Ⅲ(環境と文学3)	演2	2					66
	地域文化研究演習Ⅳ(環境と文学4)	演2	2					66
	地域文化研究演習Ⅰ(日本近代文化研究1)	演2	1	専任教授	池 田 功	1～2年次 継続履修	○	67
	地域文化研究演習Ⅱ(日本近代文化研究2)	演2	1					67
	地域文化研究演習Ⅲ(日本近代文化研究3)	演2	2					68
	地域文化研究演習Ⅳ(日本近代文化研究4)	演2	2					68
	地域文化研究演習Ⅰ(東アジアのホラーとコメディ)	演2	1	専任教授	加 藤 徹	1～2年次 継続履修	○	69
	地域文化研究演習Ⅱ(東アジアのコードとタブー)	演2	1					69
	地域文化研究演習Ⅲ(東アジアのヒーロー論)	演2	2					70
	地域文化研究演習Ⅳ(異文化交流論)	演2	2					70
	地域文化研究演習Ⅰ(中東の文化と社会)	演2	1	専任教授	山 岸 智 子	1～2年次 継続履修	○	71
	地域文化研究演習Ⅱ(イスラームとグローバル化)	演2	1					71
	地域文化研究演習Ⅲ(イラン地域研究1)	演2	2					72
	地域文化研究演習Ⅳ(イラン地域研究2)	演2	2					72
	地域文化研究演習Ⅰ(戦争文化論)	演2	1	専任教授	丸 川 哲 史	1～2年次 継続履修	○	73
	地域文化研究演習Ⅱ(植民地文化論)	演2	1					73
	地域文化研究演習Ⅲ(冷戦文化論)	演2	2					74
	地域文化研究演習Ⅳ(帝国文化論)	演2	2					74
	地域文化研究演習Ⅰ(フランス近現代史)	演2	1	専任教授	前 田 更 子	1～2年次 継続履修	○	75
	地域文化研究演習Ⅱ(フランス近現代史)	演2	1					75
	地域文化研究演習Ⅲ(フランス近現代史)	演2	2					76
	地域文化研究演習Ⅳ(フランス近現代史)	演2	2					76
	地域文化研究演習Ⅰ(文化人類学)	演2	1	専任准教授	佐久間 寛	1～2年次 継続履修	○	77
	地域文化研究演習Ⅱ(文化人類学)	演2	1					77
	地域文化研究演習Ⅲ(文化人類学)	演2	2					78
	地域文化研究演習Ⅳ(文化人類学)	演2	2					78
	地域文化研究演習Ⅰ(映画の言語・日本映画)	演2	1	専任准教授	ネルソン, リンジーR	1～2年次 継続履修	○	79
	地域文化研究演習Ⅱ(映画の言語・日本映画)	演2	1					79
	地域文化研究演習Ⅲ(映画の言語・日本映画)	演2	1					80
	地域文化研究演習Ⅳ(映画の言語・日本映画)	演2	1					80

授業科目			単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名		備考	研究指導	ページ
コ ー ス 必 修 科 目	「平和・環境」領域研究コース									
	平和構築研究演習Ⅰ(国際機関の開発概念と戦略)	演2	1	専任教授	鳥 居 高	1～2年次 継続履修	○	90		
	平和構築研究演習Ⅱ(開発概念と戦略へのアンチテーゼ)	演2	1					90		
	平和構築研究演習Ⅲ(国民統合論)	演2	2					91		
	平和構築研究演習Ⅳ(開発経済論)	演2	2					91		
	平和構築研究演習Ⅰ(ジェノサイド研究1)	演2	1	専任教授	佐 原 徹 哉	1～2年次 継続履修	○	92		
	平和構築研究演習Ⅱ(ジェノサイド研究2)	演2	1					92		
	平和構築研究演習Ⅲ(紛争社会論1)	演2	2					93		
	平和構築研究演習Ⅳ(紛争社会論2)	演2	2					93		
	平和構築研究演習Ⅰ(日米関係史1)	演2	1	専任教授	廣 部 泉	1～2年次 継続履修	○	94		
	平和構築研究演習Ⅱ(日米関係史2)	演2	1					94		
	平和構築研究演習Ⅲ(日米関係史3)	演2	2					95		
	平和構築研究演習Ⅳ(日米関係史4)	演2	2					95		
	平和構築研究演習Ⅰ(民族解放運動と中国)	演2	1	専任教授	羽 根 次 郎	1～2年次 継続履修	○	96		
	平和構築研究演習Ⅱ(社会主義と中国)	演2	1					96		
	平和構築研究演習Ⅲ(脱冷戦論)	演2	2					97		
	平和構築研究演習Ⅳ(反帝国主義論)	演2	2					97		
	地球環境研究演習Ⅰ(モンゴル国の遊牧知)	演2	1	専任教授	森 永 由 紀	1～2年次 継続履修	○	98		
	地球環境研究演習Ⅱ(モンゴル国の遊牧知)	演2	1					98		
	地球環境研究演習Ⅲ(モンゴル国の遊牧知)	演2	2					99		
	地球環境研究演習Ⅳ(モンゴル国の遊牧知)	演2	2					99		
	地球環境研究演習Ⅰ(先端生命科学技術1)	演2	1	専任教授	浅 賀 宏 昭	1～2年次 継続履修	○	100		
	地球環境研究演習Ⅱ(先端生命科学技術2)	演2	1					100		
	地球環境研究演習Ⅲ(先端生命科学技術3)	演2	2					101		
	地球環境研究演習Ⅳ(先端生命科学技術4)	演2	2					101		
	地球環境研究演習Ⅰ(環境地理学理論1)	演2	1	専任教授	石 山 徳 子	1～2年次 継続履修	○	102		
	地球環境研究演習Ⅱ(環境地理学方法論1)	演2	1					102		
	地球環境研究演習Ⅲ(環境地理学理論2)	演2	2					103		
地球環境研究演習Ⅳ(環境地理学方法論2)	演2	2	103							
「思想」領域研究コース										
コ ー ス 選 択 科 目	思想領域研究特論Ⅰ(贈与論)	講2	1・2	専任教授	岩 野 卓 司			48		
	思想領域研究特論Ⅱ(ジェンダー論の基礎)	講2	1・2	兼担教授	高 峰 修			48		
	思想領域研究特論Ⅲ(自己を省みる、自己について語る)	講2	1・2	兼任講師	澤 田 直			49		
	思想領域研究特論Ⅳ(現代社会とスポーツ)	講2	1・2	専任教授	釜 崎 太			49		
	思想領域研究特論Ⅴ(中国西南地域の歴史)	講2	1・2	専任准教授	西 川 和 孝			50		
	思想領域研究特論Ⅵ(スポーツ政策とビジネス)	講2	1・2	専任准教授	澤 井 和 彦			50		
	思想領域研究特論Ⅶ(運動生理学)	講2	1・2	専任教授	一之瀬 真 志			51		
	思想領域研究特論Ⅷ(ヘルスコミュニケーション)	講2	1・2	兼担准教授	宮 脇 梨 奈			51		
	思想史領域研究特論Ⅰ(イマージュの解体学)	講2	1・2	専任教授	井 上 善 幸			52		
	思想史領域研究特論Ⅱ(日本政治思想史(17～19世紀))	講2	1・2	専任教授	本 間 次 彦			52		
	思想史領域研究特論Ⅲ(日本古代の社会と文学)	講2	1・2	専任教授	伊 藤 剣			53		
	思想史領域研究特論Ⅳ(キリスト教美術史)	講2	1・2	専任准教授	瀧 口 美 香			53		

授業科目		単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ
コ ー ス 選 択 科 目	思想史領域研究特論Ⅴ(自己究明の諸相)	講2	1・2	兼任教授	美濃部 仁	2025年度開講せず		54
	思想史領域研究特論Ⅵ(近現代の社会変革思想)	講2	1・2	専任教授	田 中 ひ かる	2025年度開講せず		54
	「文化」領域研究コース							
	文化論研究特論Ⅰ(比較文化研究)	講2	1・2	専任教授	中 村 和 恵			81
	文化論研究特論Ⅱ(現代文化へのアプローチ)	講2	1・2	専任教授	山 岸 智 子			81
	文化論研究特論Ⅲ(フィールドワークと民族誌)	講2	1・2	専任准教授	佐久間 寛	2025年度開講せず		82
	文化論研究特論Ⅳ(映画論)	講2	1・2	専任准教授	ネルソン, リンジーR			82
	文化理論研究特論Ⅰ(日本語表現論)	講2	1・2	兼任准教授	黒 崎 典 子			83
	文化理論研究特論Ⅱ	講2	1・2			2025年度開講せず		
	文化理論研究特論Ⅲ(近代日本文学)	講2	1・2	専任教授	畑 中 基 紀			83
	文化理論研究特論Ⅳ(日本古典文芸)	講2	1・2	専任教授	神 田 正 行			84
	文化理論研究特論Ⅴ(自伝理論)	講2	1・2	専任教授	広 沢 絵里子			84
	地域文化研究特論Ⅰ(現代文化研究)	講2	1・2	専任教授	嶋 田 直 哉			85
	地域文化研究特論Ⅱ(中国語圏)	講2	1・2	専任教授	加 藤 徹	2025年度開講せず		85
	地域文化研究特論Ⅲ(英語圏)	講2	1・2	専任教授	虎 岩 直 子	2025年度開講せず		86
	地域文化研究特論Ⅳ(ドイツ語圏)	講2	1・2	専任講師	佐 藤 公 紀			86
	地域文化研究特論Ⅴ(フランス語圏)	講2	1・2	専任教授	前 田 更 子			87
	地域文化研究特論Ⅵ(その他語圏)	講2	1・2	専任教授	薩 摩 秀 登			87
	言語文化研究特論Ⅰ(言語論と批評理論)	講2	1・2	専任教授	鈴 木 哲 也			88
	言語文化研究特論Ⅱ(スペインの名著)	講2	1・2	兼任教授	大 楠 栄 三			88
	言語文化研究特論Ⅲ(東アジア歴史文化比較論)	講2	1・2	専任教授	丸 川 哲 史	2025年度開講せず		89
	文化マネジメント研究特論(芸能と国家・社会)	講2	1・2	兼任講師	中 村 雅 之			89
	「平和・環境」領域研究コース							
	地球公共論研究特論Ⅰ(アジア太平洋地域の国際関係)	講2	1・2	専任准教授	上 村 威			104
	地球公共論研究特論Ⅱ(自然環境)	講2	1・2	専任教授	森 永 由 紀			104
	平和構築研究特論Ⅰ(朝鮮半島と世界平和)	講2	1・2	兼任教授	李 英 美	2025年度開講せず		105
	平和構築研究特論Ⅱ(戦前の日本と世界)	講2	1・2	専任教授	廣 部 泉			105
	平和構築研究特論Ⅲ(人民民主論)	講2	1・2	専任教授	羽 根 次 郎			106
	平和構築研究特論Ⅳ(経済発展論)	講2	1・2	専任教授	鳥 居 高			106
	平和構築研究特論Ⅴ(比較ジェノサイド論)	講2	1・2	専任教授	佐 原 徹 哉			107
	地球環境研究特論Ⅰ(自然環境)	講2	1・2	専任教授	森 永 由 紀			107
	地球環境研究特論Ⅱ(先端生命科学技術)	講2	1・2	専任教授	浅 賀 宏 昭			108
	地球環境研究特論Ⅲ(環境と社会)	講2	1・2	専任教授	石 山 徳 子			108
	科学技術史研究特論(科学と社会)	講2	1・2	専任教授	勝 田 忠 広			109
共通必修科目	論文作成特論	講2	1	専任講師	佐 藤 公 紀			109

授業科目について

(1) 単位制度

1 週 1 コマ 100 分を、半年ずつ春学期・秋学期に区分したものを各 2 単位とする。

(2) 授業科目の番号

〇〇演習Ⅰ、〇〇演習Ⅱ / 〇〇特論Ⅰ、〇〇特論Ⅱ：内容の区別を示す。(履修の順序は定めない。)

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想領域研究演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

哲学と戦争の関係について考えていく。哲学者のなかにはその著書の中で戦争、闘争、平和について論じている者も多々いる。のみならず、戦争や闘争を哲学にとって本質的なものと考えた者もいる。古代ギリシアの哲学者ヘラクレイトスは万物の根源には「闘争」や「戦争」があると考えていた。また、ヘーゲルの弁証法的歴史観では闘争や戦争は歴史の進行に不可欠な要因とされてきた。また、ニーチェにおいても、ハイデッガーにおいても、戦争や闘争は根本的に重要な哲学の要因であった。

授業では、哲学が戦争や闘争とどうかかわってきたかを検討していく。その際に、問題点を単に狭く戦争に限定するのではなく、政治や暴力といった社会的な問題とリンクさせていくつもりである。各哲学者のテキストに接しながら、いろいろと考えてもらい理解していくことを到達目標とする。質問と討議の時間も設けたい。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：ヘラクレイトス
第3回：プラトン、アリストテレス
第4回：近代哲学
第5回：ヘーゲル(1)『精神現象学』
第6回：ヘーゲル(2)『法哲学』
第7回：マルクス
第8回：ニーチェ
第9回：フロイト
第10回：ハイデッガー
第11回：ベンヤミン
第12回：レヴィナス
第13回：バタイユ
第14回：まとめ

履修上の注意

授業は邦訳を使う。外国語の能力ならびに知識は求めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については、文献などで調べること。

教科書

プリントで配布する。

参考書

岩野卓司編『共にあることの哲学』、書肆心水。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的参加と課題への取り組み。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想領域研究演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

ニーチェほどさまざまな解釈をされる思想家も珍しい。ドイツ・ナショナリズムやナチズムはニーチェに自分たちの右翼思想の源泉を見出したし、フーコーやドゥルーズのようなフランスの左翼知識人は革命の思想家として彼を賛美した。どちらとも、ニーチェが既成の価値を問い直し新しいものを生み出そうとしている面を強調している。彼には現実を変革しようとするラディカルな面があるのだ。それまで自明のものとして肯定されていた「道徳」、「理性」、「神」、「歴史」、「法」、「民主主義」を彼のテキストは再び根本から問い直している。しかし、そうであるからまた、ニーチェの思想には危険な面も潜んでいる。この授業では、ニーチェのテキストにおいて暴力がどのように考えられてきたかを取り上げる。彼の新しい価値観と暴力はどうかかわっているのだろうか。また彼の暴力論は現代社会においてどういう意義を持っているのだろうか。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：古代ギリシアの芸術
第3回：アポロ的なもの
第4回：ディオニュソスの暴力
第5回：歴史とは何か？
第6回：道徳の起源
第7回：平等主義と民主主義の奥に潜むもの
第8回：法とは何か？
第9回：神の死
第10回：『ツァラトゥストラはかく語りき』
第11回：宗教と暴力
第12回：真理と暴力
第13回：力、暴力、権力
第14回：まとめ

履修上の注意

授業は邦訳を使う。外国語の能力ならびに知識は求めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容は、文献などで調べること。

教科書

『ニーチェ全集』、白水社。プリントで配布する。

参考書

岩野・若森編『語りのポリティクス』彩流社。岩野卓司『ジョルジュ・バタイユ』、水声社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的参加と課題への取り組み。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

明治以降、日本では多彩な思想家や文学者が輩出した。彼らの多くは西欧の学問・文化の影響を免れることはできなかった。たとえ日本や東洋の研究に邁進しているようにみえても、西欧的なものと無縁でいるわけにはいかなかった。日本固有の民俗学を創始した柳田國男もフランスなどの民俗学の動向に敏感であったし、民俗学、国文学、神道に足跡を残した折口信夫も同じであった。詩人であり童話作家でもあり、熱心な法華信者でもあった宮沢賢治はエスペラント語を習いコスモポリタン志向であった。西欧哲学の教鞭をとっていた西田幾多郎は、哲学の方法でもって禅の経験を根拠づけようとしていた。マルクス主義の影響を受けた吉本隆明も、日本文学について多くの評論を書くとともに、日本の起源についても論じている。彼らの思考のなかには西欧的な要素はいやおうなく刻み込まれている。

しかし、彼らと西欧的なものとの関係は単純ではない。彼らに固有な思想があるとしても、そこでは、西欧的なもの、東洋的なもの、日本的なものが複雑に絡み合い、幾重にも層をなしている。そこには屈折もあれば、不透明なものもある。

授業では彼らのテキストの読解をとおして西欧的なものとは何か、日本的なものとは何か、東洋的なものとは何かを考えていく。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：柳田國男(1)民俗学
- 第3回：柳田國男(2)祖先信仰
- 第4回：折口信夫(1)マレビト論
- 第5回：折口信夫(2)スサノオと罪
- 第6回：折口信夫(3)ムスビの神
- 第7回：宮沢賢治(1)イーハトヴの共同体
- 第8回：宮沢賢治(2)動物
- 第9回：宮沢賢治(3)贈与
- 第10回：西田幾多郎(1)純粋経験
- 第11回：西田幾多郎(2)場の思想
- 第12回：吉本隆明(1)共同幻想論
- 第13回：吉本隆明(2)アフリカ的なもの
- 第14回：まとめ

履修上の注意

語学能力は必要とはされない。授業では邦訳を使う。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で話した内容について、文献などで調べておくこと。

教科書

テキストはプリントを配布する。

参考書

授業中に示す。とりあえずひとつだけ挙げておく。岩野卓司編『共にあることと哲学と現実』、書肆心水。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的参加と課題への取り組み。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

フランス構造主義の哲学者ミッシェル・フーコーによれば、ジョルジュ・バタイユは20世紀でもっとも重要な著述家のひとりである。彼はさまざまな顔を持っている。神秘体験の思想家、消費のための消費の経済理論家、エロティック小説の書き手、犀利な文芸批評家… 今期の授業ではこの多様な顔を持つバタイユの思想を解説していく。その際に、バタイユの思想において初期から後期に至るまで登場する「太陽」のテーマについて検討していきたい。バタイユにとって「太陽」はひとつには父親の象徴である。ゴッホについて論じた論文、エロティックな奇書『太陽肛門』、シュールリアリストのアンドレ・ブルトンとの論争において展開される「太陽」は、父親の象徴であり、バタイユと精神分析の理論との関係が浮かび上がってくる。また、『内的経験』(哲学)や『呪われた部分』(経済学)で登場する「太陽」は、「贈与する」存在である。「太陽」がエネルギーを贈与してくれるから生物は生きることができるのである。太陽は一方的に贈与する純粋に消費する存在として捉えられている。ここから「生産」より「消費」を重視する彼の経済思想が展開していく。さらには、ここでは贈与を哲学的に考えようとする姿勢も浮かび上がる。

日本の戦後を代表する芸術家のひとりである岡本太郎は、実はこのバタイユの友人であった。戦前、フランスに留学していた岡本はバタイユとその友人たちのグループと交際し、バタイユが率いる研究会「社会学研究会」や秘密結社「アセファル」のメンバーであった。第二次世界大戦がはじまりパリが陥落すると、岡本は帰国し、以後日本で活躍する。芸術家として彼は絵画からオブジェまで創作しているが、そこで彼が一貫して追求しているのが芸術の爆発性である。(後年、彼は「芸術は爆発である」という有名な言葉を残している。)だから、彼の作品には頻繁に太陽が登場する。原爆という「黒い太陽」という主題や、70年代万博のシンボルともいえるべき「太陽の塔」は、この爆発の表現といえるであろう。また、パリ時代の岡本はモースやバタイユの人類学研究にも親しんでいたもので、日本の民俗学研究や土俗信仰にも関心をもつ。さらには、先史研究である縄文文化や縄文美術の重要性についての研究もしている。

こういった岡本の活動についての、バタイユの影響を考えてみることは重要であろうし、また両者の比較も意義のある事であろう。

授業では実際にバタイユや岡本のテキストに接しながら、いろいろと考えてもらいたい。できれば、質問と討論の時間も設けたい。それによってバタイユの思想の特異性を理解することを目標とする。

授業内容

- 第1回：『ドキュマン』(1)異文化
- 第2回：『ドキュマン』(2)不潔なもの
- 第3回：『ドキュマン』(3)太陽
- 第4回：アセファル
- 第5回：社会学研究会
- 第6回：内的経験
- 第7回：『呪われた部分』
- 第8回：原爆
- 第9回：太陽の塔
- 第10回：メキシコ文化
- 第11回：日本の美
- 第12回：沖縄
- 第13回：東北
- 第14回：縄文と狩猟文化

履修上の注意

語学能力は必要とはされない。授業では邦訳を使う。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については、文献などで調べておくこと。

教科書

『バタイユ著作集』、二見書房。『岡本太郎の宇宙』、ちくま学芸文庫。プリントを配布する。

参考書

岩野卓司『ジョルジュ・バタイユ』水声社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的参加と課題への取り組み。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 釜崎 太		

授業の概要・到達目標

映像テクノロジーが私たちの感覚(身体)的経験を規定している現代社会において、大衆文化としてのスポーツはいかなる社会的機能を有しているのか。甲子園野球のメディア構造と物語構造の分析、プロスポーツのプロモーション戦略の検討、オリンピックの儀礼と記録映画の映像分析などを通じて、大衆の自生的意味生成と産業的・政治的な社会編成との重層性に迫りたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション―授業内容の打ち合わせ―
第2回：文化産業としてのスポーツ1―スポーツ・ビジネスの隆盛―
第3回：文化産業としてのスポーツ2―アドルノ『プリズメン』『啓蒙の弁証法』の概要―
第4回：文化産業としてのスポーツ3―アドルノ『プリズメン』『啓蒙の弁証法』から見るスポーツの課題―
第5回：文化産業としてのスポーツ4―ブンデスリーガの現状に見るスポーツ・ビジネスと公益性・市民性―
第6回：文化産業としてのスポーツ5―ハーバーマス『公共性の構造転換』から見るブンデスリーガ―
第7回：文化産業としてのスポーツ6―ジンメル『社交の社会学』『競争の社会学』から見るブンデスリーガ―
第8回：スポーツのメディア化1―ホークアイ・eスポーツ・仮想現実的空間―
第9回：スポーツのメディア化2―ジンメルの知覚論とベンヤミンの芸術論から見るメディア・スポーツ―
第10回：スポーツのメディア化3―モッセ『大衆の国民化』から見るオリンピック―
第11回：スポーツのメディア化4―メディア・イベントとしての甲子園野球・高校サッカー・箱根駅伝―
第12回：スポーツのメディア化5―甲子園野球に見る『伝統の発明』(ホブズボウム)―
第13回：スポーツのメディア化6―メディア・イベントに見る大衆の自生的意味生成―
第14回：発表と討論
*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

外国語の能力や予習は特に求めませんが、スポーツの背後にある社会問題に関心をもってもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考書にあげている各文献を読んで下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

参考書

- 本講義では、次の著書に触れる予定ですが、特別な知識(語学)や予習は必要ありません。
・ホブズボウム『創られた伝統』
・モッセ『大衆の国民化』
・アドルノ『啓蒙の弁証法』『プリズメン』
・ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』『ボードレールにおけるいくつかのモティーフ』
・ジンメル『感覚の社会学についての補説』『競争の社会学』『社交の社会学』
・ハーバーマス『公共性の構造転換』
・吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』
参加学生の希望などにより、扱う文献は変更になる場合があります。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 釜崎 太		

授業の概要・到達目標

サッカー、野球、競泳など、今日広く知られているスポーツは、産業革命と市民革命を経たイギリス・フランス・アメリカに誕生し、近代の思想性(自由・平等、科学化、産業化、競争主義、人間主義)を純粋な私たちで包摂しながら世界中に伝播してきた。その近代スポーツの「批評」を目指す。

授業内容

- 第1回：イントロダクション―授業内容の打ち合わせ―
第2回：スポーツの誕生―モブフットボールからサッカーへ、エリアス：文明化の過程―
第3回：サッカーとフリーガン―エリアス：暴力と政治―
第4回：サッカーと代理人―エリアス：暴力と資本―
第5回：ドイツ体操の発明―フィヒテ『ドイツ国民に告ぐ』とヤーン『ドイツ国民性』―
第6回：ドイツ国家とフースバル(サッカー)の誕生―主体と国家―
第7回：ドイツスポーツクラブの形成過程―ジンメルの社交性―
第8回：スポーツの美学1―スポーツは芸術か：ワーズ＝ベスト論争―
第9回：スポーツの美学2―樋口聡のスポーツ美学をめぐって―
第10回：スポーツの美学3―美学とスポーツ論の可能性―
第11・12・13・14回：参加学生と協議の上選定した文献を精読し、発表・討論をします。(取り上げたい文献が早い時期に決定した場合、精読の時間を増やす場合があります)
*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

外国語の能力や予習は特に求めませんが、スポーツの背後にある社会問題に関心をもってもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考書にあげている各文献を読んで下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

参考書

- 本講義では、次の著書に触れる予定ですが、特別な知識(語学)や予習は必要ありません。
・エリアス『文明化の過程』
・樋口聡『スポーツの美学』『遊戯する身体』
・ジンメル『社会学の根本問題』
・アイゼンベルク『イギリスのスポーツとドイツの市民』(釜崎が翻訳したものを使用します)
参加学生の希望などにより、扱う文献は変更になる場合があります。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 釜崎 太		

授業の概要・到達目標

より高く、より速く、より強く—近代スポーツの価値規範は、今日、その臨界点に接していると言われる。環境破壊、生命倫理、国家主義、そしてヒューマニズムの限界。「生(動)」の果てしない活性化を追求する近代スポーツの原理的問題を検討し、「死(静)」の世界へと接近する身体文化の古層を掘り起こしながら、現代社会についての思索を深めたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション—授業内容の打ち合わせ—
 第2回：ムスリム女子サッカーの挑戦—筋肉の福音—
 第3回：ユーゴスラビアとスペインの民族紛争とサッカー—民族と文化帝国主義—
 第4回：ベン・ジョンソンの生涯—「生きる力bio-power」と生命倫理—
 第5回：大相撲の諸問題—地域共同体と文化帝国主義—
 第6回：Jポップ批評—過剰と零度?—
 第7回：体育とは何か—何が資本主義を成立させたか、あるいは「学校」と「監獄」—
 第8回：ピナバウシュの批評性—身体の零度へ—
 第9回：思想としての広島オリンピック—グローカリズムの哲学—
 第10回：死に接近するスポーツの諸相—「死ねない世界」と身体文化—
 第11・12・13・14回：参加学生と協議の上選定した文献を精読し、発表・討論をします。(取り上げたい文献が早い時期に決定した場合、精読の時間を増やす場合があります。)
 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

外国語の能力や予習は特に求めませんが、スポーツの背後にある社会問題に関心をもってもらいたいと思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書にあげている各文献を読んで下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

参考書

- 本講義では、次の著書に触れる予定ですが、特別な知識(語学)や予習は必要ありません。
 ・フーコー『知への意志』『快楽の活用』『自己への配慮』『監獄の誕生』
 ・サイード『文化と帝国主義』『オリエンタリズム』
 ・三浦雅士『身体の零度』
 ・稲垣正浩『後近代のスポーツ』
 ・多木浩二『スポーツを考える』
 参加学生の希望などにより、扱う文献は変更になる場合があります。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 釜崎 太		

授業の概要・到達目標

身体教育とは何か?例えば、専門家の仕事が人工知能に取ってかわられようとしている現在、人間独自の専門的能力は身体知の次元にある技芸(art)に求められる。つまり、医者であれ法律家であれ、専門家の養成には身体教育が不可欠なのである。身体教育の問い直しによって「ものの見方」の転回を目指す。

授業内容

- 第1回：イントロダクション—授業内容の打ち合わせ—
 第2回：身体教育とは何か—カントの「感性」と「悟性」の図式論をめぐって—
 第3回：身体所作と認識の文化性—モースの身体技法—
 第4回：学校と文化資本—ブルデューの文化資本とハビトゥス—
 第5回：学校とプログラム化—フーコーの「身体」の規律訓練—
 第6回：学びの快楽
 第7回：美的体験の交流—シュスターマンの身体感性論—
 第8回：「わざ」から知る—ボラニーの身体知—
 第9回：「わざ」の意義—ドレイファスの人工知能批判—
 第10回：「わざ」としての教育—ショーンの反省的实践—
 第11・12・13・14回：参加学生と協議の上選定した文献を精読し、発表・討論をします。(取り上げたい文献が早い時期に決定した場合、精読の時間を増やす場合があります。)
 * 講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

外国語の能力や予習は特に求めませんが、身体をめぐる問題に関心をもってもらいたいと思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書にあげている各文献を読んで下さい。

教科書

樋口聡(2017)教育における身体知研究序説。創文企画。

参考書

- 本講義では、次の著書に触れる予定ですが、特別な知識(語学)や予習は必要ありません。
 ・フーコー『監獄の誕生』
 ・ブルデュー『ディスタンス・オブ・ビュー』
 ・モース『社会学と人類学』
 ・シュスターマン『身体と意識』(釜崎の翻訳を使用)『プラグマティズムと哲学の実践』
 ・ボラニー『暗黙知の次元』
 ・ドレイファス『コンピュータには何ができないか』
 ・ショーン『省察的实践とは何か』
 ・生田久美子『「わざ」から知る』『わざ言語』
 参加学生の希望などにより、扱う文献は変更になる場合があります。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想領域研究演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授 博士(教育学) 澤井 和彦		

授業の概要・到達目標

本演習では、スポーツ産業の中核を担う「スポーツ中核企業・団体」の経営を中心に、スポーツと社会に関するあらゆる問題について、経済学・経営学・社会学の諸理論を用い、調査によるエビデンスを収集して分析・議論を行います。スポーツ科学はスポーツを対象とした学問であり、さまざまな理論やフレームワークを用いて研究対象と問題に取り組みます。本授業では、研究に用いる理論やフレームワークの検討やそうした理論の改変と適用、エビデンスの考え方などについて、さまざまなスポーツの組織や問題への研究応用例を通じて議論します。授業を通じて研究対象とリサーチクエスチョンを設定し、調査方法を検討するための基礎的な考え方を身に付けることを目標とします。

研究費の獲得や外部組織との連携などで機会があれば、さまざまなフィールドワークやプロジェクトを行いたいと考えています。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 理論「スポーツ」概念の拡張 ―eスポーツとスポーツ共創―
 - 第3回 理論 スポーツの制度論 ―ルールと執行のメカニズム―
 - 第4回 理論 スポーツマーケティング論 ―スポーツのプロダクトとマーケット―
 - 第5回 理論 スポーツ産業論 ―スポーツ産業の定義と分類―
 - 第6回 発表と議論
 - 第7回 議論 プロスポーツ経営の特徴と課題
 - 第8回 議論 スタジアム・アリーナ経営の特徴と課題
 - 第9回 議論 大相撲経営の構造と課題 ―“競技”と“協働”のアンビバレンツ―
 - 第10回 発表と議論
 - 第11回 議論 eスポーツの構造と課題
 - 第12回 発表と議論
 - 第13回 議論 競技団体経営の特徴と課題 ―サッカー協会のトリプルミッションモデル―
 - 第14回 発表と議論
- ※「授業内容」は授業で取り扱うテーマを網羅していますが、参加学生の要望やゲスト講義、調査プロジェクトの如何によって変更される場合があります。
- ※急速ゲストをお呼びしてお話を聞いたりディスカッションする場合があります。
- ※新型コロナウイルスの感染状況によっては一部授業をオンラインで開催する可能性があります。

履修上の注意

- ・論文や書籍、資料を徹底的に読むこと。
- ・講師担当の「思想領域研究特論Ⅵ」(春学期・水曜5限)も受講してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・オンラインで論文や講師オリジナルのテキストを配信しますので事前にそちらを読み込んで授業に臨んでください。あらかじめそれら論文やテキストに対する質問、コメントを用意しておきましょう。
- ・実際にスポーツ観戦やイベントに参加するなどして理論と経験を融合させる、あるいは学会やセミナー、シンポジウムなどにも積極的に参加して研究者や実務家と議論し、ネットワークを広げて研究を深化させましょう。

教科書

- ・Oh-ol Meiji (Google Document)で配布します。

参考書

- ・適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想領域研究演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授 博士(教育学) 澤井 和彦		

授業の概要・到達目標

本演習では、スポーツ産業の中核を担う「スポーツ中核企業・団体」の経営やスポーツと社会に関するあらゆる問題について議論するとともに、研究に用いる理論やフレームワークの検討とリサーチクエスチョンの設定に加え、調査研究のための仮設の設定と調査デザインおよび調査・分析について基礎的な考え方を身に付けることを目的とします。

研究費の獲得や外部組織との連携などで機会があれば、さまざまなフィールドワークやプロジェクトを行いたいと考えています。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 議論 学校スポーツの構造と課題 ―制度と実態の二重構造―
 - 第3回 発表と議論
 - 第4回 議論 大学スポーツの構造と課題
 - 第5回 発表と議論
 - 第6回 議論 企業スポーツの構造と課題
 - 第7回 議論 アスリートのキャリアトランジションの構造と課題 ―「体育会系」神話とは何か―
 - 第8回 発表と議論
 - 第9回 議論 オリンピックの構造と課題 ―オリンピック帝国主義―
 - 第10回 発表と議論
 - 第11回 議論 ドーピングの制度
 - 第12回 議論 スポーツにおける暴力の構造
 - 第13回 議論 「体罰」の制度
 - 第14回 発表と議論
- ※「授業内容」は授業で取り扱うテーマを網羅していますが、参加学生の要望やゲスト講義、調査プロジェクトの如何によって変更される場合があります。
- ※急速ゲストをお呼びしてお話を聞いたりディスカッションする場合があります。
- ※新型コロナウイルスの感染状況によっては一部授業をオンラインで開催する可能性があります。

履修上の注意

- ・論文や書籍、資料を徹底的に読むこと。
- ・講師担当の「思想領域研究特論Ⅵ」(春学期・水曜5限)も受講してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・オンラインで論文や講師オリジナルのテキストを配信しますので事前にそちらを読み込んで授業に臨んでください。あらかじめそれら論文やテキストに対する質問、コメントを用意しておきましょう。
- ・実際にスポーツ観戦やイベントに参加するなどして理論と経験を融合させる、あるいは学会やセミナー、シンポジウムなどにも積極的に参加して研究者や実務家と議論し、ネットワークを広げて研究を深化させましょう。

教科書

- ・Oh-ol Meiji (Google Document)で配布します。

参考書

- ・適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 澤井 和彦		

授業の概要・到達目標

修士論文のリサーチエスチョンと調査デザインを確定することを目標とします。先行研究を読み込み、調査方法や分析のための統計的手法を身に着けます。できればプレ調査まで行い、学外の研究会や学会に参加して発表の機会が得られればなおよいでしょう。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
第2回 調査方法論 質問紙調査の方法
第3回 調査方法論 統計分析の基礎(1)
第4回 調査方法論 統計分析の基礎(2)
第5回 調査方法論 質的調査法 インタビュー調査とグラウンデッドセオリー
第6回 調査方法論 質的調査法 フィールドワーク
第7回 研究ミーティング 発表と議論
第8回 研究ミーティング 発表と議論
第9回 研究ミーティング 発表と議論
第10回 研究ミーティング 発表と議論
第11回 研究ミーティング 発表と議論
第12回 研究ミーティング 発表と議論
第13回 研究ミーティング 発表と議論
第14回 研究ミーティング 発表と議論
※参加学生の要望やゲスト講義、調査プロジェクトの如何によってスケジュールは変更される可能性が高いでしょう。
※急遽ゲストをお呼びしてお話を聞いたりディスカッションする場合があります。
※新型コロナウイルスの感染状況によっては一部授業をオンラインで開催する可能性があります。

履修上の注意

・論文や書籍、資料を徹底的に読むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・先行研究の検索と熟読
- ・研究ミーティングの準備

教科書

・Oh-o! Meiji (Google Document) で配布します。

参考書

・適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

・授業やSNSでフィードバックします。

成績評価の方法

・授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 澤井 和彦		

授業の概要・到達目標

学生それぞれのリサーチエスチョンと調査デザインに基づいて調査研究を進め、修士論文を完成させることを目標とします。引き続き先行研究を読み込み、調査を行い、調査データを分析し、論文を作成します。さらにプレゼンテーションの基本的な技法を身に着け、修士論文の発表会に備えます。できれば学外の研究会や学会に参加して発表の機会が得られればなおよいでしょう。修士論文は必ず学会誌に投稿してください。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
第2回 研究ミーティング 発表と議論
第3回 研究ミーティング 発表と議論
第4回 研究ミーティング 発表と議論
第5回 研究ミーティング 発表と議論
第6回 研究ミーティング 発表と議論
第7回 研究ミーティング 発表と議論
第8回 研究ミーティング 発表と議論
第9回 研究ミーティング 発表と議論
第10回 研究ミーティング 発表と議論
第11回 研究ミーティング 発表と議論
第12回 研究ミーティング 発表と議論
第13回 研究ミーティング 発表と議論
第14回 研究ミーティング 発表と議論
※参加学生の要望やゲスト講義、調査プロジェクトの如何によってスケジュールは変更される可能性が高いでしょう。
※急遽ゲストをお呼びしてお話を聞いたりディスカッションする場合があります。
※新型コロナウイルスの感染状況によっては一部授業をオンラインで開催する可能性があります。

履修上の注意

・論文や書籍、資料を徹底的に読むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・先行研究の検索と熟読
- ・研究ミーティングの準備

教科書

・Oh-o! Meiji (Google Document) で配布します。

参考書

・適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

・授業やSNSでフィードバックします。

成績評価の方法

・授業中の発表(30%)と討論(20%)、修士論文(50%)

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 西川 和孝		

授業の概要・到達目標

(授業概要)
中国の近現代史を読み解く上で、中国社会の特性をしっかりと理解する必要があります。ある一つの事象に関しても日本人と中国人の間には思考方法の点で大きな隔たりが存在します。こうした中国独特の考え方や習慣を理解するべく、本授業では、1930年代末において書かれた中国の農村社会に関する史料の講読を通して、中国語の読解力を養いつつ、中国社会に関する理解度を深めていきます。そして、史料に記されている内容に関して討論を行うことで中国社会独特の思考方法や習慣を理解し、中国的思考方法で近現代中国社会を読み解いていくことを目指します。

(到達目標)
中国語で書かれた原文のテキストを読み解き、文意を正確に把握することが出来る。さらに講読した内容について時代的背景を踏まえ、正確な訳文を作成することができる。その上で、テキストの内容について、中国社会特有の思考方法を身に付け、説明することができる。授業ではすぐに調べられるように必ず中国語の辞書を携帯してくること。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 テキスト講読(1)
第3回 テキスト講読(2)
第4回 テキスト講読(3)
第5回 テキスト講読(4)
第6回 テキスト講読(5)
第7回 テキスト講読(6)
第8回 テキスト講読(7)
第9回 テキスト講読(8)
第10回 テキスト講読(9)
第11回 テキスト講読(10)
第12回 テキスト講読(11)
第13回 テキスト講読(12)
第14回 総括

履修上の注意

担当者は、自分の担当箇所の予習は必ず授業前に済ませておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

本授業は、文献の読解力を身に付けることを趣旨としていますので、受講者はあらかじめ翌週の読解範囲を読んで、必ず自分の訳文を作成しておいてください。

教科書

読解用のテキストに関しては授業で配布します。
本授業では、以下のテキスト読む予定です。
『雲南三村』 費孝通・張之毅 天津人民出版社

参考書

特にありません。
中国語の辞書(電子辞書も含む)は必ず持参してください。
中国近現代史の文献の読解には、愛知大学中日大辞典編纂所『中日大辞典』をお薦めします。

課題に対するフィードバックの方法

予習を前提とした史料講読の授業であるため、誤解のある箇所や間違った箇所について授業中に適宜指導を行います。

成績評価の方法

・発表50点(辞書を用い、十分に準備がなされているかを評価します)。
・レポート50点。

その他

歴史を学ぶ上において史料の読解力を身につけることは必須条件となります。担当箇所の有無にかかわらず毎週予習をした上で授業に臨んでください。

指導テーマ

中国西南地域の歴史

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 西川 和孝		

授業の概要・到達目標

(授業概要)
中国社会は、日本とは全く異なる原理に基づいて動いており、日本社会の常識では理解することが出来ません。この授業では、民国期に行われた農村調査報告の講読を通して、近現代史に欠かせない中国語の読解力を身につけつつ、そこに書かれた内容について発表・討論を行うことで現代にまで続く中国社会の特性を学習し、私たちの社会との差異を認識することを目指します。

(到達目標)
中国語のテキストに関して辞書を用いながら内容を正確に読み解くことができる。さらに講読した内容に関して訳文を作成でき、行間の意味を把握し発表する。その上で、中国社会の特性について自分たちが暮らす日本社会との違いをくみ取りつつ自らの視点で述べるができる。授業ではその場で意味を調べられるように必ず中国語の辞書を携帯してくること。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 テキスト講読(1)
第3回 テキスト講読(2)
第4回 テキスト講読(3)
第5回 テキスト講読(4)
第6回 テキスト講読(5)
第7回 テキスト講読(6)
第8回 テキスト講読(7)
第9回 テキスト講読(8)
第10回 テキスト講読(9)
第11回 テキスト講読(10)
第12回 テキスト講読(11)
第13回 テキスト講読(12)
第14回 総括

履修上の注意

担当者は、自分の担当箇所の予習は必ず授業前に済ませておいてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

本授業は、文献の読解力を身に付けることを趣旨としていますので、受講者はあらかじめ翌週の読解範囲を読んで、必ず自分の訳文を作成しておいてください。

教科書

読解用のテキストに関しては授業で配布します。
本授業では、以下のテキスト読む予定です。
テキストは民国期の農村調査報告に関する『中国社会の階層と流動——一個社区中士紳身份的研究』を使用する予定です。

参考書

特にありません。
中国語の辞書(電子辞書も含む)は必ず持参してください。
中国近現代史の文献の読解には、愛知大学中日大辞典編纂所『中日大辞典』をお薦めします。

課題に対するフィードバックの方法

予習を前提とした史料講読の授業であるため、誤解のある箇所や間違った箇所について授業中に適宜指導を行います。

成績評価の方法

・発表50点(辞書を用い、十分に準備がなされているかを評価します)。
・レポート50点。

その他

歴史を学ぶ上において史料の読解力を身につけることは必須条件となります。担当箇所の有無にかかわらず毎週予習をした上で授業に臨んでください。

指導テーマ

中国西南地域の歴史

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 西川 和孝		

授業の概要・到達目標

(授業概要)
中国の近現代史を読み解く上で、中国社会の特性をしっかりと理解する必要があります。ある一つの事象に関しても日本人と中国人の間には思考方法の点で大きな隔たりが存在します。こうした中国独特の考え方や習慣を理解するべく、本授業では、1930年代末において書かれた中国の農村社会に関する史料の講読を通して、中国語の読解力を養いつつ、中国社会に関する理解度を深めていきます。そして、史料に記されている内容に関して討論を行うことで中国社会独特の思考方法や習慣を理解し、中国的思考方法で近現代中国社会を読み解いていくことを目指します。史料講読に加え、受講者に対しては修士論文作成に向けての研究発表を適宜実施し、参加者とともに議論を重ねつつ、内容を詰めていく。

(到達目標)
中国語で書かれた原文のテキストを読み解き、文意を正確に把握することが出来る。さらに講読した内容について時代的背景を踏まえ、正確な訳文を作成することができる。その上で、テキストの内容について、中国社会特有の思考方法を身に付け、説明することができる。授業ではすぐに調べられるように必ず中国語の辞書を携帯してくること。
また、修士論文の作成に向けての下準備として、以下の2点については目途をつけておくこと。
①先行研究を収集およびまとめ
②関連史料の収集と分析

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テキスト講読(1)
- 第3回 テキスト講読(2)
- 第4回 テキスト講読(3)
- 第5回 テキスト講読(4)
- 第6回 テキスト講読(5)
- 第7回 修士論文報告
- 第8回 テキスト講読(6)
- 第9回 テキスト講読(7)
- 第10回 テキスト講読(8)
- 第11回 テキスト講読(9)
- 第12回 テキスト講読(10)
- 第13回 テキスト講読(11)
- 第14回 総括

履修上の注意

担当者は、自分の担当箇所の予習は必ず授業前に済ませておくこと。
また、修士論文報告は必ず出席してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

本授業は、文献の読解力を身に付けることを趣旨としていますので、受講者はあらかじめ翌週の読読範囲を読んで、必ず自分の訳文を作成しておいてください。

教科書

読解用のテキストに関しては授業で配布します。
本授業では、以下のテキスト読む予定です。
『雲南三村』 費孝通・張之毅 天津人民出版社

参考書

特にありません。
中国語の辞書(電子辞書も含む)は必ず持参してください。
中国近現代史の文献の読解には、愛知大学中日大辞典編纂所『中日大辞典』をお薦めします。

課題に対するフィードバックの方法

予習を前提とした史料講読の授業であるため、誤解のある箇所や間違っ箇所について授業中に適宜指導を行います。

成績評価の方法

- ・発表50点(辞書を用い、十分に準備がなされているかを評価します)。
- ・レポート50点。

その他

歴史を学ぶ上において史料の読解力を身につけることは必須条件となります。担当箇所の有無にかかわらず毎週予習をした上で授業に臨んでください。

指導テーマ

中国西南地域の歴史

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(史学) 西川 和孝		

授業の概要・到達目標

(授業概要)
中国語は、日本とは全く異なる原理に基づいて動いており、日本社会の常識では理解することが出来ません。この授業では、民国期に行われた農村調査報告の講読を通して、近現代史に欠かせない中国語の読解力を身につけつつ、そこに書かれた内容について発表・討論を行うことで現代にまで続く中国社会の特性を学習し、私たちの社会との差異を認識することを目指します。史料講読に加え、修士論文完成に向けて、経過報告と議論、さらに訂正を加えた上での再報告を繰り返し実施する。そして、一連の作業を通して、史料に対する理解度の向上や論理的整合性を高めることに努める。

(到達目標)
中国語のテキストに関して辞書を用いながら内容を正確に読み解くことができる。さらに講読した内容に関して訳文を作成でき、行間の意味を把握し発表する。その上で、中国社会の特性について自分たちが暮らす日本社会との違いをくみ取りつつ自らの視点で述べるができる。授業ではその場で意味を調べられるように必ず中国語の辞書を携帯してくること。
修士論文に関しては、先行研究にはない独自の視点に立ち、史料に基づいた論理の一貫性のある文章の作成を目指す。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テキスト講読
- 第3回 修士論文経過報告と議論
- 第4回 再報告とテキスト講読
- 第5回 テキスト講読
- 第6回 テキスト講読
- 第7回 修士論文経過報告と議論
- 第8回 再報告とテキスト講読
- 第9回 テキスト講読
- 第10回 テキスト講読
- 第11回 修士論文経過報告(3)
- 第12回 再報告とテキスト講読
- 第13回 テキスト講読
- 第14回 総括

履修上の注意

担当者は、自分の担当箇所の予習は必ず授業前に済ませておいてください。
また、修士論文経過報告は必ず出席してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

本授業は、文献の読解力を身に付けることを趣旨としていますので、受講者はあらかじめ翌週の読読範囲を読んで、必ず自分の訳文を作成しておいてください。
修士論文の作成には、長期にわたる積み重ねが求められますので、報告の際は、その都度十分な準備をして臨んでください。

教科書

読解用のテキストに関しては授業で配布します。
本授業では、以下のテキスト読む予定です。
テキストは民国期の農村調査報告に関する『中国社会の階層と流動—一個社区中土紳身份的研究』を使用する予定です。

参考書

特にありません。
中国語の辞書(電子辞書も含む)は必ず持参してください。
中国近現代史の文献の読解には、愛知大学中日大辞典編纂所『中日大辞典』をお薦めします。

課題に対するフィードバックの方法

予習を前提とした史料講読の授業であるため、誤解のある箇所や間違っ箇所について授業中に適宜指導を行います。

成績評価の方法

- ・発表50点(辞書を用い、十分に準備がなされているかを評価します)。
- ・レポート50点。

その他

歴史を学ぶ上において史料の読解力を身につけることは必須条件となります。担当箇所の有無にかかわらず毎週予習をした上で授業に臨んでください。

指導テーマ

中国西南地域の歴史

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

〈脱領域の思考Ⅰ〉

既存の学問領域や思考の枠組にとらわれない柔軟な知性の育成を目指します。

本演習では文学における聴覚を問題にします。「特論」では、〈テオリアの解体学〉と題して視覚を中心に扱いますが、ここでは、それと対になる形で、聴覚を問題にします。つまり、音を頼りに、その音源はいったいどのような性質のものであり、どこから生まれてくるのか、それを文学作品を通して考えてみたいと思います。取り上げる作品は、サミュエル・ベケットのテレビ・ドラマ『幽霊トリオ』です。時には草稿も参照しつつ、ベケットが視覚を中心的な拠り所とするのではなく、おもに聴覚を頼りに対象の性格を同定しようとしているのではないか、という仮説を検証します。そのことを通して、視覚を特権的な感覚としてきた西洋哲学に対する反省として、ベケット作品が存在している可能性を検討します。

日本語訳を基本としますが、ときには原文も参照します。特定の領域やパラダイムに回収されることのない思考を育てるには外国語はさきめて重要です。思考をリゾーム状に伸展させるための基本となる道具であると考えられます。

さまざまなテキストの読解を通して、既存の学問領域や従来の思考の枠組にとらわれない思想を涵養し、自身の研究に役立ててほしいと思います。

授業内容

- 第1回：はじめに(導入部) —この演習の目的と方法について
- 第2回：ベケットにおける感覚の問題—視覚と聴覚を中心に
- 第3回：ベケットとデカルト—二人の視覚把握の比較
- 第4回：ベケット『幽霊トリオ』における視覚
- 第5回：ベケットとショーペンハウアー—二人の音楽観の比較
- 第6回：ベケット『幽霊トリオ』におけるベートーヴェン
- 第7回：ベケット『幽霊トリオ』における視覚と聴覚の関係
- 第8回：発表とディスカッション(Ⅰ)
- 第9回：ベケット『幽霊トリオ』における声
- 第10回：ベケットとユング(Ⅰ) —伝記的事実にもとづく両者の関係
- 第11回：ベケットとユング(Ⅱ) —アニメとアニメス
- 第12回：ベケットとユング(Ⅲ) —無意識への橋懸り
- 第13回：発表とディスカッション(Ⅱ)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習中、1度は口頭発表をおこなってもらいます。

履修状況に応じて「授業内容」に若干の変更が生じることがあることをご承知おき下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容

日本語訳を基本としますが、それだけで本演習の内容を理解するには限界があります。したがって、少なくとも各作品や著作の英訳はある程度理解できるだけの語学力が必要になります。予習や復習の際には、ぜひ日本語訳だけでなく、英訳等を手元におき、それらも参照しながら内容の理解に努めて下さい。

教科書

プリントを配布する予定です。

参考書

授業の中で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の授業を受講することによる平常学習点・発言(30点)と口頭発表(20点)、および学期末に提出してもらうレポート(50点)とで総合的に評価します。60点以上を合格とします。

その他

語学の勉強はきわめて大切です。英語にとらわれず、さまざまな外国語に挑戦してくれることを願っています。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

〈脱領域の思考Ⅱ〉

フランセス・イエイツが1966年に刊行した『記憶術』という書物を読みましょう。大変興味深い内容の本です。彼女はロンドンのワールブルク研究所で研究に従事していたイタリア・ルネサンスの研究者で、主著として『ジョルダノ・ブルーノとヘルメスの伝統』があります。大変学識にあふれた書物ですが、一般読者の読み物としてみた場合、ここで取り上げる『記憶術』の方がはるかに興味深く、刺激も受けます。古代ギリシアとローマにおける記憶術から説き起こし、中世を経てルネサンスにおける記憶術までをおもにカバーしています。

本演習で扱うのはその中でも特に興味深いと思える章、すなわちダンテを中心とした中世における記憶術、きわめて重要で、その影響範囲も広範におよぶラモン・ルルの記憶術(ライブニッツの思想や、コンピュータの発想源ともいえる、現代に通じる思考を展開しています)、最後に『ヴェニス商人』や『リア王』などで有名なシェイクスピアの演劇や劇場を考える上でもとても重要なロバート・フラッドの記憶術を扱った章の3つを取り上げます。

すでに日本語訳が出ていますからそれを活用しますが、原典の英語も読みやすい文章で書かれていますから、できればそちらを基本テキストとして読んでゆきましよう。この書物を読むことにより、西洋思想の底流に流れる神秘主義的傾向をもった思想の重要性に触れる契機に思ってもらえればと思います。また、研究とはいかに真摯でスリリングな知的探求であるかをこの書物は教えてくれるはずです。

授業内容

- 第1回：はじめに(導入部) —この演習の目的と方法について
- 第2回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—中世における記憶術(Ⅰ)
- 第3回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—中世における記憶術(Ⅱ)
- 第4回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—中世における記憶術(Ⅲ)
- 第5回：発表とディスカッション(Ⅰ)
- 第6回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—ラモン・ルルの記憶術(Ⅰ)
- 第7回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—ラモン・ルルの記憶術(Ⅱ)
- 第8回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—ラモン・ルルの記憶術(Ⅲ)
- 第9回：発表とディスカッション(Ⅱ)
- 第10回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—ロバート・フラッドの記憶の劇場(Ⅰ)
- 第11回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—ロバート・フラッドの記憶の劇場(Ⅱ)
- 第12回：フランセス・イエイツ『記憶術』を読む—ロバート・フラッドの記憶の劇場(Ⅲ)
- 第13回：発表とディスカッション(Ⅲ)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

演習中、上記で取り上げた記憶術に関して1度は口頭発表をおこなってもらいます。

なお、履修状況に応じて「授業内容」に若干の変更が生じることがあることをご承知おき下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容

日本語訳をおもに参照しますが、それだけでこの書物の内容を理解しようとするには限界があります。したがって、少なくとも原典の英語版もある程度理解できるだけの語学力が必要になります。予習や復習の際には、ぜひ翻訳だけでなく、原典を手元におき、それらも参照しながら、内容の理解に努めて下さい。

教科書

プリントを用意します。

参考書

授業の中で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の授業を受講することによる平常学習点・発言(30点)と口頭発表(20点)、および学期末に提出してもらうレポート(50点)とで総合的に評価します。60点以上を合格とします。

その他

大学等の研究機関で研究者を目指す人は、複数の外国語の真摯な学習がきわめて重要です。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

〈文学の脱構築Ⅰ〉

優れた修士論文を完成できるよう指導することを最大の眼目とします。英文による修論執筆も歓迎します。将来的には大学教員か研究者となつて、質の高い論文執筆を目指すための演習と位置づけて下さい。まず手始めに、構築された作品を解体的に読み解く練習をします。従来の人文科学一般の再検討を迫るようなイメージの解体過程をベケットとボルヘスの著作を通して考察します。これらの作家はいかにして心像や構造を成立困難なものたらしめたか、具体的に検討します。そのために代数学的脱構築を対象に注ぎ、幾何学性、記号と記憶、記号の算術的性格といった主題を著者たちがどのようにとらえ、提示しようとしたのかを検討してゆきます。

授業内容

第1回：はじめに(導入部) —この演習の目的と方法について
 第2回：サミュエル・ベケット「想像力は死んだ想像せよ」(Ⅰ)
 第3回：サミュエル・ベケット「想像力は死んだ想像せよ」(Ⅱ)
 第4回：サミュエル・ベケット「想像力は死んだ想像せよ」(Ⅲ)
 第5回：サミュエル・ベケット「想像力は死んだ想像せよ」(Ⅳ)
 第6回：発表とディスカッション(1)
 第7回：前半のまとめ
 第8回：ホルヘ・ルイス・ボルヘス「記憶の人、フネス」(Ⅰ)
 第9回：ホルヘ・ルイス・ボルヘス「記憶の人、フネス」(Ⅱ)
 第10回：ホルヘ・ルイス・ボルヘス「記憶の人、フネス」(Ⅲ)
 第11回：ホルヘ・ルイス・ボルヘス「記憶の人、フネス」(Ⅳ)
 第12回：発表とディスカッション(2)
 第13回：ベケットとボルヘス
 第14回：後半のまとめ

履修上の注意

演習中、一度はどちらかの作家を取り上げ、その作品に描かれた思想を中心に発表をおこなってもらいます。翻訳を基本テキストとしますが、英語・フランス語・スペイン語に対する多少の語学力があればいっそう興味は増すはずで、取り上げるテキストはみな短いものです。ときどき原文を参照し、翻訳によって逆に理解が妨げられることがあることを実感してもらえればと考えています。

準備学習（予習・復習等）の内容

日本語訳を基本としますが、それだけでこれらの作品の内容を理解しようとするには限界があります。したがって、少なくとも英訳はある程度理解できるだけの語学力が必要になります。予習や復習の際には、ぜひ日本語訳だけではなく、英訳等を手元におき、それらを参照しながら、内容の理解に努めて下さい。

教科書

プリントを用意します。

参考書

授業の中で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の授業を受講することによる学習点・発言(20点)と発表(20点)、および学期末に提出してもらうレポート(60点)とで総合的に評価します。60点以上を合格とします。

その他

修論作成を最大の眼目としますので、場合によって内容等に変更が生じることがあることをご承知おき下さい。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

〈文学の脱構築Ⅱ〉

演習Ⅲでおこなった読みの実践を活かしつつ、文学における結合術的思考に着目します。作家たちはどのように解体のうちに創造を目指したのか、それを検討します。この結合は再創造でもあり、それを可能とするにいたった思想とはどのようなものなのか、またその発想源にはどのような哲学がかくされているのかを探索します。考察対象となる作家はベケットとボルヘスです。一見すると抽象的で否定的ともみえる彼らの世界はなにを描き、それを受け手である読者はどう解釈すればよいのか、それを記憶術、普遍言語、心理学といった角度から考察します。ボルヘスに関してはライブニッツの思想と、ベケットに関してはユングの思想との関連を考察します。

授業内容

第1回：はじめに(導入部) —この演習の目的と方法について
 第2回：ホルヘ・ルイス・ボルヘス「記憶の人、フネス」(Ⅰ)
 第3回：ホルヘ・ルイス・ボルヘス「記憶の人、フネス」(Ⅱ)
 第4回：ライブニッツ「結合法論」(Ⅰ)
 第5回：ライブニッツ「結合法論」(Ⅱ)
 第6回：ボルヘスとライブニッツ
 第7回：ディスカッション(1)
 第8回：修論に関する中間報告
 第9回：サミュエル・ベケット「人べらし役」(Ⅰ)
 第10回：サミュエル・ベケット「人べらし役」(Ⅱ)
 第11回：ユング「分析心理学」(Ⅰ)
 第12回：ユング「分析心理学」(Ⅱ)
 第13回：ベケットとユング
 第14回：ディスカッション(2)

履修上の注意

第6回および第13回は担当者である井上が小論文を用意し、それを一緒に読むことにより、論文はどのように執筆し、どのような体裁で書くのか、具体例を示します。履修生のみさんには、それに対する批評ならびディスカッションに参加してもらいます。

準備学習（予習・復習等）の内容

日本語訳を基本としますが、それだけでここで取り上げる著作の内容を理解しようとするには限界があります。したがって、少なくとも英訳はある程度理解できるだけの語学力が必要になります。予習や復習の際には、ぜひ日本語訳だけではなく、英訳等を手元におき、それらも参照しながら、内容の理解に努めて下さい。

教科書

プリントを用意します。

参考書

授業の中で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の授業を受講することによる学習点および中間報告(30点)と、ディスカッションでの発言(20点)、および学期末に提出してもらうレポート(50点)とで総合的に評価します。60点以上を合格とします。

その他

修論作成を最大の眼目としますので、内容等に変更の生じることがあることをご承知おき下さい。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

中国とは、いかなる存在なのか。その存在は、日本にとってどのような意味をもつのか。これらの問題は、現在のわれわれにとって避けられない課題であるだけでなく、明治時代以降の日本人にとっても、自らのアイデンティティの確立に関わって、問われるべき問題であり続けてきた。本演習では、十九世紀半ばから現在にまで至る、約一世紀半の間の、中国の変化と、日中関係の変化について、その歴史的意義を現在の視点から再検証していく。あわせて、東アジアの近代史の展開の中で、中国の現状をどのように考えるべきかという点についても検討する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：「中国の衝撃」とは何か
 - 第3回：中国と「自由」「民主」
 - 第4回：歴史認識と日中関係(1) ―感情と記憶
 - 第5回：歴史認識と日中関係(2) ―歴史認識問題の歴史化
 - 第6回：歴史の中の中国革命
 - 第7回：中国近代の源流
 - 第8回：辛亥革命の歴史的個性(1) ―分権と集権
 - 第9回：辛亥革命の歴史的個性(2) ―地方自治
 - 第10回：日本の近代と中国の近代
 - 第11回：礼教と革命中国
 - 第12回：複数の五・四運動
 - 第13回：中国近現代史をどのように書くか(1) ―歴史叙述の意図と客観性
 - 第14回：中国近現代史をどのように書くか(2) ―アヘン戦争をどう位置づけるか
- 授業は、溝口雄三『中国の衝撃』に即して進めていく。

履修上の注意

授業に際しては、積極的に議論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でとりあげる内容については事前に指示する。教科書および関連資料を熟読して授業にのぞむこと。

教科書

溝口雄三『中国の衝撃』（東京大学出版会、2004年）

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢（50％）と、複数回の提出を求めるレポート（50％）により総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

1875年(明治8年)に刊行された、福沢諭吉の『文明論之概略』は、独立した国民国家としての日本をどのように形成していくべきかを論じた、時代を画する著作として知られる。この『文明論之概略』を、丸山真男『文明論之概略を読む』を参照しながら精読することを通じて、日本における近代化の特質を考察していく。その際には、同時代の中国や朝鮮の近代化をめぐる思想動向も随時参照することにより、日本の近代化を東アジアの文脈の中で再検討することも目指していく。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：議論の前提
- 第3回：西洋文明の進歩とは何か
- 第4回：国体・政統・血統
- 第5回：文明と政治体制
- 第6回：歴史を動かすもの
- 第7回：衆論と衆議
- 第8回：知的活動と道徳
- 第9回：畏怖からの自由と規則
- 第10回：西洋文明の淵源
- 第11回：西洋文明と近代
- 第12回：日本には政府ありて国民なし
- 第13回：日本の歴史における権力の偏重
- 第14回：自国の独立を論ず

履修上の注意

授業に際しては、積極的に議論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でとりあげる内容については事前に指示する。教科書および関連資料を熟読して授業にのぞむこと。

教科書

福沢諭吉『文明論之概略』（岩波文庫）

参考書

丸山真男『文明論之概略を読む』上中下（岩波新書）

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢（50％）と、複数回の提出を求めるレポート（50％）により総合的に判断する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

伊藤仁斎の登場は、日本の儒学が、その個性を最初に明確に表現したという意味で画期的であった。彼の明確な朱子学批判の立場は、独自の『論語』『孟子』読解へと展開していく。その読解作業から生みだされたのが、『論語』『孟子』中に用いられる思想用語の定義集である『語孟字義』である。本演習では、『語孟字義』を精読することを通じて、儒学の日本化の問題について考察していきたい。その際には、随時、同じ用語の朱子学的用法の特徴についても、中国思想史の文脈において検証していく。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：「天道」
第3回：「天命」
第4回：「道」
第5回：「理」
第6回：「徳」
第7回：「仁義礼智」
第8回：「心」
第9回：「性」
第10回：「情」
第11回：「良知良能」
第12回：「忠恕」
第13回：「誠」
第14回：「鬼神」

履修上の注意

授業に際しては、積極的に議論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でとりあげる内容については事前に指示する。教科書および関連資料を熟読して授業にのぞむこと。

教科書

『伊藤仁斎 伊藤東涯』（「日本思想体系」33、岩波書店）
必要に応じて、コピーを配布する。

参考書

『朱子学の基本用語 北溪字義訳解』（佐藤仁訳、研文出版）
必要に応じて、コピーを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢（50％）と、複数回の提出を求めるレポート（50％）により総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

荻生徂徠は、儒学の枠内にとどまらない、その同時代的な思想的影響力の大きさと知られる。その一方で、儒学としてみた場合、彼の言説はきわめて特異であり、中国儒学の文脈からすれば、異端的ですらあった。本演習では、彼の著した儒学用語の定義集である『弁名』の読解を通じて、その特徴を追体験してみたい。彼が論敵として設定するのは、朱子学派に加えて、伊藤仁斎である。徂徠の論争的な姿勢が作りだす、徂徠—仁斎—朱子学の三角関係を読み解くことによって、日本儒学の特質についても考察を進めていく。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：「道」
第3回：「徳」
第4回：「仁」
第5回：「智」
第6回：「聖」
第7回：「礼」
第8回：「義」
第9回：「忠・信」「恕」
第10回：「誠」
第11回：「天・命・帝・鬼・神」
第12回：「性・情・才」
第13回：「心・志・意」
第14回：「理・気・人欲」

履修上の注意

授業に際しては、積極的に議論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でとりあげる内容については事前に指示する。教科書および関連資料を熟読して授業にのぞむこと。

教科書

『荻生徂徠』（「日本思想体系」36、岩波書店）
必要に応じて、コピーを配布する。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢（50％）と、複数回の提出を求めるレポート（50％）により総合的に判断する。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 田中 ひかる		

授業の概要・到達目標

【概要】日本を含めた世界各地で歴史上生成した社会思想とその思想を唱えた人物に関する修士論文を執筆する学生向けの授業である。最初に受講生は、修士論文のテーマ、テーマ設定の動機、これまでそのテーマがどのように研究されてきたのか、ということと、今後の執筆計画について発表する。次に、その内容と方向性、研究上の視点などについて討議する。その後、受講生は、資料や文献の調査方法などについて学びながら、関連文献の講読と発表を行っていく。
【到達目標】2年次に修士論文を作成できるまでの知識と技術を獲得すること。

授業内容

第1回 この授業の概要と目的について。報告レジュメのフォーマットについて。報告のスケジュールについて。
第2回～13回 個別報告・質疑
第14回 全体の整理
※履修者の数や修士論文のテーマ設定の進捗状況に応じて、内容を変更することがある。

履修上の注意

- ・修士論文のテーマ設定については、必ずしも確定している必要はない。
- ・修士論文執筆の準備として、現時点での参考文献目録を作成しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・フォーマットについては、1回目の授業で説明する。
- ・報告のフォーマットに沿って自分の報告を、A4で2—4ページ作成して報告すること。

教科書

<https://opac2018.lib.meiji.ac.jp/webopac/BB00057185> 木下是雄『レポートの組立て方』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、1996年。

参考書

- ・田中ひかる編著『社会運動のグローバル・ヒストリー—共鳴する人と思想』(ミネルヴァ書房、2018年)。
- ・岩野卓司・丸川 哲史編『野生の教養—飼いやられず、学び続ける』(法政大学出版局、2022年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・授業における口頭発表・質疑(100%)

その他

* 連絡先:hikaruta@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 田中 ひかる		

授業の概要・到達目標

【概要】日本を含めた世界各地で歴史上生成した社会思想とその思想を唱えた人物に関する修士論文を執筆する学生向けの授業である。最初に受講生は、修士論文のテーマ、テーマ設定の動機、これまでそのテーマがどのように研究されてきたのか、ということと、今後の執筆計画について発表する。次に、その内容と方向性、研究上の視点などについて討議する。その後、受講生は、資料や文献の調査方法などについて学びながら、関連文献の講読と発表を行っていく。
【到達目標】2年次に修士論文を作成できるまでの知識と技術を獲得することにある。

授業内容

第1回 この授業の概要と目的について。報告レジュメのフォーマットについて。報告のスケジュールについて。
第2回～13回 個別報告・質疑
第14回 全体の整理
※履修者の数や修士論文のテーマ設定の進捗状況に応じて、内容を変更することがある。

履修上の注意

- ・修士論文のテーマ設定については、必ずしも確定している必要はない。
- ・修士論文執筆の準備として、現時点での参考文献目録を作成しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告のフォーマットに沿って自分の報告を、A4で2—4ページ作成して報告すること。
- ・フォーマットについては、1回目の授業で説明する。

教科書

<https://opac2018.lib.meiji.ac.jp/webopac/BB00057185> 木下是雄『レポートの組立て方』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、1996年。

参考書

- ・田中ひかる編著『社会運動のグローバル・ヒストリー—共鳴する人と思想』(ミネルヴァ書房、2018年)。
- ・岩野卓司・丸川 哲史編『野生の教養—飼いやられず、学び続ける』(法政大学出版局、2022年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・授業における口頭発表・質疑(100%)

その他

* 連絡先:hikaruta@meiji.ac.jp

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 田中 ひかる		

授業の概要・到達目標

日本を含めた世界各地で歴史上生成した社会思想とその思想を唱えた人物に関する修士論文を執筆する学生向けの授業である。到達目標は、修士論文を作成できるまでの知識と技術を獲得することにある。

最初に受講生は、修士論文のテーマ、テーマ設定の動機、これまでそのテーマがどのように研究されてきたのか、ということと、今後の執筆計画について発表する。次に、その内容と方向性、研究上の視点などについて討議する。その後、受講生は、資料や文献の調査方法などについて学びながら、関連文献の講読と発表を行っていく。

授業内容

第1回 この授業の概要と目的について。報告レジュメのフォーマットについて。

第2回～13回 個別報告・質疑

第14回 全体の整理

※履修者の数や修士論文のテーマ設定の進捗状況に応じて、内容を変更することがある。

履修上の注意

- ・修士論文のテーマ設定については、必ずしも確定している必要はない。
- ・修士論文執筆の準備として、現時点での参考文献目録を作成しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告のフォーマットに沿って自分の報告を、A4で2—4ページ作成して報告すること。
- ・フォーマットについては、1回目の授業で説明する。

教科書

<https://opac2018.lib.meiji.ac.jp/webopac/BB00057185> 木下是雄『レポートの組立て方』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、1996年。

参考書

- ・田中ひかる編著『社会運動のグローバル・ヒストリー—共鳴する人と思想』(ミネルヴァ書房、2018年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・授業における口頭発表・質疑(100%)

その他

* 連絡先:hikaruta@meiji.ac.jp

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(社会学) 田中 ひかる		

授業の概要・到達目標

日本を含めた世界各地で歴史上生成した社会思想とその思想を唱えた人物に関する修士論文を執筆する学生向けの授業である。到達目標は、修士論文を作成できるまでの知識と技術を獲得することにある。

最初に受講生は、修士論文のテーマ、テーマ設定の動機、これまでそのテーマがどのように研究されてきたのか、ということと、今後の執筆計画について発表する。次に、その内容と方向性、研究上の視点などについて討議する。その後、受講生は、資料や文献の調査方法などについて学びながら、関連文献の講読と発表を行っていく。

授業内容

第1回 この授業の概要と目的について。報告レジュメのフォーマットについて。

第2回～13回 個別報告・質疑

第14回 全体の整理

※履修者の数や修士論文のテーマ設定の進捗状況に応じて、内容を変更することがある。

履修上の注意

- ・修士論文のテーマ設定については、必ずしも確定している必要はない。
- ・修士論文執筆の準備として、現時点での参考文献目録を作成しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・報告のフォーマットに沿って自分の報告を、A4で2—4ページ作成して報告すること。
- ・フォーマットについては、1回目の授業で説明する。

教科書

<https://opac2018.lib.meiji.ac.jp/webopac/BB00057185> 木下是雄『レポートの組立て方』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、1996年。

参考書

- ・田中ひかる編著『社会運動のグローバル・ヒストリー—共鳴する人と思想』(ミネルヴァ書房、2018年)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・授業における口頭発表・質疑(100%)

その他

* 連絡先:hikaruta@meiji.ac.jp

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)		伊藤 剣

授業の概要・到達目標

古代日本の文献載録神話に言及する修士論文執筆予定者を対象にした演習科目である。神話を研究する学生、神話で研究する学生を問わず、文献載録神話に触れる以上、まずは諸写本の調査、本文校定、注釈・研究史の調査整理といった基礎的な技術を身につけねばならない。Ⅰでは『古事記』や『日本書紀』といった中央政府側の視点で書かれた神話を検討の対象に据え、上記基礎力を養っていくとともに、自らの研究課題との関連を踏まえた講読・考察・討論をしてもらう。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：学部卒業論文・修士論文のテーマ確認
第3回：『古事記』神話の特徴
第4回：『日本書紀』神話の特徴
第5回：『古事記』と『日本書紀』の比較(1)：黄泉国の神話
第6回：『古事記』と『日本書紀』の比較(2)：天石屋神話
第7回：『古事記』と『日本書紀』の比較(3)：穀物などの起源の神話
第8回：『古事記』と『日本書紀』の比較(4)：ヤマタノヲロチ退治の神話
第9回：『古事記』と『日本書紀』の比較(5)：大国主神の国作り神話
第10回：『古事記』と『日本書紀』の比較(6)：大国主神のいわゆる国譲り神話
第11回：『古事記』と『日本書紀』の比較(7)：天孫降臨神話
第12回：『古事記』と『日本書紀』の比較(8)：選択型の死の起源神話
第13回：『古事記』と『日本書紀』の比較(9)：海宮訪問の神話
第14回：まとめ
* 学部卒業論文の内容、修士論文のテーマを考慮し、受講生と相談の上で内容を変更する場合もある。

履修上の注意

教員の指定する神話の内容や論文などを学生各自がまとめて報告してもらう。授業では日本の古代神話に関する古文を精読することになるが、現代日本語訳のあるテキストを授業時にも紹介する。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定した文献を精読した上で議論を行うので、事前に『古事記』『日本書紀』に載録されている神話を読み込んでおくこと。また、毎授業の直後にノート等によって復習し、扱ったテーマについて自身の考察を行い、それを次回授業に向けた予習につなげること。

教科書

『古事記』『日本書紀(一)』(ともに岩波文庫)
※初回の授業時に説明する。

参考書

受講生の理解状況や毎回の授業内容に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度50%、課題への取り組み50%を基本とし、総合的に判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)		伊藤 剣

授業の概要・到達目標

神話研究には様々な手法がある(文学・歴史・思想・比較神話など)。担当教員の専攻の関係上、文学研究の観点からの解説の比率が高くなるが、多様な神話研究方法に触れることで受講生各自が研究の指針を定めていく力を養ってもらう。Ⅱでは日本古代の地方で書きとめられた神話(各国風土記)を題材に、中央と地方の関係を考えながら、自身の関心に即した形で古代神話の在り様を分析、討論していく。これらの作業を通し、自身の研究者としての立ち位置を意識してってもらいたい。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：各国風土記の調査・研究方法
第3回：『播磨国風土記』①：播磨国風土記のアメノヒボコ
第4回：『播磨国風土記』②：古事記のアメノヒボコ
第5回：『播磨国風土記』③：日本書紀のアメノヒボコ
第6回：『播磨国風土記』④：大汝命の神話
第7回：『常陸国風土記』①：香島社の起源
第8回：『常陸国風土記』②：蛇をめぐると話
第9回：『常陸国風土記』③：賀毘礼の高峰
第10回：『常陸国風土記』④：筑波
第11回：『肥前国風土記』の神話①：交通妨害の話
第12回：『肥前国風土記』の神話②：石神の話
第13回：『豊後国風土記』：景行天皇の話
第14回：まとめ
* 修士論文のテーマを考慮し、受講生と相談の上で内容を変更する場合もある。

履修上の注意

教員の指定する神話の内容や論文などを学生各自がまとめて報告してもらう。授業では日本の古代神話に関する古文を精読することになるが、現代日本語訳のあるテキストを授業時にも紹介する。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト精読の上で議論を行うので、事前に教員の指定する神話や論文を読み込んでおくこと。また、毎授業の直後にノート等によって復習し、扱ったテーマについて自身の考察を行い、それを次回授業に向けた予習につなげること。

教科書

中村啓信監修・訳注『風土記』上・下(角川ソフィア文庫)
※初回の授業時に説明する。

参考書

受講生の理解状況や毎回の授業内容に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度50%、課題への取り組み50%を基本とし、総合的に判断して評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 伊藤 剣		

授業の概要・到達目標

Ⅲでは、『古事記』・『日本書紀』・各国風土記の神話の受容例（平安時代に記録された祝詞における神話と祭儀の関係、本居宣長をはじめとする近世国学者の神話理解など）を扱う。授業では、上代の文献・神話に対する後世の認識について、関連文献を精読し、自身の研究課題に結びつけた報告・討論をしていく。この作業を通し、自分が神話の何を論じるようとしているのかという問題意識を深め、明確にしていきたい。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：平安期祝詞の特徴
第3回：大庭祭と神話
第4回：大庭と神話
第5回：鎮火祭と神話
第6回：遷却崇神祭
第7回：出雲国造神賀詞と神話
第8回：天皇即位儀と神話
第9回：中世神話の世界
第10回：近世国学者の神話理解(1)：本居宣長と『古事記』『日本書紀』
第11回：近世国学者の神話理解(2)：本居宣長が作った神話
第12回：近世国学者の神話理解(3)：平田篤胤と風土記・祝詞
第13回：近世国学者の神話理解(4)：平田篤胤が作った神話
第14回：まとめ
* 修士論文のテーマを考慮し、受講生と相談の上で内容を変更する場合もある。

履修上の注意

教員の指定する神話の内容や論文などを学生各自がまとめて報告してもらう。なお、本授業は研究を進めていく上で基礎となる概念や方法論を身につけるためのものなので、受講前に祝詞や国学に関する専門知識を備えている必要はない。なお、期末には修士論文で神話を扱う箇所について、一章分の文書の提出を求める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト精読の上で議論を行うので、事前に指定したテキストを読み込んでおくこと。また、毎授業の直後にノート等によって復習し、扱ったテーマについて自身の考察を行い、それを次回授業に向けた予習につなげること。

教科書

教材は教員が用意する。

参考書

受講生の理解状況や毎回の授業内容に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度50%、課題への取り組み50%を基本とし、総合的に判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 伊藤 剣		

授業の概要・到達目標

Ⅳでは、ⅠからⅢで身につけてきたことを踏まえ修士論文の執筆を進めていく。各受講生には進捗状況について資料にもとづいた報告を求め、その時点での問題点や今後に向けた課題などを皆で検討していく。その後、実際に原稿化したものを提出してもらう。この過程を繰り返していく予定である。

授業内容

第1回：研究発表Ⅰ：修士論文構想の確認
第2回：先行研究論文の確認と討論
第3回：修正発表と討論
第4回：研究発表Ⅱ：1章分を使って論じる内容の確認(1)
第5回：先行研究論文の確認と討論
第6回：修正発表と討論
第7回：研究発表Ⅲ：1章分を使って論じる内容の確認(2)
第8回：先行研究論文の確認と討論
第9回：修正発表と討論
第10回：研究発表Ⅳ：1章分を使って論じる内容の確認(3)
第11回：先行研究論文の確認と討論
第12回：修正発表と討論
第13回：研究発表Ⅴ：結論の確認
第14回：修正発表と討論
* 修士論文執筆の進捗状況に合わせて、適宜変更する場合もある。

履修上の注意

修士論文の完成に向け、学生から報告してもらう。修士論文は研究者として歩んでいく際の土台になるものだという認識を持つようにしたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表にあたり、どのように資料を作れば効果的に自分の考えを伝えられるのかを工夫してほしい。この作業は、修士論文の内容を見つめ直すことになる。内容がまとまっていないと分かりやすい資料は作れないものである。また、毎授業の直後にノート等によって復習し、扱ったテーマについて自身の考察を行い、それを次回発表に向けた準備につなげてもらいたい。

教科書

修士論文執筆の進捗状況、受講生の関心などに応じて適宜指定する。

参考書

受講生の理解状況や毎回の授業内容に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度50%、課題への取り組み50%を基本とし、総合的に判断して評価する。

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究特論Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

現代では人と社会の関係が希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速しているし、スマホやSNSというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていきたい。

今年度のテーマは「借り」である。「借りること」は私たちの日常では当たり前の現象である。私たちは図書館で本を借りたり、友達からノートを借りたり、人からお金を借りたりする。そして、その場合必ず「返す」ことが前提になっている。未開社会の贈与交換も貸し借りであるし、商業的な交換も貸し借りの論理を前提にしている。現代の資本主義も、企業が銀行から資金を借りることで成立している。その上、「借り」は精神的な価値を伴う。「貸し手」は「借り手」に対して精神的に優位になるし、返せない場合は「借り手」は罪悪感を覚える。負債と貸し目は密接な関係にあるのだ。授業では、この「借り」を主に贈与や交換との関係から考えていく。講義では次の5つのテーマを検討していく。(1)負債(借金)というかたちで、「借り」がどのように資本主義の原動力となっているか。(2)負債と貸し目というかたちでの「借り」がもつ物質的な価値と精神的な価値が「贈与交換」や道徳にどのような影響を与えているのか。(3)人間は生まれながらにして根源的な「借り」を背負っているのではないのか。「原罪」はどうだろうか。母との関係はどうだろうか。(4)臓器移植のように相手に「お礼」ができないときに背負う「借り」は、どう解消すべきなのか。「返す」ことのできない「借り」はどう考えるべきか。(5)人から受けた恩は返すものではなく、他の人に「送る」べきではないのか。「借り」は贈与の連鎖を生み出すのではないのか。

授業では、これらのテーマを通して、借りと共同体についての理解を深めることを目標にする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション：共同体における借りと贈与
- 第2回：借金(負債)：資本主義の原動力
- 第3回：宮部みゆき『火車』：借金地獄
- 第4回：資本主義とキリスト教
- 第5回：『ヴェニス商人』：資本主義の交換VS贈与(慈悲、友情)
- 第6回：負債と貸し目：マルセル・モースの贈与交換
- 第7回：負債と貸し目：ニーチェ『道徳の系譜』
- 第8回：根源的な借り：原罪、フロイトのトーテム論
- 第9回：根源的な借り：母と子
- 第10回：返せない贈与：臓器移植
- 第11回：贈与の連鎖：「返す」のではなく、「送る」こと
- 第12回：贈与が贈与を呼ぶ：カルマ・キッチン
- 第13回：クルミド・コーヒー店の冒険
- 第14回：まとめ

履修上の注意

受講者には外国語の能力は求めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で教えた内容については、文献などで調べておくこと。

教科書

岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)
同、『贈与をめぐる冒険』(ヘウレーカ)

参考書

クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』(青弓社)
マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)
デヴィッド・グレーバー『負債論』(以文社)
ナタリー・サルトゥー＝ラジュ『借りの哲学』(太田出版)
フリードリヒ・ニーチェ『道徳の系譜』(岩波文庫)
ジークムント・フロイト『著作集』(人文書院)
マルティン・ハイデガー『存在と時間』(岩波文庫)
宮部みゆき『火車』(新潮文庫)
ウィリアム・シェイクスピア『ヴェニス商人』(新潮社)
マウリツィオ・ラッツァラート『借金人間 製造工場』(作品社)
平川克美『株式会社の世界史』(東洋経済新報)
山崎吾郎『臓器移植の人類学』(世界思想社)
三好春樹・芹沢俊介『老人介護とエロス』(雲母書房)
芹沢俊介『現代(子ども)暴力論』(春秋社)
小島康平『サラ金の歴史』(中公新書)
今村仁司『貨幣とは何だろうか』(ちくま新書)
吉本隆明『母型論』(思潮社)
影山知明『ゆっくり、いそげ』(大和書房)
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』(書肆心水)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究特論Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(体育学) 高峰 修		

授業の概要・到達目標

【テーマ：ジェンダー論の基礎】

この授業では初学者を想定しつつ、ジェンダーやセクシュアリティ研究、フェミニズムの基本文献を履修者で輪読して、担当教員が解説を加えます。

ジェンダーやセクシュアリティ、フェミニズムという言葉は最近でこそ日常的に使われるようになりましたが、しかしその理解は表層的なものであったり、場合によっては勘違いであったりします。またジェンダーと関わりをもつ分野は現在では多岐にわたり、またジェンダー自体の解釈や立場も幅広く複雑になってきています。

この授業ではジェンダーやセクシュアリティ研究、フェミニズムの基本的な考え方を紐解き、現代的課題との交差点について着目する基本文献を理解することで、大学院生としての各自の研究課題、さらには一社会人としての生活を相対化する視点を養うことを到達目標とします。

授業内容

- 第1回 ジェンダー研究概論1
- 第2回 ジェンダー研究概論2
- 第3回 輪読1
- 第4回 輪読2
- 第5回 輪読3
- 第6回 輪読4
- 第7回 輪読5
- 第8回 ディスカッション1
- 第9回 輪読6
- 第10回 輪読7
- 第11回 輪読8
- 第12回 輪読9
- 第13回 輪読10
- 第14回 ディスカッション2とまとめ

※数名の受講者を想定したスケジュールですので、履修者数によって変更することがあります。

履修上の注意

すでにフェミニズムやジェンダー論を学んでいることが理想ですが、初学者であっても受講できます。

準備学習（予習・復習等）の内容

輪読の授業では履修者全員が指定箇所を事前に読んでくることが前提となります。

教科書

『論点・ジェンダー史学』山口・弓削・後藤・長・石川編著(ミネルヴァ書房) 2023年
※履修者と相談して変更することがあります。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- 授業への参加度～30%
- 課題の達成度～40%
- 期末レポート～30%

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究特論Ⅲ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任講師 博士(哲学)		澤田 直

授業の概要・到達目標

「自己を省みる、自己について語る」というテーマで、西洋の思想家の自伝的作品を取り上げ、その特質について考察することを通して、自己の問題の意義と射程を理解する。取り上げる予定の思想家は以下のとおり。ソクラテス、マルクス・アウレリウス、アウグスティヌス、モンテーニュ、デカルト、ルソー、ジョン・スチュアート・ミル、ショーペンハウアー、ヴァレリー、サルトル。

思想家のテキストを数多く読み込み、その内容に関して理解するだけでなく、その背景などについてもあわせて調べることで、理解を深めることを目指す。

授業内容

- 第1回 自己とは何か、自己について語るということの意義と射程
- 第2回 ソクラテスの語りについて考える
- 第3回 マルクス・アウレリウス『自省録』を読む
- 第4回 アウグスティヌス『告白』を読む
- 第5回 モンテーニュ『エッセー』を読む(1)
- 第6回 モンテーニュ『エッセー』を読む(2)
- 第7回 これまでの振り返り
- 第8回 デカルト『方法序説』を読む
- 第9回 ルソー『告白録』を読む
- 第10回 ジョン・スチュアート・ミル『ミル自伝』を読む
- 第11回 ショーペンハウアーの語りについて考える
- 第12回 ジャン=ポール・サルトル『言葉』を読む(1)
- 第13回 ジャン=ポール・サルトル『言葉』を読む(2)
- 第14回 試験、講義全体の振り返り

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布する資料を精読した上で、授業に臨むこと。また、毎回、提示する参考資料をそれぞれ読んで復習を行う。

教科書

資料を配付する。

参考書

フィリップ・ルジュンヌ『自伝契約』水声社。その他、各回に参考図書を示す。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出されるレポートを次回にコメントする形でフィードバックを行う。

成績評価の方法

毎回、20分程度の演習を行う。演習では全員がレポートを提出することとし、そのレポートの点数の総計を30%、授業への貢献度10%、期末試験を60%で評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究特論Ⅳ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(教育学)		釜崎 太

授業の概要・到達目標

大衆が政治や経済を動かす大きな原動力となっている現代社会において、その中心的なイデオロギーを包摂しているスポーツ（本講義で取り上げる映画やアニメと同じく）は、政治的にも、経済的にも、そして哲学的にも思索に値する対象になっている。本講義では、スポーツの社会的な機能について、現代思想のいくつかの視点から分析する。

教員の解説の他、参加学生の発表と討論をおこなう予定である（履修人数に応じて変更する）。この取り組みを通じて、スポーツの社会的な機能について自らの意見を論理的に表現できるようになることが到達目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクションー授業内容の打ち合わせー
- 第2回：スポーツとビジネス1ープロ野球とスタジアム・ビジネスー
- 第3回：スポーツとビジネス2ー消費社会のなかのスポーツ：ボードリヤールー
- 第4回：スポーツと公共性1ーブンデスリーガとスポーツフェラインー
- 第5回：スポーツと公共性2ー私的領域と公的領域：ハンナ・アーレントー
- 第6回：スポーツと人工知能1ーバーチャルリアリティの世界へー
- 第7回：スポーツと人工知能2ー身体の規律・訓練化：フーコーの哲学ー
- 第8回：スポーツと人工知能3ー身体感性論と身体知一：シュスターマンとボラニーー
- 第9回：スポーツと「伝統の発明」1ー甲子園野球の考古学ー
- 第10回：スポーツと「伝統の発明」2ー武士道とは何かー
- 第11回：スポーツと「伝統の発明」3ーモッセとホブズボウムー
- 第12回：宮崎駿論とオリンピック1ー環境破壊をめぐるー
- 第13回：宮崎駿論とオリンピック2ー戦争と平和をめぐるー
- 第14回：宮崎駿論とオリンピック3ーもしも宮崎駿がオリンピック映画を作ったらー

*講義内容は必要に応じて変更することがあります（特に受講生の実態に応じて柔軟に対応します）。

履修上の注意

外国語の能力や予習は特に求めませんが、スポーツの背後にある社会問題に関心をもってもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

参考図書にあげている著書を読んでください。

教科書

授業中にプリントを配布します。

参考書

授業では、次の著書に触れる予定ですが、特別な知識や予習は必要ありません。（受講者の希望などにより、扱う文献は変更になる場合があります）

- 第2回～第3回 ボードリヤール『消費社会の神話と構造』、高野陽太郎『「集団主義」という錯覚』、平田竹男『スポーツビジネス最強の教科書』
- 第4回～第5回 ハーバーマス『公共性の構造転換』、アーレント『人間の条件』
- 第6回～第8回 ボラニー『暗黙知の次元』、ドレイファス『コンピュータには何ができないか』、シュスターマン『ポピュラー芸術の美学』
- 第9回～第11回 ホブズボウム『創られた伝統』、モッセ『大衆の国民化』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表(60%)と討論(40%)

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究特論Ⅴ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(史学) 西川 和孝		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

かつては少数民族の世界であった雲南省がどのようにして中華世界に取り込まれていったかを時間軸で読み解いていき、雲南という一地域社会に対する知識を深めつつ、現在に至るまで独自の文化と風習を色濃く残し続けてきた要因を歴史的に理解することを目指す。そのため、最初に現在の雲南の概要および古代から辿ってきた雲南の歴史を概観し、その後様々なトピックを取り上げ、多角的に雲南の歴史の全体像を再現していくこととする。

【到達目標】

現在でも少数民族と漢族が雑居し複雑な社会を形成する雲南省の歴史を取り上げる中で、限られた歴史史料を読み解きつつ、歴史地理な知識も援用し、実際にどのような方法を用いて地域の歴史を復元していくかを学習する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 - 第2回：雲南の概要
 - 第3回：雲南の歴史—7世紀から13世紀まで
 - 第4回：中華王朝の進出一屯田設置と改土帰流
 - 第5回：中華王朝の進出一漢人入植と土地資源開発
 - 第6回：新大陸産作物流入と人の増加と移動
 - 第7回：人口増加と社会変動—中国本土の人口爆発と雲南への移民の流入
 - 第8回：高羅衣の反乱—生態環境の変遷
 - 第9回：雲南の交通：馬から高速鉄道へ
 - 第10回：プーアル茶の栽培
 - 第11回：アヘン栽培と輸出
 - 第12回：漢字リテラシーの普及
 - 第13回：雲南における貨幣使用の実態
 - 第14回：まとめと試験
- * 授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業中は、私語とスマートフォンの使用は一切厳禁とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業資料は、授業実施前にOh-ol Meijiにアップしておくので、以下に挙げた参考書を読みつつ、しっかりと目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。授業資料は、こちらで用意する。Oh-ol Meijiにアップされた授業資料を事前にプリントアウトをして持ってくること。

参考書

西川和孝『雲南中華世界の膨張—プーアル茶と鉱山開発にみる移住戦略』慶友社、2015年

課題に対するフィードバックの方法

授業後のレスポンスペーパーについては、随時の授業の際に指摘を行う。
また、レポートに関しては、提出後に各学生に評価と解説をする。

成績評価の方法

レポート:100%

その他

指導テーマ

中国西南地域の社会経済史

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域研究特論Ⅵ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(教育学) 澤井 和彦		

授業の概要・到達目標

本講義の目的は、社会と経済の側面からみたスポーツの特徴的な構造と問題を経済学や経営学、社会学、スポーツ科学などの諸理論を用いて理解し、それらについて批判的に議論するための基礎を身につけることである。

スポーツ産業は、「スポーツ」という「商品」を扱う産業であり、商品としての「スポーツ」は特殊な性質を持っている。本講義では、その「スポーツ」の特徴とそれを取りまく社会や経済、特に産業の側面から議論する。スポーツ産業にはプロダクトとしての「スポーツ」そのものを提供する「スポーツ活動生産セクター」と、スポーツに関連するプロダクトを扱う「スポーツ活動支援セクター」がある。本講義が扱うのはスポーツ産業の中核的な産業である「スポーツ活動生産セクター」、すなわち、競技団体や学校スポーツ(運動部活動)、企業スポーツ、プロスポーツの興行団、スポーツリーグなどである。また、スポーツ産業においてそのコストの大きな部分を占めるスタジアム・アリーナのビジネスと、スポーツ産業の重要な人材資源であるアスリートのキャリア、オリンピック・パラリンピックのビジネスの特徴と社会的な課題についても議論する。

受講生は、まずGoogle Documentで配布された資料を読み、レポート(質問やコメント)を提出する。講義では、主にそれらに対する講師の回答やコメントと、受講者とのディスカッションを中心に行う。

授業内容

- 第1回 現代における「スポーツ」の課題と新しい「スポーツ」
- 第2回 eスポーツ論
- 第3回 スポーツ産業とはどういう産業か？
- 第4回 スポーツへの関わり ～参加・観戦・サポーター・ボランティア・ビジネス～
- 第5回 競技団体 ～サッカー協会のトリプルミッションモデル～
- 第6回 プロスポーツ(1)プロスポーツの定義と特徴
- 第7回 プロスポーツ(2)Jリーグとプロ野球
- 第8回 スタジアム・アリーナ
- 第9回 学校スポーツの問題 ～運動部活動～
- 第10回 大学スポーツの問題
- 第11回 企業スポーツとアスリートキャリアの問題(1)企業スポーツの衰退とアスナビ
- 第12回 企業スポーツとアスリートキャリアの問題(2)プロ野球選手とJリーガーのキャリア・人的資本理論
- 第13回 オリンピック帝国主義
- 第14回 総括議論

履修上の注意

授業前に配信したテキストを読み、オー明治でテキスト内容に関する質問・批評等のレポートを提出し、授業ではそれに対して講師が回答しつつ議論し、授業内容について理解を深める形式の授業です。授業後にも授業を踏まえた質問や批評をレポートとして提出していただきます。

外国語の能力は求めません。
スポーツに特に関心がなくても、あるいはむしろ嫌いでも楽しめる内容になっています。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・オンラインで論文や講師オリジナルのテキストを配信しますので事前にそちらを読み込んで授業に臨んでください。あらかじめそれら論文やテキストに対する質問、コメントを用意しておきましょう。
- ・実際にスポーツ観戦したりスポーツイベントに参加するなどして学習と経験を融合させ、理解を深めましょう。

教科書

- ・Oh-ol Meiji (Google Document)で配布します。

参考書

- ・適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業前レポートについては授業中に、授業後レポートについては次回の授業中にフィードバックします。

成績評価の方法

- ・授業前、授業後のレポートの提出状況とレポートの内容(60%)
- ・授業での質問など参加姿勢(40%)

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想領域研究特論Ⅶ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 一之瀬 真志		

授業の概要・到達目標

〈概要〉
身体を動かすことは、動物に備わる基本的な能力であり、その能力の差異は、各種の動物がどのように生きるのかを規定しています。運動生理学は、運動と関連する身体の仕組みを探究する学問です。運動時に生体諸機能がどのように反応するのか、運動の継続(トレーニング)によりどのような適応(運動能力向上・健康増進の効果など)が生じるのか、それらの背景にはどのような生理学的メカニズムが存在するのか、などが運動生理学の研究対象となります。本講義では、運動を可能とする生理機能として、循環、呼吸、エネルギー代謝、体温調節、筋肉について解説します。また、運動トレーニングに対する生体諸機能の適応についても論じます。
〈到達目標〉
運動時の生体諸機能の反応および運動トレーニングにより生じる適応について、生理学的背景を踏まえて理解することを目的とします。

授業内容

- 第1回 aのみ:イントロダクション
- 第2回 運動と循環1〔体液と血液、心臓の構造と働き、心機能の調節〕
- 第3回 運動と循環2〔血管の構造と機能、血管系による血流量調節のしくみ〕
- 第4回 運動と呼吸1〔呼吸器系の構造と呼吸のしくみ〕
- 第5回 運動と呼吸2〔呼吸の調節、組織での酸素の取り込み〕
- 第6回 運動とエネルギー代謝1〔食物のエネルギー、基礎代謝、エネルギー供給系〕
- 第7回 運動とエネルギー代謝2〔無酸素性代謝、有酸素性代謝〕
- 第8回 運動と体温調節1〔ヒトの体温調節のしくみ、発汗のしくみと汗の働き〕
- 第9回 運動と体温調節2〔熱中症が起こるしくみと予防〕
- 第10回 運動と筋肉1〔筋の分類、骨格筋の構造と収縮のしくみ〕
- 第11回 運動と筋肉2〔筋線維タイプ、筋力の調節〕
- 第12回 運動トレーニングに対する適応1〔循環・呼吸・代謝・体温調節の適応〕
- 第13回 運動トレーニングに対する適応2〔筋の適応〕
- 第14回 まとめ

履修上の注意

内容については基本的な事項から説明しますが、解剖学や化学などの専門用語も含まれます。
必要に応じて生理機能の測定とデータ分析を行います。

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回イントロダクションにおいて授業予定が示されるので、各授業の前に参考図書や配布資料などを用いて予習してください。授業後には配布資料などの該当箇所を振り返り復習をし、不明な点があれば授業で質問してください。

教科書

教科書は特に定めません。

参考書

運動生理学(池上晴夫、朝倉書店)
運動生理学概論(浅野勝巳、杏林書院)
運動生理学20講(勝田 茂、朝倉書店)
Physiology of Sports and Exercise (Wilmore JH et al, Human Kinetics)
Exercise Physiology (McArdle WD et al, Lippincott Williams & Wilkins)
カラー図解人体の正常構造と機能[全10巻縮刷版] (坂井建雄・河原克雅、日本医事新報社)

課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に小テストやレポート等を課す場合には、課題提出締め切り後にOh-ol Meijiを通じて解説を配信します。

成績評価の方法

平常点(30%)、発表(15%)、討論への参加(25%)、レポート(30%)。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想領域研究特論Ⅷ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼担准教授 博士(スポーツ科学) 宮脇 梨奈		

授業の概要・到達目標

〈授業概要〉
ヘルスコミュニケーションとは、個人およびコミュニティが健康増進に役立つ意思決定を下すために必要な情報を提供し、意思決定を支援するコミュニケーション戦略の研究と活用とされている。本講義では、公衆衛生上の課題解決に対し、効果的にコミュニケーションを行うための基本的な理論・モデルや知識を学んだ上で、実例から研究方法や実践方法について学び、議論する。

- 〈到達目標〉
- ヘルスコミュニケーションのもつ意義や、ヘルスコミュニケーションに関わる理論・モデル、方法論について説明することができる。
 - 授業内でのワークやプレゼンテーションを通して、ヘルスコミュニケーションを活用・実践するための知識と能力を身に着ける。

授業内容

- 第1回：ヘルスコミュニケーションとは
- 第2回：ヘルスコミュニケーションに関わる理論・モデル(1)
- 第3回：ヘルスコミュニケーションに関わる理論・モデル(2)
- 第4回：行動変容を促すヘルスコミュニケーション(1)
～理論・モデルの活用～
- 第5回：行動変容を促すヘルスコミュニケーション(2)
～メッセージの作成～
- 第6回：マスメディアによるヘルスコミュニケーション(1)
～マスメディアの活用と影響～
- 第7回：マスメディアによるヘルスコミュニケーション(2)
～エンターテインメント・エデュケーション～
- 第8回：ヘルスコミュニケーションの研究(1)
～研究デザインと評価方法～
- 第9回：ヘルスコミュニケーションの研究(2)
～質的・量的分析方法～
- 第10回：ヘルスコミュニケーションの実践(1)
～がん予防を事例として～
- 第11回：ヘルスコミュニケーションの実践(2)
～諸外国におけるヘルスコミュニケーションキャンペーン～
- 第12回：デジタル社会におけるヘルスコミュニケーション(1)
～インターネット、ソーシャルメディア等の活用～
- 第13回：デジタル社会におけるヘルスコミュニケーション(2)
～デジタル・ヘルスリテラシー～
- 第14回：公衆衛生上の課題解決とヘルスコミュニケーション

※授業内容・テーマおよび扱う順番は、必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

- 健康情報(適切な情報、偽情報、誤情報含め)に関心を持つこと。
- 公衆衛生上の課題、現在の自分、これからの自分の健康・身体に関心をもつこと。
- 授業で学び、理解した内容を実践(実生活・研究活動等)にいかすよう心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 前回授業、または事前にクラスウェブで配布された資料には目を通し、概要を理解しておくように努めること。
- 授業後は、学習内容を整理し、まとめ、不明な部分があれば次の授業で質問すること。

教科書

特に定めない。Oh-ol Meijiのクラスウェブや授業時に資料を配布する。

参考書

- 『ヘルスコミュニケーション実践ガイド』米国立がん研究所 編集、中山健夫 監修 (日本評論社)
- 『保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門』 石川ひろの 著 (大修館書店)
- 『実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーション』 奥原剛 著 (大修館書店)
- 『行動変容を促すヘルス・コミュニケーション: 根拠に基づく健康情報の伝え方』 C.エイブラハム、M.クルーズ 編 竹中晃二、上地広昭 監訳 (北大路書房)
- 『ヘルスリテラシー :健康教育の新しいキーワード』 福田洋、江口泰正 編著 (大修館書店)

※必要に応じて、授業時に追加で案内する。

課題に対するフィードバックの方法

- 授業時の課題(小レポート等)に対しては、次の時間に講評する。
- プレゼンテーションに対しては、発表後のフィードバックや、講義の最後または次回講義の冒頭に全体の講評を行う。

成績評価の方法

授業での質問・発表などの取組姿勢(60%)、レポートなどの提出物(40%)から総合評価する。

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想史領域研究特論Ⅰ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

イメージ（表象、心像、図像など）について批判的検討を加えます。はじめに古典的なイメージ論について簡単にふれたのち、視覚がどのように扱われ、西洋においていかに特権的な感覚として位置づけられるようになったかを検証し、次にその特権性が次第に失われ、イメージが小さな存在へと縮減され、やがてそれらが視覚の舞台から消えてゆくのではないか、という仮説をベケット作品のなかで検証してゆきます。いわば〈テオリアの解体学〉を展開します。文学、演劇、哲学、科学、美術などにおける平行現象として考察したいと考えています。

扱うテキストは「授業内容」で示しますが、それらを読解しつつ、同時にそこで論じられる思想を理解する手助けとして、同時代の（もしくは類似の思想を表現していると思われる）美術作品にも言及する予定です。

授業内容

第1回：導入部―授業の目的と方法論について
第2回：デカルト『屈折光学』(1)
第3回：デカルト『屈折光学』(2)
第4回：ベケット『勝負の終わり』(1)
第5回：ベケット『勝負の終わり』(2)
第6回：ベケット『連れ』(1)
第7回：ベケット『連れ』(2)
第8回：ベケット『断崖』(1)
第9回：ベケット『断崖』(2)
第10回：ベケット『天井』(1)
第11回：ベケット『天井』(2)
第12回：ベケット『障害の画家』(1)
第13回：ベケット『障害の画家』(2)
第14回：まとめ

履修上の注意

時々図像を利用し、文学、哲学、科学、美術など、領域横断的にイメージがどのように変遷し、ついには具象的な像が成立困難な状態にいたるのかを検討してゆきます。

プリントはできるだけ日本語訳を用意しますが、原文（フランス語、英語）を参照することもあります。したがって、多少ともそれらの外国語の知識がある方がより理解も深まり、興味をもって受講することができます。ただ授業では、原文のテキストの説明も行いますので、あまり心配するにはおよびません。

履修状況に応じて「授業内容」に若干の変更（取り上げる作品やその順番など）が生じることがあることをご承知おき下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容

日本語訳を基本としますが、それだけでこれらの作品内容を理解しようとするには限界があります。したがって、少なくとも英訳はある程度理解できるだけの最低限の語学力が必要となります。予習や復習の際には、ぜひ日本語訳だけでなく、英訳等を手元におき、それらも参照しながら、内容の理解に努めて下さい。

教科書

プリントを用意します。

参考書

授業の中で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の授業を受講することによる平常学習点とその時々の発言（50点）、および学期末に提出してもらうレポート（50点）とで総合的に評価します。60点以上を合格とします。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	思想史領域研究特論Ⅱ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

儒教が日本社会において広範な影響力をもち始めた江戸時代以降の数百年間に、日本人は政治および政治に関連するさまざまな問題をどのように考えてきたのか。このような意味での「政治思想」の展開を、17世紀から19世紀までたどる。同時代の中国や朝鮮の状況も参照することで、儒教の影響下に展開された東アジアの「政治思想」の特色と相互の相違点についても注目していく。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：儒教とは何か
第3回：朱子学とは何か
第4回：徳川政治体制
第5回：儒教の受容と日本社会
第6回：伊藤仁斎
第7回：新井白石
第8回：荻生徂徠
第9回：安藤昌益
第10回：本居宣長
第11回：海保青陵
第12回：日本と西洋
第13回：文明開化
第14回：福沢諭吉・中江兆民

授業は、渡辺浩『日本政治思想史〔十七～十九世紀〕』に即して進めていく。

履修上の注意

授業の際には、積極的に議論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でとりあげる内容については事前に指示する。教科書の該当する章を熟読して授業にのぞむこと。

教科書

渡辺浩『日本政治思想史〔十七～十九世紀〕』（東京大学出版会、2010年）

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢（50％）と、複数回の提出を求めるレポート（50％）により総合的に判断する。

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究特論Ⅲ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学)		伊藤 剣

授業の概要・到達目標

文学作品には人々の思想や社会の価値観が反映される場合が多い。そこで、日本の思想を論じるにあたり、『萬葉集』や『古事記』、『日本書紀』に載録される奈良時代の歌や歴史叙述がどのように展開・享受されていったのかを確認してみたい。口誦の時代から記載の時代への変化はどのようなものだったのだろうか。文字で記すという行為はそもそもどのような営みであったのか。特定の作品を聖典化することによってどのような意味があるのか。このような例をはじめ、奈良時代の文学に込められた思想性や文化性を探っていく。授業では、作品の原文に触れ、ひらがな・カタカナのない時代ならではの特徴を体感してもらいながら、諸作品の内容や性格を考える予定である。また、歴史学・民俗学・比較神話学など隣接諸分野にも接することで、思想や文化のありかたを考えるための多様な視点を養ってもらおう。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
第2回 口誦と記載
第3回 『萬葉集』概論
第4回 『萬葉集』にみる歌の世界①：儀礼と雑歌
第5回 『萬葉集』にみる歌の世界②：相聞・挽歌
第6回 『萬葉集』にみる歌の世界③：メディアとしての歌
第7回 『萬葉集』にみる歌の世界④：政治と歌
第8回 『萬葉集』にみる歌の世界⑤：儀礼歌の古典化
第9回 中国文化の吸収と消化
第10回 歴史書の世界①：『古事記』の成立とその特徴
第11回 歴史書の世界②：『日本書紀』の成立とその特徴
第12回 『日本書紀』の古典化①：九州諸国風土記の世界
第13回 『日本書紀』の古典化②：『出雲国風土記』の世界
第14回 まとめ
＊授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

授業では日本の奈良時代の文献を精読することになるが、現代日本語訳のあるテキストを授業時にも紹介する。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 【事前学習】
次回の授業で扱う予定の範囲について、教材を読み込んで概要を把握しておくこと。
【事後学習】
授業後に教材・ノートによって復習するとともに、扱ったテーマについて自身で考察し、次回授業に向けた予習につなげること。

教科書

教材は教員が用意する。

参考書

受講生の理解状況や毎回の授業内容に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じ、Oh-o! Meijiを利用する予定である。

成績評価の方法

授業への参加態度50%、課題への取り組み50%を基本とし、総合的に判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域研究特論Ⅳ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 Ph.D.		瀧口 美香

授業の概要・到達目標

キリスト教美術といえば、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエロ、ルーベンスといった著名な画家の名前が思い浮かぶが、いずれも西ヨーロッパを中心に展開したラテン・カトリック文化圏のキリスト教美術である。

カトリック教会からプロテスタントが分かれた宗教改革(十六世紀)のことはよく知られているが、それ以前のキリスト教会がみなカトリックだったかという点決してそうではない。カトリックもまた、あるところから枝分かれして生まれたものだからである。そのおおもとは、東ローマ帝国にさかのぼるキリスト教である。カトリックの美術＝キリスト教美術と思われてしまいがちであるが、その源流にあるのは東ローマ帝国のキリスト教美術である。

キリスト教の信仰が生まれ、ローマ帝国の中で広がっていく過程で、自らの信仰を表すために図像が用いられるようになったことが、そもそものキリスト教美術の出発点である。

やがて帝国は東西に分裂(395年)、西側は西ローマ帝国、東側は東ローマ帝国(ビザンティン帝国)となる。西ローマ帝国は早々に滅びてしまったため(476年)、東側のビザンティン帝国こそが、キリスト教美術の中心地となった。

他方、西ヨーロッパのキリスト教美術は、東ローマ帝国の美術を模倣するところから出発し、やがてそこから大きく離れて、独自の展開をたどることになった。それが、西洋美術史の本に出てくる、ロマネスク、ゴシック、ルネサンス、バロック…という枠組みで語られる美術である。

西ヨーロッパ(ラテン・カトリック文化圏)のキリスト教美術と、東方正教会(ギリシア・ビザンティン文化圏)のキリスト教美術は、同じキリスト教の信仰を描き出すものでありながら、実のところ大きく異なっている。

この授業は、キリスト教美術の誕生から始まって、東西のキリスト教美術の展開を時代順にたどる形で進めていく。その際、文献講読に加えて、英語の映像資料を利用する。新・旧約聖書に基づく図像をはじめ、東方正教会とカトリックの美術に広く触れる機会を作りたい。

授業内容

- 第一回：キリスト教美術の誕生
概観
第二回：キリスト教美術の誕生
カタコンベ(1)
第三回：キリスト教美術の誕生
カタコンベ(2)
第四回：初期キリスト教美術
概観
第五回：初期キリスト教美術
石棺彫刻(1)
第六回：初期キリスト教美術
石棺彫刻(2)
第七回：初期キリスト教美術
聖堂建築
第八回：初期キリスト教美術
聖堂装飾(モザイク)
第九回：ビザンティン美術
概観
第十回：ビザンティン美術
聖堂建築(1)
第十一回：ビザンティン美術
聖堂建築(2)
第十二回：カロリング朝とオットー朝の美術
概観
第十三回：カロリング朝とオットー朝の美術
福音書装丁板
聖堂プロズル
第十四回：まとめ

履修上の注意

英語の文献講読、英語の映像資料を中心に、対面で授業を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布する英語の文献を目を通しておくこと。

教科書

瀧口美香『カラー版 キリスト教美術史－東方正教会とカトリックの二大潮流』(中公新書、2022)

参考書

Alfredo Tradigo, *Icons and Saints of the Eastern Orthodox Church* (Getty Publications, 2006).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的な取り組みによって評価を行う(100%)。授業中に課すワーキング・ペーパーの内容を考慮して評価を行う。
学期末の筆記試験は行わない。

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域研究特論V		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼担教授 博士(文学) 美濃部 仁		

授業の概要・到達目標

西田幾多郎は晩年、真に見るためには「物となって見る」ことが必要であり、真に行為するためには「物となって行う」ことが必要であると考えた。それは、西田によれば、見ることを行うことを「私」の事と考えるのではなく「世界」の事と考えることである。世界の事と考えるとは、我々の自己を世界に從属したものと考えるということではない。むしろ、世界の事と考えることによって初めて我々の自己の創造性が明らかになると西田は言う。このような西田の思想を、西田自身の初期の思想を顧みることによって、またデカルト、ヒューム、ヘーゲル等の思想と対比することを通して明らかにすることを試みる。

授業内容

第1回 西田幾多郎の生涯
第2回 西田の思想展開の概要
第3回 『善の研究』の立場
第4回 『善の研究』における「純粹経験」
第5回 『善の研究』におけるデカルト批判
第6回 ヒュームの経験論と西田の「純粹経験」
第7回 「純粹経験」とヘーゲルの「具体的一般者」
第8回 論文「場所」における「場所」
第9回 「場所」と「絶対無」
第10回 「絶対無」と「世界」
第11回 西田の時間論
第12回 普遍と個物
第13回 「世界」と「我々の自己」
第14回 「物となって見、物となって行う」

履修上の注意

ヨーロッパ近代哲学の知識をある程度もっている学生を対象とした授業です。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、前回の授業で問題となったことについて確認をおこないます。そのための準備をして授業に臨むようにしてください。

教科書

とくに定めません。

参考書

西田幾多郎『善の研究』（どの版でもかまいません）
西田幾多郎『西田幾多郎哲学論集』I、II、III（岩波文庫）
上田閑照『西田幾多郎を読む』（岩波セミナーブック）
その他の参考書については授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業中にディスカッションの時間をとります。フィードバックもそのなかでおこないます。

成績評価の方法

授業中に、授業内容についての理解と考察の深まりについて確認し、評価をおこないます。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域研究特論VI		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(社会学) 田中 ひかる		

授業の概要・到達目標

【概要】この授業では、指定する教科書（岡野八代『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』岩波書店、2024年）を毎回読み進め、アナキズムについて検討する。
【到達目標】現代社会におけるケアに基づく思考や実践の意義を、具体的な事実に基づきながら仮説を構築することができるようになる。

授業内容

第1回目：授業の進め方とテキストに関する解説
第2回目—第13回目：教科書の輪読・質疑と講師による解説
第14回目：全体の整理

履修上の注意

・受講生は、テキストを読み、内容をA4で1-4枚程度にまとめて報告すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

・毎回、教科書を読み進めるので、かならず教科書を読んでくること。その際には、線を引き、付箋を貼る、そして、ノートを作成すること。
・教科書は、授業開始後、一度は最後まで読み切っておくこと。

教科書

岡野八代『ケアの倫理—フェミニズムの政治思想』岩波書店、2024年。

参考書

・岡野八代『フェミニズムの政治学——ケアの倫理をグローバル社会へ』みすず書房、2012年。
・ジョアン・C. トロント、岡野八代『ケアするのは誰か?——新しい民主主義のかたちへ』白澤社、2020年。
・ケア・コレクティヴ、岡野八代ほか訳『ケア宣言：相互依存の政治へ』2021年。
・キャロル・ギリガン、川本隆史ほか訳『もうひとつの声で——心理学の理論とケアの倫理』2022年。
・キャロル・ギリガン、小西真理子ほか訳『抵抗への参加—フェミニストのケアの倫理』2023年。

課題に対するフィードバックの方法

課題全体に対する総合的な講評を、採点后、Oh-ol Meijiを通じて提示する。

成績評価の方法

・授業時間内での口頭発表と質疑(70%)とレポート(30%)。
・レポートのテーマは、現時点では「現代社会でケアはどのような意義を持つか」だが、受講生の状況を見ながら、変更する可能性あり。
・レポートの形式は、木下是雄『レポートの組立て方』で提示されているもの+講師が指示する形式。
・評価基準は、(1)授業における発表・質疑の内容、(2)レポートの形式・内容など。詳しくは授業で説明する。

その他

*連絡先:hikaruta@meiji.ac.jp

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

テーマ：文化とアイデンティティ
19世紀末から20世紀にかけてのヨーロッパにおける反ユダヤ主義と、フロイトによる精神分析理論を考察することで、「文化」や「アイデンティティ」という概念を多角的に検討する。今日の世界は、グローバル化による複数文化の接触が進展する一方で、文化・民族・宗教における原理主義的潮流も際立っており、アイデンティティの明確化が必ずしも文化間の融和に結びつかないジレンマを抱えている。今日の文化状況を視野にいれながら、フロイトの主要な文化論・宗教論(『ある幻想の未来』、『モーセと一神教』など)を精読し、フロイトにおける文化とアイデンティティの構想を把握することで、両概念へ理論的にアプローチする方法を考えてゆく。

授業内容

第1回：テーマへの導入：文化概念とアイデンティティ概念
第2回：研究の基本概念と理論的意識
第3回：研究技術の基本：文献調査と発表方法
第4回：フロイト『ある幻想の未来』(1)
第5回：フロイト『ある幻想の未来』(2)
第6回：フロイト『ある幻想の未来』(3)
第7回：フロイト『モーセと一神教』(1)
第8回：フロイト『モーセと一神教』(2)
第9回：フロイト『モーセと一神教』(3)
第10回：フロイト『モーセと一神教』(4)
第11回：口頭発表(1)
第12回：口頭発表(2)
第13回：発表内容のふりかえりと議論
第14回：まとめの議論
※履修者の研究テーマによって講読文献を変更することがある。

履修上の注意

講読するテキストは日本語訳を用いるので、精読といってもある程度まとまった分量を読んでゆくことになる。必要に応じてドイツ語・英語の原文を参照するが、その際は十分な解説を添える予定。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

十川幸司『精神分析』(岩波書店、2003年)

参考書

『フロイト全集』(岩波書店、2006年～)
村山雅人『反ユダヤ主義 世紀末ウィーンの政治と文化』(講談社、1995年)
ジョン・W・スコット(荻野美穂訳)『ジェンダーと歴史学 増補新版』(平凡社、2004年)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でのコメントを返す。

成績評価の方法

授業中の口頭発表とレジュメの内容(40%)、期末に提出するレポート(30%)、論文計画書(30%)を総合して評価する。

その他

積極的な授業参加を重視する。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

テーマ：反アイデンティティ論の構想
フロイトによる精神分析理論を起点に、「文化」や「アイデンティティ」という概念を多角的に検討してゆく。フロイトの文化論に関する知識を前提に、サンダー・ギルマンやエドワード・サイードのフロイト受容を考察対象とし、文化的、民族的、性的アイデンティティが形成される力学を、政治、歴史、社会構造との関連から分析する方法について考える。グローバル化による文化間接触の多様化、文化・民族・宗教における原理主義的潮流、アイデンティティの明確化と文化間紛争といった、今日の文化状況を読み解く理論的な基盤をつくってゆくことが目的であるが、この演習ではアイデンティティの負の側面に着目した「反アイデンティティ」的構想が議論の中心になる。

授業内容

第1回：テーマへの導入
第2回：フロイトの文化論(1)
第3回：フロイトの文化論(2)
第4回：フロイトの文化論(3)
第5回：文化・民族・宗教とアイデンティティ(1)
第6回：文化・民族・宗教とアイデンティティ(2)
第7回：S.ギルマンにおけるフロイト(1)
第8回：S.ギルマンにおけるフロイト(2)
第9回：S.ギルマンにおけるフロイト(3)
第10回：サイードにおけるフロイト(1)
第11回：サイードにおけるフロイト(2)
第12回：サイードにおけるフロイト(3)
第13回：口頭発表
第14回：まとめの議論
※履修者の研究テーマによって講読文献を変更することがある。

履修上の注意

演習で扱うテキスト自体の理解とともに、履修者自身の研究に必要な理論的な基礎を確立していくことが重要なので、履修者の研究計画や関心に応じて本演習の題材に積極的にアプローチしてもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

エドワード・W・サイード(長原豊訳)『フロイトと非一ヨーロッパ人』(平凡社、2003年)

参考書

『フロイト全集』岩波書店、2006年～。
サンダー・L・ギルマン(鈴木淑美訳)『フロイト・人種・ジェンダー』青土社、1997年。
上野千鶴子編『脱アイデンティティ』勁草書房、2005年。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でのコメントを返す。

成績評価の方法

授業中の口頭発表とレジュメの内容(40%)、期末に提出するレポート(30%)、論文計画書に従った研究報告(30%)を総合して評価する。

その他

積極的な授業参加を重視する。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

テーマ:「想起の文化」と自伝的記述
冷戦構造の終結以降、ドイツ内外ではナチスによるユダヤ人の大量殺戮に関する記憶について、それをどのように表象し、伝えてゆくかという議論が活発に行われた。ドイツでは「想起の文化」という言葉で、ユダヤ人大量虐殺の記憶をとどめる多様な文化財を指し示すことが多い。本演習は「想起の文化」をめぐるドイツでの議論を跡づけながら、ホロコーストを生き延びた人々の記憶をとどめる記念碑・博物館、記録映画、芸術作品等を視野に入れつつ、特にホロコーストからの生還者による自伝的作品・自伝的記述を考察の対象とする。
作品および関連研究論文の正確な読解能力を高めることが目標となる。履修者は演習での学習に並行して修士論文の目次を確定し、執筆を進めてほしい。

授業内容

第1回：テーマへの導入:「想起の文化」とは何か
第2回：ホロコーストをめぐる作品群(1)
第3回：ホロコーストをめぐる作品群(2)
第4回：口頭発表(1)
第5回：自伝的記述におけるホロコースト(1)
第6回：自伝的記述におけるホロコースト(2)
第7回：自伝的記述におけるホロコースト(3)
第8回：口頭発表(2)
第9回：関連先行研究の調査・講読(1)
第10回：関連先行研究の調査・講読(2)
第11回：関連先行研究の調査・講読(3)
第12回：関連先行研究の調査・講読(4)
第13回：口頭発表(3)
第14回：まとめの議論・修士論文概要の報告

履修上の注意

授業の内容に関連して紹介する資料やイベントには、履修者が自発的に取り組むことを期待している。
授業で取り扱う文献は、日本語、英語、ドイツ語のいずれかを用いる可能性があるため、外国語文献の場合は必ず辞書を活用して取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。
外国語文献の場合、原文読解能力を向上させるため、辞書を活用しながら十分に時間を取って予習してほしい。

教科書

特に定めない。

参考書

石田勇治『過去の克服－ヒトラー後のドイツ』(白水社、2002年)

森本淳生(編)『“生表象”の近代－自伝・フィクション・学知』(水声社、2015)

Eva Lezzi: Zerstörte Kindheit. Literarische Autobiographien zur Shoah. Köln; Weimar; Wien: Böhlau 2001.

Peter Alheit; Morten Brandt: Autobiographie und ästhetische Erfahrung. Entdeckung und Wandel des Selbst in der Moderne. Frankfurt/M.: Campus 2006.

Antonia Barboric: Der Holocaust in der literarischen Erinnerung. Autobiografische Aufzeichnungen von Udo Dietmar und Elie Wiesel. Wien; Köln; Weimar: Böhlau 2014.

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でのコメントを返す。

成績評価の方法

授業中の口頭発表とレジュメの内容 (40%)、期末に提出するレポート (30%)、論文計画書に従った研究報告 (30%) を総合して評価する。

その他

積極的な授業参加と計画的な修士論文執筆を重視する。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

テーマ:「自己」の表現と「記憶」
「想起の文化」をめぐるドイツでの議論を念頭におき、人文科学における「記憶」の理論を検討するほか、ホロコーストを生き延びた人々の自伝的テキストを考察の対象とし、個々のテキストにおいて、虐殺についての記憶と「自己」の表現がどのような表象の可能性、あるいは不可能性を示しているのか検討する。
自伝的表現における自己、アイデンティティ、記憶の問題を中心に、以上のテーマにつき研究指導を行う。
修士論文の完成に向けて、文化、アイデンティティ、ジェンダー、記憶といった研究上重要な基本概念の整理をするとともに、履修者に研究発表を行ってもらう。

授業内容

第1回：テーマへの導入
第2回：自伝的記述における「自己」の表現(1)
第3回：自伝的記述における「自己」の表現(2)
第4回：自伝的記述における「自己」の表現(3)
第5回：口頭発表(1)
第6回：アイデンティティ・文化・記憶の相互関係(1)
第7回：アイデンティティ・文化・記憶の相互関係(2)
第8回：アイデンティティ・文化・記憶の相互関係(3)
第9回：口頭発表(2)
第10回：関連先行研究の調査・講読(1)
第11回：関連先行研究の調査・講読(2)
第12回：関連先行研究の調査・講読(3)
第13回：口頭発表(3)
第14回：まとめの議論

履修上の注意

授業の内容に関連して紹介する資料やイベントには、履修者が自発的に取り組むことを期待している。
授業で取り扱う文献は、日本語、英語、ドイツ語のいずれかを用いる可能性があるため、外国語文献の場合は必ず辞書を活用して取り組んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。
外国語文献の場合、原文読解能力を向上させるため、辞書を活用しながら十分に時間を取って予習してほしい。

教科書

特に定めない。

参考書

アライダ・アスマン(安川晴基訳)『想起の文化 忘却から対話へ』(岩波書店、2019年)

Eva Lezzi: Zerstörte Kindheit. Literarische Autobiographien zur Shoah. Köln; Weimar; Wien: Böhlau 2001.

Peter Alheit; Morten Brandt: Autobiographie und ästhetische Erfahrung. Entdeckung und Wandel des Selbst in der Moderne. Frankfurt/M.: Campus 2006.

Antonia Barboric: Der Holocaust in der literarischen Erinnerung. Autobiografische Aufzeichnungen von Udo Dietmar und Elie Wiesel. Wien; Köln; Weimar: Böhlau 2014.

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でのコメントを返す。

成績評価の方法

授業中の口頭発表とレジュメの内容 (50%)、論文計画書に従った研究報告 (50%) を総合して評価する。

その他

積極的な授業参加と計画的な修士論文執筆を重視する。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

詩的言語を考察の対象にする。まず、二十世紀の終わりにかけて、めざましい理論的な展開を示した構造主義言語学から記号論への流れを把握し、実際にいくつかの作品を分析しながら、その基本的な方法論を確認したい。この場合、「詩的言語」とは、行分けをされて記された、いわゆる、「詩」に限定されない。映像や音声も含んだマルチ・メディア的テキストも考察の対象にしたい。演習の第一段階なので、講義形式の授業が多くなる。

授業内容

- 第1回：「詩的言語」の定義について
 第2回：構造主義言語学について—1: ソシユールとローマン・ヤーコブソン
 第3回：構造主義言語学について—2: 基本的概念の理解
 第4回：構造主義言語学について—3: ローマン・ヤーコブソンの詩論
 第5回：詩的言語の分析方法—1: 音とリズムについて
 第6回：詩的言語の分析方法—2: イメージについて
 第7回：作品分析—1
 第8回：作品分析—2
 第9回：作品分析—3
 第10回：作品分析—4
 第11回：詩と散文の比較検討—1: 詩的表現と歴史的語り
 第12回：詩と散文の比較検討—2: 詩的表現と歴史的語り
 第13回：〈詩〉という概念の拡張—1: メロディーと詩（イエイツの作品に即して）
 第14回：〈詩〉という概念の拡張—2: メロディーと言葉

履修上の注意

講義と参加者の発表とを織り交ぜてゆきます。「詩」を出発点として、言葉と他の表現様式との比較検討に進んでゆきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に示す文献をできる限り読んでおくこと。

教科書

テキストはありません。資料は教室で配布します。

参考書

教室で随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

おおよそ、積極的な授業への参加を30パーセント、発表を30パーセント、学期末レポートを40パーセントとして、評価します。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

「詩的言語」の考察の対象として、いわゆる、J-popを取り上げ、それが表象している世界を分析したい。さしあたり、計量言語学的手法を用いてJ-popに描かれている、恋愛を中心とした人間関係や季節感の表現に注目する。さらに、その結果をアメリカのポップスと比較したい。なじみやすい対象だと思うので、参加者からの発表を行ってもらい、現代日本でもっとも流布している表象様式がはらむ諸問題を議論してゆきたい。

授業内容

- 第1回：研究方法と対象
 第2回：コンピュータを使ったテキスト分析法—1
 第3回：コンピュータを使ったテキスト分析法—2
 第4回：参考文献についての解説—1
 第5回：参考文献についての解説—2
 第6回：J-popの歌詞の分析—1
 第7回：J-popの歌詞の分析—2
 第8回：言葉とメロディー：W.B. イエイツの例
 第9回：言葉とメロディー：A Thousand Daysについて
 第10回：作品分析—1
 第11回：作品分析—2
 第12回：作品分析—3
 第13回：作品分析—4
 第14回：言語と音の関係に関する理論化の試み

履修上の注意

講義と参加者の発表とを織り交ぜてゆきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

準備学習については各授業の終わりに指示する。文献を読むこと、授業時に分析するデータを収集すること。

教科書

テキストはありません。資料は教室で配布します。

参考書

教室で随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

おおよそ、積極的な授業への参加を30パーセント、発表を30パーセント、学期末レポートを40パーセントとして、評価します。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		鈴木 哲也

授業の概要・到達目標

演劇を考察の対象として取り上げる。DVDではあるが、演劇作品のいくつかを見ながら若干の考察を加えた後、参加者の発表に移ってゆきたい。いくつかの目的がある。まず、「脚本」というかたちで提示されている言語の意味解釈の可能性を探ること、そして、言語によって表現できることとできないこと、身体によって表現できることとできないこと、それらの境界を見定めることである。

授業内容

第1回：演技とことばに関する概説
第2回：解釈の理論について：概説—1
第3回：解釈の理論について：概説—2
第4回：演出について
第5回：作品研究—1：野田秀樹の『オイル』について
第6回：作品研究—2：野田秀樹の『オイル』について
第7回：作品研究—3：『ハムレット』について
第8回：作品研究—4：『ハムレット』について
第9回：演劇と映画—1：ストーリーとプロット
第10回：演劇と映画—2：演劇における身体動作と映画のイメージ
第11回：作品分析—1
第12回：作品分析—2
第13回：作品分析—3
第14回：言葉、身体、視覚的イメージの関係

履修上の注意

講義と参加者の発表とを織り交ぜてゆきます。演劇と映画を可能な範囲で比較検討してゆきます。予備知識は求めません。

準備学習（予習・復習等）の内容

基本となるテキストをできるだけ早く読んでおくこと。授業時に指示する。

教科書

テキストはありません。資料は教室で配布します。

参考書

教室で随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

おおそ、積極的な授業への参加を30パーセント、発表を30パーセント、学期末レポートを40パーセントとして、評価します。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		鈴木 哲也

授業の概要・到達目標

マルチメディアの時代を迎えました。そこでは、文字や声や音響や映像が、一つのフォーマットのなかに、一見、統合されて提示されています。ただ、その様式が伝統的な諸様式を凌駕しているとは必ずしも言えません。ニュー・メディアと呼ばれる表象様式がどのような特性を持っているかを検討し、伝統的な諸様式と比較しつつ考察を加えてゆきます。

授業内容

第1回：メディア論への導入
第2回：参考文献の解説—1
第3回：参考文献の解説—2
第4回：マクルーハンの理論について
第5回：マルチメディア論の動向について
第6回：ミュージックビデオが提起する問題
第7回：コマーシャル映像の分析
第8回：PRおよびプロパガンダの問題
第9回：作品分析—1
第10回：作品分析—2
第11回：作品分析—3
第12回：言葉の意味の多義性とテキストの関係—1
第13回：言葉の意味の多義性とテキストの関係—2
第14回：マルチメディア的表象の諸問題

履修上の注意

定説のない領域について、参加者全員で考えてゆきます。やや、講義の比率が増えるかもしれませんが、新鮮な発想にもとづく参加者の発表に期待しています。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に指示する文献を読んでおくこと。

教科書

テキストはありません。資料は教室で配布します。

参考書

教室で随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

おおそ、積極的な授業への参加を30パーセント、発表を30パーセント、学期末レポートを40パーセントとして、評価します。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士（文学） 嶋田 直哉		

授業の概要・到達目標
文化研究の方法論を学ぶ。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 文化研究理論の再検討(1)
第3回 文化研究理論の再検討(2)
第4回 文化研究理論の再検討(3)
第5回 文化研究理論の再検討(4)
第6回 文化研究理論の再検討(5)
第7回 文化研究理論の再検討(6)
第8回 文化研究理論の再検討(7)
第9回 文化研究理論の再検討(8)
第10回 文化研究理論の再検討(9)
第11回 文化研究理論の再検討(10)
第12回 文化研究理論の再検討(11)
第13回 文化研究理論の再検討(12)
第14回 総まとめ
授業内容は履修者と相談の上、変更することがある。

履修上の注意
積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容
指定した作品や文献を事前に精読してくること。

教科書
授業中に適宜指示する。
詳細は初回授業で説明する。

参考書
授業中に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への貢献度:30%
発表内容:40%
学期末レポート:30%

その他
わからない点があれば質問にくること。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士（文学） 嶋田 直哉		

授業の概要・到達目標
現代文化について考える。
理論的な視点から、分析的に文化を研究できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回 インTRODakション
第2回 現代文化研究の再検討(1)
第3回 現代文化研究の再検討(2)
第4回 現代文化研究の再検討(3)
第5回 現代文化研究の再検討(4)
第6回 現代文化研究の再検討(5)
第7回 現代文化研究の再検討(6)
第8回 現代文化研究の再検討(7)
第9回 現代文化研究の再検討(8)
第10回 現代文化研究の再検討(9)
第11回 現代文化研究の再検討(10)
第12回 現代文化研究の再検討(11)
第13回 現代文化研究の再検討(12)
第14回 総まとめ
授業内容は履修者と相談の上、変更することがある。

履修上の注意
積極的な姿勢で授業に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容
指定した作品や文献を事前に精読してくること。

教科書
授業中に適宜指示する。
詳細は初回授業で説明する。

参考書
適宜授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への貢献度:30%
発表内容:40%
期末レポート:30%

その他
わからない点があれば質問にくること。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 嶋田 直哉		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆のための具体的な研究指導を授業の中心とする。
決められた期日までに該当箇所の提出をし、検討、書き直しを繰り返す。

授業内容

第1回 研究発表(1)と討論
第2回 再発表と討論
第3回 研究発表(2)と討論
第4回 再発表と討論
第5回 研究発表(3)と討論
第6回 再発表と討論
第7回 研究発表(4)と討論
第8回 再発表と討論
第9回 研究発表(5)と討論
第10回 再発表と討論
第11回 研究発表(6)と討論
第12回 再発表と討論
第13回 研究発表(7)と討論
第14回 再発表と討論

履修上の注意

多くの文献を読むことになるので意欲的に取り組むこと。
粘り強く検討すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自で問題点や疑問点を整理してから授業に臨むこと。

教科書

日本近代文学会編『ハンドブック日本近代文学研究の方法』
(ひつじ書房、2016年12月)
ほか。
授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度:30%
発表内容:40%
学期末レポート:30%

その他

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 嶋田 直哉		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆のための具体的な研究指導を授業の中心とする。
決められた期日までに該当箇所の提出をし、検討、書き直しを繰り返す。

授業内容

第1回 研究発表(1)と討論
第2回 再発表と討論
第3回 研究発表(2)と討論
第4回 再発表と討論
第5回 研究発表(3)と討論
第6回 再発表と討論
第7回 研究発表(4)と討論
第8回 再発表と討論
第9回 研究発表(5)と討論
第10回 再発表と討論
第11回 研究発表(6)と討論
第12回 再発表と討論
第13回 研究発表(7)と討論
第14回 再発表と討論

履修上の注意

多くの文献を読むことになるので意欲的に取り組むこと。
粘り強く検討すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自で問題点や疑問点を整理してから授業に臨むこと。

教科書

日本近代文学会編『ハンドブック日本近代文学研究の方法』
(ひつじ書房、2016年12月)
ほか。
授業中に適宜指示する。

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度:30%
発表内容:40%
学期末レポート:30%

その他

積極的な姿勢で授業に臨むこと。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 畑中 基紀		

授業の概要・到達目標

近代(明治～高度成長期)の日本文学を対象とする修士論文の作成を前提にした研究指導と演習を行う。文学研究を志す人にとって必読の文献のうち、文学理論に関わるものを中心にそのいくつかを講読する。文学を研究し、論文という形式で表現することが出来るためには、どのような知識を、どのように体系化していくべきか、どのような発想を身につける必要があるかを自覚し、みずから学んでいくための姿勢を習得することを目標とする。まず一人の受講者が文献についてレポートし、それをもとに討論を重ねることを繰り返すという形式の授業となる。

なお、とりあげる文献は、受講者の研究テーマや関心の内容を考慮して開講後に決定する。ただし、最初の2冊は下記「教科書」欄記載のものの予定。

授業内容

一冊の文献を2・3回かけて講読する。事前に担当者を定めて、各文献の内容を整理し、問題点を追究した報告を課す。それを受けて全員で討論を行う。報告者以外の者も全員が当該の文献を熟読し問題点を整理してくることは当然である。

第1回：イントロダクション～文学研究に必要なこと

第2回：『文章読本』精読

第3回：『文章読本』精読(承前)

第4回：『文学テキスト入門』精読

第5回：『文学テキスト入門』精読(承前)

第6回：文献3精読

第7回：文献3精読(承前)

第8回：文献4精読

第9回：文献4精読(承前)

第10回：文献5精読

第11回：文献5精読(承前)

第12回：文献6精読

第13回：文献6精読(承前)

第14回：文献7精読

(内容は適宜入れ換え、また変更することがある。)

履修上の注意

原則として欠席は不可。事前の精読を怠る者は出席を禁ずる。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書以外に、教室で提示する参考書もすべて期限までに精読しなければならない。また特に指示しなくとも、積極的に参考文献を探索し、目を通していくことが必要である。

教科書

中村真一郎『文章読本』(新潮文庫)、前田愛『増補 文学テキスト入門』(ちくま学芸文庫)、その他は教室で指示。

参考書

川本茂雄『ことばとイメージ』(岩波新書)、その他は教室で随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

教室で。

成績評価の方法

平常点50%+期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 畑中 基紀		

授業の概要・到達目標

文化理論研究演習Ⅰの続きとして、ここではより実践的に、作品を論ずる研究発表と、それを論文化する方法を習得することを目標とする。書けば15000字程度(修士論文では一章分に当たる)の論文となる内容を事前にプレゼンテーションするのが、ここでいう研究発表である。

対象としては、谷崎潤一郎の大正期の作品をとりあげる。小説という表現形式の可能性を、もっともラディカルに追求した作家の一人であり、そのテキストの分析に取り組むことは、文学研究を志す者に資するところ大である。先行研究の精読からはじめて、受講者による発表とその修正を経て、一本の論文にまとめることを目指す。

授業内容

第1回：谷崎潤一郎についての基礎知識

第2回：「刺青」(以下、各回で取り上げる作品名を記す)

第3回：「少年」

第4回：「時間」

第5回：「秘密」

第6回：「異端者の悲しみ」

第7回：「二人の稚児」

第8回：「二人の稚児」

第9回：「母を恋うる記」

第10回：「ハッサン・カンの妖術」

第11回：「小さな王国」

第12回：「白昼鬼語」

第13回：「美食倶楽部」

第14回：「友田と松永の話」

(状況により内容を入れ替えたり、変更することがある)

履修上の注意

原則として欠席は不可。各回の作品を全員が事前に熟読してくる。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書以外に、教室で提示する参考書もすべて期限までに精読しなければならない。また特に指示しなくとも、積極的に参考文献を探索し、目を通していくことが必要である。

教科書

谷崎潤一郎『刺青・秘密』(新潮文庫)、谷崎潤一郎『美食倶楽部』(ちくま文庫)

参考書

五味潤典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎読本』2016.12、翰林書房。その他教室にて適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

教室で。

成績評価の方法

平常点50%+期末レポート50%

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 畑中 基紀		

授業の概要・到達目標

Ⅲでは、夏目漱石をとりあげる。日本の小説は、明治時代にその形式をヨーロッパ文学より輸入したものであるが、そのテキストを構成する言語も、同時期に一から模索されつつ創りあげられたものである。近代日本には当初、口語の書き言葉そのものがほとんど存在しなかったのである。小説というものが、どのような言葉で、何を、どのような形式で書くのかといった概念が確立される時期に、いわば指導的役割をはたしたのが漱石である。こうした観点から考察をすすめる。前半は『門』、後半は『道草』を中心に、漱石の作品について、受講者による研究発表と、それにもとづく全員による討論を繰り返す。ただし、これとは別途、受講者の修士論文中間報告の回を設け、適宜挿入する。

授業内容

第1回：夏目漱石についての基礎知識
第2回：作品研究『それから』
第3回：作品研究『それから』
第4回：作品研究『門』
第5回：作品研究『門』
第6回：修士論文中間報告
第7回：作品研究『門』
第8回：作品研究『彼岸過迄』
第9回：作品研究『彼岸過迄』
第10回：作品研究『ころ』
第11回：作品研究『ころ』
第12回：作品研究『道草』
第13回：作品研究『道草』
第14回：作品研究『道草』
(受講者の人数等、状況によって内容は適宜入れ換える場合がある)

履修上の注意

文化理論研究演習Ⅱに同じ。

準備学習（予習・復習等）の内容

文化理論研究演習Ⅱに同じ。

教科書

夏目漱石『三郎』『それから』『門』『彼岸過迄』、『ころ』『道草』（岩波文庫）。

参考書

柄谷行人『漱石論集成』2017.11、岩波書店。その他教室にて随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

教室で。

成績評価の方法

平常点50%＋期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 畑中 基紀		

授業の概要・到達目標

文化理論研究演習Ⅳでは、修士論文を完成させるための研究指導を中心とする。各受講者の研究テーマと修士論文の計画内容、また執筆の手順などの最終的な確認を行い、その上で、各章ごとの発表や、作成した原稿のチェックなどを繰り返す。文学研究は書物との格闘である。表現について、歴史について、そのほかテーマに応じて多分野にわたる勉強も必要となる。二年間で修士論文を仕上げるためには、ほとんど活字漬けの日々となり、その間、盆も正月もなくなることを覚悟しなければならないことを申し添えておく。

授業内容

受講者による研究発表（各回のテーマは修士論文のうち一章分）とそれにもとづく全員による討論を繰り返しながら、テキスト・クリティーク、分析方法の妥当性、解釈と批評の方法、論文の構成などについての徹底した検討をすすめる。一つのテーマを複数回にわたって修正を重ねて完成度を高めることを目指す。その間、随時原稿のチェックも行う。
第1回：研究発表(1)と討論
第2回：再発表と討論
第3回：再発表と討論
第4回：研究発表(2)と討論
第5回：再発表と討論
第6回：再発表と討論
第7回：研究発表(3)と討論
第8回：再発表と討論
第9回：再発表と討論
第10回：研究発表(4)と討論
第11回：再発表と討論
第12回：再発表と討論
第13回：研究発表(5)と討論
第14回：再発表と討論
(受講者の人数や修士論文執筆の進捗状況に合わせて、適宜変更することがある)

履修上の注意

文化理論研究演習Ⅲに同じ。

準備学習（予習・復習等）の内容

文化理論研究演習Ⅲに同じ。

教科書

なし。

参考書

教室にて適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

教室。

成績評価の方法

授業への積極的参加と課題への取り組み。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 神田 正行		

授業の概要・到達目標

《授業のテーマおよび到達目標》

日本や中国の小説を研究対象とする学生に向けて、古典小説の読み方を実践してもらう授業です。

《授業の概要》

江戸時代の読本や合巻などを取り上げ、演習形式で読み進めます。

履修者は担当部分について、写真を用いて校訂本文を作成したのちに、そこに踏まえられた典拠を調査し、現代語訳を作成します。

その上で、作者の創作意図について考察し、作品に対する理解を深めます。

質疑で即答できなかった問題については、次週までに再調査を行い、再度発表してもらいます。

授業内容

第1回：イントロダクション（履修上の注意点、成績評価方法などの説明）

第2・3回：演習の実例（演習の手順を、実例に即して説明する）

第4～13回：作品講読（履修者の発表と質疑）

第14回：まとめ

＊授業内容は、履修者と相談の上で変更することがあります。

履修上の注意

毎回、中型(大辞泉・大辞林クラス)以上の国語辞典(電子辞書・スマートフォンでも可)を持参してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当部分について、発表日までに調査し、資料を作成してもらいます。

履修者の人数によって、発表の頻度は変化します。

教科書

特に定めません。必要な教材は、プリントで配布します。

参考書

特に定めません。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で逐次行います。

成績評価の方法

発表内容(60%)、授業参加(40%)。

その他

指導テーマ

日本古典小説・中国古典小説

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 神田 正行		

授業の概要・到達目標

《授業のテーマおよび到達目標》

日本や中国の小説を研究対象とする学生に向けて、古典小説の読み方を実践してもらう授業です。

《授業の概要》

江戸時代の読本や合巻などを取り上げ、Ⅰ(春学期)の続きから演習形式で読み進めます。

履修者は担当部分について、写真を用いて校訂本文を作成したのちに、そこに踏まえられた典拠を調査し、現代語訳を作成します。

その上で、作者の創作意図について考察し、作品に対する理解を深めます。

質疑で即答できなかった問題については、次週までに再調査を行い、再度発表してもらいます。

授業内容

第1回：イントロダクション（履修上の注意点、成績評価方法などの説明）

第2・3回：演習の実例（演習の手順を、実例に即して説明する）

第4～13回：作品講読（履修者の発表と質疑）

第14回：まとめ

＊授業内容は、履修者と相談の上で変更することがあります。

履修上の注意

毎回、中型(大辞泉・大辞林クラス)以上の国語辞典(電子辞書・スマートフォンでも可)を持参してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当部分について、発表日までに調査し、資料を作成してもらいます。

履修者の人数によって、発表の頻度は変化します。

教科書

特に定めません。必要な教材は、プリントで配布します。

参考書

特に定めません。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で逐次行います。

成績評価の方法

発表内容(60%)、授業参加(40%)。

その他

指導テーマ

日本古典小説・中国古典小説

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	神田 正行	

授業の概要・到達目標

《授業のテーマおよび到達目標》

日本や中国の小説を研究対象とする学生に向けて、古典小説の読み方を実践してもらう授業です。

《授業の概要》

履修者各自の研究対象とする作品について、毎回一定分量の校訂本文を作成し、そこに現れる語句や事項について調査した上で、当該箇所に見出しうる問題点を指摘・考察してもらいます。

その際、教員や他の履修者からの質疑にも応答して、作品に対する多角的な理解を深め、各自の論文作成に結びつけて欲しいと思います。

授業内容

第1回：イントロダクション（履修上の注意点などの説明、作品選定）

第2～13回：作品講読（履修者の発表と質疑）

第14回：まとめ

*授業内容は、履修者と相談の上で変更することがあります。

履修上の注意

毎回、中型(大辞泉・大辞林クラス)以上の国語辞典(電子辞書・スマートフォンでも可)を持参してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当部分について、発表日までに調査し、資料を作成してもらいます。

教科書

取り上げる作品が決定した後に定めます。

参考書

特に定めません。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で逐次行います。

成績評価の方法

発表内容(60%)、授業参加(40%)。

その他

指導テーマ

日本古典小説・中国古典小説

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)	神田 正行	

授業の概要・到達目標

《授業のテーマおよび到達目標》

日本や中国の小説を研究対象とする学生に向けて、古典小説の読み方を実践してもらう授業です。

《授業の概要》

履修者各自の研究対象とする作品について、毎回一定分量の校訂本文を作成し、そこに現れる語句や事項について調査した上で、当該箇所に見出しうる問題点を指摘・考察してもらいます。

その際、教員や他の履修者からの質疑にも応答して、作品に対する多角的な理解を深め、各自の論文作成に結びつけて欲しいと思います。

Ⅲ(春学期)以上に、論文作成を強く意識して、調査に取り組むことになります。

授業内容

第1回：イントロダクション（履修上の注意点などの説明、作品選定）

第2～13回：作品講読（履修者の発表と質疑）

第14回：まとめ

*授業内容は、履修者と相談の上で変更することがあります。

履修上の注意

毎回、中型(大辞泉・大辞林クラス)以上の国語辞典(電子辞書・スマートフォンでも可)を持参してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

担当部分について、発表日までに調査し、資料を作成してもらいます。

教科書

取り上げる作品が決定した後に定めます。

参考書

必要に応じて授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で逐次行います。

成績評価の方法

発表内容(60%)、授業参加(40%)。

その他

指導テーマ

日本古典小説・中国古典小説

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

今、環境について考えることがあらゆる領域で求められている。ここではイギリス諸島における環境意識の変遷を18世紀後半から、文学を中心に辿っていく。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：環境と文学
 第3回：18世紀産業革命からフランス革命へ1
 第4回：18世紀産業革命からフランス革命へ2
 第5回：19世紀前半のイギリス1
 第6回：19世紀前半のイギリス2
 第7回：19世紀前半のイギリス3
 第8回：19世紀後半のイギリス1
 第9回：19世紀後半のイギリス2
 第10回：19世紀後半のイギリス3
 第11回：アイルランドの文化と文学1
 第12回：19世紀末のアイルランド1
 第13回：19世紀末のアイルランド2
 第14回：20世紀へ

履修上の注意

テキストは原文で読むので十分な英語読解能力を必要とする。日本語訳も使用する。

準備学習（予習・復習等）の内容

詩をたくさん読むこと。

教科書

プリントで配布する。

参考書

Norman Vance, *Irish Literature: A Social History: Tradition, Identity and Difference* (Oxford: Basil Blackwell, 1990)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業への参加度と学期末のレポートによる。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

前期に引き続き、イギリス諸島の文学と視覚芸術を中心として、環境と芸術について考える。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：20世紀前半のイギリス諸島1
 第3回：20世紀前半のイギリス諸島2
 第4回：20世紀前半のイギリス諸島3
 第5回：20世紀後半のイギリス諸島1
 第6回：20世紀後半のイギリス諸島2
 第7回：20世紀後半のイギリス諸島3
 第8回：20世紀後半のイギリス諸島4
 第9回：ポストヒューマニズム1
 第10回：21世紀の環境意識
 第11回：21世紀のイギリス諸島1
 第12回：21世紀のイギリス諸島2
 第13回：21世紀のイギリス諸島3
 第14回：芸術の役割

履修上の注意

テキストは原則原文で読む。翻訳も使用する。

準備学習（予習・復習等）の内容

文学と芸術に興味を持つこと。

教科書

プリントで配布する。

参考書

The Chosen Ground: Essays on the Contemporary Poetry of Northern Ireland, ed. Neil Corcoran (Bridgend: Seren, 1992).

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業への参加度と学期末のレポートによる。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

環境と芸術について考える。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回から第13回：様々な批評参照し細密に分析する。
第14回：まとめ

履修上の注意

テキストは原則原文で読むが翻訳も使用する。

準備学習（予習・復習等）の内容

18世紀以降の思想潮流について大まかに捉えておくこと。

教科書

プリントで配布する。

参考書

授業中その都度紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業への参加度と学期末のレポートによる。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

芸術と環境問題について。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回から第13回：論文作成を順次すすめる。
第14回：提出論文の確認

履修上の注意

テキストは原文で読むので十分な英語読解能力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

文学批評の方法を確認する。

教科書

プリントで配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業への参加度と学期末のレポートによる。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	地域文化研究演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学)		池田 功

授業の概要・到達目標

本演習では日本近現代における生と死の文化をテーマとするが、Ⅰでは日本近現代文学の中でもフィクションとして描かれたものを対象とする。病における生と死を描いたものには、結核、癌、ハンセン病、エイズなどがあり、また戦争、自殺、姥捨てなどを描いたものもある。具体的な作品を取り上げ、発表し参加者で討議することを通して深い理解に達したい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：日本近現代文学における生と死の作品とは(概論)(結核、癌、ハンセン病、エイズなど)
 第3回：日本近現代文学における生と死の作品とは(概論)(戦争、自殺、姥捨てなど)
 第4回：結核を扱った、正岡子規『病床六尺』、徳富蘆花『不如帰』など
 第5回：結核を扱った、田山花袋『田舎教師』、梶井基次郎『のんきな患者』など
 第6回：結核を扱った、堀辰雄『風立ちぬ』、横光利一や遠藤周作、齋藤綾子の作品など
 第7回：癌を扱った、高見順『詩集 死の淵より』、井上靖『化石』など
 第8回：癌を扱った、阪田寛夫『土の器』、近藤啓太郎『微笑』など
 第9回：癌を扱った、南木佳士『山中静夫氏の尊厳死』、秋元康『象の背中』など
 第10回：ハンセン病を扱った、北條民雄『いのちの初夜』、遠藤周作『わたしが棄てた女』など
 第11回：戦争を扱った、大岡昇平『野火』や島尾敏雄の作品など
 第12回：自殺を扱った、太宰治『人間失格』、笠原淳『空二の世界』など
 第13回：姥捨てを扱った、深沢七郎『橋山節考』など
 第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する
 作品は参加者の希望により変更することがある。

履修上の注意

授業では生と死を扱った日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。それぞれの作品名を書いたが、参加者の希望により他の作品を取り上げることも可能である。各自それぞれの回のテキストを読み準備することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

まず、授業で扱うこれらの生と死を扱うテキストを準備することである。いずれも安価な文庫本になっているものが多い。しかし、中には既に絶版になっているものもある。その場合は全集等を使うことになるので、早めに準備することが望まれる。また、テーマは主として、「結核」や「ハンセン病」など、現在日本では過去の病となっているものがある。従って、これらの病は一体どのような病であるのかを事前に調べておくことが望まれる。そしてこれらの生と死を扱った作品を読んでおくことである。読んで、質問等が見つかったら、メモをして教師に質問してほしい。また、留学生の場合は、同じテーマを扱った自国の作品を調べておくことも必要である。
 授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも、授業で指摘されたキーワードに従って再度読み直すことが望まれる。

教科書

授業において文庫本などを適宜指示する。

参考書

『こころの病の文化史』池田功著(おうふう)、『新版 こころの病の文化史』池田功著(おうふう)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%としてして評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

日本近現代文学に表現された生と死の文化をテーマとする。Ⅰではフィクションを対象とする。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	地域文化研究演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学)		池田 功

授業の概要・到達目標

本演習では日本近現代における生と死の文化をテーマとするが、Ⅱではその中でも病などを扱ったノン・フィクションや、戦争や公害などを扱ったルポルタージュを対象とする。生と死を見つめ、それを記録することの意味や、その背景などを考察することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：日本近現代のノン・フィクションにおける生と死の作品とは(概論)
 第3回：日本近現代のルポルタージュにおける生と死の作品とは(概論)
 第4回：『闘病記』の原点としての、正岡子規『墨汁一滴』など
 第5回：『闘病記』の原点としての、中江兆民『一年有半』など
 第6回：『闘病記』としての、高見順『闘病日記』、児玉隆也『ガン病棟の九十九日』など
 第7回：『闘病記』としての、井村和清『飛鳥へ、そしてまだ見ぬ子へ』、重兼芳子『いのちと生きる』
 第8回：『闘病記』としての、岩田隆信『医者が末期がん患者になって』、中野孝次『癌日記』など
 第9回：水俣病の公害を扱った、石牟礼道子『苦海浄土』など
 第10回：砂漠のような稀薄な現代人を扱った、沢木耕太郎『おばあさんが死んだ』(『人の砂漠』)など
 第11回：戦争を扱った、島尾敏雄『魚雷艇学生』や野間宏、大岡昇平の作品など
 第12回：生きる希望を扱った、柳澤桂子『認められぬ病』、『癒されて生きる』など
 第13回：その他の生と死を扱った、ノン・フィクションの作品
 第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する。
 作品は参加者の希望により変更することがある。

履修上の注意

授業では生と死を扱った日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。それぞれの作品名を書いたが、参加者の希望により他の作品を取り上げることも可能である。事前にそれぞれの回のテキストを読んで準備することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

まず、これらの生と死を扱ったテキストを準備することである。いずれも安価な文庫本になっているものが多い。しかし、中には既に絶版になっているものもある。その場合は全集等を使うことになるので、早めに準備することが望まれる。テーマの中でも病に関しては「結核」や「ハンセン病」や「癌」などであるが、これらの病は一体どのような病であるのかを事前に調べておくことが望まれる。また、「戦争」や「姥捨て」「自殺」についても、その時代背景やどのようなものなのかや統計等を調べておいてほしい。そしてきちんとテキストを読んでおくことである。読んで質問等が見つかったら、メモをして教師に質問してほしい。また、留学生の場合は、同じテーマを扱った、自国の作品を調べておくことも必要である。
 授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも、授業で指摘されたキーワードに従って再度読み直すことが望まれる。

教科書

『墨汁一滴』正岡子規(岩波文庫)他。

参考書

参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、学期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

日本近現代文学に表現された生と死の文化をテーマとする。Ⅱではノンフィクションを対象とする。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)		池田 功

授業の概要・到達目標

本演習では日本人論をテーマとする。外国人が書いた日本人論や、日本人が書いた日本人論などの検討や、さらに日本人と外国人との国際結婚の問題、また外国人が書いた日本についてのルポなども取り上げ、日本人とは何かを考察することを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：外国人や日本人が書いた日本人論について(文化史的概論)
第3回：日本人と外国人との国際結婚について(文化史的考察を含む概論)
第4回：明治期における外国人が書いた日本について(モース『日本その日その日』などの概論)
第5回：ルース・ベネディクト『菊と刀』など
第6回：李御寧『「縮み」志向の日本人』、金両基『キムチとお新香』など
第7回：中根千枝『タテ社会の人間関係』など
第8回：土居健郎『「甘え」の構造』など
第9回：国際結婚を描いた作品(西欧人、戦争花嫁)、『蝶々夫人』や『ベティさんの庭』など
第10回：国際結婚を描いた作品(朝鮮結婚)、張赫宙や金史良などの作品
第11回：国際結婚をした小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の見た日本
第12回：漫画に描かれた日本、ビゴーなど
第13回：その他の日本や日本人を扱った作品の分析(アイヌの文化なども)
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する。
作品は参加者の希望により変更することがある。

履修上の注意

授業では日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。それぞれの作品名を書いたが、参加者の希望により他の作品を取り上げることも可能である。事前にそれぞれの回のテキストを読んで準備することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

まずこれらの日本人論と国際結婚を扱ったテキストを準備することである。いずれも安価な文庫本で手に入るものが多い。しかし、中には既に絶版になっているものもある。その場合には全集等によって準備をしてほしい。外国人の書いた日本人論は、すべて日本語に翻訳されているものを使用するが、留学生においては英語や韓国語や中国語の原典や、あるいは日本語以外の翻訳本を手に入れて比較をすることも必要である。

授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも授業で考察された問題等を再度吟味することが望まれる。

教科書

『菊と刀』ルースベネディクト(社会思想社)他。

参考書

『日本人論』の中の日本人 築島健三著(大日本図書)他。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

日本人が書いた日本人論また外国人が書いた日本人論をテーマとする。及び国際結婚を作品と関わらせて考察する。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学)		池田 功

授業の概要・到達目標

本演習では生活の基礎となる「職業」を描いた作品を通して、日本の近代の職業にはどのようなものがあったのかや、あるいは勤勉ともエコノミックアニマルとも言われる日本人は、働くことをどのように考えていたのかなどを考察する。職業を通して日本近代及び日本人を考えることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション(フリーター、ニートのことも話題にする)
第2回：明治期低賃金労働者の世界のルポルタージュ(概論)ワーキングプアの問題も
第3回：明治の職業往来、社会と関わり家族を支えるという考え(概論)
第4回：「職業」の発見、天職とは何か(概論)
第5回：明治期低賃金労働者の世界、松原五郎『最暗黒の東京』、中川清『明治期東京下層生活誌』
第6回：明治期低賃金労働者の世界、横山源之助『日本の下層社会』、ワーキングプアとは
第7回：女性に多い職業、看護婦、女中(家政婦)、小川洋子『博士の愛した数式』など
第8回：女性に多い職業、娼妓、妾、芸者、樋口一葉『たけくらべ』など
第9回：資格、免許の必要な職業、弁護士、外交官、医者、森鴎外『大発見』など
第10回：公務員の世界、兵士、自衛隊、政治家、警察官、教師、二葉亭四迷『浮雲』など
第11回：ジャーナリズムの世界、新聞記者、石川啄木『我等の一団と彼』など
第12回：転職をするとはどういうことか、池田功他編『「職業」の発見』をテキストに
第13回：転職をするとはどういうことか、池田功他編『「職業」の発見』をテキストに
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する。
作品は参加者の希望により変更することがある。

履修上の注意

授業では職業を扱った日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。それぞれの作品名を書いたが、参加者の希望により他の作品を取り上げることも可能である。事前にそれぞれの回のテキストを読んでおくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

まず演習で扱うテキストを準備することである。いずれも安価な文庫本になっているものが多い。しかし、中には既に絶版になっているものもある。その場合は全集等により準備してほしい。テーマは職業であるが、車引きや屑拾い、立ちん坊など現在ではほとんど見られなくなったものもある。そのような職業を前もって調べておくことが望ましい。また、拙著の『明治の職業往来』や同じく拙著の『「職業」の発見』もきちんと読んでほしい。もし質問等が見つかったら、メモをして教師に質問してほしい。

授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも、演習で指摘されたキーワードに従って再度読み直すことが望まれる。

教科書

『明治の職業往来 名作に描かれた明治人の生活』池田功他編(世界思想社)

参考書

『「職業」の発見 転職の時代のために』池田功他編(世界思想社)他。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

「職業」を描いた作品と職業を考察することをテーマとする。また現代のフリーター・ニートワーキングプアの問題さらに女性に多い職業や資格免許の必要な職業についても考察する。これらを通して日本の近代についてやまた日本人とはどのような民族なのかも考察したいと思う。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

東アジア表象文化論。東アジア各国の演劇、映画、テレビ番組、音楽、芸能などを取り上げ、現代文化の成り立ちをあらためて考える。

視覚文化・聴覚文化を含む東アジアのハイカルチャーとサブカルチャーの特徴を理解することを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：「動漫文化」(1)
 第3回：「動漫文化」(2)
 第4回：「動漫文化」(3)
 第5回：演劇と映画(1)
 第6回：演劇と映画(2)
 第7回：演劇と映画(3)
 第8回：演劇と映画(4)
 第9回：寄席演芸(1)
 第10回：寄席演芸(2)
 第11回：寄席演芸(3)
 第12回：複製技術時代の表象芸術
 第13回：デジタル技術時代の表象芸術(1)
 第14回：デジタル技術時代の表象芸術(2)

履修上の注意

授業の内容・進度等は、受講生の専攻や、その時々の方の学習の動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。随時プリントを配布。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使います。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

東アジアのコードとタブー。日本や中国を中心に東アジアのサブカルチャーの作品を取り上げて分析し、その社会のコードとタブーを考察する。

具体的には、演劇作品、テレビ・映画作品、漫画・アニメ、通俗歌曲、小説などを取り上げ、それらの作品に通底する暗黙知的な約束事を考察することを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：「放送禁止歌」(1)
 第3回：「放送禁止歌」(2)
 第4回：再放送禁止となったテレビドラマ(1)
 第5回：再放送禁止となったテレビドラマ(2)
 第6回：封印作品となった漫画(1)
 第7回：封印作品となった漫画(2)
 第8回：封印作品となった漫画(3)
 第9回：放映禁止にされた映画(1)
 第10回：放映禁止にされた映画(2)
 第11回：問題小説(1)
 第12回：問題小説(2)
 第13回：問題小説(3)
 第14回：アングラ演劇

履修上の注意

授業内容は、受講生の要望や授業の進度に応じて多少、変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。随時プリントを配布。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使います。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	2025年度開講せず
科 目 名	地域文化研究演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

東アジアのヒーロー論。中国と日本を中心に東アジアのサブカルチャーの作品をとりあげ、ヒーロー・ヒロイン像を分析する。

具体的には、演劇作品、テレビ・映画作品、漫画・アニメ、通俗歌曲、小説などを取り上げ、それらの作品に通底する暗黙的な約束事を考察することを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：孫悟空(1)
第3回：孫悟空(2)
第4回：三国志(1)
第5回：三国志(2)
第6回：三国志(3)
第7回：三国志(4)
第8回：水滸伝(1)
第9回：水滸伝(2)
第10回：京劇(1)
第11回：京劇(2)
第12回：ドラマ・映画(1)
第13回：ドラマ・映画(2)
第14回：アニメ・漫画

履修上の注意

授業内容は、受講生の要望や授業の進度に応じて多少、変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。随時プリントを配布。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使います。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	2025年度開講せず
科 目 名	地域文化研究演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

異文化交流論。日本人の中国文化の受容と変容、および中国人の日本文化の受容と変容について、サブカルチャーの作品をとりあげて分析し、受容の特色を考察する。

日中両国の文化の性格の違いを比較分析することを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：日本における漢字の受容と変容(1)
第3回：日本における漢字の受容と変容(2)
第4回：日本における漢字の受容と変容(3)
第5回：日本の鎖国期における中国文化の受容(1)
第6回：日本の鎖国期における中国文化の受容(2)
第7回：日本の鎖国期における中国文化の受容(3)
第8回：日本の鎖国期における中国文化の受容(4)
第9回：日本の鎖国期における中国文化の受容(5)
第10回：近代日本における中国文化の受容
第11回：近代中国における日本文化の受容(1)
第12回：近代中国における日本文化の受容(2)
第13回：近代中国における日本文化の受容(3)
第14回：インターネット時代の異文化交流について

履修上の注意

授業内容・進度は、受講生の要望や、その時の学界の動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。随時プリントを配布。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使います。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

中東社会の基本的な構造と近代以降の諸問題を再検討する。履修者には、19世紀以降の中東諸社会で問題とされているトピックについて考察し、独自の分析視角をみつけてほしい。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：中東における宗教・宗派とコミュニティ
 第3回：中東における近代化の諸問題(1)植民地主義とオリエンタリズム
 第4回：中東における近代化の諸問題(2)ナショナリズムとエスニシティ
 第5回：中東における近代化の諸問題(3)資源と国際政治
 第6回：中東におけるジェンダー問題(1)基本概念の整理
 第7回：中東におけるジェンダー問題(2)「ベール」批判
 第8回：中東におけるジェンダー問題(3)産業構造の変化と女性
 第9回：中東におけるジェンダー問題(4)イスラーム・フェミニズム
 第10回：グローバル化とムスリム移民(1)概要
 第11回：グローバル化とムスリム移民(2)表象と移民排斥
 第12回：中東とメディアの問題(1)戦争とプロパガンダ
 第13回：中東とメディアの問題(2) ICTをめぐって
 第14回：まとめ

履修上の注意

中東の歴史・地理などについてこれまでになんらかの勉強をしてあることが望ましい。初級でもかまわないので、アラビア語・ペルシア語・トルコ語のいずれかを勉強してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで、各回にとりあげるトピックの詳細について話し合い、履修者の希望をなるべくいれるかたちで大幅な変更もありうる。そこでたてた計画に合わせて、各回の準備をおこなってこよう。

教科書

特に指定しない。

参考書

随時、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各授業で適宜行う。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表や議論に積極的に参加すること)。

その他

出席者の興味関心や時局にあわせて、授業内容は変える可能性が高いので、イントロダクションの回には必ず出席すること。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

近年、グローバル化の進行とともに中東やイスラーム教徒の間で顕著となってきた事象をとりあげ、現代社会におけるイスラームとグローバル化の具体的様相について考察する。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：中東・北アフリカ(MENA)における近代化とイスラーム
 第3回：近代政治思想：植民地主義に抗して
 第4回：ナショナリズムの諸問題(1)
 第5回：ナショナリズムの諸問題(2)
 第6回：公共性と市民運動
 第7回：ジェンダーの問題
 第8回：MENAのスポーツと女性
 第9回：新しいメディア：衛星放送とICT
 第10回：消費文化と社会の変容
 第11回：移民とネットワーク
 第12回：ポップカルチャー
 第13回：他地域との交流をめぐって
 第14回：まとめ

履修上の注意

山岸の地域文化研究演習(Ⅰ)を受講したのちに履修してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業の先立って、必要資料を配布し、資料の要約をする担当を決める。
 担当者はもちろんのこと、その資料を予習して授業にのぞむように準備する。

教科書

特に指定しない。

参考書

受講者の関心にあわせて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(発表や議論に積極的に参加すること)。

その他

受講に関心がある学生は、第1回のイントロダクションに必ず出席するように。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

修士論文執筆に向けて、既存研究を確認し、資料の精読を始める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：既存研究の見直し(1)
第3回：既存研究の見直し(2)
第4回：既存研究の見直し(3)
第5回：既存研究の見直し(4)
第6回：既存研究の見直し(5)
第7回：扱うべき資料の確認(1)
第8回：扱うべき資料の確認(2)
第9回：資料精読(1)
第10回：資料精読(2)
第11回：資料精読(3)
第12回：資料精読(4)
第13回：資料精読(5)
第14回：総合討論

履修上の注意

一緒に英文資料を精読できる力が必要である。できればペルシア語もできるほうがのぞましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで、とりあげるべき論文や資料について話し合う。
読むべき資料・論文・書籍が決めた後、それにしたがって予習してくること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

随時、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(発表や議論に積極的に参加すること)。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆を進めるための指導を行う。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：資料精読(1)
第3回：資料精読(2)
第4回：資料精読(3)
第5回：資料精読(4)
第6回：資料精読(5)
第7回：論文指導1 問題設定について
第8回：論文指導2 章立てについて
第9回：論文指導3 既存研究のまとめと展開すべき論点について
第10回：論文指導4 扱った資料の位置づけについて
第11回：論文指導5 資料精読による新しい論点について
第12回：論文指導6 結論について
第13回：論文指導7 註や参考文献について
第14回：全体のみなおし

履修上の注意

演習Ⅲを終えてから履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで、読むべき資料・論文・書籍などを話し合ってから決めるので、それらを読んで予習する。さらに修士論文の進行状況について、口頭発表ができるようにする。

教科書

とくに指定しない。

参考書

随時、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(発表や議論に積極的に参加すること)。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

初歩的な研究計画の設定。戦争と平和についての根本的な意味を第二次大戦にかかわる思想と戦後処理を参考に考える。

授業内容

第1回：研究課題の設定
 第2回：先行研究及び文献リストの作成
 第3回：丸山真男の天皇制論
 第4回：丸山真男の軍国主義論
 第5回：丸山真男のファシズム論
 第6回：丸山真男のナショナリズム論
 第7回：丸山真男の平和論
 第8回：竹内好のアジア論
 第9回：竹内好のナショナリズム論
 第10回：竹内好の現代中国論
 第11回：竹内好の「近代の超克」論
 第12回：竹内好の革命観
 第13回：今後に向けて研究計画の検証
 第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回欠かさず出席すること。指定された文献を熟読し、報告のための研究を積極的に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の準備など、入念に行うこと。

教科書

初回の演習で指定する。

参考書

初回の演習で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習における発言と報告の内容。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

研究課題にかかわる中間的な総括。第二次大戦後における第三世界及び東アジアの脱植民地化について考察する。

授業内容

第1回：研究課題の確認
 第2回：先行研究及び文献リストの確認
 第3回：日本の植民地主義にかかわる概念規定
 第4回：日本の植民地主義にかかわる評価規定
 第5回：マーク・ビーティーの植民地論(1)
 第6回：マーク・ビーティーの植民地論(2)
 第7回：松永正義の台湾領有論(1)
 第8回：松永正義の台湾領有論(2)
 第9回：フランツ・ファノンの脱植民地論(1)
 第10回：フランツ・ファノンの脱植民地論(2)
 第11回：戴國キの脱植民地論(1)
 第12回：戴國キの脱植民地論(2)
 第13回：今後に向けた研究計画の検証
 第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回欠かさず出席すること。指定された文献を熟読し、報告のための研究を積極的に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告など、入念に準備すること。

教科書

初回の演習で指定する。

参考書

初回の演習で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習における発言と報告の内容。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	地域文化研究演習Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術)	丸川	哲史

授業の概要・到達目標

研究課題にかかわる中間的な確認作業を行う。第二次大戦後に発生した冷戦構造の発生とその影響、及びその今日的残存について考察する。

授業内容

第1回：研究課題の確認
第2回：先行研究及び文献リストの確認
第3回：冷戦の発生についての歴史的概観
第4回：東アジアの冷戦構造の残存についての評価
第5回：ブルース・カミングスの朝鮮戦争論(1)
第6回：ブルース・カミングスの朝鮮戦争論(2)
第7回：戦後台湾における冷戦文化(1)
第8回：戦後台湾における冷戦文化(2)
第9回：戦後台湾における冷戦文化(3)
第10回：毛沢東の「三つの世界論」及び文革思想(1)
第11回：毛沢東の「三つの世界論」及び文革思想(2)
第12回：毛沢東の「三つの世界論」及び文革思想(3)
第13回：今後に向けた研究計画の検証
第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回欠かさず出席すること。指定された文献を熟読し、報告のための研究を積極的に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告など、入念に準備すること。

教科書

初回の演習で指定する。

参考書

初回の演習で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習における発言と報告の内容。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	地域文化研究演習Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術)	丸川	哲史

授業の概要・到達目標

研究課題にかかわる中間的な確認作業を行う。第二次大戦後に発生した冷戦構造の発生とその影響、及びその今日的残存について考察する。

授業内容

第1回：研究課題の確認
第2回：先行研究及び文献リストの確認
第3回：冷戦の発生についての歴史的概観
第4回：東アジアの冷戦構造の残存についての評価
第5回：ブルース・カミングスの朝鮮戦争論(1)
第6回：ブルース・カミングスの朝鮮戦争論(2)
第7回：戦後台湾における冷戦文化(1)
第8回：戦後台湾における冷戦文化(2)
第9回：戦後台湾における冷戦文化(3)
第10回：毛沢東の「三つの世界論」及び文革思想(1)
第11回：毛沢東の「三つの世界論」及び文革思想(2)
第12回：毛沢東の「三つの世界論」及び文革思想(3)
第13回：今後に向けた研究計画の検証
第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回欠かさず出席すること。指定された文献を熟読し、報告のための研究を積極的に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告など、入念に準備すること。

教科書

初回の演習で指定する。

参考書

初回の演習で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習における発言と報告の内容。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 前田 更子		

授業の概要・到達目標

ヨーロッパ近現代史(とくにフランス)関連の研究文献・史料の読解を通じて、修士論文を執筆するために必要な技能と知識を深める。
2024年度はとくに、フランス革命から第一次世界大戦までのフランスにおける福祉・教育の歴史を宗教・世俗化の観点から扱った文献を精読する予定である。先行研究の状況を理解し、史資料の可能性を吟味し、フランス福祉国家の形成・変容過程を考察する視点を得ることが目標となる。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究課題の確認
- 第3回 先行研究、史料調査の方法について
- 第4回 国民国家とは何か(1)
- 第5回 国民国家とは何か(2)
- 第6回 教育、福祉の歴史に関する基本文献確認
- 第7回 フランスの教育の歴史と宗教(1)
- 第8回 フランスの教育の歴史と宗教(2)
- 第9回 フランスの教育の歴史と宗教(3)
- 第10回 フランスの教育の歴史と宗教(4)
- 第11回 フランスの教育の歴史と宗教(5)
- 第12回 フランスの教育の歴史と宗教(6)
- 第13回 今後に向けての研究計画の検証
- 第14回 総合討論

履修上の注意

とくになし。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に指定する課題文献・史料等を読み、授業に備えること。

教科書

とくになし。

参考書

授業中に随時、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に対応する。

成績評価の方法

研究発表の内容および授業への貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 前田 更子		

授業の概要・到達目標

近現代史(とくにフランス)関連の研究文献・史料の読解を通じて、修士論文を執筆するために必要な技能と知識を深める。
春学期(演習Ⅰ)から継続して、フランスの福祉・教育社会史、宗教社会史に関する文献(日本語、フランス語、英語)を精読する予定である。また、文献・史料講読を通じて、西洋史研究に不可欠な外国語運用能力を高め、史料の調査方法を習得し、手稿史料の解読能力を身につけることを目指す。史料批判の視点も鍛える。なお、受講者には、各自の研究テーマに関する発表を随時行ってもらう。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 研究課題の確認
- 第3回 福祉国家とは何か(1)
- 第4回 福祉国家とは何か(2)
- 第5回 フランスの慈善と宗教(1)
- 第6回 フランスの慈善と宗教(2)
- 第7回 フランスの慈善と宗教(3)
- 第8回 フランスの慈善と宗教(4)
- 第9回 フランスの福祉と国家(1)
- 第10回 フランスの福祉と国家(2)
- 第11回 フランスの福祉と国家(3)
- 第12回 フランスの福祉と国家(4)
- 第13回 研究課題のまとめと射程
- 第14回 総合討論

履修上の注意

とくになし。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された文献・史料などを読み、授業に備えること。

教科書

とくになし。

参考書

授業中に随時、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に対応する。

成績評価の方法

研究発表の内容および授業への貢献度によって評価する。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 前田 更子		

授業の概要・到達目標

ヨーロッパ近現代史(とくにフランス)関連の研究文献・史料の読解を通じて、修士論文を執筆するために必要な技能と知識を深める。
1年時(演習I・演習II)から継続して、教育社会史、宗教社会史に関する文献を精読する予定であるが、扱う文献は、受講者の研究テーマに応じて選定する。その作業と並行して、受講者は、修士論文の執筆に向けた具体的な作業を進める。先行研究を網羅的に検討し、史料の読解に時間を費やす。授業内に複数回の発表を行ってもらい、教員および他の受講生と議論し、修士論文の精度を上げていく。

授業内容

- 第1回 イントロダクション、修士論文の計画について
- 第2回 参考文献、史料リストの作成と確認
- 第3回 修士論文の目次の作成と確認
- 第4回 先行研究文献の収集(1)
- 第5回 先行研究文献の収集(2)
- 第6回 史料の収集(1)
- 第7回 史料の収集(2)
- 第8回 史料の読解・分析(1)
- 第9回 史料の読解・分析(2)
- 第10回 史料の読解・分析(3)
- 第11回 史料の読解・分析(4)
- 第12回 史料の読解・分析(5)
- 第13回 史料の読解・分析(6)
- 第14回 課題の確認とまとめ

履修上の注意

とくになし。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された文献・史料等を読み、授業に備えること。

教科書

とくになし。

参考書

授業中に適宜、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に対応する。

成績評価の方法

研究発表の内容および授業への貢献度によって評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(史学) 前田 更子		

授業の概要・到達目標

ヨーロッパ近現代史(とくにフランス)関連の研究文献・史料の読解を通じて、修士論文を執筆するために必要な技能と知識を深める。
受講生は各自、修士論文の執筆を進める。授業の前半では複数回、口頭で発表してもらう。授業内での他の受講生・教員との議論を通じて、自らの研究の問題点を自覚し、研究を修正・深化させていく。授業の後半では、論文の草稿を教員・他の受講生とともに吟味しながら、論文の構成・内容の最終確認をする。訳語等のチェックも行う。

授業内容

- 第1回 修士論文の概要発表
- 第2回 先行研究についての発表
- 第3回 史料収集について(1)
- 第4回 史料収集について(2)
- 第5回 修士論文の内容発表・討論(1)
- 第6回 修士論文の内容発表・討論(2)
- 第7回 修士論文の内容発表・討論(3)
- 第8回 修士論文の内容発表・討論(4)
- 第9回 修士論文の内容発表・討論(5)
- 第10回 修士論文の読み合わせ(1)
- 第11回 修士論文の読み合わせ(2)
- 第12回 修士論文の読み合わせ(3)
- 第13回 修士論文の読み合わせ(4)
- 第14回 まとめと総合討論

履修上の注意

とくになし。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された文献・史料等を読み、授業に備えること。

教科書

とくになし。

参考書

授業中に適宜、提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に対応する。

成績評価の方法

修士論文、中間研究発表および授業への貢献度によって評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 佐久間 寛		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

文化人類学関連の文献の体系的な読解により、修士論文を執筆するために必要不可欠な素養を深める。とりわけ、マルセル・モース、クロード・レヴィ＝ストロース、デヴィッド・グレーバーの著作は、原典を参照しつつ精読する。贈与、負債、モラル、デモクラシーが主たる課題となる予定であるが、具体的内容は受講者の関心に応じて柔軟に組み替える。

【到達目標】

文化人類学的に思考するとはいかなる企てかという点について一定の理解を獲得する。

授業内容

- 第1回：卒業論文と修士論文についての説明
 第2回：マルセル・モース『贈与論』読解①
 第3回：マルセル・モース『贈与論』読解②
 第4回：マルセル・モース『国民論』読解①
 第5回：マルセル・モース『国民論』読解②
 第6回：C・レヴィ＝ストロース『構造人類学』読解①
 第7回：C・レヴィ＝ストロース『構造人類学』読解②
 第8回：C・レヴィ＝ストロース『野性の思考』読解①
 第9回：C・レヴィ＝ストロース『野性の思考』読解②
 第10回：D・グレーバー『価値論』読解①
 第11回：D・グレーバー『価値論』読解②
 第12回：D・グレーバー『負債論』読解①
 第13回：D・グレーバー『負債論』読解②
 第14回：総合討論

履修上の注意

課題文献は進行速度と関係なく、その文献の初回までに事前に通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を精読。必要に応じて原典にもあたること。

教科書

授業内で指定する。

参考書

授業内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で対応する。

成績評価の方法

平常点100%。

その他

特になし。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 佐久間 寛		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

民族誌の読解を通じて、具体から文化を記す技法を学ぶ。講義の前半では、マリノフスキー、レヴィ＝ストロース、エヴァンズ・プリチャード、クリフォード・ギアツなどの古典的民族誌を、講義の後半では、より専門的文献を読解する。授業後半で扱う民族誌の対象地域や対象テーマは受講者の研究課題をふまえて選考するが、人類とはなにか（あるいは人類にとり文化とはなにか）という問いの考察に資する作品であることを必須の条件とする。

【到達目標】

学びから得られた成果は、断片の集積にとどめるのではなく、体系的・有機的に総合すること。レビュー論文や書評論文としてまとめ、紀要や学会誌に投稿することが望ましい。

授業内容

- 第1回：修士論文についての確認
 第2回：B・マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』①
 第3回：B・マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』②
 第4回：C・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』読解①
 第5回：C・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』読解②
 第6回：エヴァンズ・プリチャード『ヌアー族』読解①
 第7回：エヴァンズ・プリチャード『ヌアー族』読解②
 第8回：C・ギアツ『ヌガラ』読解①
 第9回：C・ギアツ『ヌガラ』読解②
 第10回：民族誌読解①
 第11回：民族誌読解②
 第12回：民族誌読解③
 第13回：民族誌読解④
 第14回：総合討論

履修上の注意

課題文献は進行速度と関係なく、その文献の初回までに事前に通読しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を精読。必要に応じて原典にもあたること。

教科書

授業内で指定する。

参考書

授業内で指定する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で対応する。

成績評価の方法

平常点100%。必要な場合はレポートや投稿論文を評価対象に加える。

その他

特になし。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 佐久間 寛		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

修士論文の執筆に向けた具体的作業を進める。目次の作成、論文概要の提示、先行文献の収集・読解・分析などを段階的に進め、各段階ごとに実際に修士論文のベースとなる記述を積み重ねていく。また、フィールドワークを予定している受講者に対しては、修士論文のうち調査地の概要紹介にあたる章を優先的に執筆してもらうと同時に、調査内容と調査手法に関する計画を策定し、複数回にわたり発表してもらう。

【到達目標】

自分がなにをなぜいかに研究しているのかを不断に問いなおし、可能な限り言語化する訓練を積む。

授業内容

- 第1回：修士論文の構想
- 第2回：目次の作成
- 第3回：調査地概要の作成(1)
- 第4回：調査地概要の作成(2)
- 第5回：調査内容に関する報告
- 第6回：調査手法に関する計画
- 第7回：先行文献の収集(1)
- 第8回：先行文献の収集(2)
- 第9回：先行文献の読解(1)
- 第10回：先行文献の読解(2)
- 第11回：先行文献の読解(3)
- 第12回：先行文献の分析(1)
- 第13回：先行文献の分析(2)
- 第14回：先行文献の分析(3)

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で説明する。

教科書

授業内で紹介する。

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で対応する。

成績評価の方法

平常点100%。

その他

特になし。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(学術) 佐久間 寛		

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

修士論文の執筆を進める。講義の前半では序章と終章をのぞく論文の草稿を順次執筆した上で、その内容を教員および他の受講者とともに吟味する。教員・他の受講者は事前に草稿を読解する必要があるため、事前の提出を必須とする。講義の後半からは、まず全体の構想を再検討した上で各章のリライトを行い、これらの作業の総合として、序章および終章をまとめる。その後論文全体に関する口頭発表を行う。

【到達目標】

修士論文を完成させるとともに、自らの修士論文を一読者として批判的に読み直す視座を獲得する。

授業内容

- 第1回：修士論文の概要発表
- 第2回：先行文献についての報告
- 第3回：調査方法についての報告
- 第4回：修士論文の内容発表(1)
- 第5回：修士論文の内容発表(2)
- 第6回：修士論文の内容発表(3)
- 第7回：修士論文の内容発表(4)
- 第8回：修士論文の内容発表(5)
- 第9回：映像作品の鑑賞(1)
- 第10回：映像作品の鑑賞(2)
- 第11回：修士論文の読み合わせ(1)
- 第12回：修士論文の読み合わせ(2)
- 第13回：修士論文の読み合わせ(3)
- 第14回：修士論文の読み合わせ(4)

履修上の注意

授業内で説明する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で説明する。

教科書

授業内で紹介する。

参考書

授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で対応する。

成績評価の方法

平常点100%。

その他

特になし。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(比較文学) ネルソン, リンジー		

授業の概要・到達目標

In this course students will begin the research process for their graduation theses. We will meet regularly to discuss progress and will occasionally discuss assigned readings or films related to students' graduation thesis topics.

授業内容

Contents to be determined by students and their thesis topics, with some recommendations from the professor.

履修上の注意

None.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

Reading materials will be chosen by students and occasionally by the professor (again, based on thesis topics).

参考書

None.

課題に対するフィードバックの方法

I will provide regular oral and occasional written feedback on student work.

成績評価の方法

Research progress: 50%
Participation: 50%

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(比較文学) ネルソン, リンジー		

授業の概要・到達目標

Students will continue to develop and revise their graduation theses under the guidance of the professor.

授業内容

To be determined by the students and the professor.

履修上の注意

None.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

To be determined by the students and the professor.

参考書

None.

課題に対するフィードバックの方法

The professor will provide regular written and oral feedback on the thesis. Students will also occasionally provide feedback.

成績評価の方法

Participation: 50%
Progress on thesis: 50%

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(比較文学) ネルソン, リンジー		

授業の概要・到達目標

In this course students will continue the research process for their graduation theses. We will meet regularly to discuss progress and will occasionally discuss assigned readings or films related to students' graduation thesis topics.

授業内容

Contents to be determined by students and their thesis topics, with some recommendations from the professor.

履修上の注意

None.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

Reading materials will be chosen by students and occasionally by the professor (again, based on thesis topics).

参考書

None.

課題に対するフィードバックの方法

I will provide regular oral and occasional written feedback on student work.

成績評価の方法

Research progress: 50%
Participation: 50%

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任准教授 博士(比較文学) ネルソン, リンジー		

授業の概要・到達目標

In this course students will write and revise their graduation theses to completion. We will meet regularly to discuss progress. Students will evaluate each other's work, and their work will also be evaluated by the professor.

授業内容

Contents to be determined by students and their thesis topics, with some recommendations from the professor.

履修上の注意

None.

準備学習（予習・復習等）の内容

None.

教科書

Reading materials will be chosen by students and occasionally by the professor (again, based on thesis topics).

参考書

None.

課題に対するフィードバックの方法

I will provide regular oral and occasional written feedback on student work.

成績評価の方法

Research progress: 50%
Participation: 50%

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化論研究特論Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 中村 和恵		

授業の概要・到達目標

授業の概要
読む、という作業を徹底するには、どうしたらいいのか？ なにに注目すべきで、どんなアプローチが可能なのか。テキスト・クリティークのレッスンと、文化論の可能性、比較文化論への入門として、重要となるいくつかの視点を紹介しながら、複数のテキストを材料にした分析実践の例を示すかたちで講義を行う。今学期は主要主題として「15年戦争と日本人の外国人観」を置きたい。

対象テキストは時事的なエッセイ、近現代日本の短編小説、論争的主题に関わる論文、漫画、TVドラマなど。性質の異なる日本語作品を対象に、履修生の関心の方向に配慮しつつ、無批判な自画自賛でも海外文化称揚でもない、クリティカルな日本人論の可能性を念頭におきながら文章を精読・分析・議論していきたい。

到達目標
多岐にわたる専門分野からこの研究科に集まった学生たちにとって共通に有益な手段となりうる比較文学・比較文化の発想法を紹介し、これを用いて実践的にテキスト分析を行うことを可能にする。

授業内容

- 第1回：授業の方針説明と参加者の関心確認 担当者からの提案とテキスト調節 ＊100分授業
第2回：分析提案1 横光利一『旅愁』のなかが失敗したのか
第3回：分析提案2 横光利一 つづき
第4回：分析提案3 水木しげるのみた戦争 ヒトラーとラバウル
第5回：分析提案4 鶴見俊輔の戦時期日本論
第6回：分析提案5 有吉佐和子『非色』と山田詠美『トラッシュ』
第7回：分析提案6 大田洋子『屍の街』のアメリカ批判はいまどう響く
第8回：分析提案7 大田洋子 つづき
第9回：人種と民族の表象 核となる言説(1)
第10回：人種と民族の表象 核となる言説(2)
第11・12・13回：履修者各人が選定したテキストと主題による分析実践と議論。担当教員による解説。
第14回：総括ディスカッションと評価についての説明、コメントや発表へのフィードバック レポートについて [メディア授業 (オンデマンド型)] ＊50分授業

以上授業内容は開講前の予定であり履修者の人数・関心の方向等を鑑みて適宜修正を加えるものとする。

履修上の注意

調べてもわからないことがあるはずです。心配せず、質問してください。基礎概念や方法論を探り問題意識を共有する授業ですから、最初から専門知識を備えている必要はありません。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト精読を前提に議論を行うので、毎週作品を読んでくること。自分の担当でないものについては一通り目を通し、発表後に有意義な質問ができるよう心がけてください。

対象テキストの担当者(テキストごとに指定します)はテキスト分析に加え、できかぎり詳細に調べ、疑問点を明確にして紹介準備をすること。

教科書

対象テキストは基本的にプリントを配布(ウェブに抜粋をアップロードするかコピーを配布)します。履修決定後に参加者の扱うテキストを決め、場合によっては文庫本など入手しやすいテキストを指示します。

参考書

今橋映子、井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024
中村和恵『日本語に生まれて』(岩波書店)。その他授業中に適宜指示していきます。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中発表 30% 平常点(ディスカッションへの貢献度) 30% レポート(コメントレポートと課題レポート) 40%

その他

異文化接触を楽しむ姿勢で積極的に臨んでください。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化論研究特論Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

流動化しグローバル化する《現代文化》に、学問として斬りこむための視角を検証する。

参考書の記述をたどりながら、主として文化社会学としてとりあげられる概念や事象をとりあげて、考察する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：遊びから文化へ
第3回：コミュニケーションとしての文化
第4回：日本の文明開化から文化主義へ
第5回：マスカルチャー
第6回：文化産業
第7回：差異としての文化
第8回：文化帝国主義
第9回：ジェンダー
第10回：ネットワーキング
第11回：パフォーミングする文化
第12回：観光
第13回：遊びと文化
第14回：全体のまとめ

履修上の注意

第1回のイントロダクションにかならず出席してください。

履修者の興味関心や問題意識に即して内容を少し変更することもあります。一方的な講義に終始するのではなく、双方向的な議論をできるようにと考えています。

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回目のイントロダクションで、担当トピックを決めるので、それにしたがって予習してきてください。

教科書

吉見俊哉著 『現代文化論』(有斐閣アルマ) 2018年

参考書

随時、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、コメントを述べる。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表や議論に積極的に参加すること)。

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	文化論研究特論Ⅲ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(学術) 佐久間 寛		

授業の概要・到達目標

【授業概要】

本講義では経済人類学の古典的文献、とりわけカール・ポランニーの人間経済論を学ぶ。英語原典の精読を通じ、語彙レベルからのポランニー思想の捉えなおしを試みる。この作業を通じて、今日においてもなお根深い市場中心的な経済観を再考し、社会に埋め込まれた人間経済がもたらす現代的可能性を探る。

【到達目標】

基礎文献の精読により、経済人類学に関する正確な知識を身につける。同時に、古典的文献の批判的読解を通じて既存の解釈を乗り越える思考力を養う。

授業内容

- 第1回目 人間経済とはなにか——ポランニー思想の可能性
- 第2回目 The Livelihood of Man, Introduction. (1)
- 第3回目 The Livelihood of Man, Introduction. (2)
- 第4回目 The Economistic Fallacy (1)
- 第5回目 The Economistic Fallacy (2)
- 第6回目 Is America an Exception?
- 第7回目 The Breakdown of the International System
- 第8回目 Forms of Integration and Supporting Structure
- 第9回目 The Two Meanings of Economic (1)
- 第10回目 The Two Meanings of Economic (2)
- 第11回目 On the Comparative Treatment of Economic Institutions in Antiquity with Illustrations from Athene, Mycenae, and Alalakh (1)
- 第12回目 On the Comparative Treatment of Economic Institutions in Antiquity with Illustrations from Athene, Mycenae, and Alalakh (2)
- 第13回目 The Economy Embedded in Society (1)
- 第14回目 The Economy Embedded in Society (2)

履修上の注意

授業への参加度を重視するので注意すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

英語文献の精読が中心となる。分からない単語や表現は事前に調べておくこと。

教科書

特に定めない。講義ごとに資料を配付する。

参考書

特に定めない。適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度および授業ごとのリアクションペーパー(70%)、学期末レポート(30%)

その他

受講者の疑問や要望を極力尊重し、必要な場合には授業内容を柔軟に見直す。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化論研究特論Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(比較文学) ネルソン, リンジー		

授業の概要・到達目標

The Language of Cinema

This course offers an introduction to film as an art form and as a “language.” We will learn how to talk about film, how to write about it, and how to think about it. We will begin by learning about concepts like mise-en-scene, editing, and framing before moving on to examine specific films. The films we discuss will be primarily Japanese and English (produced in the U.S.). Many of our readings will come from the textbook Film Art: An Introduction.

By the end of this class, you should be able to:

- 1) understand and use a new selection of English vocabulary related to film
- 2) have conversations about film in English that go beyond plot and likes/dislikes
- 3) understand film concepts like mise-en-scene, genre, style, and editing
- 4) give short presentations about concepts related to film
- 5) write an original essay in which you analyze a film scene's framing, sound, editing, and/or lighting

授業内容

1. Course introduction
2. Discussion of reading, in-class writing
3. Discussion of reading, presentations, in-class writing
4. Discussion of reading/film, presentations, in-class writing
5. Discussion of reading/film, presentations, choose essay topic
6. Discussion of reading/film, presentations, in-class writing
7. Discussion of reading/film, presentations, essay first draft due
8. Discussion of reading/film, comments on essays, in-class writing
9. Discussion of reading/film, in-class writing
10. Discussion of reading/film, in-class writing
11. Discussion of reading/film, in-class writing
12. Discussion of reading/film, in-class writing
13. Discussion of reading/film, in-class writing
14. Final essay due, semester review

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

Before each class, students should read the assigned reading, watch the assigned film, and/or complete any additional homework assignments. Students will also be asked to comment on that week's film or reading online, and we will discuss those comments in class. Students should read and view “actively” (taking notes, writing down questions, making note of words or ideas that they don't understand).

Films will be available to rent via the Meiji Library or online via streaming services like Amazon Prime Video.

教科書

No textbook (readings and links will be available via Oh-ol Meiji).

参考書

Please see the weekly schedule.

課題に対するフィードバックの方法

I will mark your class presentation and final essay, as well as giving written feedback on both. I will also (sometimes) give written feedback on homework assignments and responses to readings and films.

成績評価の方法

Participation: 30%
Presentation: 30%
Final Essay: 40%

その他

If you have questions about the course please feel free to email me at lindsayrebeccanelson@gmail.com. (Please call me Professor Nelson.)

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究特論Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼担准教授		黒崎 典子

授業の概要・到達目標

【授業概要】
本授業では、大学院における研究活動に必要な日本語の口頭表現能力及び文章表現能力について具体的に分析し、検討する。日本語表現に関する知識の習得だけでなく、それと同時に、実際に口頭表現能力、文章表現能力を高めるための演習を行い、効果的な研究発表、文章作成能力を身につける。なお、この授業は、日本語を外国語として捉えた視点で進めるため、外国人留学生を対象としている。

【到達目標】
知識の習得、演習を通して、自身の研究内容をより適切に、よりわかりやすく伝えられることを目標とする。口頭表現においては、母語干渉による発音、イントネーションに対する理解を通して自分自身の口頭表現を見直して実践できるようにし、文章表現においては、日本語の論述文についての知識を得て、演習を通して書く技術を磨くことを目標とする。

授業内容

- 第1回：a：イントロダクション
- 第2回：日本語で研究論文を書くことについて
- 第3回：話し言葉と書き言葉のスタイルについて
- 第4回：日本語の音声表現(1)単音と母語干渉
- 第5回：日本語の音声表現(2)アクセントとイントネーション
- 第6回：研究発表における口頭表現技術(1)基本
- 第7回：研究発表における口頭表現技術(2)演習
- 第8回：論述文における引用とその方法(基本)
- 第9回：論述文における引用とその方法(演習)
- 第10回：論述文における文章データの明示と考察
- 第11回：論述文における論の展開
- 第12回：推敲とその方法
- 第13回：研究発表演習(1)
- 第14回：研究発表演習(2)

履修上の注意

この授業は外国人留学生（主に博士前期課程初年次）を対象としている。アカデミックな場面における口頭表現及び文章表現を学び、確実に身につけていくため、受講生は主体的に授業活動や課題に取り組むことが求められる。また、受講生と相談の上、授業内容及び順序が変更になることもある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業内容の対象となる課について、事前に教科書を読んでおくことが望ましい。また、添削、指導を受けた課題については必ず見直し、確実に習得するようにする。最終レポートおよび研究発表は、授業で学んだことを生かして計画的に取り組んでほしい。

教科書

『大学生と留学生のための論文ワークブック』浜田麻里他(くろしお出版)
その他適宜資料を配布する。

参考書

『日本語の発音教室 理論と練習』田中真一・窪園晴夫(くろしお出版)、『レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイドー大学生・大学院生のための自己点検法29』佐渡島紗織他(大修館書店)、『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』アカデミック・ジャパニーズ研究会編著(アルク)、『よくわかる文章表現の技術①表現・表記編(新版)』石黒圭(明治書院)、『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』二通信子他(東京大学出版会)、『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第二版)ープロセス重視のレポート作成』大島弥生他(ひつじ書房)、『論文作成のための文章力向上プログラムーアカデミック・ライティングの核心をつかむ』村岡貴子他(大阪大学出版会)、『日本語超級話者へのかけはし』萩原雅佳子他(スリーエーネットワーク)など。

課題に対するフィードバックの方法

原則として、課題は添削後に次回授業、または提出期限日から1週間後までに、各自に返却する。

成績評価の方法

研究発表(25%)、最終レポート(25%)、授業内課題(30%)、授業貢献度(20%)にもとづき、総合的に評価する。

その他

アカデミックな場面における日本語の口頭表現及び文章表現の方法について検討、実践をしていくが、それだけではなく、さらなる総合的な日本語力向上のために本授業の機会を積極的に利用してほしい。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究特論Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		畑中 基紀

授業の概要・到達目標

近代日本文学のテキスト分析。近代日本の詩や小説を数本選び、論文作成に展開することも意識した分析と検討を行う。ただし、分析作業は主に受講者の課題とし、その成果の発表と、それを受けた全員での討論を中心に授業を進めていく。その過程が、批評理論、あるいは文学理論を学ぼうとする人にとっては、適切なガイドになるよう心がけたい。

対象作品としては、とりえず夏目漱石の『門』を予定しているが、これ以外については受講者と相談のうえ決定する。テキストを解釈して批評をするための心構えと基礎的な力を身につけることが目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクションー文学研究の目的と方法
 - 第2回：文学テキストについての基礎知識
 - 第3回：作品1についての発表と批評(討論)
 - 第4回：作品1についての再発表と批評(討論)
 - 第5回：作品2についての発表と批評(討論)
 - 第6回：作品2についての再発表と批評(討論)
 - 第7回：作品3についての発表と批評(討論)
 - 第8回：作品3についての再発表と批評(討論)
 - 第9回：作品4についての発表と批評(討論)
 - 第10回：作品4についての再発表と批評(討論)
 - 第11回：作品5についての発表と批評(討論)
 - 第12回：作品5についての再発表と批評(討論)
 - 第13回：作品6についての発表と批評(討論)
 - 第14回：作品6についての再発表と批評(討論)
- (状況により、内容の入れ替えや変更を行うこともある)

履修上の注意

教室で取り上げるものに限らず、広く文学作品や批評を渉猟し読破する馬力と根気が必要である。

準備学習（予習・復習等）の内容

対象作品を深く読み込むこと、先行文献をよく調査・検討すること、分析と議論を構築する作業に、真摯に粘り強く取り組まなければならない。

教科書

夏目漱石『門』(新潮文庫)。その他は教室にて指示。

参考書

柄谷行人『漱石論集成』2017.11、岩波現代文庫。その他教室で随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

教室で。

成績評価の方法

平常点50%＋期末レポート50%

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究特論Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(文学)	神田 正行	

授業の概要・到達目標

《歌舞伎と江戸文芸》

江戸時代から続く芸能「歌舞伎」について、その成立から今日までの変遷を概観します。

前半では歌舞伎の成立と歴史を解説し、後半では『三人吉三巴白浪』の「大川端」を輪読します。

授業内容

第1回：イントロダクション(※必ず出席してください)

第2～6回：歌舞伎の成立と展開／中国演劇との比較

第7回：河竹黙阿弥と『三人吉三巴白浪』

第8～14回：「大川端」輪読

第14回：まとめ

※授業内容は、履修者と相談の上で変更することがあります。

履修上の注意

配布するプリントと、中型(大辞泉・大辞林クラス)以上の国語辞典(電子辞書・スマートフォンでも可)を持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

(復習) 配布する資料やノートを精読して、授業内容を理解してください。

教科書

※必要な資料は、プリントして配布します。

参考書

・延広真治編『三人吉三郎初買(歌舞伎オン・ステージ)』(白水社、2008)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で逐次行います。

成績評価の方法

授業発表(50%)、授業参加(50%)。

その他

指導テーマ

日中古典芸能

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	文化理論研究特論Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授	広沢 絵里子	

授業の概要・到達目標

ヨーロッパにおける自伝は文学の一ジャンルとして20世紀以降さまざまに議論されてきた。この講義では20世紀初頭に展開しつつあったフロイトの精神分析において、どのような自伝的・伝記的言説が残されてきたかに焦点を当てる。具体的には、精神分析の創成期に執筆された『ヒステリー研究』(フロイアー、フロイト)と『夢解釈』(フロイト)を対象とし、自伝的・伝記的記述における医師対患者、男性対女性という権力関係、学術的著作における研究者(医師)の自画像などを検討する。

この授業の到達目標は、文献の読解を通じて、ある人生像がテキスト内でどのように構築されていくかのプロセスを理解することである。

授業内容

第1回 導入 この授業の目的と講義内容について

第2回 ヒステリーとは何か(1)

第3回 ヒステリーとは何か(2)

第4回 フロイトにおける伝記的なもの(1)「病歴」

第5回 『ヒステリー研究』(1895)(1)

第6回 『ヒステリー研究』(1895)(2)

第7回 『ヒステリー研究』(1895)(3)

第8回 『ヒステリー研究』(1895)(4)

第9回 フロイトにおける伝記的なもの(2)無意識における「私」の物語

第10回 『夢解釈』(1900)(1)

第11回 『夢解釈』(1900)(2)

第12回 『夢解釈』(1900)(3)

第13回 『夢解釈』(1900)(4)

第14回 口頭発表と議論

第15回 まとめ議論

※履修者数によって授業内容を一部変更することがあります。

履修上の注意

授業への積極的参加のほか、授業時間内での口頭発表、課題提出を求めることがあります。

講読予定の文献については、指定された範囲を必ず読んで授業に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

文献から抜粋したコピーをリーダーとして用意します。

参考書

『フロイト全集』全22巻・別巻1(岩波書店)(特に、2巻「1895年 ヒステリー研究」、4巻・5巻「1900年 夢解釈 I/II」)

ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン(谷川多佳子、和田ゆりえ訳)『ヒステリーの発明 シャルコーとサルペトリエール写真図像集』上・下巻(みすず書房 2014年)

エティエンヌ・トリヤ(安田一郎、横倉れい訳)『ヒステリーの歴史』(青土社 1998年)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でのコメントを返す。

成績評価の方法

授業への積極的参加(20%)、授業時間内での口頭発表・課題への取り組み(40%)、期末レポート(40%)。

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究特論Ⅰ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 嶋田 直哉		

授業の概要・到達目標

授業の概要

発表者が参考文献をまとめ、その後全員で議論する演習形式の授業。

吉見俊哉『改訂版メディア文化論』(有斐閣、2012)を中心に読む予定。その他、進行と内容に伴い参考文献を適宜加える。

到達目標

メディア論、文化研究の基礎を身につける。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 発表と議論(1)
- 第3回 発表と議論(2)
- 第4回 発表と議論(3)
- 第5回 発表と議論(4)
- 第6回 発表と議論(5)
- 第7回 発表と議論(6)
- 第8回 発表と議論(7)
- 第9回 発表と議論(8)
- 第10回 発表と議論(9)
- 第11回 発表と議論(10)
- 第12回 発表と議論(11)
- 第13回 発表と議論(12)
- 第14回 総まとめ

履修上の注意

発表担当でない場合でも事前に指定された文献を読むこと。
なお、履修者の理解によって、授業内容を変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回の授業に吉見俊哉『改訂版メディア文化論』(有斐閣、2012)を持参すること。授業の進行方法と発表分担を決めます。

教科書

吉見俊哉『改訂版メディア文化論』(有斐閣、2012)

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%
学期末レポート50%

その他

特になし。

指導テーマ

進行計画

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究特論Ⅱ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 加藤 徹		

授業の概要・到達目標

アジアの表象文化(映画、TVドラマ、舞台演劇、アニメ等)と社会の関係について講義する。

具体的には、近代アジアの社会と文化の特質について、日本や中国の映画やドラマ、アニメ等の映像資料を取りあげて分析を加え、再考することを目標とする。

授業内容

- 第1回：INTROダクシヨ
- 第2回：「動漫文化」(1)
- 第3回：「動漫文化」(2)
- 第4回：「動漫文化」(3)
- 第5回：「放送禁止」作品(1)
- 第6回：「放送禁止」作品(2)
- 第7回：「放送禁止」作品(3)
- 第8回：「放送禁止」作品(4)
- 第9回：寄席演芸(1)
- 第10回：寄席演芸(2)
- 第11回：寄席演芸(3)
- 第12回：複製技術時代の表象芸術
- 第13回：デジタル技術時代の表象芸術(1)
- 第14回：デジタル技術時代の表象芸術(2)

履修上の注意

受講生の要望や最新のトピックに応じて、上記の授業回数
の順番や内容を一部、入れ替える可能性もあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

特に定めません。随時、プリントを配布します。

参考書

- 加藤徹著『貝と羊の中国人』(新潮社)
- 加藤徹著『京劇』(中央公論新社)
- 加藤徹著『漢文で知る中国』(NHK出版)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

毎回、DVDやCDなどの映像資料や録音資料も活用します。

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化研究特論Ⅲ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.	虎岩 直子	

授業の概要・到達目標

文学と視覚表象を中心とした環境と芸術の問題を考察する。主に英語圏の作品を取り上げるが日本語の作品も扱う。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 環境と表象文化について1
第3回 芸術と環境について1
第4回 18世紀のイギリス諸島1
第5回 18世紀のイギリス諸島2
第6回 19世紀前半1
第7回 19世紀前半2
第8回 19世紀後半1
第9回 19世紀後半2
第10回 20世紀前半1
第11回 20世紀前半2
第12回 20世紀後半1
第13回 20世紀後半2
第14回 まとめ

履修上の注意

テキストは原文で読むが日本語の作品も扱う。

準備学習（予習・復習等）の内容

文学と視覚芸術作品を意識的に眺めておく。

教科書

テキストはプリントで配布します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業への参加度と学期末のレポートによる。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究特論Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(学術)	佐藤 紀	

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業には二つの目的がある。一つは、「ナチズムの過去」を有するドイツの戦後処理のあり方を、歴史、文化、政治といった多角的な観点から考察することである。戦後処理を巡っては「優等生」とも評されるドイツだが、その歩みは紆余曲折に満ちたものであった。反ユダヤ主義との対決、「ナチズムの過去」の記憶のあり方の模索、戦後処理への取り組み、国内外のユダヤ人社会への対応、そしてドイツ政治を揺るがす右翼ポピュリズムの問題など、現在でもなお「ナチズムの過去」はドイツを揺さぶりつづけている。

もう一つは、ホロコースト否定論、歴史修正主義、「犠牲者ナショナリズム」といった歴史学上注目される議論を取り上げ、グローバル時代における「戦争と記憶」、より大きく言えば「歴史と記憶」を巡るせめぎ合いのメカニズムを考察することである。近現代における戦争の矛盾が凝縮された「ドイツ」という場所を起点としつつ、これにとらわれずグローバルに視野を広げ、いわば「記憶の戦争」とでも呼ぶべき時代にある現代の国際的状況を俯瞰する。

今学期は、戦後ドイツとイスラエルの問題に焦点をあて、これに関連する文献を演習形式で講読する。

【到達目標】

- ・戦後ドイツの戦後処理に関する基礎的知識を習得し、日本などとの比較を通じて自らの意見を述べるができるようになる。
- ・ホロコースト否定論、歴史修正主義、「犠牲者ナショナリズム」など歴史学上の議論を理解し、「歴史と記憶」「戦争と記憶」に対するグローバルな視野を獲得する。
- ・歴史に関する情報を因果関係や当時の情勢の中で理解するとともに、これを自分の観点から整理・分析し、発信できる「歴史的思考力」を身につける。

授業内容

第1回：導入—戦後ドイツの「過去の克服」と記憶を巡って／授業の進め方と評価
第2回：文献発表①
第3回：文献発表②
第4回：文献発表③
第5回：文献発表④
第6回：文献発表⑤
第7回：文献発表⑥
第8回：ドイツにおける戦争の記憶を巡って
第9回：文献発表⑦
第10回：文献発表⑧
第11回：文献発表⑨
第12回：文献発表⑩
第13回：文献発表⑪
第14回：文献発表⑫

履修上の注意

- ・ドイツの歴史及び歴史学に関する事前知識は特に必要としない。
- ・欠席は3回まで、遅刻2回で欠席1回分とする。
- ・授業の進度により、各回の内容を変更する場合がある。
- ・授業内容に関し、授業中に必ず一回は質問やコメントを行うこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・発表担当者は、事前に講読範囲に関するレジュメを作成し、また授業で議論する論点を提示すること。
- ・それ以外の者は、講読範囲を熟読し、授業で行う質問やコメントを考えてくること。
- ・授業後は、配布されたレジュメを見返し、授業で議論した内容を確認しておくこと。

教科書

武井彩佳『〈和解〉のリアルポリティクス』（みすず書房）

参考書

石田勇治『過去の克服』（白水社）
小野寺拓也、田野大輔『検証ナチスは「良いこと」もしたのか』（岩波ブックレット）
武井彩佳『歴史修正主義』（中公新書）
林志弦『犠牲者意識ナショナリズム 国境を超える「記憶」の戦争』（東洋経済新報社）

課題に対するフィードバックの方法

発表や議論に対し、授業中のコメントを通じて行う。

成績評価の方法

平常点（発表、授業への取り組みなど）で評価する。場合によっては、期末レポートを課す場合もある。

その他

講読範囲のテキストは毎回Slackを通じて配布する。

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究特論V		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(史学) 前田 更子		

授業の概要・到達目標

授業のテーマ：近現代フランスの教育・国家・社会
18世紀末～20世紀フランスにおける学校教育をめぐる諸問題を考察し、近現代フランスにおける国家や社会のあり方、子ども観や家族観の変化、ジェンダーや宗教の問題等を検討する。教育制度は、政治的指導者たちの理念・思想が反映される場であると同時に、移り変わる社会や家庭のニーズに応えつつ改変されてきた。本講義では、おもに社会文化史の観点を取りいれながら、教育問題を検討し、近現代フランスの社会や国家に関する理解を深めることを目的とする。また、植民地の状況、現在のフランスで進行している教育改革や公立学校のライシテの問題にも触れる。
歴史研究を行う上での欠かせない文書館情報、史料調査の方法、手稿史料を扱う上での注意点、史料批判の重要性などについても、フランスの事例から説明する。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 フランス革命と「公教育」その1
- 第3回 フランス革命と「公教育」その2
- 第4回 ナポレオン期の教育改革
- 第5回 フランスのエリート養成
- 第6回 近代化と多様な私立学校
- 第7回 国民国家の形成と学校 その1 言語統一
- 第8回 国民国家の形成と学校 その2 道徳、宗教、ライシテ
- 第9回 受講生による研究発表
- 第10回 受講生による研究発表
- 第11回 フランス領植民地における公教育
- 第12回 女子教育の展開 共学か別学か
- 第13回 共和国の学校はフランスを「救う」のか
- 第14回 ディスカッション、総括

履修上の注意

受講生には少なくとも一回の研究発表を求める。
近現代ヨーロッパ史について、基本的な知識を有していることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に指定する資料などを事前に読み、準備すること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

- 参考文献は授業中に随時提示するが、基本文献は以下のとおり。
・上垣豊『規律と教養のフランス近代—教育史から読み直す』（ミネルヴァ書房、2016年）
・谷川稔『十字架と三色旗—もうひとつの近代フランス』（山川出版社、1997年）
・谷川稔・渡辺和行編『近代フランスの歴史—国民国家形成の彼方に』（ミネルヴァ書房、2006年）
・橋本伸也ほか『エリート教育』（ミネルヴァ書房、2001年）
・前田更子『私立学校からみるフランス近代—19世紀リヨンのエリート教育』（昭和堂、2009年）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表、期末レポート、授業中の発言などから総合的に評価します。

その他

受講生のフランス語力に応じて、フランス語の史料・文献を用いる。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	地域文化研究特論VI		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 社会学博士 薩摩 秀登		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
東欧はヨーロッパの東側の地域を指し、西欧と比べてやや周辺のな地域とみなされることが多い。その区別はいつ頃どのように生じたのだろうか。西欧と対照させた場合、この地域の社会や文化には何か違いがあるとすれば、それはどのような過程を経て形成されたのであろうか。西アジアやロシアなど諸地域とかかわりの深い東欧について考えることは、長らく西欧を中心に語られてきたヨーロッパ史、さらには世界史を見なおすための重要な視点を提供してくれる。授業では、東欧について理解する手がかりを得るために、必要に応じて近世や中世にまでさかのぼりつつ、この地域の特色を考察する。
〈到達目標〉
東欧という地域の特色について考察することにより、地域史へのアプローチの仕方に関して理解を深める。

授業内容

- 東欧に住む人間集団、宗教的グループ、中世における国家形成と社会構造などが主なテーマとなる。
第1回：イントロダクション：東欧・中欧という概念
第2回：東欧に住む人間集団1 「民族」の概念について—
第3回：東欧に住む人間集団2 マイノリティ
第4回：宗教からみた東欧1 —主要な宗教—
第5回：国家形成期の東欧
第6回：東欧における中世国家
第7回：宗教からみた東欧2 東欧のキリスト教化
第8回：宗教からみた東欧3 中世バルカンの宗教事情
第9回：東欧の近世社会
第10回：宗教からみた東欧4 中世東欧におけるユダヤ教徒
第11回：宗教からみた東欧5 近世東欧におけるユダヤ教徒
第12回：近世東欧における国家統合 —ハンガリーの事例—
第13回：近世東欧における国家統合 —チェコの事例—
第14回：近世東欧における国家統合 —ポーランドの事例—
また、授業の内容に即して各自の関心に基づき、報告を行う。

履修上の注意

東欧についての予備知識は特に必要としない。
しかし主要参考文献をもとに、中世以降のヨーロッパ史の基本的な流れを把握した上で受講すれば、より効果的である。

準備学習（予習・復習等）の内容

主要な参考文献や資料についてあらかじめ指示するので、事前に参照しておくこと。
授業中に指示した事項や文献・資料について、必要に応じて、あたってみること。

教科書

教科書は用いない。

参考書

- 伊東孝之他編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社1998年
柴宜弘編『バルカン史』山川出版社1998年
南塚信吾編『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社1999年

課題に対するフィードバックの方法

授業中の質疑応答によって行う。

成績評価の方法

平常点60%（授業への積極的な関与）、報告40%

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	言語文化研究特論Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授		鈴木 哲也

授業の概要・到達目標

かつて、私たちの生命・身体は、変えることができない、いわば、人間の絶対的存在条件でした。ところが、遺伝子工学や生殖医療の発達にともない状況が変化しています。今や私たちの生命や身体は科学技術による操作の対象になりました。さらに、コンピューター技術の発達にともなうバーチャル・リアリティーの拡大は現実と仮想の境界を曖昧にし、私たちの自己意識のあり方に微妙な影響を及ぼしているように思います。

こうした問題を考察するために、この講義では、まず、近代の成立期にイギリスの女性作家、メアリー・シェリーによって書かれた人造人間の小説『フランケンシュタイン』、次に、バーチャル・リアリティー以後の人間像を描いたアニメーション『攻殻機動隊(Ghost in the Shell)』を分析してゆきます。

理論的には、ティム・アームストロングのModernism, Technology, and the Bodyを基本書とし、ジュディス・バトラーやダナ・ハラウェイの理論を参照して行きます。

授業内容

- 第1回：人間の定義のあやうさ：「怪物」という言葉を巡って
第2回：『フランケンシュタイン』考察に向けて。
(イギリスロマン派とメアリー・シェリー)
第3回：小説『フランケンシュタイン』の考察—1
第4回：小説『フランケンシュタイン』の考察—2
第5回：最近の科学的生命感について—1 リチャード・ドーキンスの主張を巡って
第6回：最近の科学的生命感について—2 ロボット工学を巡って(1)
第7回：最近の科学的生命感について—3 ロボット工学を巡って(2)
第8回：映画『エクス・マキナ』の考察—1
第9回：映画『エクス・マキナ』の考察—2
第10回：『攻殻機動隊』の考察—1
第11回：『攻殻機動隊』の考察—2
第12回：生命倫理を巡って：ハーバーマスの「バイオエシックス論」—1
第13回：生命倫理を巡って：ハーバーマスの「バイオエシックス論」—2
第14回：春学期のまとめ

履修上の注意

授業で扱う作品を、あらかじめ読解・視聴(日本語で構いません)しておくことは必要ですが、その他には特にありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

参照する文献、作品をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

なし。

参考書

参考書というよりは、授業で参照する基本的文献です。
『フランケンシュタイン』メアリー・シェリー著
『人間の将来とバイオエシックス』、ユルゲン・ハーバーマス著
『情報と生命』、室井尚、吉岡洋著
『クローニング、是か非か』マーサ・ヌスバウム編
『人間と機械のあいだ』石黒浩、池上高志著

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加とレポートを総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	言語文化研究特論Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授		大楠 栄三

授業の概要・到達目標

日本の新聞メディア等で取りあげられる、スペイン語で書かれた名著を輪読する授業。

今回は、セルバンテスの『ドン・キホーテ』(前篇1605年、後篇1615年)につづき、哲学者ホセ・オルテガ＝イ＝ガセット(José Ortega y Gasset, 1883-1953)の『大衆の反逆』(La rebelión de las masas, 1930年)に取り組む。

今日、民主主義を標榜する国々で、ポピュリズムにもとづく政策決定が進んでいる。そして、だれでも発信できるSNSをとおして日々、影響を強め、各国の選挙や政治体制までも左右する時代になった。

そのポピュリズムの核をなす「大衆」に関する初めてのまとまった論考とされる本作を、先達ミゲル・デ・ウナムーノといったスペイン思想の観点から解釈した佐々木先生による邦訳を、原書に引き比べながら輪読することで、「大衆」という訳語を与えられてきた“masas”について考察を深めたい。

授業内容

担当者が発表をおこない、他の出席者や教員がそれにコメントするという輪読形式で授業を進める。

- 第1回：オルテガについて、担当パート決定
第2回：第一部 大衆の反逆 第一章 密集の事実
第3回：第二章 歴史的水準の上昇；第三章 時代の高さ
第4回：第四章 生の増大；第五章 一つの統計的事実
第5回：第六章 大衆化した人間の解剖開始；第七章 高貴なる生と凡俗なる生、あるいは努力と無気力
第6回：第八章 大衆はなぜ何にでも、しかも暴力的に首を突っ込むのか；第九章 原始性と技術
第7回：第十章 原始性と歴史；第十一章 「満足しきったお坊ちゃん」の時代
第8回：第十二章 「専門主義」の野蛮；第十三章 最大の危険物としての国家
第9回：第二部 世界を支配しているのは誰か 第十四章 世界を支配しているのは誰か(1)
第10回：第十四章 世界を支配しているのは誰か(2)
第11回：第十四章 世界を支配しているのは誰か(3)
第12回：第十五章 真の問題に迫り着く
第13回：フランス人のためのプロローグ(五節)
第14回：イギリス人のためのエピローグ

履修上の注意

とにかくノルマをこなすこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業において、担当者は担当パートについて、以下の3点をまとめた「レポート」を、前もって指定した時刻までに、Oh-ol Meijiを通じて提出すること：

- 1) 要旨
- 2) 自分が何かしらひっかかった(理解しがたい、重要だと考える、面白いと感じた)箇所3カ所
- 3) その3カ所について、自分が言いたい・主張したいこと(コメント)

教科書

『大衆の反逆』(佐々木孝訳、岩波書店) 2020年

※なるべくページが分かる書籍版で。また、神吉敬三訳、桑名一博訳などいろいろな版があるが、必ず佐々木孝訳(岩波文庫)を入手すること。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

担当者のレポートについてのコメントは授業中に、さら授業についての追加的な解説資料も含め、Oh-ol Meijiを通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

「平常点」(担当部分についての発表と授業中の発言にもとづく)

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	言語文化研究特論Ⅲ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

本講義は、東アジアにおける国民国家の成立と展開に内在する知識形成について、主に日本そして潜在的には中国を取りあげながら議論を進める。もちろんそこに介在するのは、圧倒的な西洋の知識の流入である。

アジアにおける独立国家の形成期においては、西洋国家で発展した「近代国民国家モデル」の普及が不可欠だと考えられ、またそこで多様な実践が行われることになった。しかし結果として、日本と中国の国民国家形成のルートと展開は、かなり違ったものとならざるを得なかった。一方、日本は天皇制国家及びポスト天皇制国家（戦後国家）を形成したわけだが、中国の方は革命過程を通じた「近代化」が追求され、その収束過程はいまだに不透明である。

日本との差異として、中国の場合、元より「帝国」であり、長らく郡県制を採っていたため、土地にかかわる想像というもの、あるいは民族統合の論理に関して、ヨーロッパや日本社会とは特に違った形態を採るに到った経緯がある。むしろ日本の近代国家形成においては、戦前と戦後とにかかわらず、君主制やいわゆる「封建性」の名残りが持続したことを一つの分析課題とせねばならなかった。いずれにせよ、如何に国民国家を形成するかという課題に関してキーポイントとなったのは、どのような「近代」を作るかにかかわる選択とせめぎ合いであり、それはまたヨーロッパと東洋（中華及びその衛星国）との比較の中でそれは生じたのである。

本講義は、決して簡単な内容ではない。日本の20世紀においては、哲学の代わりに文芸批評がその役割を果たしていた経緯がある。そういった文芸批評がもたらした知の豊かさにアクセスできそうだと思う人は受講してほしい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション（福沢諭吉「脱亜論」の文明観の読解）
- 第2回：竹内好「日本の近代と中国の近代」における奴隷と近代の読解
- 第3回：竹内好「日本の近代と中国の近代」その東西比較の読解
- 第4回：孫文「三民主義」（清末の民族主義）
- 第5回：孫文「三民主義」（民族主義と国族主義）
- 第6回：溝口雄三「辛亥革命の歴史的個性」の読解
- 第7回：溝口雄三「辛亥革命の歴史的個性」の展開
- 第8回：宮崎市定「太平天国の乱の性質について」の読解
- 第9回：宮崎市定「太平天国の乱の性質について」の展開
- 第10回：汪暉「二〇世紀中国史という視野における朝鮮戦争」の読解
- 第11回：汪暉「二〇世紀中国史という視野における朝鮮戦争」の展開
- 第12回：汪暉「現代中国史の中の巨大な変化における「台湾問題」の読解
- 第13回：汪暉「現代中国史の中の巨大な変化における「台湾問題」の展開
- 第14回：総括

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題テキストの指定部分をあらかじめ読んで来ること。

教科書

第一回目に指示する。

参考書

適宜指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化マネジメント研究特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼任講師 中村 雅之		

授業の概要・到達目標

伝統文化には、それぞれの国や社会の歴史や価値観が反映されている。伝統文化から、その国の国家・社会の本質が見えてくることになる。授業では、特に伝統芸能に焦点を当てる。日本の古代から現代に至るまでの芸能と国家・社会の関わりを概観すると共に、伝統の継承と再創造、諸外国の社会構造と文化政策などについても取り上げる。芸能を通じ、日本文化についての考察を深め、個々の研究との関連性を見出すことを到達目標とする。

授業内容

「芸能と国家・社会」

- 第1回：文化マネジメントとは
- 第2回：古代における芸能の意味①
- 第3回：古代における芸能の意味②
- 第4回：武家の式楽・能①
- 第5回：武家の式楽・能②
- 第6回：町や村に溢れる芸能①
- 第7回：町や村に溢れる芸能②
- 第8回：王国の存亡を賭けた琉球芸能①
- 第9回：王国の存亡を賭けた琉球芸能②
- 第10回：日本の近代化と芸能
- 第11回：戦後の文化政策
- 第12回：3つの「日本文化」
- 第13回：伝統の継承と再創造
- 第14回：諸国の社会構造と文化政策
- 第15回：現代社会と伝統芸能

履修上の注意

基本的なマナーに気をつけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

国家・社会にとって、文化とは何かを考えて来て欲しい。授業では、常に問題意識を持ち、自分なりの見解を述べることを期待する。http://performingarts.jp/J/pre_interview/0901/1.html#98を参照。

教科書

特になし。必要な資料は、配布する。映像資料などを交えながら講義を進める。

参考書

「英訳付き1冊でわかる日本の古典芸能」(淡交社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席状況、討論への参加具合・発言内容を勘案し、減点法ではなく、加点法で評価する。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文を書き上げるために必要な基礎的な作業を行い、修士論文の作成に入る。

論文作成に最も重要な点は、研究対象を定めた上で、研究テーマを絞り込み、課題を設定することとそれと対応した論文構成の作成である。この点について重点的に指導する。

(2)到達目標
本演習では論文作成の手段を段階的に解説と実習を行う。研究対象の選定、研究テーマの設定、それに基づき、論文の『序文』を試験的に作成し、論文全体の設計図を書くことを到達目標とする。

授業内容

第1 テーマ：研究対象と研究テーマの選定
第1回：研究対象をどのように設定するか。
第2回：研究テーマの設定(1)
第3回：研究テーマの設定(2) 絞り込み
第4回：研究テーマと研究対象の整合性
第2 テーマ：『序文』の第2の要素
第5回：研究の背景説明
第6回：研究の背景説明と研究テーマの関係
第7回：序文のトライアル執筆
第8回：序文のトライアル執筆と加筆
第9回：背景説明から研究テーマの流れの作成
第3 テーマ：スケルトンの作成
第10回：『序文』の第3の要素としての章構成
第11回：論文の流れ：起承転結
第12回：論文の流れその2：結論から検証パターンへ
第13回：トライアルバージョンの執筆
第14回：全体の整理

履修上の注意

修士論文執筆プロセスの指導を行う授業であるので、事前に準備しておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

(1)予習
論文作成を内容としているので、事前にスケルトン、レジメを作成しておくことが必須である。

(2)復習
授業時間内に指摘を受けた点につき、加筆・修正作業を行い、再度「修正版」での研究指導を受けること。研究指導内容を理解できているか、否か確認する重要なプロセスである。

教科書

教科書は特に使用しない。適宜必要な資料を授業時間内に配布する。

参考書

『創造的論文の書き方』伊丹敬之(有斐閣、2001年)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での平常点と課題提出。
また、当該研究領域に関する映像資料プログラムへの参加は評価に反映する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文を書き上げるために必要な基礎的な作業を行い、修士論文の作成に入る。

論文作成に最も重要な点は、研究対象と研究テーマを設定した上での課題設定とそれと対応した論文構成の作成である。この点について重点的に指導する。

(2)到達目標
本演習では既存研究(先行研究)の整理にも重点を置き、研究課題に関して、これまでの研究上の論点を整理し、研究課題の設定を明確に行うことを到達目標とする。
論文作成の手段を段階的に解説と実習を行う。

授業内容

第1 テーマ：基礎研究の収集
第1回：既存研究(文献)収集・解説
第2回：既存研究(文献)収集結果報告と解説
第3回：既存研究(学術論文のほか)収集・解説
第4回：既存研究(学術論文のほか)収集結果報告と解説
第2 テーマ：既存研究の整理
第5回：既存研究の整理について(解説)
第6回：既存研究の報告(1)
第7回：既存研究の報告(2)
第8回：既存研究の報告(3)
第9回：既存研究の整理
第3 テーマ：課題の設定・スケルトンの作成
第10回：課題の設定とは(解説)
第11回：キーワード、定義の重要性
第12回：課題の設定(1)
第13回：課題の設定(2)
第14回：論文の構成(1)

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

(1)予習
論文作成を内容としているので、事前にスケルトン、レジメを作成しておくことが必須である。

(2)復習
授業時間内に指摘を受けた点につき、加筆・修正作業を行い、再度「修正版」での研究指導を受けること。研究指導内容を理解できているか、否か確認する重要なプロセスである。

教科書

適宜必要な資料を授業内で配布するので、特に指定しない。

参考書

『創造的論文の書き方』伊丹敬之(有斐閣、2001年)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での平常点と課題提出。
また、当該研究領域に関する映像資料プログラムへの参加は評価に反映する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 鳥居 高		

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
修士論文作成のための研究指導を行う。特に、修士論文で用いるデータや統計の読み方、その分析を中心に、論文の中間報告を行う。

(2)到達目標
仮説のたて方、データの収集、データの分析など論文の基礎となるFact Findingを行い、研究テーマを論じるにあたっての基礎作業を完成させることを第1の目標とする。その上で、仮説との検証など論旨展開に重点をあて、論理的な論文作成作業を行うことを到達目標とする。

授業内容

以下の内容について、演習形式(講義と討論)で行う。

- テーマ1：データの読み方と利用
第1回：データの所在と収集方法(解説)
第2回：データの読み方と分析
第3回：データの分析・実習
第4回：データの分析・実習
テーマ2：データの作成と提示方法
第5回：データ作成時の課題(解説)
第6回：データの作成・実習
第7回：データの作成・実習
第8回：データの提示(解説)
テーマ3：修士論文の研究課題
第9回：データの所在
第10回：基礎データ・統計を作成する(1)
第11回：基礎データ・統計を作成する(2)
第12回：基礎データを分析する(1)
第13回：基礎データを分析する(2)
第14回：基礎データを提示する

履修上の注意

必要に応じ、学外専門機関や図書館(例：アジア経済研究所)のHPにあるOPACなどを利用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)予習
修士論文作成の準備作業にあたるので、事前に各自で、研究テーマと目的に応じた、データや統計を作成し、授業に参加すること。

(2)復習
授業時間内に当該データや資料について報告を行い、研究指導教員から指摘を受けた過不足点を補足し、修正バージョンを作成すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

テーマが多岐にわたるので、その都度指示するものの、以下の文献が参考になる。
木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書、1981年)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は平常点とグループ討議、総合討議への参加ならびに議論への貢献で判断する。
また、当該研究領域に関する映像資料プログラムへの参加は評価に反映する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 鳥居 高		

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文における[1]課題設定、[2]論文構成、[3]仮説の提示と構築、[4]実証と結論、等総合的な視点からの指導を行う。

(2)到達目標
特に、データの分析、仮説との検証などを課題設定や既存研究との異同等に焦点を当て、論文作成作業を行うことを目標とする。

授業内容

以下の内容について、演習形式(講義と討論)で行う。

- テーマ1：収集データの読み方と分析
第1回：データ収集、調査票の設計(解説)
第2回：データ収集の結果
第3回：データ収集の分析
第4回：データの提示と図表化
テーマ2：仮説とデータの検証
第5回：検証の課題(解説)
第6回：仮説とデータの検証・実習(1)
第7回：仮説とデータの検証・実習(2)
第8回：まとめ
テーマ3：修士論文の総合的指導
第9回：既存研究との異同
第10回：仮説と論旨展開の検証(1)
第11回：仮説と論旨展開の検証(2)
第12回：結論の検証(1)
第13回：結論の検証(2)
第14回：結論とデータの提示

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)予習
修士論文の作成指導の授業であるので、事前にレジュメ、トライアルの論文など、自分の作品を作成した上で授業を受けること。

(2)復習
授業時間内での研究発表に対する、研究指導が行われるので、加筆・修正し、新しいバージョンを用意すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での平常点と課題提出。
当該研究領域に関する映像資料プログラムへの参加は評価に反映する。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	平和構築研究演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学)	佐原 徹哉	

授業の概要・到達目標

本講義は近代以降の侵略・植民地主義・強制移住・強制同化・ジェノサイドなどの大規模かつ極端な暴力の諸形態を分析することで、モダニティと暴力の内在的関係を解明することを中心的なテーマとしている。講義は、15世紀末以降のヨーロッパの対外進出を契機とする先住民虐殺に始まって、植民地主義、帝国主義、民族主義の形態をとった組織化された暴力の一般的諸類型、更に、ナチズム、スターリニズム、毛沢東主義といった特殊な政治形態に付随する暴力の特質を分析した後、ルワンダ・ジェノサイド事件などのポスト・モダニズム型暴力を検討する。これによって、近代的暴力についての基本的知識を身につけることを目標とする。

授業内容

- 第1回目 モダニティの定義
- 第2回目 モダニティの矛盾に関する数量的分析
- 第3回目 現代的紛争の傾向と特質
- 第4回目 植民地主義と先住民虐殺
- 第5回目 アフリカ分割とジェノサイド
- 第6回目 南米における先住民虐殺
- 第7回目 北米における先住民虐殺
- 第8回目 バルカンの民族主義と民族浄化
- 第9回目 オスマン帝国とアルメニア人強制追放
- 第10回目 ナショナリズムと反ユダヤ主義
- 第11回目 ロシア帝国におけるボグロム
- 第12回目 スターリニズムとウクライナ飢饉
- 第13回目 大粛清と強制移住
- 第14回目 ナチスの反ユダヤ政策
- 第15回目 ナチスの安楽死政策
- 第16回目 ナチス占領地域のユダヤ人虐殺
- 第17回目 ホロコーストと絶滅型収容所
- 第18回目 コンゴ動乱
- 第19回目 ベトナム戦争
- 第20回目 中国の「大躍進」政策と飢饉
- 第21回目 「文化大革命」
- 第22回目 カンボジアと「クメール・ルージュ」
- 第23回目 「クメール・ルージュ」による大量虐殺
- 第24回目 ポスト・コロニアル国家と政治的暴力
- 第25回目 ルワンダ・ジェノサイド事件
- 第26回目 ボスニア内戦と民族浄化
- 第27回目 コソボ問題
- 第28回目 モダニティにおける暴力の内在性

履修上の注意

授業はパワーポイントを用いて行うため、通常の講義よりも情報量が多くなる。講義の概要はクラス・ウェブ上の「歴史学Ⅰ」の「資料」にワード・ファイルの形式でアップされるので、授業前にハード・コピーを作成しておくこと。また、授業ではスライド・映像等を用いた説明を加えるが、講義のテーマの性格上、残虐と感じられるものも含まれるので、あらかじめ心の準備をしておくこと。なお、映像資料は、海外のドキュメンタリーをもとにしているため、日本語字幕はない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で指示する

教科書

なし。

参考書

参考文献を授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

定期試験の結果で成績評価を行う。

その他

特になし。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	平和構築研究演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学)	佐原 徹哉	

授業の概要・到達目標

ジェノサイド研究の基本的な方法論は、厳密な資料批判に基づく事実の確定とその積み重ねを経た事件の再構成でなければならない。その具体的手法を身につけるため、比較的研究蓄積の進んでいるアルメニア人とユダヤ人の問題を題材に代表的な研究者の研究手法を再検討してゆく。前者についてはGuenter Lewy、後者についてはSaul Friedmanの包括的研究を踏まえて、関連する研究論文の照査、史料収集と分析手法の比較、史料解釈の実践的練習を段階的に進めてゆく。これらを通じて自立した研究者としての研究スキルの体得を目指している。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：オスマン帝国の統治システム
- 第3回：青年トルコ人とその政治思想
- 第4回：アルメニア民族主義の形成
- 第5回：第一次世界大戦とアルメニア人問題・トルコにおける研究動向
- 第6回：第一次世界大戦とアルメニア人問題・アルメニア人の研究動向
- 第7回：ドイツに於ける反ユダヤ主義の歴史
- 第8回：第一次世界大戦後のドイツ社会
- 第9回：ナチスの政権掌握とイデオロギー
- 第10回：総力戦体制とユダヤ人政策
- 第11回：東部占領地域でのユダヤ人政策
- 第12回：絶滅政策の展開・強制収容所の諸類型
- 第13回：絶滅型収容所の実体
- 第14回：共通点と差異の検討

履修上の注意

なし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する。

教科書

Lewy, Guenter (2005). The Armenian Massacres in Ottoman Turkey: A Disputed Genocide. University of Utah Press.

参考書

オリエンテーションでリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業態度とレポート

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

地域紛争、住民衝突、大規模な難民発生、強制移住、深刻な人権抑圧といった事態は、短期的偶発的な要因によるよりも、所与の社会の内部に構造的に蓄積した矛盾に起因するものである。故に、こうした紛争社会が如何なるプロセスで形成されてきたのかを知ることは具体的な問題解決の前提となる。本演習では、東欧、ロシア、中東、コーカサスを対象として、19世紀以降のこれらの地域の歴史的発展過程とそこに共通する、宗教・エスニシティの分節性、経済的従属性、権威主義的政治文化、民衆の世界の特質等の問題を検討する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：バルカン地域の歴史的構造
- 第3回：バルカンのナショナリズム思想の特質
- 第4回：帝政ロシア期のコーカサスの歴史的構造
- 第5回：帝政ロシアの少数民族政策
- 第6回：中東地域の歴史的構造
- 第7回：19世紀のナショナリズムと民族浄化
- 第8回：第一次世界大戦期の民族的暴力の特質
- 第9回：ブルガリアの強制同化政策
- 第10回：ボスニア内戦と民族浄化
- 第11回：ナゴルノ・カラバフ紛争
- 第12回：パレスチナ・イスラエル問題
- 第13回：レバノン内戦
- 第14回：キプロス問題

履修上の注意

当該地域の現代史に対する基本的知識を習得していることが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する。

教科書

使用しない。

参考書

オリエンテーションでリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業態度とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

本演習では紛争社会から平和的社会への移行過程を研究する。所与の紛争が発生した後、流動化した社会を再建するには、緊急人道援助や平和維持活動等の一時的措置だけでなく、当該社会の安定的再生産を可能にする諸条件の構築が必須であることは既に指摘されている。だが、責任者の処罰、経済的インフラ整備、行政・司法機構の建て直しなどの機能主義的な問題解決の手法は殆どの場合失敗している。本演習ではこうした国際司法機構や国連・国家・NGOの支援活動の過去の失敗に学びながら、共生的政治文化の再構築の方法論を探っていく。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：国連平和維持活動の思想1
- 第3回：国連平和維持活動の思想2
- 第4回：ポスト冷戦期の国連の平和維持活動
- 第5回：カンボジアPKOの研究
- 第6回：ボスニアPKOの研究
- 第7回：コンボPKOの研究
- 第8回：ボスニアPKOの研究2
- 第9回：ソマリアPKOの研究
- 第10回：拡大NATOと広域展開の理論
- 第11回：イラク戦争の再検討
- 第12回：アフガンでの軍事活動の再検討
- 第13回：ICTYの活動とその機能
- 第14回：ICCの設立とその課題

履修上の注意

受講者は上記の内容に関連した研究報告を複数回行い、学期末に1万字程度の研究論文を提出しなければならない。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する。

教科書

特に指定しない。

参考書

オリエンテーションでリストを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業態度と研究論文。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	平和構築研究演習Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D.		廣部 泉

授業の概要・到達目標

アメリカの国際関係における大衆文化の影響を歴史的に考察します。アメリカで花開いた大衆文化は世界の平和にプラスの影響もマイナスの影響も与え続けています。その影響力の形と大きさについて理解することを目指します。

授業内容

第1回 序論：アメリカの大衆文化を学ぶ重要性
第2回 20世紀以前のアメリカの大衆文化
第3回 産業革命と移民の影響
第4回 映画の登場
第5回 ラジオの登場とハーレムルネサンス
第6回 大恐慌と大衆文化
第7回 第二次世界大戦とプロパガンダ
第8回 冷戦と大衆文化
第9回 デイズニーランドの衝撃
第10回 テレビの登場
第11回 スターウォーズの衝撃
第12回 冷戦の終結とインターネットの登場
第13回 ストーリーミングとバーチャルリアリティ
第14回 まとめ

履修上の注意

授業の進度や内容は、参加者の顔ぶれや理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された作品、論文、史料などを検討して、問題点を整理する。

教科書

使用しません。

参考書

授業時間中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時間中の発表などの貢献度(100%)によります。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	平和構築研究演習Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D.		廣部 泉

授業の概要・到達目標

戦前日本の国際関係に関する様々な一次資料や研究書を読むことで、歴史資料の扱いに習熟することを目指すとともに、個々の歴史的事象を世界史のコンテキストの中で位置づける力を養います。

授業内容

まず、戦前の日本の国際関係史の流れを検討します。資料の扱いが身についた段階で、実際の歴史的テーマについて、探求していきます。以下の流れは一例です。実際の流れは参加者の顔ぶれを見て修正します。

第1回：序論
第2回：西洋の衝撃と東アジア
第3回：富国強兵と脱亜入欧
第4回：日清戦争
第5回：同人種同盟
第6回：日露戦争
第7回：ヤングチャイナ
第8回：パリ講和会議と民族自決
第9回：ワシントン体制その1
第10回：ワシントン体制その2
第11回：排日移民法と日米関係
第12回：1920年代の太平洋秩序
第13回：中国のナショナリズムと日米
第14回：まとめ

履修上の注意

資料について丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された研究書、論文、資料などを読んで、問題点を整理する。

教科書

服部龍二編『東アジア国際政治史』や廣部泉『人種差別撤廃提案とパリ講和会議』などを考えていますが、受講者の顔ぶれをみて、相談のうえ変更することもあります。

参考書

授業時間中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時間中の発表などの貢献度(100%)によります。

その他

特にありません。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 廣部 泉		

授業の概要・到達目標

国際関係史、とりわけ日本とアジア太平洋地域との関係を研究対象として、修士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的には学術的水準を満たす修士論文の完成へと導きます。

授業内容

第1回：はじめに
 第2回：研究経過の報告
 第3回：研究経過に関する検討(1)
 第4回：研究経過に関する検討(2)
 第5回：研究経過に関する検討(3)
 第6回：第一稿の提出
 第7回：第一稿の検討(1)
 第8回：第一稿の検討(2)
 第9回：第一稿の検討(3)
 第10回：口頭発表
 第11回：口頭発表の検討
 第12回：アプローチに関する修正(1)
 第13回：アプローチに関する修正(2)
 第14回：まとめ

履修上の注意

丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文の途中経過の報告準備、並びに指摘された箇所の修正が求められます。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が出来ているか（50%）、授業時間中の発表はどうか（50%）といった平常点によります。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 廣部 泉		

授業の概要・到達目標

国際関係史、とりわけ日本とアジア太平洋地域との関係を研究対象として、修士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的には学術水準を満たす修士論文の完成へと導きます。

授業内容

第1回：はじめに
 第2回：研究経過の報告
 第3回：研究経過に関する検討(1)
 第4回：研究経過に関する検討(2)
 第5回：研究経過に関する検討(3)
 第6回：修正稿の提出
 第7回：修正稿の検討(1)
 第8回：修正稿の検討(2)
 第9回：修正稿の検討(3)
 第10回：口頭発表
 第11回：口頭発表の検討
 第12回：アプローチに関する修正(1)
 第13回：アプローチに関する修正(2)
 第14回：まとめ

履修上の注意

丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文の途中経過の報告準備、並びに指摘された箇所の修正が求められます。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が出来ているか（50%）、授業時間中の発表はどうか（50%）といった平常点によります。

その他

特にありません。

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

中国近現代史に関する修士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この平和構築研究演習Ⅰではその第一段階として、本研究科が志向する学際性に富む研究とは何かを理解することから進めていく。その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要な資料読解の基礎的能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：研究テーマの紹介と研究計画の立案
第3回：資料読解＋討論(1)
第4回：資料読解＋討論(2)
第5回：資料読解＋討論(3)
第6回：資料読解＋討論(4)
第7回：資料読解＋討論(5)
第8回：資料読解＋討論(6)
第9回：資料読解＋討論(7)
第10回：資料読解＋討論(8)
第11回：資料読解＋討論(9)
第12回：資料読解＋討論(10)
第13回：資料読解＋討論(11)
第14回：総括
※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

平和構築研究演習Ⅰにひきつづき、中国近現代史に関する修士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この平和構築研究演習Ⅱではその第一段階として、本研究科が志向する学際性に富む研究とは何かを理解することから進めていく。その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要な資料読解の基礎的能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

第1回：資料読解＋討論(1)
第2回：資料読解＋討論(2)
第3回：資料読解＋討論(3)
第4回：資料読解＋討論(4)
第5回：資料読解＋討論(5)
第6回：資料読解＋討論(6)
第7回：資料読解＋討論(7)
第8回：資料読解＋討論(8)
第9回：資料読解＋討論(9)
第10回：資料読解＋討論(10)
第11回：資料読解＋討論(11)
第12回：資料読解＋討論(12)
第13回：資料読解＋討論(13)
第14回：総括
※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

平和構築研究演習Ⅲでは、修士論文の報告を積極的に行っていく。報告にあたっては、執筆した本文とその要約の提出を義務づけ、実際の具体的な執筆状況について助言を行えるよう指導する。報告に対する批判に対しては、自ら書いた論文の価値を守るためにも積極的に議論に応じて十分な説明を行うこととする。あわせて、学生の個別的具体的な研究傾向に対応しうる先行研究を読破していく。また、執筆中の論文において参照あるいは引用している文献についても積極的に読み、その内容について検討していきたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマの紹介と研究計画の立案
- 第3回：資料読解＋討論(1)
- 第4回：資料読解＋討論(2)
- 第5回：資料読解＋討論(3)
- 第6回：資料読解＋討論(4)
- 第7回：資料読解＋討論(5)
- 第8回：資料読解＋討論(6)
- 第9回：資料読解＋討論(7)
- 第10回：資料読解＋討論(8)
- 第11回：資料読解＋討論(9)
- 第12回：資料読解＋討論(10)
- 第13回：資料読解＋討論(11)
- 第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

平和構築研究演習Ⅳは、学期内の修士論文の完成を目指した内容となる。当年度に修士論文を提出予定の学生は、毎回報告を行うこととする。二年間で修士論文を完成させるためには、相当な努力と十分な時間が求められる。とりわけ最終学期においては、いわば寝食を惜しんで執筆にいそむようなモチベーションの高さと根気が不可欠である。そのため、平和構築研究演習Ⅳでは論文完成に向け、直接的かつ具体的な助言及び指導を行っていく。あわせて、一次資料の読解の当否についてチェックしていく。

授業内容

- 第1回：資料読解＋討論(1)
- 第2回：資料読解＋討論(2)
- 第3回：資料読解＋討論(3)
- 第4回：資料読解＋討論(4)
- 第5回：資料読解＋討論(5)
- 第6回：資料読解＋討論(6)
- 第7回：資料読解＋討論(7)
- 第8回：資料読解＋討論(8)
- 第9回：資料読解＋討論(9)
- 第10回：資料読解＋討論(10)
- 第11回：資料読解＋討論(11)
- 第12回：資料読解＋討論(12)
- 第13回：資料読解＋討論(13)
- 第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

モンゴル国では、乾燥で寒冷という厳しい環境の中で、遊牧が数千年にわたり営まれてきた。本演習では、居住限界ぎりぎりの地域で、モンゴルの牧民がいかに自然とともに暮らしてきたのかを学ぶ。それにより持続可能な土地利用や、人類の食料問題、広くは人間と自然のかかわりについて考えを深める。近年モンゴル国が直面する自然災害や環境問題について現地のデータ解析を通して学び、解決策を見出す修士論文を作成することをめざす。

授業内容

- 第1回：モンゴルの自然(モンゴルはどこにあるのか)
- 第2回：モンゴルの自然(モンゴルの気候 なぜ寒いか)
- 第3回：モンゴルの自然(モンゴルの気候 なぜ乾燥しているか)
- 第4回：モンゴルの自然(モンゴルの水)
- 第5回：モンゴルの自然(モンゴルの雪氷)
- 第6回：モンゴルの自然(モンゴルの植生)
- 第7回：モンゴルの自然(モンゴルの土壌)
- 第8回：モンゴルの遊牧(遊牧とは何か)
- 第9回：モンゴルの遊牧(遊牧の伝統技術 季節移動)
- 第10回：モンゴルの遊牧(遊牧の伝統技術 ゲルの営地の選択)
- 第11回：モンゴルの遊牧(遊牧民の伝統技術 草原の利用)
- 第12回：モンゴルの遊牧(遊牧民の伝統技術 食生活)
- 第13回：モンゴルの遊牧(遊牧の科学 牧畜気象学1)
- 第14回：モンゴルの遊牧(遊牧の科学 牧畜気象学2)

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

推薦図書および論文については、必ず内容のメモを作成する。

教科書

使用せず。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

レポートと授業への貢献度。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

現在モンゴル国が直面する問題である自然破壊(草原荒廃やそれによる黄砂の発生)、公害(大気汚染、水汚染、土壌汚染など)および遊牧を脅かす自然災害であるゾド(寒雪害)について従来の研究をレビューする。それにより、諸問題のあらまし、原因、影響、対応策、問題点を整理することを試みる。当該領域の文献には定量的な情報が十分ない場合が少なくない。よって、データの入手可能性などを検討した上で、修士論文のテーマを定め、修士論文の序論の「従来の研究」および「研究の目的」を書きあげる。演習ⅡとⅢの間の春休みには、分析のまとめのレポートを提出する。

授業内容

- 第1回：従来の研究のレビュー(モンゴル国の環境問題の概観)
- 第2回：従来の研究のレビュー(草原の荒廃と黄砂の発生)
- 第3回：従来の研究のレビュー(鉱山開発による公害の発生)
- 第4回：従来の研究のレビュー(小規模金採掘による公害の発生)
- 第5回：従来の研究のレビュー(自然災害 ゾド)
- 第6回：従来の研究のレビュー(自然災害 干ばつ)
- 第7回：研究テーマの設定
- 第8回：研究テーマの修正
- 第9回：研究計画書の作成
- 第10回：研究計画書の修正
- 第11回：データ収集と分析(1)データ収集
- 第12回：データ収集と分析(2)データ品質管理
- 第13回：データ収集と分析(3)統計的分析
- 第14回：分析結果の解釈

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

Excelを用いた作図、統計計算の方法などを自習しておくこと。

教科書

使用せず。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

研究計画書。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

内外の関連領域の研究者らとの連携をとりつつ、修士論文作成のための資料収集と分析をすすめる。各自のテーマについて、その原因、影響、対応策、問題点をデータ解析より抽出することを試みる。終章では、現地に向けて発信するに値するような解決策を出すことが目標である。そのために、環境教育を目的とした当該テーマに関する発信用のコンテンツを、現地の（あるいは日本に滞在中のモンゴル国の）人々の協力を得て意見交換をしながら作成する。

授業内容

第1回：分析のまとめの修正
 第2回：環境教育用コンテンツの作成(1)
 第3回：環境教育用コンテンツの作成(2)
 第4回：環境教育用コンテンツの作成(3)
 第5回：環境教育用コンテンツの作成(4)
 第6回：環境教育用コンテンツの発信(1)
 第7回：環境教育用コンテンツの発信(2)
 第8回：環境教育用コンテンツの修正
 第9回：環境教育用コンテンツの仕上げ
 第10回：論文執筆 従来の研究
 第11回：論文執筆 研究の目的
 第12回：論文執筆 研究方法
 第13回：論文執筆 研究データの説明
 第14回：論文執筆 結論

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

推薦図書および論文については、必ず内容のメモを作成する。

教科書

使用せず。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

研究レポートおよび環境教育コンテンツ。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

修士論文を期間内に仕上げるために、履修生は講義の2日前までに原稿を提出し、教員は講義中にコメントを返すという形態をとる。論文作成を通じて、テーマに関連した現地とのネットワークが出来上がり、履修者が環境問題解決のメッセージの発信者となることを目指す。

授業内容

第1回：論文執筆 結果2
 第2回：論文執筆 結果3
 第3回：論文執筆 結果4
 第4回：論文執筆 結果5
 第5回：論文執筆 考察1
 第6回：論文執筆 考察2
 第7回：論文執筆 考察3
 第8回：論文発表
 第9回：論文執筆 修正
 第10回：論文執筆 文献リスト
 第11回：論文執筆 校正
 第12回：論文提出
 第13回：見直し
 第14回：見直し

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

推薦図書および論文については、必ず内容のメモを作成する。

教科書

使用せず。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

課題提出。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	浅賀 宏昭	

授業の概要・到達目標

この授業においては、先端生命科学技術を学び、なおかつその社会における応用について検討する力を涵養することが主なテーマである。

読売新聞や朝日新聞などの一般紙や日経産業新聞などに掲載される先端生命科学関連の記事、および専門誌に掲載された論文などを収集し、それらを批判的に検討しつつ、独自に新たな提言ができるまでにつなげられる実践的な力を養うのがこの授業の目標である。

授業内容

この授業では、修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文のテーマに関連した論文を取り上げ、さまざまな角度から検討していく。データの収集、データの分析はもとより、仮説の立て方、その検証などについても焦点をあて、指導していく。指導は、以下の内容について、演習形式で行う。

第1回：イントロダクション この授業のねらい

第2回：テーマに関連した論文・記事の探し方について

第3回：主要な学術雑誌について

第4回：本学3図書館(和泉、中央、生田)の活用法について

第5回：学外図書館の活用法について

第6回：文献(資料)講読の方法について

第7回：文献(資料)講読Ⅰ

第8回：文献(資料)講読Ⅱ

第9回：データの読み方、分析方法について

第10回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅰ

第11回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅱ

第12回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅲ

第13回：受講生によるまとめ(中間報告)

第14回：まとめ

履修上の注意

学外の図書館などに出ることがある。毎回の出席を原則とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

普段より、新聞や雑誌の記事をチェックして読む習慣を身につけること。

復習は、ノート内容の再読をしておくこと。

教科書

特になし。

参考書

各自で購入すべきものや、図書館で借りるべきものを授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の討論における発言内容（60%）、口頭での発表内容（40%）。

その他

授業時間外に、実験をしたり見学に行ったりすることがある。これらについては最優先事項として取り組むこと。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	浅賀 宏昭	

授業の概要・到達目標

この授業においては、先端生命科学技術を学び、なおかつその社会における応用について検討することがテーマである。

読売新聞や朝日新聞などの一般紙や日経産業新聞などに掲載される先端生命科学関連の記事、および専門誌に掲載された論文などを収集し、それらを批判的に検討しつつ、独自に新たな提言ができるまでにつなげられる実践的な力を涵養するのがこの授業の目標である。

授業内容

この授業では修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文のテーマに関連した論文を取り上げ、さまざまな角度から検討していく。データの収集、データの分析はもとより、仮説の立て方、その検証などについても焦点をあて、指導していく。指導は、以下の内容について、演習形式で行う。

第1回：イントロダクション この授業のねらい

第2回：文献(資料)講読Ⅰ

第3回：文献(資料)講読Ⅱ

第4回：文献(資料)講読Ⅲ

第5回：学外図書館の実践的活用

第6回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅰ

第7回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅱ

第8回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅲ

第9回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅳ

第10回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅴ

第11回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅵ

第12回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅶ

第13回：受講生によるまとめ(中間報告)

第14回：まとめ

履修上の注意

学外の図書館などに出ることがある。毎回の出席を原則とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

主要学術雑誌を、週一回はチェックすること。

教科書

特になし。

参考書

各自で購入すべきものや、図書館で借りるべきものを授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の討論における発言内容（60%）、口頭での発表内容（40%）。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	浅賀 宏昭	

授業の概要・到達目標

この授業においては先端生命科学技術を学び、なおかつその社会における応用について検討する力を付けることがテーマである。

読売新聞や朝日新聞などの一般紙や日経産業新聞などに掲載される先端生命科学関連の記事、および必要に応じて専門誌に掲載された論文などを収集し、それらを批判的に検討しつつ、独自に新たな提言ができるまでにつなげられる実践的な力を涵養するのがこの授業の目標である。

授業内容

この授業では修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文のテーマに関連した論文を取り上げ、さまざまな角度から検討していく。データの収集、データの分析はもとより、仮説の立て方、その検証などについても焦点をあて、指導していく。指導は、以下の内容について演習形式で行う。

- 第1回：イントロダクション この授業のねらい
- 第2回：文献(資料)講読Ⅰ
- 第3回：文献(資料)講読Ⅱ
- 第4回：学外図書館の実践的活用Ⅰ
- 第5回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅰ
- 第6回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅱ
- 第7回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅲ
- 第8回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅳ
- 第9回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅴ
- 第10回：学外図書館の実践的活用Ⅱ
- 第11回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅵ
- 第12回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅶ
- 第13回：受講生によるまとめ(中間報告)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

学外の図書館などに出ることがある。毎回の出席を原則とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

関連分野の主要な学術雑誌の記事を読んでおくこと。

教科書

特になし。

参考書

各自で購入すべきものや、図書館で借りるべきものを授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の討論における発言内容(60%)、口頭発表内容(40%)。

その他

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 理学博士	浅賀 宏昭	

授業の概要・到達目標

この授業においては先端生命科学技術を学び、なおかつその社会における応用について検討する力を付けることが主なテーマである。

読売新聞や朝日新聞などの一般紙や、日経産業新聞などに掲載される先端生命科学関連の記事、および必要に応じて専門誌に掲載された論文などを収集し、それらを批判的に検討しつつ、独自に新たな提言ができるまでにつなげられる実践的な力を涵養するのがこの授業の目標である。

授業内容

この授業では修士論文作成のための研究指導を行う。修士論文のテーマに関連した論文を取り上げ、さまざまな角度から検討していく。データの収集、データの分析はもとより、仮説の立て方、その検証などについても焦点をあて、指導していく。指導は以下の内容について、演習形式で行う。

- 第1回：イントロダクション この授業のねらい
- 第2回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅰ
- 第3回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅱ
- 第4回：受講生の選択した文献(資料)による報告Ⅲ
- 第5回：受講生によるまとめ(中間報告)
- 第6回：修士論文の執筆方法Ⅰ
- 第7回：修士論文の執筆方法Ⅱ
- 第8回：修士論文の添削指導Ⅰ
- 第9回：修士論文の添削指導Ⅱ
- 第10回：修士論文の添削指導Ⅲ
- 第11回：修士論文の添削指導Ⅳ
- 第12回：修士論文の添削指導Ⅴ
- 第13回：修士論文の仕上げ
- 第14回：まとめ(修士論文の再検討と残された課題について)

履修上の注意

学外の図書館などに出ることがある。毎回の出席を原則とする。論文原稿の執筆開始後は、授業がない日も休まずに執筆を続けていただきたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

主要な学術雑誌の記事をチェックし、読んでおくことである。

教科書

特になし。

参考書

各自で購入すべきものや、図書館で借りるべきものを授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の討論における発言内容(60%)、口頭発表内容(40%)。

その他

博士前期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		石山 徳子

授業の概要・到達目標

環境地理学、環境史、環境社会学の分野の基礎文献(デヴィッド・ハーヴェイ、ニール・スミス、ドン・ミッチェル、ジャレッド・ダイアモンド、ローラ・ブリード、ウィリアム・クロノン、キャロリン・マーチャント、ロバート・ゴットリエブ、マイク・デイヴィス等の研究)を体系的に、さらには批判的な問題意識をもって学ぶ。「環境」や「環境問題」について、社会的、歴史的な文脈から読み取れるような基礎学力、及び批判的、且つ、独創的な視座を養う。特に、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティと、歴史・社会・空間構築の相互関係の分析を視野に入れた研究を中心に、領域横断的に文献を読み、自らの研究テーマとの関連を踏まえた考察・議論を進める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：環境地理学文献講読(1)
第3回：環境地理学文献講読(2)
第4回：環境地理学文献講読(3)
第5回：環境地理学文献講読(4)
第6回：環境史文献講読(1)
第7回：環境史文献講読(2)
第8回：環境社会学文献講読(1)
第9回：環境社会学文献講読(2)
第10回：アメリカ研究文献講読(1)
第11回：アメリカ研究文献講読(2)
第12回：アメリカ研究文献講読(3)
第13回：アメリカ研究文献講読(4)
第14回：まとめ

履修上の注意

リアクションペーパーを毎週提出する。シラバスに記載された教科書に加え、多くの英語論文も読む。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献をしっかりと読み、授業での討論に備える。

教科書

Aitken, Stuart C. and Gill Valentine (eds.) Approaches to Human Geography: Philosophy, Theories, People and Practices. Second Edition. Los Angeles, London, New Delhi, Singapore, Washington DC: Sage, 2015.
ウィリアム・クロノン著『変貌する大地 インディアンと植民者の環境史』勁草書房、1995年。
マイク・デイヴィス著 村山敏勝訳『要塞都市LA』青土社、2001年。
森正人著『文化地理学講義 <地理>の誕生からポスト人間中心主義へ』新曜社、2021年。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー 50%
積極的な授業への参加 50%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		石山 徳子

授業の概要・到達目標

環境地理学研究の方法論について、体系的に学ぶ。一次・二次資料(史料)収集、文献講読、フィールドワーク、論文執筆のテクニクについて基礎に立ち戻り、丁寧に学習する。その際に、学術研究という名のもとで遂行された植民地主義的、人種・階級・ジェンダー・セクシュアリティによる差別的な諸政策や歴史についても学び、知識の構築に内在する抑圧構造についても考える。人文・環境地理学、地域研究、及びフィールドワークの方法論に関するテキストを参照すると同時に、環境地理学理論Ⅰで読み進める各種の文献を、方法論的見地から検討する作業を通じて、研究者としての自らの立ち位置、役割について相対的、批判的に分析、考察する問題意識を養う。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：一次・二次資料(史料)収集について、図書館の活用方法
第3回：方法論1 (qualitative research/quantitative research)
第4回：方法論2 (フィールドワーク・参与観察)
第5回：方法論3 (論文執筆とは)
第6回：地理学研究のポリティックス1 (帝国主義と地理学)
第7回：地理学研究のポリティックス2 (人種・階級)
第8回：地理学研究のポリティックス3 (ジェンダー・セクシュアリティ)
第9回：地理学研究のポリティックス4 (地理的スケールの多様性)
第10回：研究者と社会運動(アクティビスト・スカラーとは?)
第11回：フィールドワーク演習1
第12回：フィールドワーク演習2
第13回：論文執筆演習
第14回：成果の発表

履修上の注意

課題文献を、批判精神をもってきちんと読むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み、討論に備える。

教科書

詳細は授業時に指示するが、主要なテキストとして以下の書籍を用いる。

- Aitken, Stuart C. and Gill Valentine (eds.) Approaches to Human Geography: Philosophy, Theories, People and Practices. Second Edition. Los Angeles, London, New Delhi, Singapore, Washington DC: Sage, 2015.
- 桑山敬己編著『人類学者は異文化をどう体験したか 16のフィールドから』ミネルヴァ書房、2021年。
- A.R.ホックシールド著、布施由紀子訳『壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き』岩波書店、2018年。
Hochschild, Arlie Russell. Strangers in Their Own Land: Anger and Mourning on the American Right. New York: New Press, 2016.
- 石山徳子著『「犠牲区域」のアメリカ 核開発と先住民民族』岩波書店、2020年。
- アリス・ゴッフマン著、二文字屋脩・岸下卓史訳『逃亡者の社会学 アメリカの都市に生きる黒人たち』亜紀書房、2021年。
Goffman, Alice. On the Run: Fugitive Life in an American City. The University of Chicago Press, 2014.
- シンシア・エンロー著、望戸愛果訳『バナナ・ビーチ・軍事基地 国際政治をジェンダーで読み解く』人文書院、2020年。
Enloe, Cynthia. Bananas, Beaches and Bases: Making Feminist Sense of International Politics. University of California Press, 2014.

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー（毎回の授業時に提出）50%
ファイナル・ペーパー（オリジナルなりサーチに基づいた研究論文）50%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

国内外における環境地理学、環境史、環境社会学、環境倫理学の分野で開拓されてきた環境正義、エコフェミニズム、クイア生態学、政治生態学の諸理論、批判的人種論、及び、さまざまな思想と社会的なコンテクストのもとで展開してきた環境・社会運動について、体系的に、さらには批判的な問題意識をもって学ぶ。領域的には地理学、歴史学、社会学、ジェンダー・セクシュアリティ研究、先住民研究、思想研究を横断的に参照する。研究対象地域は、担当者の専門であるアメリカ合衆国が中心になるが、他に、中南米、アフリカ、アジア、オセアニアを含む多様な地理空間に展開する事象についても学ぶ。環境問題を社会正義の観点から研究する意義や問題点について検証し、自らの研究テーマの設定につなげる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：批判的人種論(1)
第3回：批判的人種論(2)
第4回：環境正義論(1)
第5回：環境正義論(2)
第6回：エコフェミニズム
第7回：クイア生態学
第8回：政治生態学(1)
第9回：政治生態学(2)
第10回：環境倫理学(1)
第11回：環境倫理学(2)
第12回：環境・社会運動(1)
第13回：環境・社会運動(2)
第14回：成果報告とまとめ

履修上の注意

リアクション・ペーパーを毎週提出すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献をしっかりと読み、概要と感想をまとめ、授業中の討論に備えておくこと。

教科書

以下の書籍を主に使用するが、授業中にその他の課題文献を配布する。

- Walker, G. (2012) Environmental Justice: Concepts, Evidence and Politics. Routledge.
- Mortimer-Sandilands, C. and Bruce Erickson (Eds.) (2010) Queer Ecologies: Sex, Nature, Politics, Desire. Indiana University Press.
- Robbins, P. (2011) Political Ecology: A Critical Introduction. Wiley.
- Omi, M. and H. Winant. (2014) Racial Formation in the United States. Routledge.
- Bonilla-Silva, E. (2013) Racism Without Racists: Color-Blind Racism and the Persistence of Racial Inequality in America. Rowman & Littlefield Pub Inc.
- Hosang, D. M., O. Labennett, L. Pulido. (2012) Racial Formation in the Twenty-First Century. University of California Press.

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー 50%
積極的な授業への参加 50%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

科目ナンバー：(HU) IND612J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究演習Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

これまで学んできた理論や方法論を踏まえ、これらを各自の研究テーマに援用し、論文執筆の作業を進める。先行研究の把握、理論的な枠組みの構築、自らの方法論の定義、一次・二次資料(史)料の収集、現場でのフィールドワークによる調査、データ分析を行い、最終的には社会的な意義のある、独創的な研究論文を完成させる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：地理学理論(1)
第3回：地理学理論(2)
第4回：地理学理論(3)
第5回：地理学方法論(1)
第6回：地理学方法論(2)
第7回：地理学方法論(3)
第8回：フィールドワーク演習(1)
第9回：フィールドワーク演習(2)
第10回：データ分析(1)
第11回：データ分析(2)
第12回：論文執筆演習(1)
第13回：論文執筆演習(2)
第14回：成果の発表

履修上の注意

- 修士論文の執筆を進めるにあたり、これまでに履修した授業で得た知識やテクニックを体系的に整理し、執筆につなげる。
- 提出物の期限を守ること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- 課題文献をしっかりと読み、授業中の討論に備える。
- リアクション・ペーパーや、エッセイを書き、提出する。

教科書

授業中に指示する。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

積極的な授業への参加 50%
課題論文 50%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球公共論研究特論I		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任准教授 博士(学術) 上村 威		

授業の概要・到達目標

アジア太平洋地域の国際関係について歴史、政治、経済、文化交流など、様々な側面から考察を深める。
単なる事実関係の確認ではなく、政治学や政治社会学を中心とする理論的視座を通して、具体的な事件や現象を説明し、予測を試みる。
また、教員から学生への一方的な講義ではなく、学生自らが考察し、学生同士、学生と教員間の討論や議論を重ねながら、学びを深めていく。
一学期を通して、この分野に関連する基礎的な先行研究を押さえるとともに、当該地域に関する考察の視座を複数獲得する。

授業内容

- 1) 授業紹介
- 2) アジア太平洋地域近現代史概論
- 3) 国際関係理論から見るアジア太平洋地域の国際政治
- 4) 日本政治
- 5) 日中関係
- 6) アメリカと戦後日本
- 7) アメリカとアジア太平洋地域
- 8) 中国政治
- 9) 中国外交、米中関係
- 10) 朝鮮半島情勢
- 11) 台湾
- 12) インド、インド太平洋の安全保障
- 13) 発表準備
- 14) 発表

履修上の注意

学生が自ら探求し、発言することが必須
一学期14回の授業のうち、3分の2以上の出席者のみ評価対象とする

準備学習（予習・復習等）の内容

リーディングは必ず授業の前に精読すること

教科書

指定なし
教員より必要に応じてOh-o! Meijiにて配布する

参考書

指定なし
教員より必要に応じてOh-o! Meijiにて配布する

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に随時フィードバックする
提出物に関しては、Oh-o! Meiji上にてフィードバックする

成績評価の方法

授業参加(発言、ディスカッション) 50%
* 発言せず、出席することだけでは授業参加とは認めない

期末ペーパー 50%

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球公共論研究特論II		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

近代化とともに知識も行動範囲も広がったとはいえ、人が五感で環境を認識できる範囲には時空間的に限界がある。しかし、高度な消費生活をおくる私たちの環境への影響は無自覚のうちに広域化かつ複雑化してしまっている。本講義では経済活動のグローバル化とともに深まる地球環境問題の発生要因とその影響を解説し、認識できる範囲と影響を及ぼす範囲の乖離を埋めることを試みる。

授業内容

- 第1回：I. 私たちを取りまく自然環境
- 第2回：大気環境
- 第3回：水環境
- 第4回：土壌環境
- 第5回：生物環境
- 第6回：人間活動の影響 産業公害
- 第7回：人間活動の影響 酸性雨
- 第8回：人間活動の影響 成層圏オゾン層の破壊
- 第9回：人間活動の影響 地球温暖化
- 第10回：II. グローバルな経済活動の環境への影響
- 第11回：日本の森林問題と世界の森林問題
- 第12回：日本の水問題と世界の水問題
- 第13回：MDGsとSDGs
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業計画は講義の進度により、若干変更する場合もありうる。

準備学習（予習・復習等）の内容

環境問題に関係する新聞記事等には、毎週目を通してから講義にのぞむ。

教科書

指定なし。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度6割と課題4割。

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	平和構築研究特論Ⅰ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	兼担教授		李 英美

授業の概要・到達目標

朝鮮半島現代史の始まりとされる朝鮮戦争を中心に、その前後の朝鮮半島を取り巻く国際情勢(植民地支配、独立、分断)を踏まえた上で、戦争の要因を分析、考察した研究書を精読し、南北分断の世界史的意義と世界平和について考えることが本講義のテーマである。

この精読過程をとおして、一次資料および文献の読み方を習得することが講義の到達目標である。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：ブルース・カミングス著、栗原泉・山岡由美訳『朝鮮戦争論—忘れられたジェノサイド』(1)(精読)
第3回：ブルース・カミングス著、栗原泉・山岡由美訳『朝鮮戦争論—忘れられたジェノサイド』(2)(精読)
第4回：ブルース・カミングス著、栗原泉・山岡由美訳『朝鮮戦争論—忘れられたジェノサイド』(3)(精読)
第5回：ブルース・カミングス著、栗原泉・山岡由美訳『朝鮮戦争論—忘れられたジェノサイド』(4)(精読)
第6回：ブルース・カミングス著、栗原泉・山岡由美訳『朝鮮戦争論—忘れられたジェノサイド』(5)(精読)
第7回：討論
第8回：ブルース・カミングス『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』(1)(精読)
第9回：ブルース・カミングス『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』(2)(精読)
第10回：ブルース・カミングス『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』(3)(精読)
第11回：ブルース・カミングス『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』(4)(精読)
第12回：ブルース・カミングス『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』(5)(精読)
第13回：討論
第14回：まとめと総括

履修上の注意

まずは現代朝鮮半島を取り巻く国際情勢について概観し、そのあとに主にブルース・カミングスによる朝鮮戦争論を取り上げるので、その代表作である『朝鮮戦争の起源』(全2巻3冊。下記参考書欄を参照)に、事前に目をとっておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の中にある歴史的事象についてリサーチしておくこと。

教科書

ブルース・カミングス著、杉田米行監訳、古谷和仁・豊田英子訳『北朝鮮とアメリカ—確執の半世紀』明石書店、2004（全328頁）
ブルース・カミングス著、栗原泉・山岡由美訳『朝鮮戦争論—忘れられたジェノサイド』明石書店、2014（全300頁）

参考書

ブルース・カミングス著、横田安司・小林知子訳『現代朝鮮の歴史—世界史のなかの朝鮮』明石書店、2003（全912頁）
ブルース・カミングス著、鄭敬謨・林哲・加地永都子・山岡由美訳『朝鮮戦争の起源』(全2巻3冊)、明石書店、2012（各644、484、560頁）
姜尚中・水野直樹・李鍾元編『日朝交渉—課題と展望』岩波書店、2003（全246頁）
金伯柱『朝鮮半島冷戦と国際政治力学』明石書店、2015（全352頁）

課題に対するフィードバックの方法

発表レジュメを中心に授業中にコメントする。
その後、発表者はコメントの内容を反映して修正したレジュメをクラスウェブにアップして提出すること。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢(50%)、発表およびレポートの提出(50%)により総合判断。

その他

初回の授業で履修者の問題関心や希望を受け入れて、以上の内容に若干の変更を加える場合がある。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究特論Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.	廣部 泉	

授業の概要・到達目標

アメリカのポップカルチャーと国際関係の関係について歴史的に考察します。実際の映像作品なども視聴して、その世界史的意味についても考えます。少人数の授業ですので分担者に教科書の担当箇所を報告してもらうとともに、各自関心のある作品等についても発表してもらいます。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
第2回 19世紀以前
第3回 都市の発展と大衆文化の登場
第4回 無声映画
第5回 狂騒の20年代とマスカルチャー
第6回 第二次世界大戦とプロパガンダ
第7回 テレビの衝撃
第8回 冷戦の武器としての大衆文化
第9回 デイズニールランドの衝撃
第10回 ヒッピー文化
第11回 スターウォーズの衝撃
第12回 冷戦の終結
第13回 インターネットの登場
第14回 まとめ

履修上の注意

授業の進度や内容は、参加者の顔ぶれや理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書の次の箇所を読んでおくこと。

教科書

Gordon Foner, Evolution of American Pop Culture (Amazon KDP, 2024)を考えていますが、受講者の顔ぶれによって追加することもあります。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(発表などの授業に対する貢献)50%、期末レポート50%

その他

受講者の顔ぶれにより、授業の順番や速度を変更することがあります。

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究特論Ⅲ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

本年度は、中国革命をはじめとする20世紀革命運動の文献を通読する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2～13回：発表者の報告と解説
第14回：総括

履修上の注意

- ・初回の授業に欠席した場合は、履修を認めない。
- ・毎回出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

- ・下調べ等の準備に時間を使うことになることを受け入れられること。

教科書

- ・初回の授業で履修者の関心を確認しながら決定する。

参考書

- ・必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・報告の形式と内容、および議論への積極性を評価する。
- ・授業での具体的状況に応じて、テストあるいはレポートを実施する場合があるが、その場合は、上述の評価とテスト(レポート)の評価とで50%ずつの評価をつけることとする。
- ・授業において日本語での議論を十分に理解できていない学生については、単位を認めない。

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究特論Ⅳ		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 鳥居 高		

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
「平和」の1つの条件として、軍事的危機や紛争状態の解決のみならず、貧困の削減や生活水準の向上など経済的充足を考えることは必要不可欠であろう。第2次世界大戦後、世界銀行に代表される国際開発諸機関は、試行錯誤を重ねながら開発戦略を展開してきた。

(2)到達目標
本演習で取り上げる主な課題は貧困、過剰開発等開発をめぐる問題と「平和」を維持する制度の構築の検討である。国際機関がどのような開発戦略をどのような思想に基づいて展開してきたかについて理解し、考察することを目標とする。研究テーマは国際諸機関の経済開発戦略とその思想を包括的に理解することを目標とする。

授業内容

第1回：経済開発思想とは
第2回：戦後世界経済の歩み
第3回：新興独立国家における経済開発
〈その1〉戦後の経済独立とナショナリズム
第4回：独立国家における経済開発
〈その2〉経済援助体制の確立と仕組み
第5回：経済開発概念の枠組み：近代化論とロストウ
第6回：新国際経済秩序(NIEO)
第7回：UNCTAD（国連貿易開発会議）
第8回：ペーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略
第9回：内的発展論
第10回：経済改革融資の仕組み（構造調整融資(SA)など）
第11回：女性・ジェンダー・環境と開発
第12回：人間中心の開発
第13回：持続可能な開発目標(SDGs)
第14回：まとめ

履修上の注意

マクロ経済学あるいは開発経済学を学んだことがない学生は、演習と併行して関連図書を読むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

(1)予習
指定されたテキストを事前に必ず読んでおくこと。
テキストとしては『開発戦略と世界銀行』速水佑次郎監訳（知泉書館）。
参照すべき関連図書としては『戦後世界経済史』猪木武徳（中公新書、2009年）
『世界銀行：開発戦略の変革』大野泉（NTT出版、2000年）
(2)復習そのほか

国際開発に関する動きは、同時並行的に発生している。このため、新聞、インターネットのニュースを適宜フォローすること。合わせて、BS1、ETV、NHK総合などの映像番組でも貧困、環境問題などが取り上げられることから、「世界のドキュメンタリー」「ETV特集」「Asia Insight」など良質なドキュメンタリー番組を紹介するので、視聴すること。

教科書

『開発戦略と世界銀行』速水佑次郎監訳（知泉書館）

参考書

世界銀行『世界銀行開発報告』年次によっては邦文訳書がある。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価は授業時の『報告』、議論への貢献などの平常点(50%)と最終課題レポート(50%)で判断する。
また、当該研究領域に関する映像資料プログラムへの参加は評価に反映する。

その他

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511E			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築研究特論V		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

The sudden and violent rise of the group aka. Islamic State (IS) drastically changed our notion of terrorism. Far from small bands of extremists that commit act of terrorism sporadically, the IS had its own territory, army and state apparatus. It curved out, though temporarily, a huge territory larger than the Great Britain, out of the space between Syria and Iraq, as well as created several enclaves scattering between North Africa and South Eastern Asia. It could also mobilize foreign mercenaries in more than 100 countries. Its reach is now worldwide, and poses serious threats to our global community. How has it emerged? How could it build up its `state'? Why could it attract such a huge number of people? What kind of goal is it pursuing? This lecture tries to give answers to those questions by highlighting the genesis and development of Salafi-Jihadism as an idea, and following the path that the Islamists have embodied this idea into tangible organizations.

授業内容

- 1 lecture: Introduction, Basic tenets of Islam
- 2 lecture: Living Islam and its various forms
- 3 lecture: Islamic Revivalism in Modern times
- 4 lecture: Muslim Brotherhood and its ideologues: Banna and Qutb
- 5 lecture: Development of Salaf-jihadist ideologies: Jihad by Farraj ans Azzam
- 6 lecture: Afghan War and the Genesis of al-Qaeda
- 7 lecture: Bosnian Civil War and al-Qaeda's infiltration into Europe
- 8 lecture: Civil War in Chechnya, and the Genesis of Caucasus Emirate
- 9 lecture: 9/11 Attack and Al-Qaeda's Strategies
- 10 lecture: The Second US invasion in Iraq, and the Genesis of Islamic State in Iraq
- 11 lecture: Syrian Civil War and IS
- 12 lecture: The expansion of IS provinces into Central Asia
- 13 lecture: Salafi-Jihadism in Southeastern Asia
- 14 lecture: The Case of Africa: Boko Haram and al-Shabaab, Overview

履修上の注意

この授業は英語で行います。受講者は以下の要項を熟読してください。

The lecture is given in English. The summary of lecture as well as auxiliary materials and texts will be uploaded on the class web. Students are expected to download them from material site, in advance to the lecture. Since this lecture deals with contemporary phenomena, the lesson plans will be adjusted to catch up with the ongoing events.

準備学習（予習・復習等）の内容

suggest in the classroom

教科書

Not particularly

参考書

Not particularly

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

The score will be given with regard to attendance, quality of reports, and final paper.

その他

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究特論I		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

20世紀以降、人口増加と工業化の進展により人類が地球環境にかける負荷は急増した。日本でも戦後の高度成長とともに物質的に豊かで便利な生活が享受できるようになったが、それを支える科学技術は、同時に、自然破壊や公害の発生の元凶にもなった。

環境問題を人類に気づかせたのも、その解決に力を発揮することが期待されるのも科学技術であるが、今問われるのは人間が自然との持続的な関わりを保つために科学技術をいかに使いこなすかである。本講義ではこのような科学技術と環境問題の関係の諸側面を明らかにするために主として日本における両者の関係の歴史をひもときながら、人間と自然、その中で科学技術のあり方について考える。

授業内容

- 第1回：はじめに なぜ今日本の公害を学ぶのか
- 第2回：環境問題と科学技術の歴史 明治時代
- 第3回：環境問題と科学技術の歴史 高度成長期まで
- 第4回：公害問題(1)水俣病
- 第5回：公害問題(2)水俣病
- 第6回：公害問題(3)水俣病と企業倫理
- 第7回：公害問題(4)イタイイタイ病
- 第8回：公害問題(5)四日市公害
- 第9回：公害問題(6)アスベスト
- 第10回：公害問題(7)公害の輸出
- 第11回：科学技術と途上国問題
- 第12回：途上国の公害
- 第13回：日本人の自然観と公害
- 第14回：まとめ 日本の公害経験を伝えるために

履修上の注意

授業計画は講義の進度により、若干変更する場合もありうる。

準備学習（予習・復習等）の内容

環境問題に関係する新聞記事等には、毎週目を通してから講義にのぞむ。

教科書

指定せず。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業への貢献度とレポート。

その他

博士前期課程

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究特論Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 理学博士	浅賀 宏昭	

授業の概要・到達目標

我が国における科学技術教育の内容と、社会で実用化されている（もしくはされつつある）科学技術の間の乖離は、年々大きくなっており、これは一つの大きな問題を形成しつつある。この授業においては、先端生命科学技術の分野において、その乖離を埋めること、およびそれら先端生命科学技術を社会においてどのように活かしていくべきかを考える。

到達目標としては、読売新聞、朝日新聞などの一般紙および日経産業新聞や日刊工業新聞などに掲載される先端生命科学技術に関する記事を理解し、かつ批判的に検討できるレベルを掲げておく。

授業内容

科学技術の研究開発が進み、その成果が社会に還元され、応用されていくことは、私たち人間をとりまく環境を変える強い力である。そこでこの講義では、私たち人間を取り巻く環境および人間そのものの存在に年々大きな影響を与えていく先端生命科学技術を丁寧に解説していくこととする。可能な限り、生命倫理および科学技術社会論(STS)的な観点からの考察をも、受講生の皆さんと加えていこうとは考えているが、それを主体とした講義ではないことをお断りしておく。

- 以下の内容を講義形式で授業を進めていく予定である。
- 第1回：この講義の狙いと進め方について（イントロダクション）
- 第2回：遺伝子改変技術の細菌への応用
- 第3回：遺伝子改変技術および細胞融合技術の植物（「作物」を含む）への応用
- 第4回：遺伝子改変技術、細胞融合技術、および発生工学の動物（「家畜」を含む）への応用
- 第5回：バイオマスとバイオマスエネルギー
- 第6回：バイオマスエネルギーの利用のさまざまな影響と問題点
- 第7回：バイオプラスチックと環境ホルモン
- 第8回：デザイナーベビーと生殖補助医療に応用される先端生命科学技術
- 第9回：多能性幹細胞作製技術の進歩と再生医療への応用
- 第10回：臓器移植技術の進歩と人工臓器作製技術
- 第11回：ゲノム情報の医療および医薬品開発への応用
- 第12回：遺伝子検査・診断および遺伝子治療の実際と個別化医療（テラーメイド医療）の実現
- 第13回：人体および各種生物の利用と知的財産権の問題
- 第14回：まとめ

履修上の注意

とにかく休まないことである。また、講義の進行に合わせて、小課題（レポート）を出すので、それに必ず取り組んでいただくことが必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

普段より新聞や雑誌の記事をチェックして読む習慣を身につけること。

復習はノート内容の確認をしておくこと。

教科書

適当なものが無いので用いない。

参考書

講義中に適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

受験資格がある者に対して、口述式試験(100%)で評価する。

その他

7割以上の出席と小課題の提出を、上記試験の受験資格とする。

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境研究特論Ⅲ		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D.	石山 徳子	

授業の概要・到達目標

主に、アメリカ合衆国の核開発を事例に、環境問題について、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティによる制度的な差別構造との関連性という観点から考察する。「科学」や「技術」に内在するさまざまな不平等、環境正義の概念、「自然」の概念と人種差別主義や植民地主義の関係を直した上で、自然・社会環境の構築プロセスについて社会的、文化的、政治経済的な営みとして認識し、批判的に見つめる視点と分析力を身につけることを目標にする。アメリカ合衆国との比較の見地から、日本の事例についても取り上げる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：環境正義とサステナビリティ（1）
- 第3回：環境正義とサステナビリティ（2）
- 第4回：環境正義と社会運動（1）
- 第5回：環境正義と社会運動（2）
- 第6回：人新世と環境正義（1）
- 第7回：人新世と環境正義（2）
- 第8回：核開発とは何を意味するのか
- 第9回：アメリカ合衆国の核開発（1）
- 第10回：アメリカ合衆国の核開発（2）
- 第11回：アメリカ合衆国の核開発（3）
- 第12回：日本の核開発（1）
- 第13回：日本の核開発（2）
- 第14回：まとめ

履修上の注意

毎回課題をしっかりと読み、リアクションペーパーを用意してくること。

リアクションペーパーを元にする討論にも、積極的に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回課題文献をしっかりと読み、A4 1枚に概要と、感想をまとめてくる。

教科書

Barker, Holly M. (2015) Confronting a Trinity of Institutional Barriers: Denial, Cover-Up, and Secrecy. *Oceania* 85-3: 376-389.

Endress, Danielle (2012) Sacred Land or National Sacrifice Zone: The Role of Values in the Yucca Mountain Participation Process. *Environmental Communication*. 6-3: 328-345.

Hooks, Gregory and Chad L. Smith. The Treadmill of Destruction: National Sacrifice Areas and Native Americans. *American Sociological Review* 69-4: 558-575.

Ishiyama, Noriko (2017) Environmental In/Justice In The International Encyclopedia of Geography: People, the Earth, Environment, and Technology. Douglas Richardson (ed.) Wiley-Blackwell, pp. 1-19.

石山徳子著「犠牲区域」のアメリカ 核開発と先住民民族 岩波書店 2020年

岩野卓司・丸川哲史編『野生の教養 飼いやられず、学び続ける』法政大学出版局、2022年

開沼博著「フクシマ」論 原子力ムラはなぜ生まれたのか 青土社 2011年

斎藤幸平「人新世の「資本論」 集英社新書 2020年

関礼子・原口弥生編『福島原発事故は人びとに何をもちたのか』新泉社、2023年

高橋哲哉著「犠牲のシステム 福島・沖縄」集英社新書 2012年

戸谷洋志「原子力の哲学」集英社新書、2020年

藤川賢・友澤悠希編『なぜ公害は続くのか 潜在・散在・長期化する被害』新泉社、2023年

山本昭宏「原子力の精神史 ―＜核＞と日本の現在地」集英社新書、2021年

吉永明弘／福永真弓編著『未来の環境倫理学：災後から未来を語るメソッド』勁草書房 2018年

若尾祐司・木戸衛一編『核と放射線の現代史 開発 被ばく 抵抗』昭和堂、2021年

参考書

授業中に指示。

課題に対するフィードバックの方法

各自のリアクションペーパーへのフィードバックを、討論などを通じておこなう。

成績評価の方法

- ① 毎回の授業でA4用紙1枚程度のリアクションペーパーを提出。60%
- 授業では、それぞれがリアクションペーパーの内容を紹介し、討論の材料とする。必ず、討論のポイントを、問いかけ、という形で、2～3点挙げる。その上で毎回、クラスメートと教員分に配布するリアクションペーパーを各自印刷し、全員分持参すること。
- ② 小論文とこれに関する発表 40%
- (ア) 本授業に関連したテーマを設定し、小論文を作成する。
- (イ) 4000～6000文字程度。

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

コース選択科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	科学技術史研究特論		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(工学) 勝田 忠広		

授業の概要・到達目標

科学技術の発達が人類に与える影響について、過去、現在の状況を評価・分析し、将来の望ましい展望を見出す
特に本研究では、核の平和利用と軍事利用を事例として扱う

授業内容

第1回：授業の内容と意義
第2回：原子力発電の仕組み
第3回：原子力発電の歴史と現状
第4回：討論(1)
第5回：討論(2)
第6回：討論(3)
第7回：全体討論
第8回：核兵器の仕組み
第9回：核兵器の歴史と現状
第10回：討論(1)
第11回：討論(2)
第12回：討論(3)
第13回：全体討論
第14回：総括

履修上の注意

積極的なディスカッション、海外文献、海外雑誌・報道の日常的な情報収集が必要

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された次の授業内容についての予習
授業で紹介した内容についての復習

教科書

内容に応じて授業で指定

参考書

Scientific American, Bulletin of the Atomic Scientists等

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(50%)
課題・レポート等(50%)

その他

特になし

共通必修科目

科目ナンバー：(HU) IND511J			
共通必修科目		備考	
科目名	論文作成特論		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任講師 博士(学術) 佐藤 公紀		

授業の概要・到達目標

修士論文を作成するために必要な基礎的知識・方法などについて、段階的に学んでいく。講義形式による授業にあわせて、論文作成プロセスに即した課題に順次とりくんでもらう。
修士論文執筆の前提となる基礎的知識・方法の着実な修得を目指す。

授業内容

第1回：イントロダクションー修士論文とは何か 佐藤公紀
第2回：M2第三次中間報告会に出席
第3回：資料収集の基本 広沢絵里子
第4回：既存文献の収集と整理 畑中基紀
第5回：社会調査の方法(フィールドワーク) 石山徳子
第6回：統計・図表・数値データの利用 鳥居高
第7回：口頭発表の方法 宮脇梨奈(兼任)
第8回：論旨展開(仮説と検証) 浅賀宏昭
第9回：外国語文献の利用 佐藤公紀
第10回：M1第一次中間報告会
第11回：文献の精読とテキスト分析 井上善幸
第12回：史料論 薩摩秀登
第13回：新しい資料の活用法 加藤徹
第14回：研究不正とは何か/全体のまとめ 佐藤公紀

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に配布された印刷資料に目を通したうえで、授業に参加すること。

教科書

印刷資料を配布する。

参考書

伊丹敬之『創造的論文の書き方』(有斐閣、2001年)
木下是雄『理科系の作文技術』(中公新書、1981年)
ウンベルト・エコ『論文作法ー調査・研究・執筆の技術と手順』(而立書房、1991年)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

(1)「論文構成」・「執筆計画書」(完成版)の提出(30%)、
(2)積極的な授業参加(40%)、
(3)中間報告会における発表(30%)、
この三つの要素を総合的に評価する。

その他

教養デザイン研究科

博士後期課程

(授業科目・担当者及び履修方法)

1. 修了要件について

- (1) 本研究科の博士後期課程においては、3年以上在学し、20単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士学位請求論文の審査に合格した者には、博士の学位が授与されます。
- (2) 単位の履修にあたっては、次の要件を満たさなければなりません。
 - ア コース必修科目のうち、指導教員が担当する専修科目12単位（研究論文指導Ⅰ～Ⅵ）を必修とする。
 - イ コース選択必修科目については、所属コースの講義科目（特別研究）の中から4単位を必修とする。また、所属コース以外の講義科目（特別研究）、共通選択科目（現代教養総合研究）もしくは博士前期課程の講義科目（特論）の中から、4単位を修得しなければならない。なお、博士前期課程科目の履修にあたっては、必ず履修登録前に指導教員の下承を受けること。
 - ウ 指導教員が研究指導上必要と認めた場合には、他研究科（専門職学位課程を含む）の授業科目及び別表1の2に規定する研究科間共通科目を履修することができる。

2. 履修にあたっての注意事項

指導教員の指導のもとに各自の履修・研究計画を立てなければなりません。

各自の研究計画にしたがって、4月の定められた日までに当該年度の「履修計画書」（指導教員の承認が必要）を提出してください。

3. 修了見込証明書について

博士学位請求論文の審査に合格後、大学院委員会において博士の学位授与が承認された場合に、修了見込証明書を発行します。

授業科目及び担当者一覧表（博士後期課程）

〔教養デザイン専攻〕

授業科目		単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ
コ ー ス 必 修 科 目	「思想」領域研究コース							
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	岩 野 卓 司	1～3年次 継続履修	○	119
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					119
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					120
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					120
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					121
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					121
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	釜 崎 太	1～3年次 継続履修	○	122
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					122
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					123
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					123
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					124
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					124
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	井 上 善 幸	1～3年次 継続履修	○	125
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					125
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					126
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					126
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					127
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					127
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	本 間 次 彦	1～3年次 継続履修	○	128
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					128
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					129
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					129
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					130
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					130

授業科目		単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ
コ ー ス 必 修 科 目	「文化」領域研究コース							
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	広 沢 絵里子	1～3年次 継続履修	○	133
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					133
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					134
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					134
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					135
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					135
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	虎 岩 直 子	1～3年次 継続履修	○	136
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					136
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					137
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					137
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					138
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					138
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	鈴 木 哲 也	1～3年次 継続履修	○	139
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					139
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					140
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					140
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					141
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					141
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	池 田 功	1～3年次 継続履修	○	142
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					142
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					143
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					143
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					144
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					144
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	山 岸 智 子	1～3年次 継続履修	○	145
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					145
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					146
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					146
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					147
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					147
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	加 藤 徹	1～3年次 継続履修	○	148
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					148
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					149
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					149
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					150
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					150

授業科目		単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ	
コ ー ス 必 修 科 目	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	丸 川 哲 史	1～3年次 継続履修	○	151	
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					151	
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					152	
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					152	
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					153	
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					153	
	「平和・環境」領域研究コース								
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	鳥 居 高	1～3年次 継続履修	○	156	
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					156	
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					157	
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					157	
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					158	
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					158	
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	佐 原 徹 哉	1～3年次 継続履修	○	159	
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					159	
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					160	
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					160	
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					161	
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					161	
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	廣 部 泉	1～3年次 継続履修	○	162	
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					162	
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					163	
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					163	
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					164	
	研究論文指導Ⅵ	演2	3					164	
	研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	羽 根 次 郎	1～3年次 継続履修	○	165	
	研究論文指導Ⅱ	演2	1					165	
	研究論文指導Ⅲ	演2	2					166	
	研究論文指導Ⅳ	演2	2					166	
	研究論文指導Ⅴ	演2	3					167	
研究論文指導Ⅵ	演2	3	167						
研究論文指導Ⅰ	演2	1	専任教授	石 山 徳 子	1～3年次 継続履修	○	168		
研究論文指導Ⅱ	演2	1					168		
研究論文指導Ⅲ	演2	2					169		
研究論文指導Ⅳ	演2	2					169		
研究論文指導Ⅴ	演2	3					170		
研究論文指導Ⅵ	演2	3					170		

授業科目		単位	配当 年次	職格	教 員 氏 名	備考	研究指導	ページ
コ ー ス 選 択 必 修 科 目	「思想」領域研究コース							
	思想領域特別研究	講2	1・2・3	専任教授	岩 野 卓 司			131
	思想史領域特別研究	講2	1・2・3	兼担教授	美濃部 仁	2025年度開講せず		131
	思想史領域特別研究	講2	1・2・3	専任教授	本 間 次 彦			132
	思想史領域特別研究	講2	1・2・3	専任教授	釜 崎 太			132
	「文化」領域研究コース							
	文化理論特別研究	講2	1・2・3	専任教授	薩 摩 秀 登			154
	文化理論特別研究	講2	1・2・3	専任教授	山 岸 智 子			154
	地域文化特別研究	講2	1・2・3	専任教授	加 藤 徹	2025年度開講せず		155
	言語文化特別研究	講2	1・2・3	専任教授	鈴 木 哲 也			155
	「平和・環境」領域研究コース							
	平和構築特別研究	講2	1・2・3	専任教授	鳥 居 高			171
	平和構築特別研究	講2	1・2・3	専任教授	羽 根 次 郎			171
	地球環境特別研究	講2	1・2・3	専任教授	森 永 由 紀			172
	地球環境特別研究	講2	1・2・3	専任教授	浅 賀 宏 昭	2025年度開講せず		172
	科学技術史特別研究	講2	1・2・3	専任教授	勝 田 忠 広			173
共通 選択 科目	現代教養総合研究Ⅰ	講2	1・2・3	専任教授	中 村 和 恵			174
	現代教養総合研究Ⅱ	講2	1・2・3	専任教授	丸 川 哲 史	2025年度開講せず		174

授業科目について

(1) 単位制度

1 週 1 コマ 100 分を、半年ずつ春学期・秋学期に区分したものを各 2 単位とする。

(2) 授業科目の番号

研究論文指導Ⅰ～研究論文指導Ⅵ / ○○研究Ⅰ、○○研究Ⅱ：内容の区別を示す。(履修の順序は定めない。)

2019年度以前博士後期課程入学者への注意事項

2020年度カリキュラム改正により、思想領域研究コースにて、科目名称が一部変更されました。

ただし、2019年度以前入学者は、従前のカリキュラム、修了要件と変更はありません。

修了要件については、入学年度の便覧を参照してください。

授業科目及び担当者一覧表（114 頁）と下記の表を確認のうえ、シラバスを参照してください。

授業科目新旧対照表（博士後期課程・思想領域研究コース）

2019年度以前入学者				2020年度入学者				教員氏名
授 業 科 目		単 位	配当年次	授 業 科 目		単 位	配当年次	
コ ー ス 選 目 必 修	西洋思想領域特別研究	講 2	1・2・3	コ ー ス 選 目 必 修	思想領域特別研究	講 2	1・2・3	岩 野 卓 司
	東洋思想領域特別研究	講 2	1・2・3		思想史領域特別研究	講 2	1・2・3	本 間 次 彦
	西洋思想領域特別研究	講 2	1・2・3		思想史領域特別研究	講 2	1・2・3	美濃部 仁

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

思想史とは何かを考えていながら、思想史という分野で研究することの意義を考えていく。思想史は何を追及する学問なのかを一緒に考え、その領域と方法について説明しながら、まずは学生に思想史研究を自覚させる。そのうえで、研究テーマを提出させ、問い方についてともに考えていく。

授業で学生と「思想史研究」についてのテキストをいくつも読みながら、思想史という分野にふさわしい問題設定を教える。それを通して、学生に研究テーマについて議論していく。また、学生にテーマについての問い方も説明させ、問い方についてともに考えていく。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：思想史とは何か？(1) 思想史の概念
- 第3回：思想史とは何か？(2) 思想史のテーマ
- 第4回：思想史とは何か？(3) 思想史の課題
- 第5回：思想史とは何か？(4) 思想史の未来
- 第6回：思想史の研究史(1) 思想史と哲学
- 第7回：思想史の研究史(2) 思想史と人文科学
- 第8回：思想史の研究史(3) 思想史と社会科学
- 第9回：思想史の研究史(4) 思想史と自然科学
- 第10回：思想史の問い方(1) 歴史的な方法
- 第11回：思想史の問い方(2) 文献との関係
- 第12回：思想史の問い方(3) 哲学的問いとの関係
- 第13回：思想史の問い方(4) テキスト理論
- 第14回：まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容は、文献などで調べておくこと。

教科書

プリントを配布。

参考書

岩野卓司、『ジョルジュ・バタイユ 神秘経験をめぐる思想の限界と新たな可能性』、水声社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発言、発表といった授業への参加・貢献度。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

学生の研究テーマと設定された問いのもとでの、文献調査を指導する。日本語と外国語における先行研究、ならびに研究対象についての資料調査、さらには自分の方法論に関する先行研究の文献調査。

授業で文献表の作り方を教え、何が自分の研究に必要なかを調べさせて、毎週、主要文献について発表させ、討論することで、文献や資料にたいする批判的な目を養わせる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：文献調査(1) 何を調べるか？
- 第3回：文献調査(2) 論文と文献
- 第4回：文献調査(3) 図書館活用法
- 第5回：文献調査(4) 文献検索の方法
- 第6回：文献調査(5) 外国文献の取り扱い方
- 第7回：主要文献についての発表と討議(1) 文献表の発表
- 第8回：主要文献についての発表と討議(2) 討議と指導
- 第9回：主要文献についての発表と討議(3) 問題点の発表
- 第10回：主要文献についての発表と討議(4) 討議と修正
- 第11回：主要文献についての発表と討議(5) 論文テーマと文献表との関係
- 第12回：主要文献についての発表と討議(6) テーマの修正はあるか？
- 第13回：主要文献についての発表と討議(7) 研究作業の問題点
- 第14回：主要文献についての発表と討議(8) 論文テーマと文献表の再確認

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容は、文献などで調べておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表のような授業への積極的参加。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

この学期では、ひとつのテーマのもとで参考文献を読んできたことを前提に、博士論文執筆のための方法論を明示させ、論文の目次を作成させて論文の骨格をつくらせる。学期の初めに方法論を提出させて、思想史研究にふさわしい方法論であるかを討議する。学期の中ごろまでに目次（章割）を提出させて、論文の骨格づくりを指導する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：方法論の問題(1) どのような方法を採用すべきか。
第3回：方法論の問題(2) 実証主義
第4回：方法論の問題(3) 歴史的視点
第5回：方法論の問題(4) 解釈学
第6回：方法論の問題(5) アンケート調査
第7回：方法論の問題(6) 作品論
第8回：方法論の問題(7) 構造主義
第9回：方法論の問題(8) テキスト論
第10回：目次の検討(1) 採用した方法のもとでの目次
第11回：目次の検討(2) 目次の問題点
第12回：目次の検討(3) 目次とテーマの関係
第13回：目次の検討(4) 目次と問い
第14回：目次の検討(5) 目次と論文内容

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容は、文献などで調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的な参加。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

学生に実際に論文を執筆させてみる。自分の目的、テーマ、方法にそって論文を書けるかどうかをみるために、実際に第一章を書かせて提出させる。授業の半分の回では執筆のテクニックを教え、残りの半分の回では提出した第一章について討議する。執筆の際の細かい注意点について授業では教える。また、論文内容について、毎回学生との討議のうえで授業をすすめる。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：論文の書き方(1) テーマ
第3回：論文の書き方(2) 問い
第4回：論文の書き方(3) 構成
第5回：論文の書き方(4) 注
第6回：論文の書き方(5) 先行研究の確認
第7回：論文の書き方(6) 序論と結論
第8回：第一章の検討(1) テーマと問いとの関係
第9回：第一章の検討(2) 論文全体との関係
第10回：第一章の検討(3) 先行研究との関係
第11回：第一章の検討(4) 内容の構成
第12回：第一章の検討(5) 表現
第13回：第一章の検討(6) 討議と反省点の確認
第14回：まとめ

履修上の注意

授業はZoomのオンデマンド形式で行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容は、文献などで調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

いかにこちらの指導する形式にのっとって第一章が書けているかどうか、評価のポイントである。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅴ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

今学期は論文についての中間報告をさせて、それについて授業に出席している学生全員で討論することを授業の目的にする。授業の前半では、前学期に引き続き論文の内容について毎回学生と対話し、授業の半分の回が終了した時点で学生の中間報告に移る。すでに作成した目次にそって、きちんと書いているか、あるいはどう変更したかを学生に発表させて討議する。その時点でまでにできあがった原稿を提出させ、また討議用レジュメも提出させる。それらに基づき、学生に注意点を指摘する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：論文の内容の討議(1)資料について
- 第3回：論文の内容の討議(2)先行研究について
- 第4回：論文の内容の討議(3)テーマについて
- 第5回：論文の内容の討議(4)問いについて
- 第6回：論文の内容の討議(5)方法について
- 第7回：論文の内容の討議(6)構成について
- 第8回：中間報告(1)報告内容についての討議
- 第9回：中間報告(2)論文全体と報告内容との関係の確認
- 第10回：中間報告(3)論文を仕上げる見通し
- 第11回：中間報告(4)不十分な点についての確認
- 第12回：中間報告(5)修正したものもの提出
- 第13回：中間報告(6)再び討議
- 第14回：まとめ

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に紹介した内容は、文献などで調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文の明確さ、全体のバランス、内容の独自性、先行研究との関係らが評価基準。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅵ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

前学期に引き続き、授業では毎回論文の書いた部分について対話していく。また、完成をめざして、全体のバランスらを学生に意識させながら指導する。さらに、細かい遺漏がないか、修正すべき点がないか、文献の取り扱い方がきちんとしているかを注意するように学生にうながす。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：論文についての討議(1)論文のテーマ、問い、目次の再検討
- 第3回：論文についての討議(2)第1章の提出と討議
- 第4回：論文についての討議(3)第1章の再検討
- 第5回：論文についての討議(4)第2章の提出と討議
- 第6回：論文についての討議(5)第2章の再検討
- 第7回：論文についての討議(6)第3章の提出と討議
- 第8回：論文についての討議(7)第3章の再検討
- 第9回：論文についての討議(8)論文の構成の再検討
- 第10回：論文についての討議(9)文献をふまえているかの検討
- 第11回：論文についての討議(10)註の検討
- 第12回：論文についての討議(11)先行研究についての討議
- 第13回：論文についての討議(12)学会発表などの既存の成果についての討議
- 第14回：論文についての討議(13)博士論文とその後の研究についての討議

履修上の注意

特になし。

準備学習（予習・復習等）の内容

討議の結果についての確認と修正を毎回行うこと。

教科書

特になし。

参考書

プリントの配布。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文の独自性、革新性、明晰さ、説得性、論の構築性、全体のバランス。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(教育学)	釜崎 太	

授業の概要・到達目標

文化産業論の視点からスポーツについて考えます。授業内ではアドルノ、ベンヤミン、権田保之助の短い文章を読みます。分析枠組みについてのアウトラインを描くことが到達目標です。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 アドルノ『プリズメン』『ヴェブレンの文化攻撃Ⅰ
- 第3回 アドルノ『プリズメン』『ヴェブレンの文化攻撃Ⅱ
- 第4回 アドルノ・ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』『文化産業Ⅰ
- 第5回 アドルノ・ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』『文化産業Ⅱ
- 第6回 吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』『メディア時代と芸術・文化理論』
- 第7回 権田保之助『権田保之助著作集第一巻』『民衆娯楽の発達 統計集誌』
- 第8回 権田保之助『権田保之助著作集第三巻』『娯楽教育の研究』
- 第9回 ベンヤミン『ベンヤミン・コレクションⅠ』『複製技術時代の芸術作品Ⅰ
- 第10回 ベンヤミン『ベンヤミン・コレクションⅠ』『複製技術時代の芸術作品Ⅱ
- 第11回 ベンヤミン『ベンヤミン・コレクションⅠ』『複製技術時代の芸術作品Ⅲ
- 第12回 ベンヤミン『ベンヤミン・コレクションⅠ』『複製技術時代の芸術作品Ⅳ
- 第13回 ベンヤミン『ベンヤミン・コレクションⅠ』『複製技術時代の芸術作品Ⅴ
- 第14回 発表・討論・まとめ

履修上の注意

部分的に解説しながら論文を読みます。邦訳を読んでわかり難い部分は原文を用いて解説します。

準備学習（予習・復習等）の内容

吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』（新曜社）を読んで下さい。

教科書

このシラバスの「授業内容」にあげているものです。詳しくは授業時間内に紹介します。

参考書

授業時間内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内での発表と討論。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(教育学)	釜崎 太	

授業の概要・到達目標

市民的公共性の視点から日独のスポーツについて考えます。授業内ではアーレントとハーバーマスの文章を読みます。研究の分析枠組みの仮設定が到達目標です。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ギデンズの「第三の道」と市民社会
- 第3回 アーレントの私的領域と公的領域
- 第4回 アーレントの公的領域とテクノロジー
- 第5回 ハーバーマスの親密圏と公共圏
- 第6回 ハーバーマスの受容的公共圏と批判的公共圏
- 第7回 ハーバーマスの「公共性の構造転換」
- 第8回 ドイツの市民社会とスポーツⅠ：企業・国家・非営利法人
- 第9回 ドイツの市民社会とスポーツⅡ：ブンデスリーガ
- 第10回 ドイツの市民社会とスポーツⅢ：総合型地域スポーツクラブ
- 第11回 日本の社会システムとスポーツⅠ：YSCCと湘南ベルマーレの事例
- 第12回 日本の社会システムとスポーツⅡ：北海道日本ハムファイターズの事例
- 第13回 日本の社会システムとスポーツⅢ：ギラヴァンツ北九州の事例
- 第14回 分析枠組みの検討

履修上の注意

部分的に解説しながら論文を読みます。邦訳を読んでわかり難い部分は英文を使って議論します。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時間内に紹介します。

教科書

アーレント『活動的生』『人間の条件』
ハーバーマス『公共性の構造転換』
ギデンズ『第三の道』

参考書

齋藤純一『公共性』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内での発表と討論。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 釜崎 太		

授業の概要・到達目標

各自の研究テーマから論文作成に取り組みます。論文の具体的な課題を設定することが到達目標です。

授業内容

第1回 インTRODakション

第2回 研究対象となる史・資料の収集と整理1

第3回 研究対象となる史・資料の収集と整理2

第4回 研究対象となる史・資料の収集と整理3

第5回 研究対象となる史・資料の収集と整理4

第6回 研究対象となる史・資料の収集と整理5

第7回 研究対象となる史・資料の収集と整理6

第8回 研究対象となる史・資料の収集と整理7

第9回 研究対象となる史・資料の収集と整理8

第10回 論文作成計画1

第11回 論文作成計画2

第12回 論文作成計画3

第13回 論文作成1

第14回 論文作成2

履修上の注意

受講生の進度に応じて授業内容を変更する場合があります。授業準備を入念におこなってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時間内に紹介します。

教科書

授業時間内に紹介します。

参考書

授業時間内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内での発表と討論。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(教育学) 釜崎 太		

授業の概要・到達目標

各自の研究テーマから論文作成に取り組みます。投稿論文と学位論文の作成計画を立てることが到達目標です。

授業内容

第1回 インTRODakション

第2回 研究対象となる資・史料の収集と整理1

第3回 研究対象となる資・史料の収集と整理2

第4回 研究対象となる資・史料の収集と整理3

第5回 研究対象となる資・史料の収集と整理4

第6回 研究対象となる資・史料の分析1

第7回 研究対象となる資・史料の分析2

第8回 研究対象となる資・史料の分析3

第9回 研究対象となる資・史料の分析4

第10回 論文作成計画1

第11回 論文作成計画2

第12回 論文作成計画3

第13回 論文作成1

第14回 論文作成2

履修上の注意

受講生の進度に応じて授業内容を変更する場合があります。授業準備を入念におこなってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時間内に紹介します。

教科書

授業時間内に紹介します。

参考書

授業時間内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内での発表と討論。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(教育学)	釜崎 太	

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅳまでの内容を踏まえ、論文を作成する。現時点での研究成果の一部を研究会・学会等で口頭発表または投稿することが到達目標である。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 研究の進捗状況の報告と討論
第3回 投稿論文(口頭発表)の構想と検討
第4回 投稿論文(口頭発表)におけるリサーチ・クエスチョンと仮説の検討
第5回 投稿論文(口頭発表)の構成
第6回 投稿論文(口頭発表)の各章の検討1
第7回 投稿論文(口頭発表)の各章の検討2
第8回 投稿論文(口頭発表)の各章の検討3
第9回 再構成
第10回 投稿論文(口頭発表資料)の作成1
第11回 投稿論文(口頭発表資料)の作成2
第12回 投稿論文(口頭発表資料)の作成3
第13回 投稿論文(口頭発表資料)の作成4
第14回 投稿論文(口頭発表資料)の作成5

履修上の注意

受講生の進度に応じて授業内容を変更する場合があります。授業準備を入念におこなってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時間内に紹介します。

教科書

授業時間内に紹介します。

参考書

授業時間内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時間内の報告・討論および論文。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(教育学)	釜崎 太	

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅴまでの内容を踏まえ、論文を作成する。学位論文の執筆を目標に、現時点での研究成果をまとめることが到達目標である。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 研究の進捗状況の報告と討論
第3回 リサーチ・クエスチョンと仮説の検討
第4回 論文構成についての検討
第5回 各章についての検討1
第6回 各章についての検討2
第7回 各章についての検討3
第8回 再構成1
第9回 再構成2
第10回 論文の作成1
第11回 論文の作成2
第12回 論文の作成3
第13回 論文の作成4
第14回 論文の作成5

履修上の注意

受講生の進度に応じて授業内容を変更する場合があります。授業準備を入念におこなってください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時間内に紹介します。

教科書

授業時間内に紹介します。

参考書

授業時間内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時間内の報告・討論および論文。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 井上 善幸		

授業の概要・到達目標

学術論文を書くための基礎作業を着実に身につけるための授業とします。とりわけ、参考文献を作成することの重要性について指導します。極端なことを言えば、これを完成することは、論文の方向性を決定するといっても過言ではありません。参考文献がいかに研究論文にとり重要であるかを認識することは、論文を書くことの意義とその面白さを体験することでもあります。どのようにして文献目録は作成するのか、その具体的な方法論をこのクラスでは学びます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：参考文献、Works Cited、Bibliography、Select Bibliographyなどはどのように使い分けるのか？(1)
第3回：参考文献、Works Cited、Bibliography、Select Bibliographyなどはどのように使い分けるのか？(2)
第4回：あなたの研究対象はなんですか？(1)
第5回：あなたの研究対象はなんですか？(2)
第6回：あなたの研究テーマはなんですか？(1)
第7回：あなたの研究テーマはなんですか？(2)
第8回：文献等はどのように探しますか？(1)
第9回：文献等はどのように探しますか？(2)
第10回：調べた文献・資料はどのように保存・活用しますか？(1)
第11回：調べた文献・資料はどのように保存・活用しますか？(2)
第12回：活用する文献をどのように一覧表に記しますか？(1)
第13回：活用する文献をどのように一覧表に記しますか？(2)
第14回：参考文献に記された文献を現物で確認しましたか？

履修上の注意

基礎的作業こそが、研究にとりもっとも重要な礎であるとも言えます。それをおそろかにせず、着実に身につける努力を重ねてほしいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の「授業内容」に沿って、必要なプリントや資料を準備しますので、それらをまずはよく読み、こちらからの質問等に答えられるように、要点を整理して、毎回の授業に臨むようにして下さい。

教科書

特に指定はしません。クラスの中で必要に応じて資料を配布します。

参考書

授業の中で必要な文献等を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学習平常点と、博論のために使用する文献目録の作成とで評価します。60%以上を合格とします。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 井上 善幸		

授業の概要・到達目標

春学期で身につけた博論執筆の方法をさらに発展させるためのクラスです。このクラスでは、資料収集の方法について具体的に学びます。それに際して、いかに語学が重要であるかを認識するとともに、どのように資料を収集するのか、その実践的な方法を説明します。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：外国語学習の重要性について(1)
第3回：外国語学習の重要性について(2)
第4回：資料収集を日本の図書館で行う場合(1)
第5回：資料収集を日本の図書館で行う場合(2)
第6回：資料収集を日本語のウェブで行う場合(1)
第7回：資料収集を日本語のウェブで行う場合(2)
第8回：資料収集を外国語のウェブで行う場合(1)
第9回：資料収集を外国語のウェブで行う場合(2)
第10回：資料収集を外国の図書館で行う場合(1)
第11回：資料収集を外国の図書館で行う場合(2)
第12回：資料収集を外国の図書館で行う場合(3)
第13回：研究者としての自己の将来像をイメージしつつ、どのような資料を収集するのか？(1)
第14回：研究者としての自己の将来像をイメージしつつ、どのような資料を収集するのか？(2)

履修上の注意

資料収集はきわめて重要です。自身の将来の研究者像を思い描きつつ、どのような資料を収集すればよいのか、今からよく考えておいて下さい。今すぐ必要な文献や、今後必要となる文献をどのように収集していくのか？ 長期的ヴィジョンを見据えながら、資料収集に努めて下さい。そうすれば、収集した資料があなたの研究者としての今後の方向性を指し示してくれるのに大いに役立つでしょう。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の「授業内容」に沿って、必要に応じてプリントや資料を準備しますので、それらをまずはよく読み、こちらからの質問等に答えられるように、要点を整理して毎回の授業に臨むようにして下さい。

教科書

特にありません。プリントを配布します。

参考書

論文指導の過程で、必要と思われる資料や文献を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常学習点と学期末に提出して頂くレポートとで評価します。60%以上を合格とします。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

博論のテーマに沿って調査研究するのを手助けするクラスとします。後半に、一度博論のテーマに沿って中間報告を行っていただきます。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：資料をどのように読み解くのか？
第3回：アンダーラインを引きつつ資料を読む。
第4回：ノートを取りつつ資料を読む。(1)
第5回：ノートを取りつつ資料を読む。(2)
第6回：パソコンを活用しながら資料を読む。(1)
第7回：パソコンを活用しながら資料を読む。(2)
第8回：目を通した資料には必ず付箋やマークをつける。
第9回：博論に関する中間報告
第10回：重要な資料は紙媒体で手元におく。
第11回：複数の外国語習得の重要性について(1)
第12回：複数の外国語習得の重要性について(2)
第13回：良質な辞書が発見をもたらす(1)
第14回：良質な辞書が発見をもたらす(2)

履修上の注意

重要なさまざまな資料を、複数の言語を活用しつつ読み解くことが柔軟な知性を育てる、と信じています。どんなに優れた知性といえども、すぐれた文献を読み解き、それを蓄積することがなければ、研究上の発見をもたらしてはくれません。すぐれた研究を産出する知性の持ち主の多くが、複数の言語を操っていることをしっかり認識してほしいと思います。良質な資料を手に入れたら、それらをどう批判的に、かつ創造的に取り込めばよいのでしょうか？ それらをともに考えていきましょう。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の「授業内容」に沿って、必要に応じてプリントや資料を準備しますので、まずはそれらをよく読み、こちらからの質問等に答えられるように、要点を整理して毎回の授業に臨むようにして下さい。

教科書

特にありません。こちらでプリントを配布します。

参考書

研究指導の過程で、必要と思われる資料や文献を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常学習点と質問および発言とで総合的に評価します。60%以上を合格とします。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

春学期に続き、自分の研究テーマをさらに深化させるためのクラスとします。必要に応じて、学会等で口頭発表するための準備と発表用論文の執筆の仕方を伝授します。外国語（ここでは英語での発表を念頭に置いています）での発表の仕方にも十全に対応できるようにします。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：執筆してみよう。
第3回：論文で扱う対象と主題をどのように設定するのか？
第4回：そのテーマをどのように資料を活用しつつ、効果的に配列し論じるのか？
第5回：口頭発表の場合、注意すべきことは？
第6回：初稿は短期間で仕上げる。
第7回：初稿をしばらく放置することの重要性について
第8回：自己発見としての書き直しの重要性について
第9回：プリント・アウトして何度も書き直すことの重要性について
第10回：ハンドアウトの作成方法
第11回：PowerPointの効果的な利用方法
第12回：英語で発表する際に注意すべきこと(1)
第13回：英語で発表する際に注意すべきこと(2)
第14回：口頭発表の練習の重要性について

履修上の注意

論文を執筆することも、口頭発表することも、それぞれどうすればいいものが出来るのか、やはり方法があります。その方法論を担当者の実際の経験をもとに、このクラスでお伝えします。自分の発表をできるだけ具体的にイメージしつつ、実践的に学ぶ努力を重ねて下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業では、発表の方法論について、具体的で、実際の問題を取り上げ、論じますが、受講生のみなさんは、自分の発表を具体的にイメージしつつ、なにが必要で、なにが本質的に重要なのかを、たえず自分に問いかけ、問題意識をもって授業に参加するようにして下さい。その中で、必要に応じて質問などができる準備もしておいて下さい。

教科書

特にありません。こちらでプリントを用意します。

参考書

論文指導の過程で、必要な資料や文献を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学習平常点と、授業内での質問および発言とで総合的に評価します。60%以上を合格とします。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導V		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

資料の読解と、執筆にかかわる具体的な諸問題に対応するためのクラスとします。どのように完成へ向けて、よりよい博論を執筆すればよいのか、その方法論を実践的に学びます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：あなたの博論の対象とテーマを説明して下さい。(1)
 第3回：あなたの博論の対象とテーマを説明して下さい。(2)
 第4回：あなたの博論の一番魅力的なポイントを説明して下さい。
 第5回：あなたの博論の一番弱い部分を説明して下さい。
 第6回：博論を書く上で、今一番困っている問題はなんですか？
 第7回：上記の諸問題をどのように解決すればよいのか？
 第8回：資料の読解は適切に行われているか？(1)
 第9回：資料の読解は適切に行われているか？(2)
 第10回：補うべき資料はないのか？(1)
 第11回：補うべき資料はないのか？(2)
 第12回：博論の論理構成は適切になされているか？(1)
 第13回：博論の論理構成は適切になされているか？(2)
 第14回：博論の文章表現等に問題はないのか？

履修上の注意

このクラスでは、前半は主に履修者のみなさんによる発表形式で説明していただきます。後半は、教員との対話形式で確認していきます。毎回の授業を通して、たとえ少しずつにもせよ、着実にゴールに向かって進められるよう、準備と見直し作業に励んでほしいと願っています。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業では、博論の執筆方法について、具体的で、実的な問題を取り上げ、論じますが、受講生のみなさんは、自分の論文完成を具体的にイメージしつつ、なにが必要で、なにが本質的に重要なかを、たえず自分に問いかけ、問題意識をもって授業に参加するようにして下さい。その中で、必要に応じて質問などができる準備もしておいて下さい。

教科書

特にありません。こちらでプリントを用意します。

参考書

論文指導の過程で、必要な文献類を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常学習点と、前半のプレゼンテーションとで総合的に評価します。60%以上を合格とします。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導VI		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		井上 善幸

授業の概要・到達目標

博論を仕上げるためのクラスとします。テーマ設定、テーマに沿った研究内容、具体的な論述の仕方、参考文献などを綿密にチェックし、内容形式ともすぐれた博論と認められるかどうかをクラスの中で確認してゆきます。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：テーマ設定は適切になされていますか？(1)
 第3回：テーマ設定は適切になされていますか？(2)
 第4回：テーマに沿った論述形式を具えていますか？(1)
 第5回：テーマに沿った論述形式を具えていますか？(2)
 第6回：引用文は正確に引用されていますか？(1)
 第7回：引用文は正確に引用されていますか？(2)
 第8回：書誌情報は過不足なく示されていますか？(1)
 第9回：書誌情報は過不足なく示されていますか？(2)
 第10回：文章はあなたの思想を適確に表現していますか？(1)
 第11回：文章はあなたの思想を適確に表現していますか？(2)
 第12回：各章各節の配列を入れ換える必要はありませんか？(1)
 第13回：各章各節の配列を入れ換える必要はありませんか？(2)
 第14回：全体をもう一度見直しましょう。

履修上の注意

この授業が、あなたの博論作成に役立つことを願っています。博論執筆過程で、このクラスをうまく利用することで、ミスを防いだり、新しい発見の機会となることを希望します。そのためには、あなたはどのような準備すればよいのか、よく考え、創造的なクラスとなるように努力してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業内容に沿って、博論全体を見直すのに役立てて下さい。全体を俯瞰することと併せて、改めて細部にもフォーカスを当て、それらの細部が博論全体をしっかり支えているか、自分の書いたものを批判的に再検討することにこのクラスを役立てて下さい。この目標をしっかり見据え、各回の授業内容を最大限に活かすよう、様々な準備をしてほしいと思います。

教科書

特にありません。必要に応じてこちらでプリントを用意します。

参考書

論文指導の過程で、さまざまな文献等を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

毎回の平常学習点で評価します。60%以上を合格とします。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

学生が博士論文の執筆を目ざす研究分野に関わる、代表的な日本語先行文献を選びだし、それらを批判的な視点で読解していく。

それぞれの研究分野ではこれまで何が問われ、その問い方にはどのような特徴と限界があったか解明していくことを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：日本語先行文献の批判的読解(1)
第3回：日本語先行文献の批判的読解(2)
第4回：日本語先行文献の批判的読解(3)
第5回：日本語先行文献の批判的読解(4)
第6回：日本語先行文献の批判的読解(5)
第7回：日本語先行文献の批判的読解(6)
第8回：日本語先行文献の批判的読解(7)
第9回：日本語先行文献の批判的読解(8)
第10回：日本語先行文献の批判的読解(9)
第11回：日本語先行文献の批判的読解(10)
第12回：日本語先行文献の批判的読解(11)
第13回：日本語先行文献の批判的読解(12)
第14回：日本語先行文献の批判的読解(13)

履修上の注意

授業を、知的な討議の場とするよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指示された文献を十分に読みこんで、授業にのぞむこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業での発表と報告による。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

学生が博士論文の執筆を目ざす研究分野に関わる、代表的な外国語先行文献を選びだし、それらを批判的な視点で読解していく。

それぞれの研究分野ではこれまで何が問われ、その問い方にはどのような特徴と限界があったか解明していくことを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：外国語先行文献の批判的読解(1)
第3回：外国語先行文献の批判的読解(2)
第4回：外国語先行文献の批判的読解(3)
第5回：外国語先行文献の批判的読解(4)
第6回：外国語先行文献の批判的読解(5)
第7回：外国語先行文献の批判的読解(6)
第8回：外国語先行文献の批判的読解(7)
第9回：外国語先行文献の批判的読解(8)
第10回：外国語先行文献の批判的読解(9)
第11回：外国語先行文献の批判的読解(10)
第12回：外国語先行文献の批判的読解(11)
第13回：外国語先行文献の批判的読解(12)
第14回：外国語先行文献の批判的読解(13)

履修上の注意

授業を、知的な討議の場とするよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指示された文献を十分に読みこんで、授業にのぞむこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業での発表と報告による。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

学生が博士論文の執筆を目ざす研究分野に関わる、日本語で書かれた基礎的資料を網羅的に収集し、それらを批判的に再検討していく。

関連する先行文献の批判的な読解の基礎の上に、日本語基礎資料の新たな活用の可能性を模索することを目ざす。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：日本語基礎資料の批判的再検討(1)
 第3回：日本語基礎資料の批判的再検討(2)
 第4回：日本語基礎資料の批判的再検討(3)
 第5回：日本語基礎資料の批判的再検討(4)
 第6回：日本語基礎資料の批判的再検討(5)
 第7回：日本語基礎資料の批判的再検討(6)
 第8回：日本語基礎資料の批判的再検討(7)
 第9回：日本語基礎資料の批判的再検討(8)
 第10回：日本語基礎資料の批判的再検討(9)
 第11回：日本語基礎資料の批判的再検討(10)
 第12回：日本語基礎資料の批判的再検討(11)
 第13回：日本語基礎資料の批判的再検討(12)
 第14回：日本語基礎資料の批判的再検討(13)

履修上の注意

授業を、知的な討議の場とするよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指示された資料を十分に読みこんで、授業にのぞむこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業での発表と報告による。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

学生が博士論文の執筆を目ざす研究分野に関わる、外国語で書かれた基礎的資料を網羅的に収集し、それらを批判的に再検討していく。

関連する先行文献の批判的な読解の基礎の上に、外国語基礎資料の新たな活用の可能性を模索することを目ざす。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：外国語基礎資料の批判的再検討(1)
 第3回：外国語基礎資料の批判的再検討(2)
 第4回：外国語基礎資料の批判的再検討(3)
 第5回：外国語基礎資料の批判的再検討(4)
 第6回：外国語基礎資料の批判的再検討(5)
 第7回：外国語基礎資料の批判的再検討(6)
 第8回：外国語基礎資料の批判的再検討(7)
 第9回：外国語基礎資料の批判的再検討(8)
 第10回：外国語基礎資料の批判的再検討(9)
 第11回：外国語基礎資料の批判的再検討(10)
 第12回：外国語基礎資料の批判的再検討(11)
 第13回：外国語基礎資料の批判的再検討(12)
 第14回：外国語基礎資料の批判的再検討(13)

履修上の注意

授業を、知的な討議の場とするよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ指示された資料を十分に読みこんで、授業に臨むこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業での発表と報告による。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

これまで執筆してきた博士論文草稿の内容を全体的に再点検していく。

研究史的な背景をしっかりと踏まえた上で、実証性と独創性を高いレベルで統合した論文内容にしていくために、論文草稿を大枠と細部の両面から批判的に検討していく。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：論文内容の再点検(1)
第3回：論文内容の再点検(2)
第4回：論文内容の再点検(3)
第5回：論文内容の再点検(4)
第6回：論文内容の再点検(5)
第7回：論文内容の再点検(6)
第8回：論文内容の再点検(7)
第9回：論文内容の再点検(8)
第10回：論文内容の再点検(9)
第11回：論文内容の再点検(10)
第12回：論文内容の再点検(11)
第13回：論文内容の再点検(12)
第14回：論文内容の再点検(13)

履修上の注意

授業を、知的な討議の場とするよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

検討対象となる論文各章をくりかえし推敲して、授業にのぞむこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業での発表と報告による。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「思想」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

完成に近づいた博士論文草稿について、最終的な点検を行っていく。

論文の完成度を高めるため、特に細部について徹底的な再検証を行う。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：論文内容の最終調整(1)
第3回：論文内容の最終調整(2)
第4回：論文内容の最終調整(3)
第5回：論文内容の最終調整(4)
第6回：論文内容の最終調整(5)
第7回：論文内容の最終調整(6)
第8回：論文内容の最終調整(7)
第9回：論文内容の最終調整(8)
第10回：論文内容の最終調整(9)
第11回：論文内容の最終調整(10)
第12回：論文内容の最終調整(11)
第13回：論文内容の最終調整(12)
第14回：論文内容の最終調整(13)

履修上の注意

授業を、知的な討議の場とするよう努めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

検討の対象になる論文各章をくりかえし推敲して、授業にのぞむこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業での発表と報告による。

その他

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想領域特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 Ph.D. 岩野 卓司		

授業の概要・到達目標

現代では人と社会の関係が希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速しているし、スマホやSNSというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものになっている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていきたい。

今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある今日、無縁社会が問題になっているが、資本主義はそれを加速させている。そういう訳だから、今日、共同体や人間の共同性について考えていく必要があるのではないのか。授業では、この共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を簡単に説明したあと、講義ではポスト資本主義における贈与の重要性を次の2つのテーマから検討していく。

- (1) 社会保障：『贈与論』の著者である人類学者マルセル・モースは、社会保険の制度を贈与交換の理論で根拠づけようとしてきた。古代人の贈与の知恵は、現代の資本主義に抵抗するために有効な考え方なのではないだろうか。将来導入が議論されているベーシック・インカムや脱成長の思想も、贈与の考え方をベースにして考えることができるのだ。
- (2) 臓器移植と再生医療：現代医学の重要な一角を占めている臓器移植は、贈与として法制化されている。臓器売買を防ぐために、臓器のレシピエントはドナーに対して謝礼をしてはいけない。この点で臓器移植は商業的交換の論理に取まらない。しかし、この贈与は同時にカニバリズムとも見なされたりしている。臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を延命のために我有化することで、人肉食と同じことをやっているからである。他者の臓器の贈与とカニバリズムの関係を考えてみる。

授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深め、ポスト資本主義社会における贈与の役割を模索することを目標にする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション：共同体とは何か？ 贈与とは何か？
第2回：資本主義と何か？
第3回：資本主義とは何か？(2)
第4回：資本主義とは何か？(3)
第5回：モース『贈与論』(1)
第6回：モース『贈与論』(2)
第7回：社会保障制度
第8回：ベーシック・インカム
第9回：脱成長
第10回：臓器移植
第11回：臓器移植とカニバリズム
第12回：臓器移植と他者
第13回：アフリカの段階と再生医療
第14回：まとめ

履修上の注意

邦訳をつかう。テキストを読みながら自分なりに考えてもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容は、文献などで調べておくこと。

教科書

古典的なテキストについては、そのつどプリントして配布する。
それから、岩野卓司『贈与論 資本主義を突き抜けるための哲学』(青土社)、『贈与をめぐる冒険』(ハウレーカ)を参照する予定である。

参考書

モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』(ちくま文庫)
ジャン＝リュック・ナンシー『無為の共同体』(以文社)
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』(書肆心水)
NHKスペシャル取材班『無縁社会』(文春文庫)
斉藤幸平『人新世の資本論』(集英社新書)
マルセル・モース『贈与論』(岩波文庫)
デヴィッド・グレーバー『負債論』(以文社)
セルジュ・ラトゥーシュ『脱成長』(白水社)
アラン・カイエ『功利的理性批判』(以文社)
原田泰『ベーシック・インカム』(中公新書)
レイヴィストロース『われらみな食人種(カニバル)』(創元社)
山崎吾郎『臓器移植の人類学』(世界思想社)
中沢新一『カイエ・ソバージュ』(講談社)
クロボトキン『相互扶助論』(同時代社)
岩野卓司編『野生の教養』(法政大学出版会)
吉本隆明『アフリカの段階について』(試行社)
棚島次郎・出河雅彦『移植治療』(岩波新書)
京都大学IPS研究所上廣倫理研究部編/山中伸弥監修『科学知と人文知の接点』(弘文堂)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的な参加。

その他

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「思想」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	思想史領域特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	兼任教授 博士(文学) 美濃部 仁		

授業の概要・到達目標

この授業では、ドイツ観念論における「相対的なもの」の位置づけについて考えます。ドイツ観念論は「絶対的なもの」を徹底的に探究した思想として知られていますが、その中で「相対的なもの」にはどのような位置が与えられているのかを、一切は相互依存の関係にあるとする大乘仏教の思想も視野に入れつつ、具体的にいくつかのテキストに触れながら見てみたいと思います。

まず、ドイツ観念論の前提となっているカントの哲学をふり返ります。とりわけ、「相対的なもの」を考える上で重要な「現象」概念に注目します。その上で、フィヒテ、シュリングにおける絶対者とその「像」の関係について考察します。さらに、それとの対比においてヘーゲルの「現象」概念について考えます。その際、ドイツ観念論とは全く異なる伝統に属しながらも、それと大きな親近性をもつことが従来からも指摘されている大乘仏教の縁起思想も顧み、考察を深めたいと思います。

授業内容

- 第1回：「絶対的なもの」と「相対的なもの」
第2回：カントにおける物自体と現象(1)
第3回：カントにおける物自体と現象(2)
第4回：まとめ
第5回：フィヒテにおける自我と絶対者(1)
第6回：フィヒテにおける自我と絶対者(2)
第7回：フィヒテにおける絶対者の像
第8回：フィヒテとシュリング
第9回：シュリングにおける絶対者の像
第10回：まとめ
第11回：ヘーゲルにおける絶対者と現象(1)
第12回：ヘーゲルにおける絶対者と現象(2)
第13回：ヘーゲルにおける絶対者(3)
第14回：ドイツ観念論の現象論と大乘仏教の縁起思想(試論)

履修上の注意

ヨーロッパ近代哲学の知識をある程度もった学生を対象とした授業です。なお、上記の講義計画は、講義で取り扱う問題領域の概要を示したものです。授業中の議論と受講者の関心によって、重点の置き方等を調整したいと考えています。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、前回の授業で問題となったことについて確認をおこないます。そのための準備をして授業に臨むようにしてください。

教科書

特に定めません。

参考書

カント『純粋理性批判』、フィヒテ『全知識学の基礎』・『知識学の叙述(1801/02年)』・『1804年の知識学』、シュリング『ブルーノ』、ヘーゲル『精神現象学』、龍樹『中論』、西田幾多郎『西田幾多郎哲学論集Ⅰ』、西谷啓治『宗教とは何か』

課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業中にディスカッションの時間をとります。フィードバックもその中でおこないます。

成績評価の方法

授業中に、授業内容についての理解と考察の深まりについて確認し、評価をおこないます。

その他

特にありません。

博士後期課程

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		本間 次彦

授業の概要・到達目標

汪暉の大著『近代中国思想の生成』は、前近代の思想的文脈の中から、近代的な中国思想が生みだされていく過程を壮大なスケールで描いた問題作である。そこでは、「中国における近代とは何か」が問われると同時に、「近代における中国とは何か」が問われている。『近代中国思想の生成』を選読していくことにより、この二つの問題に対する汪暉のアプローチの妥当性を批判的に再検討していく。また、中国の場合と対比しながら、日本と近代の関係性の問題についても考察を進めていく。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：中国の近代とは何か
第3回：天理と時勢
第4回：物の変容
第5回：経と史
第6回：内と外
第7回：帝国の自己転化と儒学的普遍主義
第8回：宇宙秩序と公理
第9回：道徳と公理
第10回：公理の脱構築
第11回：言説の共同体
第12回：新文化運動
第13回：東西文化論争
第14回：公理的世界観とその崩壊

履修上の注意

授業の際には、積極的に議論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業でとりあげる内容については事前に指示する。教科書の該当する章を熟読して授業にのぞむこと。

教科書

汪暉『現代中国思想的興起』（生活・読書・新知三聯書店、2004年）
汪暉『近代中国思想の生成』（石井剛訳、岩波書店、2011年）
汪暉『思想空間としての現代中国』（村田雄二郎・砂山幸雄・小野寺史郎訳、岩波書店、2006年）

参考書

特定の参考書は使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

次の授業で講評を行う。

成績評価の方法

授業に参加する姿勢（50％）と、複数回の提出を求めるレポート（50％）により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「思想」領域研究		備考	
科目名	思想史領域特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(教育学)	釜崎 太

授業の概要・到達目標

体育・スポーツを社会哲学の視点から分析する基本的な手法について理解する。

授業内容

第1回 イン트로ダクション
第2回 ドイツのスポーツとマスキュリニティーズの歴史社会学1
第3回 ドイツのスポーツとマスキュリニティーズの歴史社会学2
第4回 ドイツのスポーツとマスキュリニティーズの歴史社会学3
第5回 ドイツのスポーツとマスキュリニティーズの歴史社会学4
第6回 学校体育論と社会構成主義1
第7回 学校体育論と社会構成主義2
第8回 学校体育論と社会構成主義3
第9回 学校体育論と社会構成主義4
第10回 メディア・スポーツ論1
第11回 メディア・スポーツ論2
第12回 メディア・スポーツ論3
第13回 メディア・スポーツ論4
第14回 ミニレポートの作成

履修上の注意

受講生の興味と進度に応じて授業内容を変更する場合があります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時間内に紹介します。

教科書

授業時間内に紹介します。

参考書

授業時間内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間中およびOh-o! meijiを通じておこなう。

成績評価の方法

授業内でのミニレポートと討論。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

研究の鍵概念に関する文献の批判的講読を通じて、文献評価の方法を訓練し、その都度得られた新しい知識について口頭発表し、議論に付することを学ぶ。また、議論の結果を簡略な報告書にまとめたのち、詳しいレポートへと発展させることで、論文執筆の基礎的修練を積む。

授業内容

第1回：1980年代以降の文化をめぐる状況について 導入
 第2回：文化・記憶・アイデンティティの相互関係について
 第3回：A.アスマンの記憶研究について(概要)
 第4回：古代の記憶術
 第5回：想起とアイデンティティ
 第6回：想起と歴史
 第7回：想起と国民
 第8回：ニーチェにおける生と歴史(1)
 第9回：ニーチェにおける生と歴史(2)
 第10回：フロイトにおける記憶(1)
 第11回：フロイトにおける記憶(2)
 第12回：モーリス・アルヴァックスの集合的記憶
 第13回：ピエール・ノラの『記憶の場』
 第14回：日本における「記憶」の議論—まとめ

履修上の注意

積極的な授業参加のほかに、履修者は各自の研究テーマに即した文献調査を進めておくこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

なし。

参考書

アライダ・アスマン(安川晴基訳)『想起の空間 文化的記憶の形態と変遷』(水声社、2007年)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でコメントを返す。

成績評価の方法

積極的授業参加(40%)、口頭発表(30%)、期末レポート(30%)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

研究の鍵概念に関する文献の批判的講読を通じて、文献評価の方法を訓練し、その都度得られた新しい知識について口頭発表し、議論に付することを学ぶ。また、議論の結果を簡略な報告書にまとめたのち、詳しいレポートへと発展させることで、論文執筆の基礎的修練を積む。

授業内容

第1回：メディアと記憶のメタファー 概要
 第2回：書字メタファーについて(1)
 第3回：書字メタファーについて(2)
 第4回：空間的メタファーについて(1)
 第5回：空間的メタファーについて(2)
 第6回：時間的メタファーについて(1)
 第7回：時間的メタファーについて(2)
 第8回：時間的メタファーについて(3)
 第9回：記憶メディアとしての文字 概要
 第10回：記憶の支えとしての文字(1)
 第11回：記憶の支えとしての文字(2)
 第12回：文字とイメージ(1)
 第13回：文字とイメージ(2)
 第14回：まとめ

履修上の注意

積極的な授業参加のほかに、履修者が各自の研究テーマに基づいた今後の研究計画を策定することが今期の大切な目標となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

なし。

参考書

アライダ・アスマン(安川晴基訳)『想起の空間 文化的記憶の形態と変遷』(水声社、2007年)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でコメントを返す。

成績評価の方法

積極的授業参加(40%)、口頭発表(30%)、期末レポート(30%)を総合的に評価する。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

研究テーマ・研究方法の妥当性を検証しながら、1年次後半からの研究成果を学内外で口頭発表し、学会誌等に投稿できるよう準備する。

授業内容

第1回：自伝的・伝記的表現 導入
第2回：文学における自伝と伝記(1)
第3回：文学における自伝と伝記(2)
第4回：自伝理論の展開(1)
第5回：自伝理論の展開(2)
第6回：研究報告
第7回：自伝とアイデンティティ(1)
第8回：自伝とアイデンティティ(2)
第9回：自伝とアイデンティティ(3)
第10回：自伝とアイデンティティ(4)
第11回：研究報告
第12回：「真実」と「本当らしさ」(1)
第13回：「真実」と「本当らしさ」(2)
第14回：研究報告とまとめ

履修上の注意

授業への積極的参加のほかに、学位論文執筆に向けた勉学と準備を進め、その成果について報告する機会を随時設ける。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

以下の図書から一部を抜粋する。
Trev Lynn Broughton (Ed.): Autobiography. Vol. 1-4. Routledge, 2007. (Critical concepts In literary and cultural studies).

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でコメントを返す。

成績評価の方法

積極的授業参加（40%）、口頭発表（30%）、期末レポート（30%）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

研究テーマ・研究方法の妥当性を検証しながら、これまでの研究成果を学内外で口頭発表し、学会誌等に投稿する。

授業内容

第1回：文化的鍵概念としての自伝 導入
第2回：テキスト性と指示性(1)
第3回：テキスト性と指示性(2)
第4回：リアリティとフィクション(1)
第5回：リアリティとフィクション(2)
第6回：研究報告
第7回：主体の構築性(1)
第8回：主体の構築性(2)
第9回：自伝と記憶論(1)
第10回：自伝と記憶論(2)
第11回：研究報告
第12回：ジェンダーと自伝(1)
第13回：ジェンダーと自伝(2)
第14回：研究報告とまとめ

履修上の注意

授業への積極的参加のほかに、学位論文執筆に向けた勉学と準備を進め、その成果について報告する機会を随時設ける。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

以下の図書から一部を抜粋する。
Trev Lynn Broughton (Ed.): Autobiography. Vol. 1-4. Routledge, 2007. (Critical concepts In literary and cultural studies).

参考書

授業中、随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でコメントを返す。

成績評価の方法

積極的授業参加（40%）、口頭発表（30%）、期末レポート（30%）を総合的に評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導V		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

世界秩序の変化とグローバル化の進展により、文化およびアイデンティティの概念は「国家文化」といった「静的・安定的」枠組みでは捉えることが難しくなっている。両概念はいずれも、政治的・経済的状況との密接な関連において、「流動的・複合的」な構成物として解釈され、文学・文化研究における新たな研究対象や方法を要求している。したがって、学生が両概念の歴史的変遷および今日の意味合いを理解し、研究者としての両概念に対する認識を深めてゆくことを研究の出発点とし、各自が独創的な視点によって選択する特定の文化現象について、隣接する社会的諸要因との関連も視野に入れながら、自律的に研究する能力を発展させるよう研究指導を行う。

学位論文の作成を最重要課題とし、学位取得後の研究活動に必要な能力を、学会発表、学会誌への投稿などを通じて高める。

授業内容

- 第1回：文化概念再考(1)
- 第2回：文化概念再考(2)
- 第3回：口頭発表と議論
- 第4回：アイデンティティ概念再考(1)
- 第5回：アイデンティティ概念再考(2)
- 第6回：口頭発表と議論
- 第7回：グローバル化における文化(1)
- 第8回：グローバル化における文化(2)
- 第9回：グローバル化における文化(3)
- 第10回：グローバル化における文化(4)
- 第11回：グローバル化における文化 事例研究(1)
- 第12回：グローバル化における文化 事例研究(2)
- 第13回：口頭発表と議論
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業で成果を随時発表しながら、学位論文執筆に向けた勉学と準備を着実に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

なし。

参考書

ルフェーヴル、アンリ『空間の生産』（青木書店、2000年）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でコメントを返す。

成績評価の方法

積極的授業参加（40%）、口頭発表（30%）、期末レポート（30%）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導VI		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 広沢 絵里子		

授業の概要・到達目標

世界秩序の変化とグローバル化の進展により、文化およびアイデンティティの概念は「国家文化」といった「静的・安定的」枠組みでは捉えることが難しくなっている。両概念はいずれも、政治的・経済的状況との密接な関連において、「流動的・複合的」な構成物として解釈され、文学・文化研究における新たな研究対象や方法を要求している。したがって、学生が両概念の歴史的変遷および今日の意味合いを理解し、研究者としての両概念に対する認識を深めてゆくことを研究の出発点とし、各自が独創的な視点によって選択する特定の文化現象について、隣接する社会的諸要因との関連も視野に入れながら、自律的に研究する能力を発展させるよう研究指導を行う。

学位論文の作成を最重要課題とし、学位取得後の研究活動に必要な能力を、学会発表、学会誌への投稿などを通じて高める。

授業内容

- 第1回：記憶とアイデンティティ(1)
- 第2回：記憶とアイデンティティ(2)
- 第3回：口頭発表と議論
- 第4回：記憶とアイデンティティ(3)
- 第5回：記憶とアイデンティティ(4)
- 第6回：口頭発表と議論
- 第7回：記憶・想起の文化再考(1)
- 第8回：記憶・想起の文化再考(2)
- 第9回：記憶・想起の文化再考(3)
- 第10回：記憶・想起の文化再考(4)
- 第11回：記憶・想起の文化再考 事例研究(1)
- 第12回：記憶・想起の文化再考 事例研究(2)
- 第13回：口頭発表と議論
- 第14回：まとめ

履修上の注意

授業で成果を随時発表しながら、学位論文執筆に向けた勉学と準備を着実に進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中指定された文献は授業までに必ず一読し、不明な点を調べておくこと。

教科書

なし。

参考書

ルフェーヴル、アンリ『空間の生産』（青木書店、2000年）

課題に対するフィードバックの方法

授業中に口頭でコメントを返す。

成績評価の方法

積極的授業参加（40%）、口頭発表（30%）、研究成果（30%）を総合的に評価する。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

アイルランド共和国を含めるイギリス諸島の文化、特に現代詩・小説、及びパブリックアートに関係する研究課題を持った博士後期課程の学生を対象とする。学生の研究課題に沿った研究書を批評分析的に読むことを含めて学生の論文作成の指導をする。

授業内容

第1回：研究テーマについて(1)
第2回：研究テーマについて(2)
第3回：選択した研究テーマの先行研究について(1)
第4回：選択した研究テーマの先行研究について(2)
第5回：選択した研究テーマの先行研究について(3)
第6回：選択した研究テーマの先行研究について(4)
第7回：選択した研究テーマの先行研究について(5)
第8回：選択した研究テーマの先行研究について(6)
第9回：選択した研究テーマの先行研究について(7)
第10回：選択した研究テーマの先行研究について(8)
第11回：選択した研究テーマの先行研究について(9)
第12回：選択した研究テーマの先行研究について(10)
第13回：選択した研究テーマの先行研究について(11)
第14回：まとめ

履修上の注意

テキスト及び参考文献は、原書もしくは英語の翻訳を用いるので十分な英語力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

アイルランドの歴史を把握しておいて下さい。

教科書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

参考書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席と先行研究についてまとめたレポートによって評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

アイルランド共和国を含めるイギリス諸島の文化、特に現代詩・小説、及びパブリックアートに関係する研究課題を持った博士後期課程の学生を対象とする。学生の研究課題に沿った研究書を批評分析的に読むことを含めて学生の論文作成の指導をする。

授業内容

第1回：先行研究を踏まえた上での論文執筆者の研究テーマ選択
第2回：研究テーマの意義と妥当性について(1)
第3回：研究テーマの意義と妥当性について(2)
第4回：研究計画書の作成
第5回：研究計画書の発表
第6回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(1)
第7回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(2)
第8回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(3)
第9回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(4)
第10回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(5)
第11回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(6)
第12回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(7)
第13回：研究計画に沿って発表を行いながら論文作成と指導(8)
第14回：次年度の計画

履修上の注意

テキスト及び参考文献は、原書もしくは英語の翻訳を用いるので十分な英語力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

アイルランドの歴史を把握しておいて下さい。

教科書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

参考書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席と研究テーマと研究計画についてまとめたレポートによって評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

アイルランド共和国を含めるイギリス諸島の文化、特に現代詩・小説、及びパブリックアートに関する研究課題を持った博士後期課程の学生を対象とする。学生の研究課題に沿った研究書を批評分析的に読むことを含めて学生の論文作成の指導をする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：批評方法について
 第3～14回：自分が選んだテーマについてどのような批評方法が相応しいか決定し、論を進めていく指導をする。

履修上の注意

テキスト及び参考文献は、原書もしくは英語の翻訳を用いるので十分な英語力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

アイルランドの様々な文学・絵画作品に触れておく。

教科書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

参考書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席と研究・批評方法をまとめたレポートによって評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

アイルランド共和国を含めるイギリス諸島の文化、特に現代詩・小説、及びパブリックアートに関する研究課題を持った博士後期課程の学生を対象とする。学生の研究課題に沿った研究書を批評分析的に読むことを含めて学生の論文作成の指導をする。

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：先行研究に対して発展的であり独自性のあるテーマを適切な研究・批評方法を用いて研究しているかの確認。
 第3～14回：論文作成の段階ごとの発表とその段階での問題点の指摘をしつつ論文作成を続ける。

履修上の注意

テキスト及び参考文献は、原書もしくは英語の翻訳を用いるので十分な英語力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

アイルランドの様々な文学・絵画作品に触れておく。

教科書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

参考書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席と段階ごとのレポートによって評価する。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導V		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

アイルランド共和国を含めるイギリス諸島の文化、特に現代詩・小説、及びパブリックアートに関する研究課題を持った博士後期課程の学生を対象とする。学生の研究課題に沿った研究書を批評分析的に読むことを含めて学生の論文作成の指導をする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：論文作成の最終段階に入る確認
第3～14回：論文作成の段階ごとの発表とその段階での問題点の指摘をしつつ論文作成を続ける。「結論」部分の作成に至る。

履修上の注意

テキスト及び参考文献は、原書もしくは英語の翻訳を用いるので十分な英語力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

アイルランドの様々な文学・絵画作品に触れておく。

教科書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

参考書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席と段階ごとのレポートによって評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導VI		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 虎岩 直子		

授業の概要・到達目標

アイルランド共和国を含めるイギリス諸島の文化、特に現代詩・小説、及びパブリックアートに関する研究課題を持った博士後期課程の学生を対象とする。学生の研究課題に沿った研究書を批評分析的に読むことを含めて学生の論文作成の指導をする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：「結論」まで書いたうえで、論文の全内容の確認の段階に入ることを確認。
第3～14回：最終的な誤字脱字の確認、引用文献の確認をし、口頭試問に向けての準備をする。

履修上の注意

テキスト及び参考文献は、原書もしくは英語の翻訳を用いるので十分な英語力を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

アイルランドの様々な文学・絵画作品に触れておく。

教科書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

参考書

学生の論文テーマに沿って選択し指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

完成論文と口頭試問によって評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

物語論が今日の私たちにどのような洞察をもたらしてくれるかについて考察します。そのために、フランソワ・リオタールと大塚英志の物語観を考察し。加えて、ロラン・バルトの物語論を対象として、物語論の基本的概念を研究します。また、参加者の研究に資するよう、学生の発表を行います。

授業内容

- 第1回：なぜ物語論なのか
- 第2回：物語とジャンルをめぐる基礎的考察
- 第3回：物語の定義1
- 第4回：物語の定義2
- 第5回：物語論Ⅰ（フランソワ・リオタールの「大きな物語」論）
- 第6回：物語論Ⅰ（大塚英志の「物語消費論」）
- 第7回：構造主義的言語論の基本的概念について
- 第8回：構造主義から記号論への変遷
- 第9回：物語論Ⅱ（ロラン・バルト—1）
- 第10回：物語論Ⅱ（ロラン・バルト—2）
- 第11回：物語論Ⅱ（ロラン・バルト—3）
- 第12回：中間的なまとめ—1（「テクスト」という概念の有効性の検討）
- 第13回：中間的なまとめ—2（「作者」という概念の有効性の検討）
- 第14回：学生による批評演習

履修上の注意

かなり抽象的な議論を展開してゆくことになると思いますが、根気よく理解しようと努めることが必要です。その際には、自分がよく知っている「作品」を念頭に置いて考えてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

基本的文献を読んでおくこと。邦訳書でかまわない。

教科書

教室で指示します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の参加の積極性とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

「時間と物語」、「歴史と物語」という二つの論点をめぐって、演習を行います。また、参加者の研究に資するよう、学生の発表を行います。

授業内容

- 第1回：「物語・時間・歴史」という概念に関する概説
- 第2回：ポール・リクール『時間と物語』について—1
- 第3回：ポール・リクール『時間と物語』について—2
- 第4回：ポール・リクール『時間と物語』について—3
- 第5回：ポール・リクール『時間と物語』について—4
- 第6回：リクルールの物語論を利用した学生の作品研究発表
- 第7回：ヘイドン・ホワイトの「メタ・ヒストリー」論の概説
- 第8回：ヘイドン・ホワイトの物語論—1
- 第9回：ヘイドン・ホワイトの物語論—2
- 第10回：リクールおよびホワイトの理論の日本の受容について（鹿島徹『可能性としての歴史』）
- 第11回：作品研究：ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ婦人』における意識と時間
- 第12回：作品研究：同上
- 第13回：作品研究：ジェイムズ・ジョイス『ユリシーズ』における時間の構造化
- 第14回：「物語・時間・歴史」をめぐる物語論のまとめ

履修上の注意

リクールやホワイトの理論を部分的に実際に読んでもらいます。かなり、難解ですが丁寧に理論を理解することを目指します。

準備学習（予習・復習等）の内容

基本的文献の抜き書きを渡すので読んでおくこと。

教科書

教室で指示します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の参加の積極性とレポート。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

小説以外のジャンルにおける物語性を分析します。また、参加者の研究に資するよう、学生の発表を行います。

授業内容

- 第1回：表象の諸ジャンルと物語（バルト『神話作用』が示唆する問題）
第2回：詩的テキストについて—1（ポール・リクール『生きている隠喩』）
第3回：詩的テキストについて—2（ポール・リクール『生きている隠喩』）
第4回：作品研究—1：W・B・イエイツの作品における歴史表象
第5回：作品研究—2：現代アイルランドの詩作品における歴史表象
第6回：学生による批評演習
第7回：視覚芸術における物語性—1（バルトの写真論その他）
第8回：断片化された物語性の問題—1（バルトの広告論その他）
第9回：断片化された物語性の問題—2（広告のイメージについて）
第10回：学生による批評演習
第11回：物語受容の問題—1：ヴォルフガング・イーザー『行為としての読書』について
第12回：物語受容の問題—2：ヴォルフガング・イーザー『行為としての読書』について
第13回：物語受容の問題—3：ヴォルフガング・イーザー『行為としての読書』について
第14回：受容理論に基づく「テキスト論」再考

履修上の注意

かなり抽象的な議論を展開してゆくことになると思いますが、根気よく理解しようと努めることが必要です。その際には、自分がよく知っている「作品」を念頭に置いて考えてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に指示する文献を読んでおくこと。

教科書

教室で指示します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の参加の積極性とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

物語論がどのように社会批評とかわかっていくかについて考察します。また、参加者の研究に資するよう、学生の発表を行います。

授業内容

- 第1回：物語・言説の政治性についての概説
第2回：ロラン・バルト『神話作用』の再検討
第3回：フレデリック・ジェイムソン『政治的無意識』について—1
第4回：フレデリック・ジェイムソン『政治的無意識』について—2
第5回：フレデリック・ジェイムソン『政治的無意識』について—3
第6回：「語ること」と社会—1：ミシェル・フーコーの「言説」概念について
第7回：「語ること」と社会—2：ミシェル・フーコーの「言説」概念について
第8回：「語ること」と社会—3：ミシェル・フーコーの「言説」概念について
第9回：「語ること」と社会—4：ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』について
第10回：「語ること」と社会—5：ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』について
第11回：「語ること」と社会—6：歴史修正主義の問題
第12回：語りとアイデンティティ—1：社会学的「物語論」の考察
第13回：語りとアイデンティティ—2：社会学的「物語論」の考察
第14回：物語論の社会的広がりへの検討

履修上の注意

かなり抽象的な議論を展開してゆくことになると思いますが、根気よく理解しようと努めることが必要です。その際には、自分がよく知っている「作品」を念頭に置いて考えてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に渡す資料をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

教室で指示します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業時の参加の積極性とレポート。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

物語行為の倫理を考察します。

授業内容

- 第1回：「物語」と「語り」の概念の再検討
 第2回：ジュディス・バトラー研究—1：『自分自身を説明すること』精読
 第3回：ジュディス・バトラー研究—2：『自分自身を説明すること』精読
 第4回：ジュディス・バトラー研究—3：『自分自身を説明すること』精読
 第5回：ジュディス・バトラー研究—4：『自分自身を説明すること』精読
 第6回：ジュディス・バトラー研究—5：「語り」と「倫理」、予備的考察
 第7回：ジュディス・バトラー研究—6：『生のあやうさ』精読
 第8回：ジュディス・バトラー研究—7：『生のあやうさ』精読
 第9回：ジュディス・バトラー研究—8：『生のあやうさ』精読
 第10回：ジュディス・バトラー研究—9：『生のあやうさ』精読
 第11回：ジュディス・バトラー研究—10：言語・身体・語りの関係性に関する予備的考察
 第12回：ジュディス・バトラー研究—11：フーコーとの比較検討
 第13回：ジュディス・バトラー研究—12：フーコーとの比較検討
 第14回：「語り」と抑圧・解放に関する考察

履修上の注意

かなり抽象的な議論を展開してゆくことになると思いますが、根気よく理解しようと努める必要があります。その際には、自分自身の経験を念頭に置いて考えてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に示す文献をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

教室で指示します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的参加とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 鈴木 哲也		

授業の概要・到達目標

表象行為における「物語性」と「倫理」について、現代の最新の論考に即しながら考察を加える。

授業内容

- 第1回：「物語」、「語り」、「表象」の概念の相関性についての考察
 第2回：「物語」の社会・政治・イデオロギー的特性についての考察
 第3回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—1
 第4回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—2
 第5回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—3
 第6回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—4
 第7回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—5
 第8回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—6
 第9回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—7
 第10回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—8
 第11回：John Paul Lederach, The Moral Imagination精読—9
 第12回：「物語論」の広がりについての再考
 第13回：「自己」・「物語」・「社会」の関係についての再考
 第14回：物語論の包括的検討

履修上の注意

かなり抽象的な議論を展開してゆくことになると思いますが、根気よく理解しようと努める必要があります。その際には、自分自身の経験を念頭に置いて考えてください。

準備学習（予習・復習等）の内容

John Paul Lederach著。The Moral Imaginationを手に入れ読んでおくこと。

教科書

教室で指示します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的参加とレポート。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学) 池田 功		

授業の概要・到達目標

本授業では、日本近現代文学及び文化の中でもとりわけ生老病死を扱った作品を取り上げる。具体的には、結核、癌、ハンセン病、エイズなどの病、また戦争、自殺、姥捨てなどを描いたものである。これらの作品を読み解きまた討論し、日本人における生老病死観を通して研究論文を書く力を養うことを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：日本近現代文学における生老病死とはⅠ(概論)
第3回：日本近現代文学における生老病死とはⅡ(概論)
第4回：結核を扱った作品の研究。正岡子規『病床六尺』、徳富蘆花『不如帰』など。
第5回：結核を扱った戦後の作品の研究。遠藤周作や斎藤綾子『結核病棟物語』など。
第6回：癌を扱った作品の研究。高見順『死の淵より』、井上靖『化石』など。
第7回：癌を扱った作品の研究。近藤啓太郎『微笑』、阪田寛夫『土の器』など。
第8回：ハンセン病を扱った作品の研究。北條民雄『いのちの初夜』など。
第9回：ハンセン病を扱った作品の研究。明石海人歌集。
第10回：ハンセン病を扱った作品の研究。遠藤周作『わたしが・棄てた・女』など。
第11回：赤痢を扱った作品の研究。石川啄木『赤痢』『鳥影』など。
第12回：姥捨てを扱った作品の研究。深沢七郎『檜山節考』など。
第13回：自殺を扱った作品の研究。太宰治『人間失格』など。
第14回：戦争を扱った作品の研究。大岡昇平『野火』など。

履修上の注意

授業では生老病死を扱った日本語のテキストを考察することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。各自それぞれ多くのテキストを読み準備することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

まず演習で扱う、テキストを準備することである。いずれも安価な文庫本になっているものが多い。しかし、中には既に絶版になっているものもあるので、その場合は全集等によって準備することが必要になる。テーマとなっている病の中でも、結核、ハンセン病、赤痢などは現在の日本ではほとんど見られなくなった病である。どのような病であるのかを事前に調べてほしい。また、姥捨てということや第二次世界大戦についても予備知識として前もって学習しておいてほしい。

演習終了後は、さらにテーマを深める意味でも、指摘されたキーワードに従って作品を再度吟味し、文章にすることが望まれる。

教科書

『不如帰』徳富蘆花(岩波文庫)等。

参考書

『新版 こころの病の文化史』池田功(おうふう)等。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加して下さい。

指導テーマ

日本近現代文学に描かれた生老病死をテーマとする。これらのテーマの分析・考察することを通して研究論文を書く力を養う。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学) 池田 功		

授業の概要・到達目標

本授業では日本近現代における心の病が描かれた文学作品を研究することを通して、日本人の心の病に対する精神構造を考え、研究論文を書く力を養うことを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：日本近現代文学に描かれた心の病とは(概論)
第3回：ヒステリーを扱った作品の研究。宇野浩二『苦の世界』など。
第4回：ヒステリーを扱った作品の研究。有島武郎『或る女』など。
第5回：幻視・幻聴を扱った作品の研究。芥川龍之介『菌車』など。
第6回：幻視・幻聴を扱った作品の研究。色川武大『狂人日記』など。
第7回：摂食障害を扱った作品の研究。金原ひとみ『ハイドラ』など。
第8回：引きこもりを扱った作品の研究。村上龍『共生虫』など。
第9回：神経を病む若い女性を扱った作品の研究。川端康成『たんぽぽ』など。
第10回：アルコール依存症を扱った作品の研究。若山牧水の短歌。
第11回：アルコール依存症を扱った作品の研究。中島らも『今夜すべてのバーで』など。
第12回：治療文化を扱った作品の研究。目取真俊『魂込め』など。
第13回：EDと不感症を扱った作品の研究。新井満『尋ね人の時間』、村上春樹の作品など。
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する。

履修上の注意

授業では心の病を扱った日本語のテキストを考察することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。各自それぞれ多くのテキストを読み準備することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

まず、池田功著『新版 こころの病の文化史』の「序」と「あとがき」を精読し、心の病とはいかなるものかを理解することである。その上で、本演習で扱う心の病の原典となるテキストを準備することである。いずれも安価な文庫本になっているものが多い。しかし、中には既に絶版のものもある。その場合は全集等により準備すること。心の病としては、ヒステリーや統合失調症やアルコール依存症やEDや不感症などを扱う。これらの病について事前に調べることが望ましい。

演習終了後は、さらにテーマを深める意味でも、演習で指摘されたキーワードに従って再度読み文章にすることが望まれる。

教科書

特に購入する必要はないが、『新版 こころの病の文化史』池田功著(おうふう)を使用する。毎回資料を配布する。

参考書

『神経症と文学—自分という不自由』大本泉他(鼎書房)
『病の言語表象』木村功(和泉書院)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

心の病の文化史をテーマとする。特にヒステリーや統合失調症、アルコール依存症やEDや不感症と、それらをテーマとして作品を分析することを通して研究論文を書く力を養う。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 池田 功		

授業の概要・到達目標

病を扱ったノン・フィクションとしての闘病記を対象とし、それを研究することを通して研究論文を書く力を養うことを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：闘病記とは何か。(概論)
第3回：闘病記の原点としての正岡子規の『墨汁一滴』など。
第4回：闘病記の原点としての中江兆民の『一年有半』など。
第5回：結核による闘病記の研究Ⅰ。
第6回：結核による闘病記の研究Ⅱ。
第7回：男性の癌による闘病記の研究Ⅰ。
第8回：男性の癌による闘病記の研究Ⅱ。
第9回：女性の乳癌による闘病記の研究Ⅰ。
第10回：女性の乳癌による闘病記の研究Ⅱ。
第11回：女性の乳癌以外による闘病記の研究。
第12回：ネットに描かれた闘病記の研究。
第13回：漫画に描かれた闘病記の研究。
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察し論文が書けるように指導する。

履修上の注意

授業では、闘病記を扱った日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

まず演習で扱うことになるテキストを準備することである。図書館には「闘病記」を専門とするコーナーなどが設けられているところもあるので、それらを利用することも必要である。ただし、闘病記は膨大な数があるので、まずは良く知られたものを読むと良い。演習においては適宜私の方でそのテキストを指摘する。また、闘病記は圧倒的に多く癌が対象とされているが、癌は種類も多くある。特に多い胃癌や肺癌、そして乳癌などについて調べておくことも必要である。留学生は、自国における闘病記についても少し調べておくが良い。演習終了後は、さらにテーマを深める意味でも、指摘されたキーワードに従って再度読み直し、文章にすることが望ましい。

教科書

『墨汁一滴』正岡子規(岩波文庫)等。

参考書

『闘病記文庫入門』石井保志(日本図書館協会)
『がん闘病記読書案内』闘病記専門古書店パラメディカ+闘病記サイトライフパレット編(三省堂)
『生きる力の源に がん闘病記の社会学』門林道子(青海社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加して下さい。

指導テーマ

闘病記を読みその研究をすることを通して、研究論文が執筆できることをテーマとする。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 池田 功		

授業の概要・到達目標

本授業では日本人論を書いた文献を精読しまた討論し、日本人とは何かについての考察することを通して、研究論文が書けるようにすることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：日本人論とは(概論)
第3回：ルース・ベネディクト『菊と刀』
第4回：ラフカディオ・ハーンの見た日本人・日本とは。
第5回：韓国人文化人、李御寧『縮み』志向の日本人
第6回：ゴードン・スミスの見た明治の日本
第7回：ルイス・フロイスの見た日本
第8回：モース『日本その日その日』
第9回：中根千枝『タテ社会の人間関係』
第10回：土井健郎『「甘え」の構造』
第11回：金田一春彦『日本人の言語表現』
第12回：南博『日本人の心理』
第13回：会田雄二『日本人の意識構造』
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察し研究論文指導を行う。

履修上の注意

授業では、日本人論を扱った日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

まず授業で取り扱うテキストを準備することである。いずれも安価な文庫本になっているものが多いが、しかし、中には絶版になっているものもある。その場合には全集等から準備することが必要になる。概論として、築島謙三『「日本人論」の中の日本人』(大日本図書)などもあり、事前に読んでおくことが望ましい。日本人論は既に500冊くらいの膨大な数の本がある。従って「授業内容」で紹介した以外のものを積極的に読んで欲しい。授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも、授業で指摘されたキーワードに従って再読し、文章にまとめることが望ましい。

教科書

『菊と刀』ルースベネディクト(社会思想文庫他)
『タテ社会の人間関係』中根千枝(懇談社新書)

参考書

『「日本人論」の中の日本人』築島健三(大日本図書)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

外国人そして日本人が書いた日本人論を読み研究をすることを通して、研究論文指導を行うことをテーマとする。

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学)		池田 功

授業の概要・到達目標

明治時代の文学者、石川啄木の短歌・詩・小説・評論・日記・書簡などを精読し、日本近代におけるその業績の意味を考察しながら、研究論文指導をすることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：石川啄木の生涯。
第3回：石川啄木作品の概論。
第4回：歌集『一握の砂』の研究。
第5回：歌集『悲しき玩具』の研究。
第6回：詩集『あこがれ』の研究。
第7回：詩稿ノート「呼子と口笛」の研究。
第8回：小説「雲は天才である」「我等の一団と彼」の研究。
第9回：評論「時代閉塞の現状」の研究。
第10回：日記「ローマ字日記」の研究。
第11回：書簡の研究。
第12回：啄木と大逆事件の研究。
第13回：啄木の国際性の研究。
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する。

履修上の注意

授業では石川啄木を扱った日本語のテキストを精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

まずは石川啄木のテキストを準備することである。多くのものは岩波文庫に収められているが、筑摩書房版『啄木全集』や『石川啄木全集』を利用することが望ましい。また、池田功著の『石川啄木 国際性への視座』、『石川啄木 その思想と散文』、『石川啄木入門』等をあらかじめ読んでおくことも必要である。さらに国際啄木学会編『石川啄木事典』の第一部「作品編」、第二部「項目編」のキーワードを読んでおくことも重要な準備となる。留学生の場合は、自国における石川啄木の翻訳や研究状況も確認しておいてほしい。

授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも、指摘された問題点やキーワードを吟味し、文章にすることが望ましい。

教科書

『石川啄木全集 全8巻』金田一京助他編(筑摩書房)

参考書

『石川啄木 国際性への視座』池田功(おうふう)、『石川啄木 その散文と思想』池田功(世界思想社)、『啄木日記を読む』池田功(新日本出版社)、『啄木 新しき明日の考察』池田功(新日本出版社)、『石川啄木入門』池田功(桜出版)など。また、『石川啄木入門』国際啄木学会編(おうふう)等。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%と総合して評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

明治期に活躍した文学者である石川啄木の研究を通して、研究論文指導を行うことをテーマとする。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学)		池田 功

授業の概要・到達目標

明治時代の文学者である石川啄木の文学を対象とし、その作品を精読し討論をすることを通して、その文学や思想の世界の意味を考察するとともに研究論文指導をすることを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：石川啄木の作品の概要。
第3回：石川啄木の思想の概要。
第4回：浪漫主義時代における「一元二面観」の研究。
第5回：社会進化論の影響と相互扶助。
第6回：啄木の国際性を考える。西欧について。
第7回：啄木の国際性を考える。アジアについて。
第8回：啄木の職業観。「天職」の言葉をめぐって。
第9回：啄木と宗教。仏教とキリスト教。
第10回：啄木作品の翻訳の現状。
第11回：啄木受容史の研究。日本において。
第12回：啄木受容史の研究。外国において。
第13回：啄木と漱石、鴎外、晶子、白秋、空太郎などとの関係の考察。
第14回：総合的な討論を通してテーマを考察する。

履修上の注意

授業では石川啄木を扱った日本語の作品や文献を精読することになるが、留学生でも可能であるように配慮する。

準備学習（予習・復習等）の内容

まずは石川啄木のテキストを準備することである。多くは岩波文庫に納められているが、筑摩書房版『石川啄木全集』を参考にしてほしい。また、池田功著の『啄木 新しき明日の考察』、『石川啄木 国際性への視座』、『石川啄木 その散文と思想』、『石川啄木入門』等をあらかじめ読んでおくことが必要である。さらに国際啄木学会編『石川啄木事典』の第一部「作品編」、第二部「項目編」のキーワードやイメージ項目を読んでおくことも重要な準備となる。留学生の場合は、自国における啄木の翻訳や研究についても調べておくこと。

授業終了後は、さらにテーマを深める意味でも、指摘された問題点やキーワードを吟味し、文章にすることが望ましい。

教科書

『石川啄木全集 全8巻』金田一京助他編(筑摩書房)

参考書

『石川啄木 国際性への視座』池田功(おうふう)、『石川啄木 その散文と思想』池田功(世界思想社)、『啄木日記を読む』池田功(新日本出版社)、『啄木 新しき明日の考察』池田功(新日本出版社)、『石川啄木入門』池田功(桜出版)。また、『石川啄木事典』国際啄木学会編(おうふう)等。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度50%、期末のレポート50%として評価する。

その他

積極的に授業に参加してください。

指導テーマ

明治期に活躍した文学者である石川啄木の研究を通して、研究論文指導を行うことをテーマとする。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

論文作成にむけて、既存研究の見直しを行う

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：これまでの自身の研究をふりかえる
 第3回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(1)
 第4回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(2)
 第5回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(3)
 第6回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(4)
 第7回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(5)
 第8回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(6)
 第9回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(7)
 第10回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(8)
 第11回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(9)
 第12回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(10)
 第13回：当該分野における既存の主たる議論の再検討(11)
 第14回：まとめ

履修上の注意

各回の最後に次回のために予習すべきことを指示するので、それにしたがうこと

準備学習（予習・復習等）の内容

イントロダクションの回に、各回の勉強内容を決めるので、それにしたがって予習してくること

教科書

特になし

参考書

イントロダクションの時に指示する

課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜行う

成績評価の方法

授業における貢献度と研究の進み具合を評価する

その他

特になし

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

論文作成に向けて、隣接分野の既存の研究を再検討し、学会発表や学術雑誌への投稿について指導する

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：研究枠組みの再確認
 第3回：隣接分野における既存研究の検討(1)
 第4回：隣接分野における既存研究の検討(2)
 第5回：隣接分野における既存研究の検討(3)
 第6回：隣接分野における既存研究の検討(4)
 第7回：隣接分野における既存研究の検討(5)
 第8回：隣接分野における既存研究の検討(6)
 第9回：隣接分野における既存研究の検討(7)
 第10回：研究発表準備(口頭発表)
 第11回：研究発表準備(論文投稿)
 第12回：博士論文の構想(1) 全体的な構想
 第13回：博士論文の構想(2) 資料の確認
 第14回：まとめ

履修上の注意

研究論文指導Ⅰを終えてから履修すること

準備学習（予習・復習等）の内容

イントロダクションで、各回のトピックを指示するので、それにしたがって予習してくること

教科書

特になし

参考書

イントロダクションのときに指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と研究の進み具合を評価する

その他

特になし

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

論文執筆に向けて、研究資料を収集し、どのように論文に活かすことができるか議論する

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：和文・欧文資料の収集と性格付け(1)
第3回：和文・欧文資料の収集と性格付け(2)
第4回：和文・欧文資料の収集と性格付け(3)
第5回：和文・欧文資料の収集と性格付け(4)
第6回：和文・欧文資料の収集と性格付け(5)
第7回：論文投稿の指導
第8回：現地語資料の収集と性格付け(1)
第9回：現地語資料の収集と性格付け(2)
第10回：現地語資料の収集と性格付け(3)
第11回：現地語資料の収集と性格付け(4)
第12回：現地語資料の収集と性格付け(5)
第13回：現地語資料の収集と性格付け(6)
第14回：まとめ

履修上の注意

各回の最後に次回のために予習すべきことを指持するので、それにしたがうこと

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで、各回のトピックを決めるので、それにしたがって予習してくること

教科書

特になし

参考書

イントロダクションの時に指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と研究の進み具合を評価する

その他

特になし

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

論文執筆に向けて、方法論の検討を行う

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：方法論の再検討(1)
第3回：方法論の再検討(2)
第4回：方法論の再検討(3)
第5回：方法論の再検討(4)
第6回：方法論の再検討(5)
第7回：方法論の再検討(6)
第8回：方法論の再検討(7)
第9回：方法論の再検討(8)
第10回：方法論の再検討(9)
第11回：方法論の再検討(10)
第12回：方法論の再検討(11)
第13回：方法論の再検討(12)
第14回：まとめ

履修上の注意

各回の最後に次回のために予習すべきことを指持するので、それにしたがうこと

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで、各回に扱う論文やトピックを決めるので、それにしたがって予習してくること

教科書

特になし

参考書

イントロダクションの時に指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と研究の進み具合を評価する

その他

特になし

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導V		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

博士論文の執筆に向けて、先行研究と異論の確認、資料精読をおこなう

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：先行研究と理論の確認(1)
 第3回：先行研究と理論の確認(2)
 第4回：先行研究と理論の確認(3)
 第5回：先行研究と理論の確認(4)
 第6回：資料精読(1)
 第7回：資料精読(2)
 第8回：資料精読(3)
 第9回：資料精読(4)
 第10回：資料精読(5)
 第11回：資料精読(6)
 第12回：資料精読(7)
 第13回：資料精読(8)
 第14回：まとめ

履修上の注意

博士学位請求論文執筆に向けての足場をかためるの時期であることを自覚してほしい

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで、研究計画を話し合うので、それにしたがって予習してくること。

教科書

特になし

参考書

イントロダクションで指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と、研究の進捗具合

その他

特になし

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導VI		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 山岸 智子		

授業の概要・到達目標

博士論文の執筆のために、論文の構想を考える

授業内容

第1回：イントロダクション
 第2回：博士論文の問題設定
 第3回：方法論の再確認(1)
 第4回：方法論の再確認(2)
 第5回：既存の論説の再確認(1)
 第6回：既存の論説の再確認(2)
 第7回：資料の概要(1)
 第8回：資料の概要(2)
 第9回：資料の分析結果
 第10回：現地語資料の概要(1)
 第11回：現地語資料の概要(2)
 第12回：現地語資料の分析結果
 第13回：結論の引き出し方
 第14回：まとめ

履修上の注意

イントロダクションの時に指示する

準備学習（予習・復習等）の内容

第1回のイントロダクションで研究計画を話しあうのでそれにしたがって予習してくること。

教科書

特になし

参考書

随時、指示する

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度と、論文執筆の進捗具合

その他

特になし

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要) 担当教員(加藤)の専門は中国の京劇であるが、京劇に限定せず、中国古典演劇および関連する研究テーマの学生を対象として、博士学位論文作成に向けての指導を、演習形式の授業として行う。

博士論文作成のアカデミック・スキルを習得するための参考として、担当教員(加藤徹)の専門である中国演劇についての専門的な論著をいくつか取り上げ、会読を行う。

(目標) この「研究論文指導Ⅰ」においては、博士論文作成に必要な幅広い知識と視点を養うと同時に、論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成する。具体的には、研究テーマおよび研究計画の策定(後に随時修正可能)、先行研究の調査、研究文献目録の作成、研究テーマの発展性と意義などについての吟味を行う。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマの策定と先行研究の調査(1)
- 第3回：研究テーマの策定と先行研究の調査(2)
- 第4回：研究テーマの策定と先行研究の調査(3)
- 第5回：京劇に関する論著・論文の精読(1)
- 第6回：京劇に関する論著・論文の精読(2)
- 第7回：京劇に関する論著・論文の精読(3)
- 第8回：京劇に関する論著・論文の精読(4)
- 第9回：その他の中国演劇に関する論著・論文の精読(1)
- 第10回：その他の中国演劇に関する論著・論文の精読(2)
- 第11回：その他の中国演劇に関する論著・論文の精読(3)
- 第12回：研究テーマの発展性に関する吟味(1)
- 第13回：研究テーマの発展性に関する吟味(2)
- 第14回：研究テーマの発展性に関する吟味(3)

履修上の注意

授業の内容・進度等は、受講生の専攻や、その時々 of 学界の動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使う。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要) 担当教員(加藤)の専門は中国の京劇であるが、京劇に限定せず、中国古典演劇および関連する研究テーマの学生を対象として、博士学位論文作成に向けての指導を、演習形式の授業として行う。

(目標) 「研究論文指導Ⅰ」を踏まえ、自分の研究の独自性と普遍性についての検討を加え、博士論文の構想を定める。具体的には、東アジアの表象文化の変容と享受について、先行研究を熟読・批評しつつ、研究テーマの設定、計画の推進をめぐって、演習と議論を積み重ねる。最終的には、教養デザイン研究科ならではの学際性に富んだ視点と手法を生かした博士論文の青写真を作り上げる。と同時に、博士論文のテーマと関連した学会での口頭発表の訓練や、紀要や学会誌への掲載を睨んでの小論文の作成も行う。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマの策定と先行研究の調査(1)
- 第3回：研究テーマの策定と先行研究の調査(2)
- 第4回：研究テーマの策定と先行研究の調査(3)
- 第5回：東アジアの表象文化の論著・論文の精読(1)
- 第6回：東アジアの表象文化の論著・論文の精読(2)
- 第7回：東アジアの表象文化の論著・論文の精読(3)
- 第8回：東アジアの表象文化の論著・論文の精読(4)
- 第9回：口頭発表の演習(1)
- 第10回：口頭発表の演習(2)
- 第11回：口頭発表の演習(3)
- 第12回：小論文作成の準備(1)
- 第13回：小論文作成の準備(2)
- 第14回：小論文作成の準備(3)

履修上の注意

授業の内容・進度等は、受講生の専攻や、その時々 of 学界の動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使う。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要) 担当教員(加藤)の専門は中国の京劇であるが、京劇に限定せず、中国古典演劇および関連する研究テーマの学生を対象として、博士學位論文作成に向けての指導を、演習形式の授業として行う。

(目標)「研究論文指導Ⅱ」までの学習成果を踏まえ、學位論文作成に向けたより具体的な研究に取り組む。具体的には、東アジアの表象文化について、この時点までにまとまった研究成果を、学会での口頭発表や、紀要・学術誌での論文掲載という形で発表し、研究テーマの有効性や研究手法についての反応も探る。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：学会および学術誌の調査(1)
- 第3回：学会および学術誌の調査(2)
- 第4回：学会および学術誌の調査(3)
- 第5回：研究内容の整理と吟味(1)
- 第6回：研究内容の整理と吟味(2)
- 第7回：研究内容の整理と吟味(3)
- 第8回：研究内容の整理と吟味(4)
- 第9回：口頭発表の演習(1)
- 第10回：口頭発表の演習(2)
- 第11回：口頭発表の演習(3)
- 第12回：小論文作成の準備(1)
- 第13回：小論文作成の準備(2)
- 第14回：小論文作成の準備(3)

履修上の注意

授業の内容・進捗等は、受講生の専攻や、その時々の学界の動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使う。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要)「研究論文指導Ⅲ」までの学習成果を踏まえ、學位論文の構想及び序論の案を作成する。授業では、学生が収集した一次資料・二次資料の収集状況とその分析検討を、各学生が口頭発表の形式に即して実践し、問題点を考える。指導教員と受講生で議論を重ね、より良い研究論文のあり方を探る。

(目標)この時点での研究成果の一部を、指導教員の助言・指導に基づいて、関連学会・研究会に学術論文として投稿することを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：學位論文の構想案の作成(1)
- 第3回：學位論文の構想案の作成(2)
- 第4回：學位論文の構想案の作成(3)
- 第5回：学術論文の作成と内容の口頭発表(1)
- 第6回：学術論文の作成と内容の口頭発表(2)
- 第7回：学術論文の作成と内容の口頭発表(3)
- 第8回：学術論文の作成と内容の口頭発表(4)
- 第9回：先行研究との比較についての議論(1)
- 第10回：先行研究との比較についての議論(2)
- 第11回：先行研究との比較についての議論(3)
- 第12回：學位論文の序論の作成(1)
- 第13回：學位論文の序論の作成(2)
- 第14回：學位論文の序論の作成(3)

履修上の注意

授業の内容・進捗等は、受講生の専攻や、その時々の学界の動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使う。

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要)「研究論文指導Ⅳ」までの学習成果を踏まえ、博士学位論文の作成の具体的な執筆作業を進めるとともに、授業の内外で研究成果を随時発表して評価と反応を受けることで、学位論文のほぼ全体の下書きを作る。
(目標)具体的には、博士学位論文の執筆と並行して、学内における中間発表、関連学会での口頭発表、関連学会誌への論文投稿なども行うよう努める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：学位論文の執筆の報告(1)章立ての構成
第3回：学位論文の執筆の報告(2)参考文献一覧
第4回：学位論文の執筆の報告(3)期待される研究成果
第5回：学術論文の作成と内容の口頭発表(1)
第6回：学術論文の作成と内容の口頭発表(2)
第7回：学術論文の作成と内容の口頭発表(3)
第8回：学術論文の作成と内容の口頭発表(4)
第9回：学位論文の下書きの会読(1)
第10回：学位論文の下書きの会読(2)
第11回：学位論文の下書きの会読(3)
第12回：学位論文の下書きの会読(4)
第13回：学位論文の下書きの会読(5)
第14回：学位論文の下書きの会読(6)

履修上の注意

授業の内容・進度等は、受講生の専攻や、その時々 of 学界的動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使う。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要)「研究論文指導Ⅴ」までの学習成果を踏まえ、博士学位論文の作成の具体的な執筆作業を進めるとともに、授業の内外で研究成果を随時発表して評価と反応を受けることで、学位論文のほぼ全体の下書きを作る。
(目標)博士学位論文の執筆と並行して、学内における中間発表、関連学会での口頭発表、関連学会誌への論文投稿なども行うよう努める。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：学会・研究会での口頭発表の準備(1)
第3回：学会・研究会での口頭発表の準備(2)
第4回：学会・研究会での口頭発表の準備(3)
第5回：学会・研究会での口頭発表の準備(4)
第6回：学会誌・学術誌への投稿の準備(1)
第7回：学会誌・学術誌への投稿の準備(2)
第8回：学会誌・学術誌への投稿の準備(3)
第9回：受講生の学位論文(草稿)の会読と意見交換(1)
第10回：受講生の学位論文(草稿)の会読と意見交換(2)
第11回：受講生の学位論文(草稿)の会読と意見交換(3)
第12回：研究成果の総括(1)
第13回：研究成果の総括(2)
第14回：研究成果の総括(3)

履修上の注意

授業の内容・進度等は、受講生の専攻や、その時々 of 学界的動向を反映して、多少、変更することがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-ol Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

DVDやインターネットなど視聴覚教材も使う。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

- 論文作成に向けての準備を進める。
- 日本の戦後思想内部には、当然のことマルクス主義の影響が存在したが、そのあり方は「民族」的なモメントが色濃く反映したものであった。当時の文脈において、階級論的観点と民族的観点がどのように融合していたのか、見直してみたい。

授業内容

- 第1回：イントロダクションⅠ(博士論文とは何か)
 第2回：研究課題の設定
 第3回：先行研究及び文献リストの作成
 第4回：石母田『歴史と民族の発見』を読む(1)
 第5回：石母田『歴史と民族の発見』を読む(2)
 第6回：石母田『歴史と民族の発見』を読む(3)
 第7回：中間総括(戦後思想とは何か)
 第8回：イントロダクションⅡ(価値ある博士論文とは何か)
 第9回：谷川雁『原点が存在する』を読む(1)
 第10回：谷川雁『原点が存在する』を読む(2)
 第11回：谷川雁『原点が存在する』を読む(3)
 第12回：中間総括(戦後思想と社会運動)
 第13回：今後に向けた研究計画の検証
 第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告など、入念に準備すること。

教科書

石母田正『歴史と民族の発見』(平凡社ライブラリー)。谷川雁『原点が存在する』(講談社文芸文庫)。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

日本も含むアジアにおける近代化には、多くの苦しみがあったとも言える。その苦しみは、単に現象として人的被害が多かったということに止まらない。そこには知的な苦しみ、というもう一つ別の次元があった。本プログラムは、その苦しみに分け入ることを目標とする。

授業内容

- 第1回：イントロダクションⅠ(アジアの同時代史を如何に生きるか)
 第2回：孫歌『歴史の交差点に立って』を読む(1)
 第3回：孫歌『歴史の交差点に立って』を読む(2)
 第4回：孫歌『歴史の交差点に立って』を読む(3)
 第5回：孫歌『歴史の交差点に立って』を読む(4)
 第6回：孫歌『歴史の交差点に立って』を読む(5)
 第7回：中間総括(知識人の責任とは何か)
 第8回：イントロダクションⅡ(アジアにおける知識人の選択)
 第9回：孫文『三民主義』を読む(1)
 第10回：孫文『三民主義』を読む(2)
 第11回：孫文『三民主義』を読む(3)
 第12回：孫文『三民主義』を読む(4)
 第13回：孫文『三民主義』を読む(5)
 第14回：孫文『三民主義』を読む(6)
 第15回：総括(近代をモデルとして受け入れる難しさ)

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

初回の授業で説明し、その都度の授業で指示する。

教科書

孫歌『歴史の交差点に立って』(日本経済評論社)、孫文『三民主義(上)(下)』(岩波文庫)

参考書

適宜指示。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

- 論文作成に向けた中間的総括を行う。
- 中国革命は、七〇年に近い期間を持つために、政治経済領域と文化領域との特殊な交渉関係が成立していた。だが、この交渉関係は単に中国に特殊なものではなく、後発近代国に一般的なものでもあった。本プログラムは、特に中国における革命期・ポスト革命期に照準を定め、そこで政治経済と連関した文化領域における「革新」のあり様を議論したい。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：研究課題の確認
第3回：汪暉『思想空間としての現代中国』を読む(1)
第4回：汪暉『思想空間としての現代中国』を読む(2)
第5回：汪暉『思想空間としての現代中国』を読む(3)
第6回：汪暉『思想空間としての現代中国』を読む(4)
第7回：中間総括(中国の近代とは何か)
第8回：魯迅を読む(1)
第9回：魯迅を読む(2)
第10回：魯迅を読む(3)
第11回：魯迅を読む(4)
第12回：魯迅を読む(5)
第13回：今後に向けた研究計画の検証
第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の準備など、入念に行うこと。

教科書

魯迅『魯迅著作集1-6』（竹内好訳 ちくま学芸文庫）。汪暉『思想空間としての現代中国』（岩波書店）。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

- 論文作成に向けた総括を行う。
- 二一世紀の思想的課題の最大の対象は、やはり資本主義であり、また国家であろうと思われる。本プログラムは、資本主義と国家の絡み合いを解く理論的アプローチを探究する。実に、動態としての資本主義と国家の関係性をどう記述するのか、ということ自体が問題提起の大前提である。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：研究課題の確認
第3回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(1)
第4回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(2)
第5回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(3)
第6回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(4)
第7回：中間総括(国家の危機と資本主義の危機について)
第8回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(1)
第9回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(2)
第10回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(3)
第11回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(4)
第12回：論文の要旨、章立てについての確認
第13回：研究の完成に向けた検証
第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告の準備など、入念に行うこと。

教科書

K・マルクス『ルイ・ボナパルト』（平凡社ライブラリー）。柄谷行人『世界史の構造』（岩波文庫）。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅴ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

- 論文作成に向けた中間の総括を行う。
- 本プログラムは、暴力と平和を政治の延長として、さらにその政治が目指すところの「法(ルール)の創設」と絡ませて理解する。旧来の平和概念は、戦争や内乱のない状態として表象されて来たが、やはり「法(ルール)の創設」という出来事の上で思考されるべき必然性を有するものと思われる。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：研究課題の確認
 第3回：K・シュミット『政治的なものの概念』を読む(1)
 第4回：K・シュミット『政治的なものの概念』を読む(2)
 第5回：K・シュミット『政治的なものの概念』を読む(3)
 第6回：K・シュミット『政治的なものの概念』を読む(4)
 第7回：中間総括(政治を思想の対象にすることで何が得られるのか)
 第8回：ベンヤミンにおける平和と暴力の問題を考える(1)
 第9回：ベンヤミンにおける平和と暴力の問題を考える(2)
 第10回：ベンヤミンにおける平和と暴力の問題を考える(3)
 第11回：ベンヤミンにおける平和と暴力の問題を考える(4)
 第12回：ベンヤミンにおける平和と暴力の問題を考える(5)
 第13回：今後に向けた研究計画の検証
 第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告の準備など、入念に行うこと。

教科書

K・シュミット『政治的なものの概念』(未来社)。ベンヤミン『ベンヤミンコレクションⅠⅡ』(ちくま学芸文庫)。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅵ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 丸川 哲史		

授業の概要・到達目標

- 論文作成に向けた総括を行う。
- 二一世紀の思想的課題の最大の対象は、やはり資本主義であり、また国家であろうと思われる。本プログラムは、資本主義と国家の絡み合いを解く理論的アプローチを探究する。実に、動態としての資本主義と国家の関係性をどう記述するのか、ということ自体が問題提起の大前提である。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
 第2回：研究課題の確認
 第3回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(1)
 第4回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(2)
 第5回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(3)
 第6回：K・マルクス『ルイ・ボナパルト』を読む(4)
 第7回：中間総括(国家の危機と資本主義の危機について)
 第8回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(1)
 第9回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(2)
 第10回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(3)
 第11回：柄谷行人『世界史の構造』を読む(4)
 第12回：論文の要旨、章立てについての確認
 第13回：研究の完成に向けた検証
 第14回：まとめと総括

履修上の注意

毎回出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告の準備など、入念に行うこと。

教科書

K・マルクス『ルイ・ボナパルト』(平凡社ライブラリー)。柄谷行人『世界史の構造』(岩波文庫)。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点とレポート。

その他

博士後期課程

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	社会学博士	薩摩 秀登

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

ヨーロッパの優位はすでに過去のものとなりつつあるが、それでも近代の国家や社会のモデルを作り上げた地域として重要である。しかしヨーロッパといっても地域的多様性は大きく、アジア諸地域と接する東欧では、西欧とは異なる条件のもとで、異なった性格の国家や社会・文化が形成されてきた。授業では、中・近世のヨーロッパ史における主要な概念をとりあげ、東欧におけるその特色について考えることにより、ヨーロッパの多様な姿を理解する手がかりをさぐる。

〈到達目標〉

東欧における国家・社会の歴史的 성격について学ぶことで、地域史へのアプローチの仕方を理解し、またヨーロッパの多様性を理解する手がかりを得る。

授業内容

中世の君主権の性格、身分制社会の展開、宗教改革、絶対主義などが主要なテーマとなる。

第1回：イントロダクション（東欧の概念）

第2回：国家形成期の東欧1 モラヴィアおよびチェコの事例

第3回：国家形成期の東欧2 ポーランドおよびハンガリーの事例

第4回：東欧における中世国家の支配構造とその特質

第5回：東欧における身分制国家への移行1 チェコの事例

第6回：東欧における身分制国家への移行2 ポーランドおよびハンガリーの事例

第7回：フス派の革命とチェコの身分制国家

第8回：受講生による研究報告

第9回：宗教改革期の東欧1 チェコの事例

第10回：宗教改革期の東欧2 ポーランドおよびハンガリーの事例

第11回：東欧における絶対主義とその性格1 チェコの事例

第12回：東欧における絶対主義とその性格2 ポーランドおよびハンガリーの事例

第13回：啓蒙絶対主義と東欧の身分制社会

第14回：「民族覚醒」期東欧における国家統合

履修上の注意

東欧についての詳しい予備知識は必要ではない。

しかし主要参考文献をもとに、中世以降のヨーロッパ史の基本的な流れを把握したうえで受講すれば、より効果的である。

準備学習（予習・復習等）の内容

主要な参考文献や資料についてあらかじめ指示するので、事前に参照しておくこと。

授業中に指示した事項や文献・資料について、必要に応じて、あたってみること。

教科書

教科書は用いない。

参考書

伊東孝之他編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社1998年

柴宜弘編『バルカン史』山川出版社1998年

南塚信吾編『ドナウ・ヨーロッパ史』山川出版社1999年

課題に対するフィードバックの方法

授業における質疑応答によって行う。

成績評価の方法

平常点60%（授業への積極的な関与）、報告40%

その他

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	文化理論特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(学術)	山岸 智子

授業の概要・到達目標

この授業では、論理的に考え、書く技術を身に着け、文化研究の理論をみなおす。

授業内容

第1回：イントロダクション

第2回：「シカゴ・スタイルに学ぶ・・・」chapter 1

第3回：「シカゴ・スタイルに学ぶ・・・」chapter 2

第4回：「シカゴ・スタイルに学ぶ・・・」chapter 3

第5回：「シカゴ・スタイルに学ぶ・・・」chapter 4

第6回：自分の修士論文の組み立ての振り返り

第7回：先行する文化研究理論1

第8回：先行する文化研究理論2

第9回：宇野常寛『日本文化の論点』

第10回：Stuart Hall et al. “The Social History of a ‘Moral Panic’ ”

第11回：Stuart Hall et al. “The Origins of Social Control”

第12回：Stuart Hall et al. “The Social Production of News”

第13回：Stuart Hall et al. “Orchestrating Public Opinion”

第14回：全体の総括

履修上の注意

第1回イントロダクションに必ず出席すること。

授業内容は、出席者の興味関心や問題意識に即して変えることがある。

準備学習（予習・復習等）の内容

イントロダクションで、各回の勉強内容を決めるので、それにしたがって予習してくること。

教科書

特に指定しない。

参考書

吉岡友治『シカゴ・スタイルに学ぶ論理的に考え、書く技術：世界で通用する20の普遍的メソッド』草思社

宇野常寛『日本文化の論点』ちくま新書

Stuart Hall et al. eds., Policing the Crisis; mugging, the state and law & order [2nd edition] Palgrave Macmillan 2013
ほか

課題に対するフィードバックの方法

授業で適宜行う。

成績評価の方法

授業への貢献度（発表や議論に積極的に参加すること）。

その他

ここに書いた案はあくまでも腹案で、履修者の興味関心や要望をきいて、適宜内容を変える用意がある。

論理的な文章を書く方法を紹介したうえで、できるかぎり、狭いディシプリンや研究分野にとらわれずに、現代の文化と社会のさまざまなトピックについて、闊達な議論の場を提供したい。宇野常寛とスチュアート・ホールはあくまでも例としてあげていて、別の論考をとりあげる可能性もある。

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「文化」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地域文化特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		加藤 徹

授業の概要・到達目標

(概要) 近世から近現代にかけての表象文化の特質について、国際比較・地域間の比較という視点から理論的に分析し、考察を加える。
(目標) 受講者が自分の研究を進めるうえでヒントをつかむことを目標とする。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2回：棲み分け(1) ガラパゴス化、モザイク化
第3回：棲み分け(2) サブカルチャーの特権について
第4回：棲み分け(3) 和服の芸と洋服の芸
第5回：ナラトロジー (1) コードとタブーについて
第6回：ナラトロジー (2) モチーフ・インデックスについて
第7回：ナラトロジー (3) 個人創作と世代累積型集団創作について
第8回：野生の教養(1) 動物人間について
第9回：野生の教養(2) 飲酒音楽について
第10回：野生の教養(3) 芸術と次元について
第11回：離俗の理論(1) 俳句と夏目漱石
第12回：離俗の理論(2) 実写映画作品
第13回：離俗の理論(3) アニメ作品
第14回：表象文化研究から未来への提言

履修上の注意

授業の順番・内容等は、受講生の要望や学界の新しい動きなどに応じて多少変更する可能性もあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業用のwebpageを作成して公開するので、予習・復習に活用してください。

教科書

特に定めない。プリントを随時、配布。

参考書

岩野 卓司 (編)、丸川 哲史 (編)『野生の教養: 飼いやられず、学び続ける』(法政大学出版局)
加藤徹著『京劇』(中央公論新社)
加藤徹著『漢文で知る中国』(NHK出版)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji の「レポート」の「コメント」機能などを活用する。

成績評価の方法

レポート(30%)および授業への貢献度(70%)による。

その他

文字資料だけでなく、映像・画像資料も随時、使う予定です。

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「文化」領域研究		備考	
科目名	言語文化特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授		鈴木 哲也

授業の概要・到達目標

ジャン・フランソワ・リオタールの有名な「大きな物語は死んだ」という発言以来、「物語」は現代思想や文学理論においてさまざまに論じられている。また、認知心理学の領域などでも新鮮な論議が展開されている。物語論を検討することは、私たちひとりひとりの自己表象のメカニズムを考察することであり、また、社会の共同性が構築されるメカニズムを探ることでもある。独断的に言えば「語る」という行為がなければ人間は人間であり得ない。現代を生きる私たちの問題として「物語論」を深めてゆきたいと思う。

授業内容

第1回：「物語論」の射程を検討する。
第2回：物語理論について—1: ポール・リクルの物語論の考察。
第3回：物語理論について—2: ロラン・バルト、「神話作用」の考察。
第4回：物語理論について—3: ジェラルド・ジュネットが提示している物語の言説構造の研究を検討する。
第5回：作品の検討：小説における時間と自己意識の構造化を検討する。
第6回：作品の検討：演劇。口承的語りと文字による表現の相違を検討する。
第7回：作品の検討：映画における意味作用をストーリーとイメージの観点から検討する。
第8回：精神医学の実践としての「物語」。
第9回：社会学的物語論—1: 歴史的記述について物語論から考察をくわえてゆく。
第10回：社会学的物語論—2: 修正主義的歴史観の批判的検討。
第11回：消費社会における物語—1: マーケティングと物語理論。
第12回：消費社会における物語—2: 今日の日本における「物語」の状況。
第13回：物語の伝達—1: 活字メディアと物語。
第14回：物語の伝達—2: 映像メディアと物語。

履修上の注意

できれば、一方通行の講義で終わらせず、参加者による議論までできればいいと考えている。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に示す文献をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

教科書は指定しない。参考文献は、ポール・リクル『時間と物語』、ロラン・バルト『神話作用』、ジェラルド・ジュネット『物語のディスコース』、鹿島徹『可能性としての歴史』、浅野智彦『自己への物語論的接近』、大塚英志『物語消滅論』、エリック・ハブロック『プラトン序説』など。

参考書

理論に関する概説書など、随時、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度を30%程度考慮し、残りは学期末のレポートによって評価する。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築の諸条件や制度化に関する比較研究である。

(2)到達目標
研究指導にあたっては、学生が主体的に取り組んで進めていくことを基本方針とする。特に研究課題の設定とその妥当性の検討である。研究対象地域に関する既存研究ではなく、研究テーマ(例：民族紛争、経済開発)に関する研究を渉猟し、整理することを目標とする。

授業内容

第1 テーマ：基礎研究の収集
第1回：既存研究(文献)収集・解説
第2回：既存研究(文献)収集結果報告と解説
第3回：既存研究(学術論文そのほか)収集・解説
第4回：既存研究(学術論文そのほか)収集結果報告と解説
第2 テーマ：邦文既存研究の整理
第5回：既存研究の整理について(解説)
第6回：既存研究の報告(1)
第7回：既存研究の報告(2)
第8回：既存研究の報告(3)
第9回：既存研究の整理
第3 テーマ：外国語文既存研究の整理
第10回：既存研究の整理について(解説)
第11回：既存研究の報告(1)
第12回：既存研究の報告(2)
第13回：既存研究の報告(3)
第14回：既存研究の整理

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

既存文献を事前に読みこんでおくこと。

教科書

特に用いない。

参考書

Clio社、*World Bibliography*シリーズ。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文は4つの点から評価されるものである。第1が課題設定の妥当性、第2が内外の既存研究をおさえた上でのオリジナリティ、第3が、論文が依拠する資料・データのオリジナリティ、そして第4が論理性に裏打ちされた結論である。これらの点から当該学位論文を総合的に評価する。平常点となる授業時間内での報告で評価を行う。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築の諸条件や制度化に関する比較研究である。

(2)到達目標
研究指導にあたっては、学生が主体的に取り組んで進めていくことを基本方針とする。特に研究課題の設定とその妥当性の検討である。研究対象地域に関する既存研究を渉猟し、整理することを目標とする。

授業内容

第1 テーマ：基礎研究の収集
第1回：既存研究(文献)収集・解説
第2回：既存研究(文献)収集結果報告と解説
第3回：既存研究(学術論文そのほか)収集・解説
第4回：既存研究(学術論文そのほか)収集結果報告と解説
第2 テーマ：邦文既存研究の整理
第5回：既存研究の整理について(解説)
第6回：既存研究の報告(1)
第7回：既存研究の報告(2)
第8回：既存研究の報告(3)
第9回：既存研究の整理
第3 テーマ：外国語文既存研究の整理
第10回：既存研究の整理について(解説)
第11回：既存研究の報告(1)
第12回：既存研究の報告(2)
第13回：既存研究の報告(3)
第14回：既存研究の整理

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

既存文献を事前に読みこんでおくこと。

教科書

特に用いない。

参考書

Clio社、*World Bibliography*シリーズ。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文は4つの点から評価されるものである。第1が課題設定の妥当性、第2が内外の既存研究をおさえた上でのオリジナリティ、第3が、論文が依拠する資料・データのオリジナリティ、そして第4が論理性に裏打ちされた結論である。これらの点から当該学位論文を総合的に評価する。平常点となる授業時間内での報告で評価を行う。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築の諸条件や制度化に関する比較研究である。
(2)到達目標
研究指導にあたっては、学生が主体的に取り組んで進めていくことを基本方針とする。研究課題の設定とその妥当性の検討である。特に研究対象地域にフィールド調査と既存研究との異同を確認することを目標とする。

授業内容

第1テーマ：フィールド調査の準備
第1回：フィールドを選ぶに当たっての準備
第2回：複数候補地の選定
第3回：候補地に関する文献情報の収集
第4回：候補地に関する関連統計の収集
第2テーマ：候補地の比較
第5回：別候補地に関する文献情報の収集
第6回：別候補地に関する関連統計
第7回：比較考察(1)
第8回：比較考察(2)
第9回：候補地の決定
第3テーマ：予備フィールド調査
第10回：予備フィールド調査の準備報告
第11回：予備フィールド調査の実施報告(1)
第12回：予備フィールド調査の実施報告(2)
第13回：既存研究との異同
第14回：既存研究との比較・考察

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

フィールドに関する事前調査を行い、準備すること。事後報告書をまとめること。

教科書

特に用いない。

参考書

Clio社、*World Bibliography*シリーズ。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文は4つの点から評価されるものである。第1が課題設定の妥当性、第2が内外の既存研究をおさえた上でのオリジナリティ、第3が、論文が依拠する資料・データのオリジナリティ、そして第4が論理性に裏打ちされた結論である。これらの点から当該学位論文を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築の諸条件や制度化に関する比較研究である。
(2)到達目標
研究指導にあたっては、学生が主体的に取り組んで進めていくことを基本方針とする。研究課題の設定とその妥当性の検討である。特に研究対象地域に本フィールド調査と既存研究との異同を確認することを目標とする。

授業内容

第1テーマ：フィールド本調査の準備
第1回：フィールドを選ぶに当たっての準備
第2回：複数候補地の選定
第3回：候補地に関する文献情報の収集
第4回：候補地に関する関連統計の収集
第2テーマ：候補地の比較
第5回：別候補地に関する文献情報の収集
第6回：別候補地に関する関連統計
第7回：比較考察(1)
第8回：比較考察(2)
第9回：候補地の決定
第3テーマ：フィールド本調査
第10回：フィールド本調査の準備報告
第11回：フィールド本調査の実施報告(1)
第12回：フィールド本調査の実施報告(2)
第13回：既存研究との異同
第14回：既存研究との比較・考察

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前調査を丁寧に行うこと。

教科書

特に用いない。

参考書

Clio社、*World Bibliography*シリーズ。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文は4つの点から評価されるものである。第1が課題設定の妥当性、第2が内外の既存研究をおさえた上でのオリジナリティ、第3が、論文が依拠する資料・データのオリジナリティ、そして第4が論理性に裏打ちされた結論である。これらの点から当該学位論文を総合的に評価する。平常点となる授業時間内での報告で評価を行う。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築の諸条件や制度化に関する比較研究である。
(2)到達目標
研究指導にあたっては、学生が主体的に取り組んで進めていくことを基本方針とする。研究課題の設定とその妥当性の検討である。フィールド調査のデータ分析、論文分筆作業を進めることが目標である。

授業内容

第1 テーマ：統計・データの分析
第1回：関連統計・データの収集方法(1)
第2回：関連統計・データの分析(1)
第3回：関連統計・データの分析(2)
第4回：データの表示・加工
第2 テーマ：博士論文の分筆と研究指導
第5回：既存研究の整理(1)
第6回：既存研究の整理(2)
第7回：研究課題の設定(1)
第8回：研究課題の設定(2)
第9回：章立て構成
第3 テーマ：本文の分筆
第10回：本文の分筆報告(1)
第11回：本文の分筆報告(2)
第12回：本文の分筆報告(3)
第13回：本文の分筆報告(4)
第14回：既存研究との比較・考察

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に統計・データの収集と個別の分析を行うこと。事後に、研究指導に基づいた修正分析を行うこと。

教科書

特に用いない。

参考書

Clio社、*World Bibliography*シリーズ。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文は4つの点から評価されるものである。第1が課題設定の妥当性、第2が内外の既存研究をおさえた上でのオリジナリティ、第3が、論文が依拠する資料・データのオリジナリティ、そして第4が論理性に裏打ちされた結論である。これらの点から当該学位論文を総合的に評価する。平常点となる授業時間内での報告で評価を行う。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		鳥居 高

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
研究課題は、民族紛争・宗教紛争、さらには経済開発と平和構築の諸条件や制度化に関する比較研究である。
(2)到達目標
研究指導にあたっては、学生が主体的に取り組んで進めていくことを基本方針とする。研究課題の設定とその妥当性の検討である。フィールド調査のデータ分析、論文分筆作業を行うことが目標である。

授業内容

第1 テーマ：本文の分筆
第1回：本文の分筆報告(1)
第2回：本文の分筆報告(2)
第3回：本文の分筆報告(3)
第4回：本文の分筆報告(4)
第5回：既存研究との比較・考察
第6回：総括
第2 テーマ：フィールド補足調査
第7回：フィールド補足調査の準備報告
第8回：フィールド補足調査の実施報告(1)
第9回：フィールド補足調査の実施報告(2)
第10回：既存研究との異同
第11回：既存研究との比較・考察
第12回：本文の分筆報告(1)
第13回：本文の分筆報告(2)
第14回：既存研究との比較・考察

履修上の注意

十分な準備の上で、研究指導に臨むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

分筆作業を行い、報告の準備を行うこと。研究指導に基づき、修正作業を行うこと。

教科書

特に用いない。

参考書

Clio社、*World Bibliography*シリーズ。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文は4つの点から評価されるものである。第1が課題設定の妥当性、第2が内外の既存研究をおさえた上でのオリジナリティ、第3が、論文が依拠する資料・データのオリジナリティ、そして第4が論理性に裏打ちされた結論である。これらの点から当該学位論文を総合的に評価する。平常点となる授業時間内での報告で評価を行う。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

ジェノサイドの比較研究の基礎となる知識の習得の第一段階として、ジェノサイド概念の発生から現在までの展開を概観する。ジェノサイドについての正しい理解を獲得することが目標となる。

授業内容

第1回：ジェノサイドの歴史
 第2回：ジェノサイドの語源
 第3回：国連ジェノサイド条約1
 第4回：国連ジェノサイド条約2
 第5回：国連ジェノサイド条約3
 第6回：レムキンのジェノサイド概念1
 第7回：レムキンのジェノサイド概念2
 第8回：レムキンのジェノサイド概念3
 第9回：旧ユーゴ国際戦犯法廷
 第10回：スレブレニツァ事件とジェノサイド判決1
 第11回：スレブレニツァ事件とジェノサイド判決2
 第12回：ルワンダ国際戦犯法廷
 第13回：ルワンダ・ジェノサイド判決
 第14回：国際戦犯法廷とジェノサイド罪規定

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する

教科書

特になし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末試験

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

ジェノサイドの比較研究の基礎となる知識の習得の第二段階として、ジェノサイド概念の祖形となったナチスのホロコーストを概観する。ホロコーストについての正しい理解を獲得することが目標となる。

授業内容

第1回：モダニティの概念
 第2回：近代的反ユダヤ主義の発生
 第3回：社会ダーウィニズム
 第4回：人種理論と社会ダーウィニズムの結合
 第5回：ナチスの人種理論1
 第6回：ナチスの人種理論2
 第7回：ワイマール期のドイツ社会1
 第8回：ワイマール期のドイツ社会2
 第9回：ナチスの台頭
 第10回：上からの反ユダヤ主義
 第11回：ニュルンベルク法
 第12回：帝国水晶の夜事件
 第13回：経済のアーリア化
 第14回：人種隔離政策

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

ジェノサイドの比較研究の基礎となる知識の習得の第三段階として、第二次世界大戦期のホロコースト政策の展開を概観する。ホロコーストについての正しい理解を獲得することが目標となる。

授業内容

第1回：ナチズムの概観
第2回：ユダヤ人問題の「最終解決」をめぐる学説史
第3回：ナチスの安楽死政策1
第4回：ナチスの安楽死政策2
第5回：東部占領地域とゲットー1
第6回：東部占領地域とゲットー2
第7回：アンザッツグルッペン
第8回：ラインハルト作戦
第9回：トレブリンカ収容所
第10回：アウシュビッツ強制収容所1
第11回：アウシュビッツ強制収容所2
第12回：ビルケナウ強制収容所
第13回：ホロコースト政策の現代的影響
第14回：ホロコースト否定論とその問題点

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

ジェノサイドの比較研究の基礎となる知識の習得の第四段階として、オスマン帝国におけるアルメニア人問題を概観する。一九一六年のアルメニア人移送政策についての正しい理解を獲得することが目標となる。

授業内容

第1回：アルメニア人の歴史
第2回：オスマン帝国とアルメニア人
第3回：オスマン帝国における民族主義の発生
第4回：93年戦争とベルリン条約
第5回：アルメニア人ナショナリズムの展開
第6回：フンチャク党
第7回：ダシナク党
第8回：サスン反乱
第9回：オスマン銀行占拠事件とクンカブ事件
第10回：アダナ事件
第11回：ムスリム移民入植政策とアルメニア人
第12回：第1次世界戦争とオスマン帝国
第13回：ヴァン反乱
第14回：移送政策

履修上の注意

とくになし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

ジェノサイドの比較研究の基礎となる知識の習得の第五段階として、ユーゴスラビアにおける民族浄化の展開を概観する。民族浄化についての正しい理解を獲得することが目標となる。

授業内容

第1回：バルカンの歴史
 第2回：民族浄化の語源をめぐる論争
 第3回：バルカンのナショナリズムの特徴
 第4回：近代セルビア国家の形成
 第5回：南スラブ人統一運動とムスリム問題
 第6回：クロアチア・ナショナリズムの特徴
 第7回：純粹権利党と反セルビア人政策
 第8回：戦間期ユーゴにおけるクロアチア人問題
 第9回：第二次世界大戦とクロアチア独立国
 第10回：ウスタシャのイデオロギー
 第11回：ウスタシャのセルビア人絶滅政策
 第12回：ゴスピッチ強制収容所
 第13回：ヤセノヴァツ強制収容所1
 第14回：ヤセノヴァツ強制収容所2

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(文学) 佐原 徹哉		

授業の概要・到達目標

ジェノサイドの比較研究の基礎となる知識の習得の最終段階として、ボスニア内戦期の民族浄化を概観する。ボスニア内戦と民族浄化についての正しい理解を獲得することが目標となる。

授業内容

第1回：ICTYの概要
 第2回：社会主義ユーゴスラヴィアと民族政策
 第3回：チトー主義の問題点
 第4回：1960年代の民族主義
 第5回：ポスト・チトー時代の民族主義の復興
 第6回：コソボ・ジェノサイド・キャンペーン
 第7回：スロボダン・ミロシェヴィチの民族主義政策
 第8回：ユーゴ連邦の解体
 第9回：ボスニア内戦の勃発
 第10回：内戦中の三民族の動向
 第11回：ヴィシェグラード事件
 第12回：民兵の問題
 第13回：スレブレニツァ事件1
 第14回：スレブレニツァ事件2

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に指示する

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D.		廣部 泉

授業の概要・到達目標

アメリカと東アジアとの関係を研究対象として、博士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的には学術的水準を満たす博士論文の完成へと導きます。

授業内容

第1回：はじめに
第2回：研究案の報告
第3回：先行研究の整理(1)
第4回：先行研究の整理(2)
第5回：先行研究の整理(3)
第6回：関係史料の検討(1)
第7回：関係史料の検討(2)
第8回：関係史料の検討(3)
第9回：史料の批判的分析(1)
第10回：史料の批判的分析(2)
第11回：史料の批判的分析(3)
第12回：適切な問題設定とは
第13回：今後に向けたアプローチに関する修正
第14回：まとめ

履修上の注意

授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文の途中経過の報告準備、並びに指摘された箇所の修正が求められます。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が来ているか（50%）、授業時間中の発表はどうか（50%）といった平常点によります。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D.		廣部 泉

授業の概要・到達目標

アメリカと東アジアの関係を研究を研究対象として、博士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的には学術的水準を満たす博士論文の完成へと導きます。

授業内容

第1回：はじめに
第2回：研究案の報告
第3回：先行研究の整理(1)
第4回：先行研究の整理(2)
第5回：先行研究の整理(3)
第6回：関係史料の検討(1)
第7回：関係史料の検討(2)
第8回：関係史料の検討(3)
第9回：史料の批判的分析(1)
第10回：史料の批判的分析(2)
第11回：史料の批判的分析(3)
第12回：適切な問題設定とは
第13回：今後に向けたアプローチに関する修正
第14回：まとめ

履修上の注意

授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文の途中経過の報告準備、並びに指摘された箇所の修正が求められます。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が来ているか（50%）、授業時間中の発表はどうか（50%）といった平常点によります。

その他

特にありません。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 廣部 泉		

授業の概要・到達目標

国際関係史、とりわけアメリカ合衆国と東アジアの関係を研究対象として、博士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的にはパブリッシュャブルな博士論文の完成へと導きます。

授業内容

先行研究を把握し、適切なテーマを定めます。

- 第1回：序論
- 第2回：日本語の先行研究(1)
- 第3回：日本語の先行研究(2)
- 第4回：日本語の先行研究(3)
- 第5回：日本語の先行研究(4)
- 第6回：日本語の先行研究(5)
- 第7回：英語の先行研究(1)
- 第8回：英語の先行研究(2)
- 第9回：英語の先行研究(3)
- 第10回：英語の先行研究(4)
- 第11回：英語の先行研究(5)
- 第12回：その他の先行研究(1)
- 第13回：その他の先行研究(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進捗や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ予定箇所を読んで疑問点を挙げておく。授業終了後は、時間中に課された課題に取り組むことが求められます。

教科書

授業時間中に指示します。

参考書

授業時間中に適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が出来ているか（50％）、授業時間中の発表はどうか（50％）といった平常点によります。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 廣部 泉		

授業の概要・到達目標

国際関係史、とりわけアメリカ合衆国と東アジアの関係を研究対象として、博士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的にはパブリッシュャブルな博士論文の完成へと導きます。

授業内容

自分の研究に必要な資料を求めます。

- 第1回：序論
- 第2回：日本語の史料(1)
- 第3回：日本語の史料(2)
- 第4回：日本語の史料(3)
- 第5回：日本語の史料(4)
- 第6回：日本語の史料(5)
- 第7回：英語の史料(1)
- 第8回：英語の史料(2)
- 第9回：英語の史料(3)
- 第10回：英語の史料(4)
- 第11回：英語の史料(5)
- 第12回：その他の史料(1)
- 第13回：その他の史料(2)
- 第14回：まとめ

履修上の注意

丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進捗や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

あらかじめ予定箇所を読んで疑問点を挙げておく。授業終了後は、時間中に課された課題に取り組むことが求められます。

教科書

『日本外交文書』、*Foreign Relations of the United States*

参考書

授業時間中に適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が出来ているか（50％）、授業時間中の発表はどうか（50％）といった平常点によります。

その他

特にありません。

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導V		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		廣部 泉

授業の概要・到達目標

国際関係史、とりわけアメリカ合衆国と東アジアの関係を研究対象として、博士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的にはパブリッシャブルな博士論文の完成へと導きます。

授業内容

第1回：はじめに
第2回：研究経過の報告
第3回：研究経過に関する検討(1)
第4回：研究経過に関する検討(2)
第5回：研究経過に関する検討(3)
第6回：第一稿の提出
第7回：第一稿の検討(1)
第8回：第一稿の検討(2)
第9回：第一稿の検討(3)
第10回：口頭発表
第11回：口頭発表の検討
第12回：アプローチに関する修正(1)
第13回：アプローチに関する修正(2)
第14回：まとめ

履修上の注意

丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文の途中経過の報告準備、並びに指摘された箇所の修正が求められます。

教科書

『日本外交文書』、*Foreign Relations of the United States*

参考書

授業時間中に適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が来ているか（50%）、授業時間中の発表はどうか（50%）といった平常点によります。

その他

特にありません。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導VI		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D.		廣部 泉

授業の概要・到達目標

国際関係史、とりわけアメリカ合衆国と東アジアの関係を研究対象として、博士論文作成に必要なアカデミック・スキルの習得と、それを論文完成にむけて応用・展開できる能力を育成します。具体的には、先行研究についての適切な整理、それを踏まえたうえでの独創的かつ実現可能なテーマ設定、関係資料の発見と効率的収集、資料の批判的分析方法の体得、論文作成の構成力の涵養などを目指します。それらを身につけたうえで、最終的にはパブリッシャブルな博士論文の完成へと導きます。

授業内容

第1回：はじめに
第2回：研究経過の報告
第3回：研究経過に関する検討(1)
第4回：研究経過に関する検討(2)
第5回：研究経過に関する検討(3)
第6回：修正稿の提出
第7回：修正稿の検討(1)
第8回：修正稿の検討(2)
第9回：修正稿の検討(3)
第10回：口頭発表
第11回：口頭発表の検討
第12回：アプローチに関する修正(1)
第13回：アプローチに関する修正(2)
第14回：まとめ

履修上の注意

丁寧に解説しますが、よりよい学習効果を得るには予習も必要です。また、授業の進度や内容は、参加者の理解度に合わせて適宜変更することがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文の途中経過の報告準備、並びに指摘された箇所の修正が求められます。

教科書

『日本外交文書』、*Foreign Relations of the United States*

参考書

授業時間中に適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習が来ているか（50%）、授業時間中の発表はどうか（50%）といった平常点によります。

その他

特にありません。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅰ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

中国現代史に関する博士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この研究論文指導Ⅰではその第一段階として、本研究科が志向する学際性に富む研究とは何かを理解することから進めていく。その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要かつ十分な資料読解の能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：研究テーマの紹介と研究計画の立案
- 第3回：資料読解＋討論(1)
- 第4回：資料読解＋討論(2)
- 第5回：資料読解＋討論(3)
- 第6回：資料読解＋討論(4)
- 第7回：資料読解＋討論(5)
- 第8回：資料読解＋討論(6)
- 第9回：資料読解＋討論(7)
- 第10回：資料読解＋討論(8)
- 第11回：資料読解＋討論(9)
- 第12回：資料読解＋討論(10)
- 第13回：資料読解＋討論(11)
- 第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅰにひきつづき、中国現代史に関する博士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この研究論文指導Ⅱではその第一段階として、本研究科が志向する学際性に富む研究とは何かを理解することから進めていく。その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要かつ十分な資料読解の能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

- 第1回：資料読解＋討論(1)
- 第2回：資料読解＋討論(2)
- 第3回：資料読解＋討論(3)
- 第4回：資料読解＋討論(4)
- 第5回：資料読解＋討論(5)
- 第6回：資料読解＋討論(6)
- 第7回：資料読解＋討論(7)
- 第8回：資料読解＋討論(8)
- 第9回：資料読解＋討論(9)
- 第10回：資料読解＋討論(10)
- 第11回：資料読解＋討論(11)
- 第12回：資料読解＋討論(12)
- 第13回：資料読解＋討論(13)
- 第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅲ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅱにひきつづき、中国近現代史に関する博士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この研究論文指導Ⅲでは研究論文指導Ⅱを踏まえた指導を継続し、その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要かつ十分な資料読解の能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

第1回：資料読解＋討論(1)
第2回：資料読解＋討論(2)
第3回：資料読解＋討論(3)
第4回：資料読解＋討論(4)
第5回：資料読解＋討論(5)
第6回：資料読解＋討論(6)
第7回：資料読解＋討論(7)
第8回：資料読解＋討論(8)
第9回：資料読解＋討論(9)
第10回：資料読解＋討論(10)
第11回：資料読解＋討論(11)
第12回：資料読解＋討論(12)
第13回：資料読解＋討論(13)
第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅳ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅲにひきつづき、中国近現代史に関する博士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この研究論文指導Ⅳでは研究論文指導Ⅲを踏まえた指導を継続し、その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要かつ十分な資料読解の能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

第1回：資料読解＋討論(1)
第2回：資料読解＋討論(2)
第3回：資料読解＋討論(3)
第4回：資料読解＋討論(4)
第5回：資料読解＋討論(5)
第6回：資料読解＋討論(6)
第7回：資料読解＋討論(7)
第8回：資料読解＋討論(8)
第9回：資料読解＋討論(9)
第10回：資料読解＋討論(10)
第11回：資料読解＋討論(11)
第12回：資料読解＋討論(12)
第13回：資料読解＋討論(13)
第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅴ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅳにひきつづき、中国近現代史に関する博士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この研究論文指導Ⅴでは研究論文指導Ⅳを踏まえた指導を継続し、その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要かつ十分な資料読解の能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。

授業内容

- 第1回：資料読解＋討論(1)
- 第2回：資料読解＋討論(2)
- 第3回：資料読解＋討論(3)
- 第4回：資料読解＋討論(4)
- 第5回：資料読解＋討論(5)
- 第6回：資料読解＋討論(6)
- 第7回：資料読解＋討論(7)
- 第8回：資料読解＋討論(8)
- 第9回：資料読解＋討論(9)
- 第10回：資料読解＋討論(10)
- 第11回：資料読解＋討論(11)
- 第12回：資料読解＋討論(12)
- 第13回：資料読解＋討論(13)
- 第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅵ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 博士(学術) 羽根 次郎		

授業の概要・到達目標

研究論文指導Ⅴにひきつづき、中国近現代史に関する博士論文を執筆することを目指す学生を対象とする。この研究論文指導Ⅵでは研究論文指導Ⅴを踏まえた指導を継続し、その結果として、史料を突き合わせるだけの狭義の実証研究にとどまらず、広い視座において中国を研究する重要性を理解する。また、そうした視座の獲得のために必要かつ十分な資料読解の能力を向上させる。向上させるべき言語能力については、学生の具体的状況を見て適切に判断する。最終的に博士論文完成を目指すことになる。

授業内容

- 第1回：資料読解＋討論(1)
- 第2回：資料読解＋討論(2)
- 第3回：資料読解＋討論(3)
- 第4回：資料読解＋討論(4)
- 第5回：資料読解＋討論(5)
- 第6回：資料読解＋討論(6)
- 第7回：資料読解＋討論(7)
- 第8回：資料読解＋討論(8)
- 第9回：資料読解＋討論(9)
- 第10回：資料読解＋討論(10)
- 第11回：資料読解＋討論(11)
- 第12回：資料読解＋討論(12)
- 第13回：資料読解＋討論(13)
- 第14回：総括

※なお、内容や進度は履修者の知的関心や学界の動きに応じて変更されることがある。

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

随時紹介する。

教科書

履修者の具体的な知的関心を踏まえて決定する。

参考書

随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への積極的貢献度に基づき評価する。

その他

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅰ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

人文・政治・環境・批判地理学、もしくは、地域研究(アメリカ合衆国)の分野で博士論文を完成させるための問題意識を育むと同時に、論文執筆にあたってのスキルを習得する。また、学会等での研究成果発信の可能性を探る。当該分野における研究動向の検証、テーマの設定、理論的枠組みと方法論の検討、資料の収集と分析、現地調査の準備と実施、これに基づいた論文作成の作業を進めていく。

授業内容

第1回	イントロダクション	
第2回	人文地理学(1)	
第3回	人文地理学(2)	
第4回	政治地理学(1)	
第5回	政治地理学(2)	
第6回	環境地理学(1)	
第7回	環境地理学(2)	
第8回	批判地理学(1)	
第9回	批判地理学(2)	
第10回	アメリカ地域研究	— 地理学を中心に(1)
第11回	アメリカ地域研究	— 地理学を中心に(2)
第12回	アメリカ地域研究	— 地理学を中心に(3)
第13回	アメリカ地域研究	— 地理学を中心に(4)
第14回	まとめ	

履修上の注意

課題文献をしっかりと読み、授業では活発な討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み込み、授業での活発な討論に備える。

教科書

学生の研究テーマに沿った教材を指示する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー 40%、小論文 40%、授業への積極的な参加 20%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論。

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅱ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

人文・政治・環境・批判地理学、もしくは、地域研究(アメリカ合衆国)の分野で博士論文を完成させるための問題意識を育むと同時に、論文執筆にあたってのスキルを習得する。また、学会等での研究成果発信の可能性を探る。当該分野における研究動向の検証、テーマの設定、理論的枠組みと方法論の検討、資料の収集と分析、現地調査の準備と実施、これに基づいた論文作成の作業を進めていく。

授業内容

第1回	イントロダクション	
第2回	人種・階級と地理空間(1)	
第3回	人種・階級と地理空間(2)	
第4回	人種・階級と地理空間(3)	
第5回	人種・階級と地理空間(4)	
第6回	人種・階級と地理空間(5)	
第7回	ジェンダー・セクシュアリティと地理空間(1)	
第8回	ジェンダー・セクシュアリティと地理空間(2)	
第9回	ジェンダー・セクシュアリティと地理空間(3)	
第10回	ジェンダー・セクシュアリティと地理空間(4)	
第11回	ジェンダー・セクシュアリティと地理空間(5)	
第12回	自然の地理学(1)	
第13回	自然の地理学(2)	
第14回	まとめ	

履修上の注意

課題文献をしっかりと読み、授業では活発な討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み込み、授業での活発な討論に備える。

教科書

学生の研究テーマに沿った教材を指示する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー 40%、小論文 40%、授業への積極的な参加 20%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論。

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅲ		
開講期	春学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

人文・政治・環境・批判地理学、もしくは、地域研究(アメリカ合衆国)の分野で博士論文を完成させるための問題意識を育むと同時に、論文執筆にあたってのスキルを習得する。また、学会等での研究成果発信の可能性を探る。当該分野における研究動向の検証、テーマの設定、理論的枠組みと方法論の検討、資料の収集と分析、現地調査の準備と実施、これに基づいた論文作成の作業を進めていく。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 先行研究に関する議論(1)
- 第3回 先行研究に関する議論(2)
- 第4回 先行研究に関する議論(3)
- 第5回 先行研究に関する議論(4)
- 第6回 先行研究に関する議論(5)
- 第7回 先行研究に関する議論(6)
- 第8回 先行研究に関する議論(7)
- 第9回 先行研究に関する議論(8)
- 第10回 先行研究に関する議論(9)
- 第11回 先行研究に関する議論(10)
- 第12回 先行研究に関する議論(11)
- 第13回 先行研究に関する議論(12)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

課題文献をしっかりと読み、授業では活発な討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題文献を読み込み、授業での活発な討論に備える。

教科書

学生の研究テーマに沿った教材を指示する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー 40%、小論文 40%、授業への積極的な参加 20%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論。

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	研究論文指導Ⅳ		
開講期	秋学期	単位	演2
担当者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

人文・政治・環境・批判地理学、もしくは、地域研究(アメリカ合衆国)の分野で博士論文を完成させるための問題意識を育むと同時に、論文執筆にあたってのスキルを習得する。また、学会等での研究成果発信の可能性を探る。当該分野における研究動向の検証、テーマの設定、理論的枠組みと方法論の検討、資料の収集と分析、現地調査の準備と実施、これに基づいた論文作成の作業を進めていく。

授業内容

- 第1回 インTRODクシヨ
- 第2回 先行研究の批判的検討(1)
- 第3回 先行研究の批判的検討(2)
- 第4回 先行研究の批判的検討(3)
- 第5回 先行研究の批判的検討(4)
- 第6回 先行研究の批判的検討(5)
- 第7回 先行研究の批判的検討(6)
- 第8回 先行研究の批判的検討(7)
- 第9回 先行研究の批判的検討(8)
- 第10回 先行研究の批判的検討(9)
- 第11回 先行研究の批判的検討(10)
- 第12回 先行研究の批判的検討(11)
- 第13回 先行研究の批判的検討(12)
- 第14回 まとめ

履修上の注意

課題文献をしっかりと読み、授業では活発な討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題文献を読み込み、授業での活発な討論に備える。

教科書

学生の研究テーマに沿った教材を指示する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

リアクション・ペーパー 40%、小論文 40%、授業への積極的な参加 20%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論。

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

博士後期課程

コース必修科目

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅴ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

人文・政治・環境・批判地理学、もしくは、地域研究(アメリカ合衆国)の分野で博士論文を完成させるための問題意識を育むと同時に、論文執筆にあたってのスキルを習得する。また、学会等での研究成果発信の可能性を探る。当該分野における研究動向の検証、テーマの設定、理論的枠組みと方法論の検討、資料の収集と分析、現地調査の準備と実施、これに基づいた論文作成の作業を進めていく。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 テーマの設定(1)
第3回 テーマの設定(2)
第4回 理論的枠組みの検討(1)
第5回 理論的枠組みの検討(2)
第6回 方法論の検討(1)
第7回 方法論の検討(2)
第8回 一次・二次資料の検討(1)
第9回 一次・二次資料の検討(2)
第10回 論文第一稿の提出
第11回 論文第一稿の検討(1)
第12回 論文第一稿の検討(2)
第13回 口頭発表
第14回 まとめ

履修上の注意

課題文献をしっかりと読み、授業では活発な討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み込み、授業での活発な討論に備える。

教科書

学生の研究テーマに沿った教材を指示する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのフィードバックをディスカッションなどを通じておこなう。

成績評価の方法

授業への積極的な参加 80% 口頭発表 20%

その他

特になし。

指導テーマ

人文地理学、アメリカ研究、人種論、コロニアリズム論。

進行計画

基本的には「授業内容」に示した内容に関する参考文献を課題に設定し、授業を進めていく。ただし、受講生の専門、興味に合わせて、文献を追加していく方針とする。

科目ナンバー：(HU) IND712J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	研究論文指導Ⅵ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 Ph.D. 石山 徳子		

授業の概要・到達目標

人文・政治・環境・批判地理学、もしくは、地域研究(アメリカ合衆国)の分野で博士論文を完成させるための問題意識を育むと同時に、論文執筆にあたってのスキルを習得する。また、学会等での研究成果発信の可能性を探る。当該分野における研究動向の検証、テーマの設定、理論的枠組みと方法論の検討、資料の収集と分析、現地調査の準備と実施、これに基づいた論文作成の作業を進めていく。

授業内容

第1回 インTRODクシヨ
第2回 修正稿の提出(1)
第3回 修正稿の検討(1)
第4回 修正稿の検討(2)
第5回 修正稿の検討(3)
第6回 修正稿の検討(4)
第7回 修正稿の検討(5)
第8回 修正稿の検討(6)
第9回 修正稿の検討(7)
第10回 修正稿の検討(8)
第11回 修正稿の検討(9)
第12回 修正稿の検討(10)
第13回 口頭発表
第14回 まとめ

履修上の注意

課題文献をしっかりと読み、授業では活発な討論に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献を読み込み、授業での活発な討論に備える。

教科書

学生の研究テーマに沿った教材を指示する。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への積極的な参加 80% 口頭発表 20%

その他

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 鳥居 高		

授業の概要・到達目標

(1)授業概要
「平和」の意味合いを経済開発、環境問題、民族や宗教。言語・市民権問題など複眼的に捉え、平和が維持される制度とその諸条件について考察することを目的にする。

(2)到達目標
個々の諸課題の概要と現在の解決アプローチを理解すること。

授業内容

本講義は平和構築に関して、3つの側面について研究する。
第1が経済開発と平和構築、第2が民族紛争と平和構築、第3が資源紛争と平和構築である。

第1回：経済開発と平和(1)開発経済学の系譜
第2回：経済開発と平和(2)開発経済学と国際機構
第3回：経済開発と平和(3)経済計画の策定
第4回：経済開発と平和(4)経済計画の実行
第5回：経済開発と平和の維持(討論)
第6回：民族・宗教紛争と平和構築(1)エスニック理論
第7回：民族・宗教紛争と平和構築(2)マレーシアの事例
第8回：民族・宗教紛争と平和構築(3)シンガポールの事例①
第9回：民族・宗教紛争と平和構築(4)シンガポールの事例②
第10回：民族と宗教紛争と平和構築(討論)
第11回：環境問題・資源争奪と平和(1)森林資源
第12回：環境問題・資源争奪と平和(2)植物油脂を巡る国際紛争
第13回：環境問題・資源争奪と平和(3)工業化の特徴から見た環境問題
第14回：環境問題・資源争奪と平和(4)循環貿易と東南アジア

履修上の注意

研究科が主宰する当該研究領域に関する特別プログラム(研究科間共通科目、映像資料プログラムなど)への参加を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)予習
事前に関連文献(書籍・論文など)を提示するので、読んで「課題」を明確にして授業に臨むこと。

(2)復習
関連した映像資料などを紹介するので、講義内容と合わせ、他地域への応用展開について考察すること。

教科書

特に定めないので、講義の折に参考文献リストを提示。

参考書

講義の折に提示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

1. 講義への参加(20%)
2. 最終レポートの作成と提出(80%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	平和構築特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授	博士(学術)	羽根 次郎

授業の概要・到達目標

本年度は、社会主義革命と秘密結社に関する文献を通読する。

授業内容

第1回：イントロダクション
第2～13回：発表者の報告と解説
第14回：総括

履修上の注意

- ・初回の授業に欠席した場合は、履修を認めない。
- ・毎回出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

- ・下調べ等の準備に時間を使うことになることを受け入れられること。

教科書

- ・初回の授業で履修者の関心を確認しながら決定する。

参考書

- ・必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

- ・報告の形式と内容、および議論への積極性を評価する。
- ・授業内容を理解しうるレベルの知識があることを履修の条件とする。
- ・授業において日本語での議論を十分に理解できていない学生については、単位を認めない。

その他

博士後期課程

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「平和・環境」領域研究		備考	
科目名	地球環境特別研究		
開講期	秋学期	単位	講2
担当者	専任教授 博士(理学) 森永 由紀		

授業の概要・到達目標

本授業では、1956年に公式確認された水俣病がなぜ現在も解決に至っていないのかを問い直します。特に、日本における科学技術と社会の関係性に注目し、当時から現在に至るまでの資料を読み解きながら考察します。

また、福島原発事故や水道水のPFAS汚染において、「水俣病と同じことが繰り返されている」と指摘される理由についても検討します。科学技術が社会に与える影響やリスクを深く理解し、持続可能な社会の実現に向けた視座を養うことを到達目標とします。

授業内容

- 第1回 なぜ今水俣か 令和6年度の環境白書に取り上げられた水俣病問題
- 第2回 最初の医学論文 喜田村正次(1957)
- 第3回 日本窒素肥料とは(1965年にチッソと社名変更)
- 第4回 宇井純(1972)『公害の政治学—水俣病と日本社会』
- 第5回 原田正純(1972)『水俣病』
- 第6回 ユージン・スミス(1975)“MINAMATA” 写真集
- 第7回 NHK (1995)『チッソ水俣・工場技術者たちの告白』
- 第8回 橋本道夫(2000)『水俣病の悲劇を繰り返さないために』
- 第9回 新潟水俣病
- 第10回 水俣条約
- 第11回 欧州環境機関 (2013) “Minamata disease: a challenge for democracy and justice”
- 第12回 福島原発事故
- 第13回 PFAS汚染
- 第14回 まとめ

履修上の注意

講義の内容はあくまでも予定であり、変更になる場合がある。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回課題図書を読んで授業に参加する。

教科書

なし。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業での発表、レポート。

その他

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「平和・環境」領域研究		備考	2025年度開講せず
科目名	地球環境特別研究		
開講期	春学期	単位	講2
担当者	専任教授 理学博士 浅賀 宏昭		

授業の概要・到達目標

我が国における科学技術教育の内容と、社会で実用化されている（もしくはされつつある）科学技術の間の乖離は、年々大きくなっており、これは一つの大きな問題を形成しつつある。この授業においては、先端生命科学技術の分野において、その乖離を埋めることのみならず、それら先端生命科学技術を社会においてどのように活かしていくべきかを考える。

読売新聞、朝日新聞などの一般紙および日経産業新聞や日刊工業新聞などに掲載される先端生命科学技術に関する記事、『科学』誌などに掲載されている論文等を理解し、かつ批判的に検討できるレベルを、到達目標とする。

授業内容

この講義では、環境を人工的に変え続けていく技術として先端生命科学技術を捉え、その応用について考察する。一般市民、行政および地球規模といった複数の視点から多角的に考察していく。

- 第1回：先端生命科学技術の概説Ⅰ（医療の分野における技術）
- 第2回：先端生命科学技術の概説Ⅱ（食料生産における技術Ⅰ）
- 第3回：先端生命科学技術の概説Ⅲ（食料生産における技術Ⅱ）
- 第4回：先端生命科学技術の概説Ⅳ（エネルギー生産における技術）
- 第5回：先端生命科学技術の概説Ⅴ（その他の分野における技術）
- 第6回：先端生命科学技術の安全性と環境への影響
- 第7回：知財としてみた先端生命科学技術の問題
- 第8回：先進国の先端生命科学技術開発とその応用への態度
- 第9回：どのように応用すべきか(市民の視点からの考察)
- 第10回：どのように応用すべきか(企業の立場からの考察)
- 第11回：どのように応用すべきか(行政＝国家の立場からの考察)
- 第12回：どのように応用すべきか(地球規模での考察)
- 第13回：先端生命科学技術とその応用の問題点
- 第14回：まとめ

履修上の注意

毎回の出席を原則とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

主要学術雑誌の関連記事を読んでおくこと。

教科書

用いない。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中には頻繁に発言を求めするので、その発言内容が評価の対象となる（50％）。学期末においては、レポートを課す（50％）。これらの合計により評価する。

その他

コース選択必修科目

科目ナンバー：(HU) IND711J			
「平和・環境」領域研究		備 考	
科 目 名	科学技術史特別研究		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(工学)		勝田 忠広

授業の概要・到達目標

科学技術の発達が人類に与える影響について、過去、現在の状況を評価・分析し、将来の望ましい展望を見出す。本研究では、主として核の平和利用と軍事利用を事例として扱う。

授業内容

第1回：授業の内容と意義
 第2回：原子力：技術的概要
 第3回：原子力：政策の現状
 第4回：討論：軍民両用技術(1)
 第5回：討論：軍民両用技術(2)
 第6回：討論：軍民両用技術(3)
 第7回：その他の技術(1)
 第8回：その他の技術(2)
 第9回：討論：技術・社会・人間(1)
 第10回：討論：技術・社会・人間(2)
 第11回：討論：技術・社会・人間(3)
 第12回：全体討論(1)
 第13回：将来像
 第14回：総括

履修上の注意

積極的なディスカッション、海外文献、海外雑誌・報道の日常的な情報収集が必要。

準備学習（予習・復習等）の内容

指定された次回の授業内容についての予習
 授業で紹介した内容の復習

教科書

内容に応じて授業で指定する。

参考書

Scientific American, Bulletin of the Atomic Scientists等

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性(50%)
 課題・レポート等(50%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(HU) IND711J			
共通選択科目		備 考	
科 目 名	現代教養総合研究Ⅰ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		中村 和恵

授業の概要・到達目標

授業の概要

比較文化論とは、なにかとなにかを比べるということでは、必ずしもない。たとえば、内側からではなく外側から日本文化を眺めるとき、こういうものであるはずだ、という日本人の「当然」には、他の文化から見ればかならずしも当然とはおもわれない考えが含まれていることがわかる。つまりこれは異なる視点により新しい発見をもたらす発想である。学術世界の内で規範化された文化論の方法には批判も多いが、じつはこの領域の範疇や方法はどんな意味でも固定されたものではなく、テキスト分析、人類学、歴史学、哲学、社会学諸分野の多分野にわたる研究領域を横断的に参照することを考えなくてはならない。

この授業では、植民地主義と人種という疑似科学および民族意識の批判的比較検証という主題を提案する。

植民地主義の言説を英国のポピュラーな文学作品や映像資料の検証から始め、複数のキータームを核に昨今のヘイトスピーチや移民是非論にみられる特異な民族観につながる発想の検証を行う。

到達目標

多岐にわたる専門分野から集まり、異なる主題に取り組む学生たちにとって、有益な発想手段である比較文学・比較文化論の方法を知り、日本をひとつの軸として世界の文化・文学を多面的にとらえる契機を創出する。

授業内容

授業内容

- 第1回：授業の方針 参加者の関心確認 担当者からの提案とテキスト調節
第2回：分析提案1 植民地支配と世界システム 明治日本を現在から振り返って「植民地化されなかった」ことの問題性
第3回：分析提案2 「大英帝国」内の植民地・奴隷制と階級制、「モンゴロイド」をめぐる議論
第4回：分析提案3 英領植民地からの声・植民地白人という少数者「白人の重荷」？
第5回：分析提案4 英領植民地からの声・抵抗と暴力と笑い「従順なバカ」
第6回：分析提案5 日本の植民地主義・拡張論の動機(明治期の論争)「日本の人口は多いのか少ないのか」
第7回：分析提案6 日本の植民地主義「現地(ローカルな他者)」と「世界支配者(ヘゲモニー)」の間で「友達になれないことについて」
第8回：分析提案7 南洋諸島地域におけるヨーロッパと日本・女たちの立つ場所(ゴーギャン、ロティ、ハーン、ステューヴンソン、中島敦)「ゲイシャをめぐる妄想」
第9・10・11・12・13回：履修者各人が選んだ主題に応じてテキストを選定し、分析・議論と担当教員による解説を行う。

内容と回数は履修者の人数により適宜調節する。
例) 他の地域における日本の植民地化に関する議論、少数民族の社会的立場と植民地化の関連性、等

第14回：総括ディスカッションと評価についての説明、コメントや発表へのフィードバック レポートについて

以上の授業内容は開講前の予定であり履修者の人数や専門とする領域の傾向により適宜修正を加えるものである。

履修上の注意

分析対象テキストの言語は主に日本語、一部英語になります。履修者の英語テキストの読解力を最初の授業で確認し、使用言語の割合を勘案します。受講者の人数と関心、テキストの量を考慮し、速読で進める必要がある場合はオンラインクラスも取り入れますので、授業開始後のアナウンスに注意してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキスト精読を前提に議論を行うため、対象テキストを事前に読んで授業に臨んでください。

自分の主題による分析に際しては配布プリントないしパワーポイントによるプレゼンテーション資料を作成、割り当てられた時間内に口頭発表を行い、発表後に有意義な議論ができるよう質疑応答の準備を心がけてください。

教科書

プリント配布を基本とします。授業内容を参照のこと。履修確定後履修者の関心確認と授業の方向に関する説明を通じて対象テキストを調整し、必要に応じて文庫本など入手しやすい方法を指示する場合があります。

参考書

今橋映子、井上健監修『比較文学比較文化ハンドブック』東京大学出版会、2024
中村和恵『日本語に生まれて』岩波書店、その他授業中に適宜指示していきます。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中発表30% 平常点(ディスカッションへの貢献度) 30% レポート(コメントレポートおよび課題レポート) 40%

その他

科目ナンバー：(HU) IND711J			
共通選択科目		備 考	2025年度開講せず
科 目 名	現代教養総合研究Ⅱ		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授	博士(学術)	丸川 哲史

授業の概要・到達目標

博士論文を書くためには、それをどのように構想するのか、またどのようにまたどのような資料を集めるのか、さらにどのように執筆を進めるのか、様々な疑問が待ち構えています。それについて具体例も突き合わせつつ、議論をすすめて行きたい。そのために、既に博士論文を書いた教授、ポスドクの方などの話も取り混ぜて授業を進めます。また修士論文をどのように書いたかということも、参照のために議論の対象としたいと思います。

授業内容

- 第1回 イントロダクション
第2回 博論の構想、資料収集、執筆の進め方について。
第3回 具体例その1 日本文学・文化論
第4回 具体例その2 中国文学・文化論
第5回 具体例その3 中国思想史
第6回 具体例その4 アメリカ文化論
第7回 具体例その5 教育思想史
第8回 具体例その6 ヨーロッパ文学・文化論
第9回 具体例その7 科学思想史・科学哲学
第10回 具体例その8 フィールドワーク研究 日本
第11回 具体例その9 フィールドワーク研究 東アジア
第12回 具体例その10 フィールドワーク研究 その他
第13回 まとめ その1 博論の達成感と、博論を活用した就活。
第14回 まとめ その2 博論執筆が後の人生の歩みにどのように作用したか。

履修上の注意

授業への貢献度を重視しますので、毎回の出席を求めます。

準備学習（予習・復習等）の内容

初回に指示します。

教科書

特になし。

参考書

初回に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(100%)

その他

特になし。

指導テーマ

博論の執筆に資する話と、そのための討論。

交通遅延発生時の授業等の措置について

	緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。
1 悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合	悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。
2 本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合	本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。 なお、自身が利用する交通機関の遅延により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。

大規模地震等災害発生時の対応について

1 大規模地震発生時の行動	授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。 (1) 地震発生時の行動 身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。(大きな地震でも1～2分で揺れはおさまります。) ・机の下に隠れる、衣類や鞆等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。 ・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。 (2) 地震直後の行動 大きな地震の後には、必ず余震が来ると思ってください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。 ・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。 ・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全を確認してください。 (3) 地震後の行動 ・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。 ・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。
---------------	---

	(4) 避難行動 ・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。 ・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。 ・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。 ・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。 ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。 ・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学HP内にある「明治大学防災ガイド」(https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html)を確認してください。 (5) 帰宅困難対策について 大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。 2 火災発生時の対応 (1) 火災を発見した場合の行動 ・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。 ・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。 ・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。 ・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。 (2) 初期消火のポイント ・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。 ・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離(3～5m)から消火してください。 ・出来るだけ多くの人で消火等を集めて、一気に消火してください。 ・2か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。 (3) 避難行動 ・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。 ・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。 ・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。 ・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。
--	---

3 災害発生時の連絡方法	(1) 非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・伝言ダイヤル・災害用伝言板・Google パーソンファインダー、J-anpi 等を利用するなど。) (2) 大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、HP 及び所属の学部事務室等から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。 また、補助的手段として、Twitter からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。 明治大学公式アカウント (@Meiji_Univ_PR) 《参考》 ・災害発生時の公衆電話・ 災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報（119）も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、NTT回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。
4 平常時の備え	(1) 大学HPに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。 (2) 非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路（通路、階段等）には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。 (3) 火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。 (4) 実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。 (5) 応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

大地震発生時の避難マニュアル (和泉キャンパス) 【学生用】

大地震発生時の初動マニュアル

地震発生時の行動

- (1) **身の安全の確保！（落下物に注意）**
机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。



地震直後の行動

- (1) **余震に注意** 天吊りプロジェクタやガラスからは離れる。
- (2) **火の元確認。初期消火！**
出火した時は、落ち着いて消火活動と守衛所への通報
- (3) **避難口の確保、避難場所の確認**
出入口等を開け、逃げ道を確保
あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。
- (4) **館内放送に注意、その指示に従う。**
- (5) **教室の安全を確認**
声をかける、ケガ人がいないか確認



地震後の行動

- (1) **教職員、館内放送の指示に従う。**
傷病人がいたら、守衛所に通報する。
- (2) **教室の安全再確認**
火の元のチェック。
- (3) **周囲の状況を確認する。**



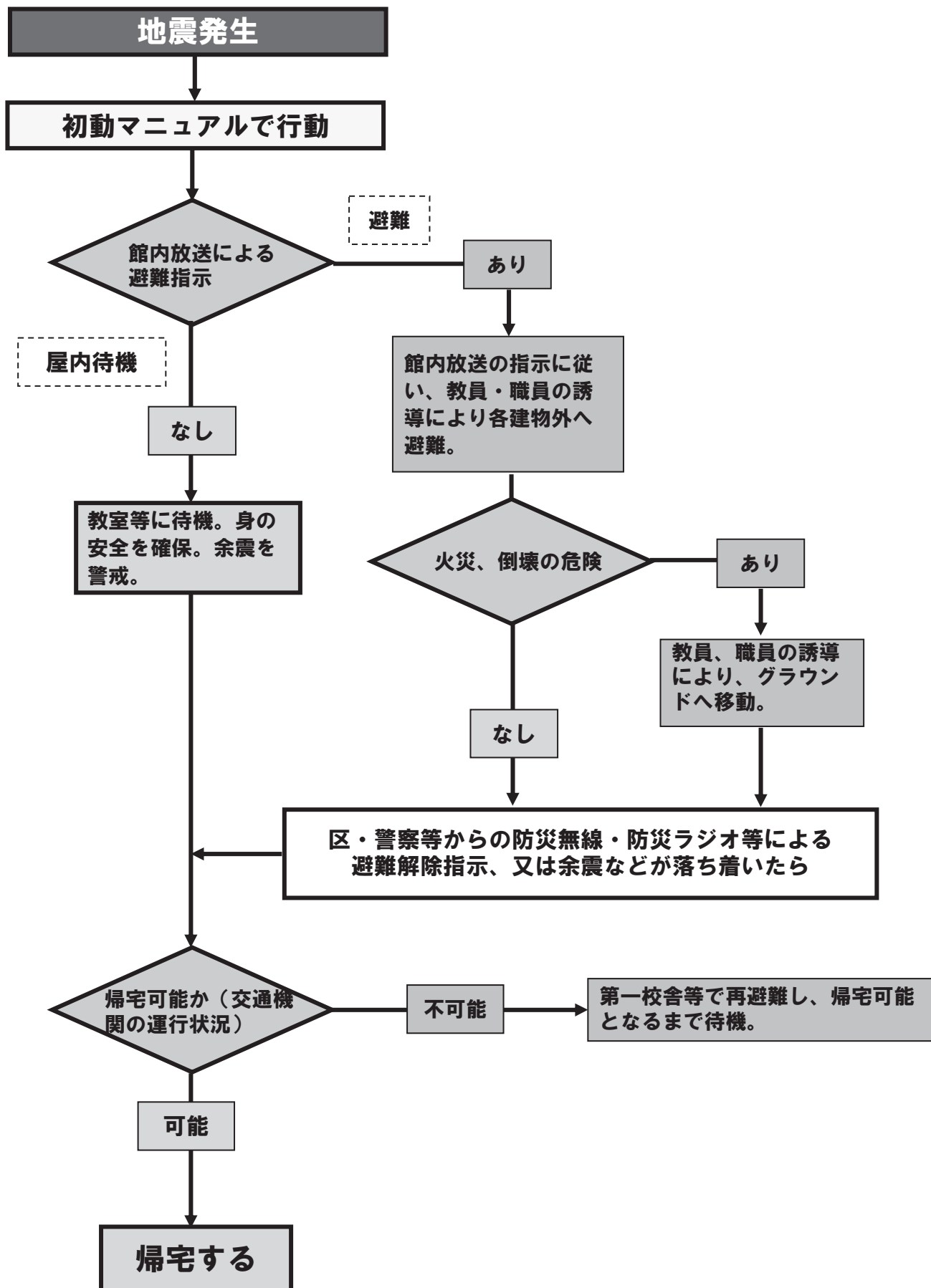
以下、避難フローへ

緊急連絡先：正門守衛所（03-5300-1122）



2016年1月改訂 明治大学

避難フロー



大地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】

教室内に、地震が発生した場合の対応及び避難経路図を掲出していますので確認してください。

【地震時の心構え】一落ち着いて行動一

地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後に起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも1～2分です。まずは、身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください。本学の建物は耐震建築がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】一身の安全確保一 <自助>

落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、自動販売機やロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】一避難口の確保と火の始末一

小さな揺れのときや大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保し、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】一状況確認と救出・消火一 <共助>

余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、守衛所にも連絡をしてください（守衛所から119番通報します。）。消火の際は、身の安全を第1に考え、消火器では消えないような火災のときは、直ちに避難してください。

【エレベーター】

大きな地震の時は最寄り階に止まるように設定されていますが、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、万が一、降りられなくなったら、E/V内の非常ボタンを数秒間押して警備員に連絡した後、E/V保守業者による救助を待ってください（閉じ込めの発生しているE/Vは業者の最優先対応となります。）。

【屋外避難】

地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物外へ移動してください。その後、グラウンドに移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。

※和泉キャンパスでは、原則、震度「4」以上の場合に館内放送を行います。

【大学からの情報の伝達・安否確認】

地震発生後、体制が整い次第、大学HP及び所属の学部事務室から「Oh-o! Meiji システム」を通じてお知らせします。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。Twitter（公式アカウント@Meiji_Univ_PR）でも情報発信を行います。

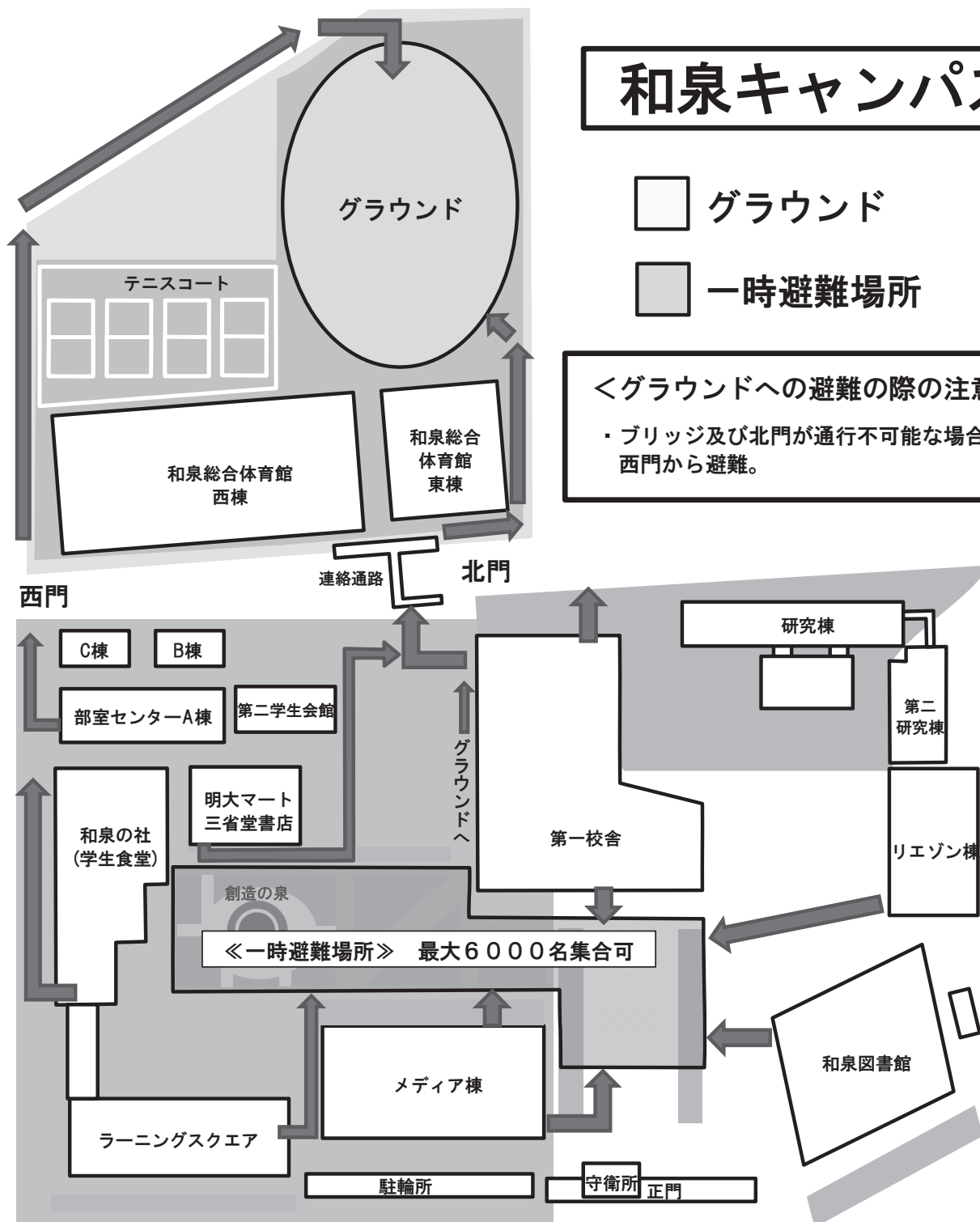
和泉キャンパス

□ グラウンド

■ 一時避難場所

＜グラウンドへの避難の際の注意＞

- ・ブリッジ及び北門が通行不可能な場合は、西門から避難。



←至八王子

甲州街道(国道20号線)、首都高速4号線

至新宿→

明 治 大 学 大 学 院
教養デザイン研究科 ☎03-5300-1529

〒168-8555 東京都杉並区永福 1-9-1
明治大学和泉キャンパス